基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程卒業時ならびに専攻科修了時に身につけておくべき学力や資質・能力は,それぞれの学習・教育目標とサブ目標に示されている。それぞれのサブ目標に対して科目が割り当てられており，これらの科目を修得することにより，学習教育目標が達成される。したがって，卒業及び修了要件を満たした学生の単位取得状況から達成状況を把握・評価している。

準学士課程の５年生についての単位取得状況の分析は，成績会議や卒業判定会議で評価・検討が行われる。

専攻科については，学生の単位取得状況の分析は，専攻科の成績会議で行われる。２年生については,教育プログラム点検会議で「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」に基づいて，個々の学生の達成度評価を行い，審議の上，学習・教育目標の達成を確認している。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程卒業時ならびに専攻科修了時に身につけておくべき学力や資質・能力は,それぞれの学習・教育目標とサブ目標に割り当てられた科目を修得することにより，達成される。したがって，卒業及び修了要件を満たした学生の単位取得状況から，その達成状況を把握・評価している。

準学士課程では，教務委員会で単位取得状況の分析が行われ，その結果については，卒業判定会議で評価・検討が行われる。専攻科課程については，成績会議で学生の単位取得状況の分析を行い，２年生については,教育プログラム点検会議が，個々の学生の達成度評価を行っている。

このことから，本校では，教育の目的に沿った形で，課程に応じて学生が卒業（修了）時に身につける学力や資質・能力，養成する人材等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われていると判断される。

観点６－１－②：各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

（ａ）準学士課程

卒業した学生の学習・教育目標達成度については，教育プログラム点検会議で，サブ目標に割り当てられた科目の単位取得率（合格者数／受講者数）から検討している。平成19～21年度卒業生の５年間を通した学習・教育目標達成度は，サブ目標2-c以外の他の全てで94％以上を達成している（資料６－１－②－１）。サブ目標2-cでは，89％以上とやや低いが，これは，サブ目標2-cに配置された選択科目の単位取得率が低いためである（資料６－１－②－２～６）。なお，平成19～21年

度の全クラスの科目評価平均点は70点を越えている（資料６－１－②－７）。

次に，平成19～21卒業年度の５年間の学生全員を対象とした進級率の分析では，学年別の進級率（５年次は卒業率）は，３年次にやや低下するが，他学年では90％以上である。また，５年間における全退学者は23～37人で，３年次が最多で14～23人を占め，３年次の進級率がやや低いことから，ストレートで卒業する率が76～83％となっている（資料６－１－②－８）。

学習の集大成である卒業研究は，科ごとに学習・教育目標に沿った評価方法で，複数教員によって評価が行われ，研究の水準確保が図られている。また，卒業研究内容を，学会で発表している事例もある。

（ｂ）専攻科課程

専攻科委員会では，「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」に基づき，学生一人ひとりひとりが学習・教育目標達成度評価（資料６－１－②－９）を行なっており，４つの学習・教育目標を全て達成している学生を修了させている（資料６－１－②－10～11）。なお，学習・教育目標の達成を修了のための一つの要件とした教育プログラムは，JABEE認定を受けていることからも，教育の水準が保証されている。特に，特別研究では，関係学会での発表を義務付けており，教育の高い水準が確保されている。また，準学士課程と同じように単位の取得状況から，平成19～21卒業年度の３年間の各学習・教育目標の達成度の評価をすれば，各年度でばらつきがあるが，3年間の平均をとれば，90％以上が達成されていることが分かる（資料６－１－②－12～15）。

６－１－②資料一覧

（資料６－１－②－１）2007（平成19）～2009（平成21）年度　本科（準学士課程）卒業生における
学習・教育目標の達成度評価　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－２）本科(準学士課程）の学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度卒業生　機械工学科　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－３）本科(準学士課程）の学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度卒業生　電気電子工学科　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－４）本科(準学士課程）の学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度卒業生　電子制御工学科　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－５）本科(準学士課程）の学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度卒業生　情報工学科　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－６）本科(準学士課程）の学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度卒業生　土木工学科　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－７）2007（平成19）～2009（平成21）年度　本科（準学士課程）における
成績評価の分布　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－８）2007（平成19）～2009（平成21）年度　本科（準学士課程）5年次における
ストレート在学率　出典：学生課（成績会議）統計資料

（資料６－１－②－９）各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準　出典：平成21年度学生便覧

（資料６－１－②－10）「環境創造工学」教育プログラム認定成績証明書
出典：専攻科委員会会議資料

（資料６－１－②－11）平成19～21年度「環境創造工学」教育プログラム修了生判定一覧表
出典：教育プログラム点検会議資料

（資料６－１－②－12）2007（平成19）～2009（平成21）年度　専攻科修了生における
学習・教育目標の達成度評価　出典：学生課統計資料

（資料６－１－②－13）学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度修了生　機械・電子システム工学専攻　出典：学生課統計資料

（資料６－１－②－14）学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度修了生　電気情報システム工学専攻　出典：学生課統計資料

（資料６－１－②－15）学習・教育目標と対応科目の達成度状況
2009（平成21）年度修了生　土木工学専攻　出典：学生課統計資料

資料６－１－②－１

2007(平成19)～2009(平成21)年度　本科(準学士課程)卒業生における学習・教育目標の達成度評価

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	学科	2003年度入学2007年度卒業 各科配置単位	各科受講者数	各科合格者数	各科合格率	全学平均合格率	2004年度入学2008年度卒業 各科配置単位	各科受講者数	各科合格者数	各科合格率	全学平均合格率	2005年度入学2009年度卒業 各科配置単位	各科受講者数	各科合格者数	各科合格率	全学平均合格率
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ，社会の様々な事物に関心を持つことができる．	機械工学科	33	451	444	98.4%	98.4%	33	522	506	96.9%	97.3%	33	519	507	97.7%	98.2%
				電気電子工学科	33	463	452	97.6%		33	518	494	95.4%		33	476	463	97.3%	
				電子制御工学科	33	494	486	98.4%		33	495	489	98.6%		33	510	508	99.6%	
				情報工学科	33	449	446	99.3%		33	492	476	96.7%		33	486	480	98.8%	
				土木工学科	34	515	506	98.3%		34	515	508	98.6%		34	563	549	97.5%	
		1-b	様々な課題に取り組み，技術と社会との関連に関心を持つことができる．	機械工学科	15	118	115	97.5%	95.5%	15	149	149	99.3%	95.4%	15	166	163	98.2%	95.9%
				電気電子工学科	20	217	200	92.2%		20	236	222	94.1%		20	238	227	95.4%	
				電子制御工学科	22	277	274	98.9%		22	293	281	95.9%		22	292	286	97.9%	
				情報工学科	23	176	168	95.5%		23	189	171	90.5%		23	197	184	93.4%	
				土木工学科	21	419	396	94.5%		21	390	377	96.7%		21	457	435	95.2%	
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り，自分の考えを的確に表現することができる．	機械工学科	18	185	185	100.0%	99.0%	18	215	208	96.7%	98.0%	18	214	209	97.7%	98.4%
				電気電子工学科	16	187	185	98.9%		16	207	201	97.1%		16	198	194	98.0%	
				電子制御工学科	18	209	208	99.5%		18	213	211	99.1%		18	209	209	100.0%	
				情報工学科	18	181	180	99.4%		18	196	192	98.0%		18	200	199	99.5%	
				土木工学科	17	197	191	97.0%		17	193	192	99.5%		17	213	206	96.7%	
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し，自分の意図を英語で伝えることができる．	機械工学科	21	399	381	95.5%	96.6%	21	460	442	96.1%	95.8%	21	439	429	97.7%	97.3%
				電気電子工学科	20	363	342	94.2%		20	388	356	91.8%		20	391	374	95.7%	
				電子制御工学科	20	416	411	98.8%		20	401	396	98.8%		20	404	400	99.0%	
				情報工学科	20	342	331	96.8%		20	385	368	95.6%		20	373	365	97.9%	
				土木工学科	20	389	380	97.7%		20	377	364	96.6%		20	414	399	96.4%	
		2-c	英語以外の外国語を用いて，簡単な用を足すことができる．	機械工学科	5	45	45	100.0%	94.3%	5	63	57	90.5%	89.4%	5	60	50	83.3%	91.8%
				電気電子工学科	5	58	55	94.8%		5	64	52	81.3%		5	55	53	96.4%	
				電子制御工学科	5	58	54	93.1%		5	68	63	92.6%		5	59	56	94.9%	
				情報工学科	5	55	49	89.1%		5	50	45	90.0%		5	38	38	100.0%	
				土木工学科	5	47	45	95.7%		5	57	53	93.0%		5	69	61	88.4%	
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し，それらを継続的に学習することができる．	機械工学科	45	809	774	95.7%	97.0%	45	939	898	95.6%	96.4%	45	937	885	94.5%	95.3%
				電気電子工学科	52	995	959	96.4%		52	1106	1048	94.8%		52	1050	993	94.6%	
				電子制御工学科	45	945	923	97.7%		45	949	932	98.2%		45	924	911	98.6%	
				情報工学科	47	856	843	98.5%		47	940	900	95.7%		47	932	896	96.1%	
				土木工学科	45	885	857	96.8%		45	878	860	97.9%		45	954	888	93.1%	
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ，ネットワークを通して，有用な情報を取得することができる．	機械工学科	14	108	108	100.0%	99.0%	45	939	898	95.6%	96.5%	14	129	123	95.3%	98.1%
				電気電子工学科	11	102	101	98.0%		11	110	103	93.6%		11	118	118	100.0%	
				電子制御工学科	15	170	170	100.0%		15	127	126	99.2%		15	167	167	100.0%	
				情報工学科	12	92	92	100.0%		12	91	90	98.9%		12	87	86	98.9%	
				土木工学科	17	234	228	97.4%		17	229	227	99.1%		17	255	248	97.3%	
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して，専門分野の基礎的な知識を修得することができる．	機械工学科	74	1418	1354	95.5%	96.1%	74	1637	1510	92.2%	94.1%	73	1670	1583	94.8%	95.1%
				電気電子工学科	72	1586	1524	96.1%		72	1717	1598	93.1%		72	1743	1673	96.0%	
				電子制御工学科	67	1473	1447	98.2%		67	1456	1418	97.4%		67	1488	1448	97.3%	
				情報工学科	75	1415	1345	95.1%		75	1560	1452	93.1%		75	1608	1490	92.7%	
				土木工学科	68	1577	1505	95.4%		68	1563	1490	95.3%		68	1769	1677	94.8%	
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して，創造性を養い専門分野の知識を応用することができる．	機械工学科	12	79	79	100.0%	99.4%	12	111	108	97.3%	98.5%	12	106	106	100.0%	97.8%
				電気電子工学科	10	69	69	100.0%		10	73	72	98.6%		10	78	78	100.0%	
				電子制御工学科	15	137	136	99.3%		15	153	152	99.3%		15	146	146	100.0%	
				情報工学科	5	98	98	100.0%		5	99	98	99.0%		5	97	90	92.8%	
				土木工学科	5	114	112	98.2%		5	101	99	98.0%		5	121	116	95.9%	
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる．	機械工学科	21	237	233	98.3%	96.2%	21	279	275	98.6%	95.3%	21	296	288	97.3%	96.0%
				電気電子工学科	18	204	185	90.7%		18	224	201	89.7%		18	218	203	93.1%	
				電子制御工学科	28	447	439	98.2%		28	468	450	96.2%		28	472	461	97.7%	
				情報工学科	22	198	188	94.9%		22	218	194	89.0%		22	231	216	93.5%	
				土木工学科	24	482	464	96.3%		24	488	478	98.0%		24	519	498	96.0%	
		4-b	様々な文化，歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで，相手の立場に立って物事を考えることができる．	機械工学科	24	460	451	98.0%	99.6%	24	545	530	97.2%	96.7%	24	539	525	97.4%	97.9%
				電気電子工学科	24	472	456	96.6%		24	507	473	93.3%		24	498	486	97.4%	
				電子制御工学科	24	549	584	106.4%		24	543	535	98.5%		24	513	505	98.4%	
				情報工学科	24	461	448	97.2%		24	484	469	96.9%		24	452	447	98.9%	
				土木工学科	24	505	499	98.8%		24	491	479	97.6%		24	563	549	97.5%	

（出典：学生課（成績会議）統計資料）

資料６－１－②－２

本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成状況 2009(平成21)年度卒業生　機械工学科

対応科目(授課学年数)

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	1年(2005年度)科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2006年度)科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	3年(2007年度)科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	4年(2008年度)科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年(2009年度)科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年間 受講者数	5年間 合格者数
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会が生きるための幅広い知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ	2		42	42	100.0%	国語Ⅱ	2		43	41	95.3%	国語	2		44	42	95.5%	国文学	2		43	42	97.7%	法学	2		24	24	100.0%	519	507
				物理	2		42	42	100.0%	倫理	2		43	39	90.7%	政治・経済	2		44	43	97.7%	哲学	2		6	5	83.3%	経済学	2		18	18	100.0%		
				歴史	2		42	42	100.0%	歴史	1		43	42	97.7%							倫理学	2		9	9	100.0%	政治学	2		0				
				美術	2		26	26	100.0%													現代史	2		34	34	100.0%								
				音楽	2		16	16	100.0%																										
					10		168	168	100.0%		5		129	122	94.6%		4		88	85	96.6%		8		92	90	97.8%		6		42	42	100.0%		
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。																			工学実験		3	43	43	100.0%	工学実験		1	42	42	100.0%	166	163
																												環境工学		1	39	36	92.3%		
																												卒業研究		10	42	42	100.0%		
																								3	43	43	100.0%			12	123	120	97.6%		
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ	2		42	42	100.0%	国語Ⅱ	2		43	41	95.3%	国語	2		44	42	95.5%	国文学	2		43	42	97.7%	卒業研究		10	42	42	100.0%	214	206
					2		42	42	100.0%		2		43	41	95.3%		2		44	42	95.5%		2		43	42	97.7%			10	42	42	100.0%		
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	3		42	42	100.0%	英語Ⅱ	3		43	41	95.3%	英会話	1		44	44	100.0%	英語	2		43	40	100.0%	英語A	2		34	32	94.1%	439	402
				実践演習	2		42	42	100.0%	英文法	2		43	41	95.3%	英語	3		41	42	95.5%							英語B	1		28	28	100.0%		
										英会話	1		43	41	95.3%													外書輪講		1	33	33	100.0%		
					5		84	84	100.0%		6		129	123	95.3%		4		88	86	97.7%		2		43	43	100.0%		3	1	95	93	97.9%		
		2-c	英語以外の外国語を用いて、効率的な用を足すことができる。																			ドイツ語Ⅰ	2		43	40	93.0%	ドイツ語ⅡA	2		8	6	75.0%	60	50
																												ドイツ語ⅡB	1		9	4	44.4%		
																							2		43	40	93.0%		3		17	10	59.0%		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を獲得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を獲得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2		42	42	100.0%	微積代数Ⅰ	2		43	41	95.3%	応用物理		2	44	43	97.7%	応用物理		2	43	43	100.0%	応用数学Ⅱ		1	42	30	71.4%	937	888
				数学基礎Ⅱ	2		42	42	100.0%	微積分学Ⅰ	2		43	41	95.3%	微積分学Ⅲ	2		41	43	97.7%	応用数学Ⅰ		2	43	42	97.7%								
				数学基礎Ⅲ	2		42	41	97.6%	微積分学Ⅱ	2		43	41	95.3%	微積分学Ⅳ	2		44	42	95.5%	数値解析		1	21	15	71.4%								
				物理	2		42	42	100.0%	物理	3		43	40	93.0%	線形・統計	2		44	43	97.7%	線形代数Ⅱ	1		29	23	79.3%								
				化学	2		42	42	100.0%	化学	2		43	41	95.3%	ボランティア活動論	1		17	12	70.6%	微分方程式	1		20	15	75.0%								
				生物	1		42	42	100.0%													統計学	1		7	7	100.0%								
				日欧のしくみ	1		32	32	100.0%													数学演習	1		3	3	100.0%								
				論理のしくみ	1		10	10	100.0%													宇宙科学概論	1		25	25	100.0%								
																						物理学演習	1		2	2	100.0%								
					13		294	293	99.7%		11		215	204	94.9%		7	2	193	183	94.8%		6	5	193	175	90.7%		1		42	30	71.4%		
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。							情報処理		2	43	41	95.3%	情報処理		2	44	40	90.9%							卒業研究		10	42	42	100.0%	129	123
												2	43	41	95.3%			2	44	40	90.9%									10	42	42	100.0%		
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を獲得することができる。	機械工作法		1	42	41	97.6%	機械工作法		1	43	40	93.0%	工業力学		1	44	31	70.5%	材料力学		2	43	43	100.0%	機械力学		2	40	38	95.0%	1670	1581
				図学		2	42	42	100.0%	機械設計製図		3	43	40	93.0%	材料力学		2	44	40	90.9%	材料学		1	43	37	86.0%	広義工学		1	34	31	91.2%		
				工作実習		3	42	42	100.0%	工作実習		3	43	41	95.3%	材料学		2	44	41	93.2%	流体工学		2	43	42	97.7%	熱機関		2	42	35	83.3%		
				機械工学基礎		1	42	42	100.0%	情報処理		2	43	41	95.3%	機械工作法		2	44	42	95.5%	機械設計法		2	43	43	100.0%	流体力学		1	42	40	95.2%		
																機械設計法		1	44	41	93.2%	熱力学		2	43	43	100.0%	流体機械		1	42	41	97.6%		
																機械設計製図		3	44	44	100.0%	機構学		2	43	41	95.3%	塑性加工		1	39	39	100.0%		
																工作実習		3	41	43	97.7%	機械設計製図		3	43	43	100.0%	制御工学		2	41	32	78.0%		
																電磁気学		2	44	42	95.5%	電気工学概論		2	43	43	100.0%	計測工学		1	39	39	100.0%		
																情報処理		2	44	40	90.9%	工学実験		3	43	43	100.0%	エネルギー変換工学		2	38	38	97.4%		
																						工学演習		2	43	42	97.7%	システム工学		2	32	26	81.3%		
																												環境工学		1	39	36	92.3%		
																												外書輪講		1	33	33	100.0%		
																												工学実験		1	42	42	100.0%		
					7		168	167	99.4%		9		172	162	94.2%		18		396	364	91.9%		21		430	420	97.7%		18		504	470	93.3%		
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を高い専門分野の知識を応用することができる。													創作活動		1	44	44	100.0%	工場実習		1	20	20	100.0%	卒業研究		10	42	42	100.0%	106	106
																		1	44	44	100.0%			1	20	20	100.0%			10	42	42	100.0%		
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習		3	42	42	100.0%	倫理	2		43	39	90.7%	工作実習		3	44	43	97.7%	哲学	2		6	5	83.3%	法学	2		24	24	100.0%	296	286
										工作実習		3	43	41	95.3%							倫理学	2		9	9	100.0%	工学実験		1	42	42	100.0%		
																						工学実験		3	43	43	100.0%								
					3		42	42	100.0%		2	3	86	80	93.0%		3		44	43	97.7%		4	3	58	57	98.3%		2	1	66	66	100.0%		
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史	2		42	42	100.0%	歴史	1		43	42	97.7%	保健体育	2		44	44	100.0%	現代史	2		34	34	100.0%	保健体育	1		42	42	100.0%	539	525
				保健体育	2		42	42	100.0%	保健体育	2		43	43	100.0%							保健体育	1		43	43	100.0%	体育	1		41	40	97.6%		
																						英語	2		43	43	100.0%	英語A	2		34	32	94.1%		
																						ドイツ語Ⅰ	2		43	40	93.0%	ドイツ語ⅡA	2		8	6	75.0%		
																												英語B	1		28	28	100.0%		
																												ドイツ語ⅡB	1		9	4	44.4%		
					4		84	84	100.0%		3		86	85	98.8%		2		44	44	100.0%		7		163	160	98.2%		8		162	152	93.8%		

（出典：学生課（成績会議）統計資料）

資料６－１－②－３

本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況　2009(平成21)年度卒業生　電気電子工学科

No.	人目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数) 1年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2006年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	3年(2007年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	4年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年(2009年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年間 受講者数	5年間 合格者数
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ	2		40	40	100.0%	国語Ⅱ	2		39	38	97.4%	国語	2		42	39	92.9%	国文学	2		38	38	100.0%	法学	2		3	3	100.0%	476	463
				地理	2		40	40	100.0%	倫理	2		39	37	94.0%	政治・経済	2		42	38	90.5%	哲学	2		1	0	0.0%	経済学	2		32	32	100.0%		
				歴史	2		40	40	100.0%	歴史	1		39	36	97.4%							倫理学	2		15	14	93.3%	政治学	2		3	3	100.0%		
				美術	2		19	19	100.0%													現代史	2		23	23	100.0%								
				音楽	2		21	21	100.0%																										
					10		160	160	100.0%		5		117	113	96.6%		4		84	77	91.7%		8		77	75	97.4%		6		38	38	100.0%		
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関係に関心を持つことができる。							電気工学実験		1	39	36	92.3%	電気工学実験		3	43	38	88.4%	電気工学実験		4	39	36	100.0%	電気工学実験		2	38	36	92.3%	238	227
																						創造英語(PBL)		2	39	38	100.0%	卒業研究		8	38	38	100.0%		
											1		39	36	92.3%			3	43	38	88.4%			6	78	78	100.0%		10		78	75	96.2%		
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ	2		40	40	100.0%	国語Ⅱ	2		39	38	97.4%	国語	2		42	39	92.9%	国文学	2		38	38	100.0%	卒業研究	8		39	39	100.0%	198	194
					2		40	40	100.0%		2		39	38	97.4%		2		42	39	92.9%		2		38	38	100.0%		8		39	39	100.0%		
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	3		40	40	100.0%	英語Ⅱ	3		39	38	97.4%	英会話	1		43	40	93.0%	英語	2		41	39	95.1%	英語A	2		32	23	67.5%	391	374
				英語演習	2		40	40	100.0%	英文法	2		39	38	97.4%	英語	3		43	39	90.7%							英語B	1		35	34	97.1%		
										英会話	1		39	38	97.4%																				
					5		80	80	100.0%		6		117	114	97.4%		4		86	79	91.9%		2		41	39	95.1%		3		67	62	92.5%		
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。																			ドイツ語Ⅰ	2		40	39	97.5%	ドイツ語ⅡA	2		7	7	100.0%	55	53
																													ドイツ語ⅡB	1		8	7	87.5%		
																							2		40	39	97.5%		3		15	14	93.3%		
3	創造力豊かな専門型技術者	3-a	専門科目を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを組織的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2		40	40	100.0%	線形代数Ⅰ	2		39	38	97.4%	応用物理		2	43	41	95.3%	応用物理		2	39	37	94.9%	応用数学Ⅰ		1	6	6	100.0%	1050	986
				数学基礎Ⅱ	2		40	40	100.0%	微積分学Ⅰ	2		39	39	100.0%	微積分学Ⅲ	2		43	37	86.0%	応用数学Ⅰ		2	39	39	100.0%	数値解析		1	32	20	61.3%		
				数学基礎Ⅲ	2		40	40	100.0%	微積分学Ⅱ	2		39	32	82.1%	微積分学Ⅳ	2		43	37	86.0%	線形代数Ⅱ	1		19	19	100.0%	電子物性		1	36	35	97.2%		
				物理	2		40	40	100.0%	物理	3		39	38	97.4%	確率・統計	2		43	39	90.7%	微分方程式	1		21	18	85.7%								
				化学	2		40	40	100.0%	化学	2		39	38	97.4%	ボランティア活動論	1		12	6	50.0%	地球学	1		3	3	100.0%								
																電磁気学Ⅰ		3	43	39	90.7%	数学演習	1		10	10	100.0%								
				生物	1		40	40	100.0%													宇宙科学概論	1		20	20	100.0%								
				自然のしくみ	1		23	22	95.7%													物理学演習	1		6	5	83.3%								
				地球色のしくみ	1		16	16	100.0%													ベクトル解析		1	39	39	100.0%								
																						電磁気学Ⅰ		1	40	36	90.0%								
																						電磁気学Ⅱ		1	39	38	97.4%								
					13		279	270	96.8%		11		195	185	94.9%		7	5	227	199	87.7%		6	7	275	264	96.0%		3		74	67	90.5%		
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報基礎		2	40	40	100.0%																			卒業研究	8		39	39	100.0%	118	118
																												情報処理特論	1		39	39	100.0%		
						2	40	40	100.0%																				9		78	78	100.0%		
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	電気基礎		3	40	40	100.0%	電気工学実験		1	39	36	92.3%	電気工学実験		3	43	38	88.4%	電気工学実験		4	39	38	100.0%	電気工学実験		2	38	36	92.3%	1743	1671
				電気製図		2	40	40	100.0%	電気回路Ⅰ		2	39	37	94.9%	電磁気学Ⅰ		3	43	39	90.7%	電磁気学Ⅰ		1	40	36	90.0%	電子回路Ⅰ		1	37	37	100.0%		
										電気計測		2	39	38	97.4%	電気回路Ⅰ		3	43	39	90.7%	電磁気学Ⅱ		1	39	38	97.4%	電子材料		1	36	35	97.2%		
										電子実験		2	39	38	97.4%	電気計測		1	43	41	95.3%	電気回路Ⅰ		1	40	39	97.5%	電子応用		1	39	39	100.0%		
										情報処理		2	39	38	97.4%	電子工学		1	44	41	93.2%	電気回路Ⅱ		1	39	38	100.0%	電子回路設計		1	38	38	97.4%		
																電子回路Ⅰ		1	43	40	93.0%	半導体工学		2	39	39	100.0%	電子計算機Ⅰ		1	39	39	100.0%		
																論理回路		1	43	39	90.7%	電子回路Ⅰ		1	40	40	100.0%	情報処理特論		1	39	39	100.0%		
																情報処理		2	44	39	88.6%	電気機器		1	40	39	97.5%	電気通信特論		2	32	32	100.0%		
																電気機器		2	43	39	90.7%	デジタル回路		2	40	40	100.0%	制御工学		2	39	37	94.9%		
																						電子計測機Ⅰ		2	39	38	100.0%	電気電子材料		2	39	33	84.6%		
																						電気通信		2	39	39	100.0%	パワエレ・ドライブ・ロニクス		1	37	37	100.0%		
																						発変電工学		2	39	38	100.0%	電力輸送工学		2	39	35	89.7%		
																												電機設計		1	39	39	100.0%		
																												情電土工学		1	37	34	91.9%		
																												電気機械管理		1	39	39	100.0%		
																												エネルギー変換工学		1	37	36	97.3%		
						5	80	80	100.0%			9	195	187	95.9%			17	389	355	91.3%			20	479	466	98.5%		21		606	585	96.5%		
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を高い専門分野の知識を応用することができる。																			創造英語(PBL)		2	39	39	100.0%	卒業研究	8		39	39	100.0%	78	78
																								2	39	39	100.0%		8		39	39	100.0%		
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。							倫理	2		39	37	94.9%	電気工学実験		3	40	30	80.4%	哲学	2		1	0	0.0%	法学	2		3	3	100.0%	210	200
										電気工学実験		1	39	36	92.3%							倫理学	2		15	14	93.3%	電気工学実験		2	39	36	92.3%		
																						電気工学実験		4	30	30	100.0%								
											2	1	78	73	93.6%			3	43	38	88.4%		4	4	55	53	96.4%		2	2	42	39	92.9%		
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史	2		40	40	100.0%	歴史	1		39	38	97.4%	保健体育	2		43	43	100.0%	現代史	2		23	23	100.0%	保健体育	1		39	39	100.0%	499	486
				保健体育	2		40	40	100.0%	保健体育	2		39	30	97.4%							保健体育	1		39	36	100.0%	体育	1		34	32	94.1%		
																						英語	2		41	39	95.1%	英語A	2		32	23	67.5%		
																						ドイツ語Ⅰ	2		40	39	97.5%	ドイツ語ⅡA	2		7	7	100.0%		
																												英語B	1		35	34	97.1%		
																												ドイツ語ⅡB	1		8	7	87.5%		
					4		80	80	100.0%		3		78	76	97.4%		2		43	43	100.0%		7		143	140	97.9%		8		155	147	94.8%		

（出典：学生課（成績会議）統計資料）

資料６－１－②－４

本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2009(平成21)年度卒業生　電子制御工学科

| No | 大目標 | Sub No. | 学習・教育サブ目標 | 対応科目(受講学生数) | | |

資料６－１－②－５

本科(学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2008(平成21)年度卒業生　情報工学科

No	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	1年(2005年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2006年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	対応科目(受講学生数) 3年(2007年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	4年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年(2009年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年間合計 受講者数	合格者数	合格率
1	人間の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-ア	現代社会で生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事物に関心を持つことができる。	国語Ⅰ	2		41	41	100.0%	国語Ⅱ	2		42	42	100.0%	国語	2		41	40	97.6%	国文学	2		38	38	100.0%	法学	2		6	6	100.0%	486	480	98
				地理	2		41	41	100.0%	倫理	2		40	40	95.0%	政治・経済	2		41	38	92.7%	哲学	2		11	11	100.0%	経済学	2		27	27	100.0%			
				歴史	2		41	41	100.0%	歴史	1		42	42	100.0%							倫理学	2		2	2	100.0%	政治学	2		4	4	100.0%			
				美術	2		23	23	100.0%													現代史	2		25	25	100.0%									
				音楽	2		19	19	100.0%																											
					10		165	165	100.0%		5		126	124	98.4%		4		82	79	95.1%		8		76	76	100.0%		6		37	37	100.0%			
		1-イ	様々な課題に取り組み、社会と社会との関係に関心を持つことができる。							工学実験		3	42	39	92.9%	工学実験		4	41	33	80.5%	工学実験		4	38	38	100.0%	卒業研究		10	38	38	100.0%	197	184	93
																												工学実験		2	38	36	94.7%			
											3		42	39	92.9%			4	41	33	80.5%			4	38	38	100.0%		12		76	74	97.4%			
2	グローバルに活躍する技術者	2-ウ	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ	2		41	41	100.0%	国語Ⅱ	2		42	42	100.0%	国語	2		41	40	97.6%	国文学	2		38	38	100.0%	卒業研究		10	38	38	100.0%	200	198	99
					2		41	41	100.0%		2		42	42	100.0%		2		41	40	97.6%		2		38	38	100.0%		10		38	38	100.0%			
		2-エ	英語の基本的な内容が理解でき、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	3		41	41	100.0%	英語Ⅱ	3		42	42	100.0%	英会話	1		42	40	95.2%	英語	2		30	30	100.0%	英語A	2		30	37	97.4%	370	365	97
				英語演習	2		41	41	100.0%	英文法	2		43	42	97.7%	英語	3		41	39	92.7%							英語B	1		4	4	100.0%			
										英会話	1		43	42	97.7%																					
					5		82	82	100.0%		6		129	126	98.4%		4		83	79	94.0%		2		38	38	100.0%		3		42	41	97.6%			
		2-ケ	英語以外の外国語を用いて、簡単な用件を足すことができる。																			ドイツ語Ⅰ	2		38	38	100.0%	ドイツ語ⅡA	2		0			38	38	100
																															ドイツ語ⅡB	1		0			
																							2		38	38	100.0%		3							
3	創造力豊かな専門性技術者	3-ア	専門知識を修得するとともに必要とされる数学・物理・化学などの自然科学の知識を修得し、それらを技術的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2		42	41	97.6%	微形代数Ⅰ	2		42	42	100.0%	応用物理		2	41	39	95.1%	応用物理		2	38	38	100.0%	数値解析Ⅱ		1	26	24	92.3%	832	896	96
				数学基礎Ⅱ	2		41	41	100.0%	微積分学Ⅰ	2		42	42	100.0%	微積分学Ⅲ	2		42	36	85.7%	応用数学		2	38	38	100.0%	システム工学特論Ⅱ		1	9	2	22.2%			
				数学基礎Ⅲ	2		41	41	100.0%	微積分学Ⅱ	2		42	42	100.0%	微積分学Ⅳ	2		41	26	63.4%	数値解析Ⅰ		1	30	30	100.0%									
				物理	2		41	41	100.0%	物理	3		43	42	97.7%	確率・統計	2		41	37	90.2%	線形代数Ⅱ	1		29	29	100.0%									
				化学	2		41	41	100.0%	化学	2		42	42	100.0%	インターンシップ活動論	1		6	1	16.7%	微分方程式	1		6	6	100.0%									
				生物	1		41	41	100.0%													社会学	1		6	6	100.0%									
				自然のしくみ	1		17	17	100.0%													数学演習	1		5	5	100.0%									
				論理のしくみ	1		24	24	100.0%													宇宙科学概論	1		30	28	93.3%									
																						物理学実験	1		0											
																						情報数学		1	38	37	97.4%									
					13		288	287	99.7%		11		211	210	99.5%		7	2	171	149	87.1%		6	6	227	224	98.7%		2		35	26	74.3%			
		3-イ	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通じて、専門的情報を取得することができる。	技術実習		1	42	41	97.6%													応用実験		1	7	7	100.0%	卒業研究		10	30	30	100.0%	87	85	98
						1	42	41	97.6%															1	7	7	100.0%			10	38	38	100.0%			
		3-ウ	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	数学	1	42	41	97.6%		情報処理Ⅱ		2	42	37	88.1%	計測工学		1	43	37	86.0%	多変量解析		2	38	36	94.7%	制御工学		2	38	30	78.9%	1908	1490	92
				情報基礎	2	42	41	97.6%		論理回路		2	42	41	97.6%	電子回路		2	41	37	90.2%	数値解析Ⅰ		1	38	38	100.0%	システム設計学		2	38	31	81.6%			
				数値解析	1	41	41	100.0%		工学実験		3	42	39	92.9%	情報処理Ⅲ		2	41	36	87.8%	電子回路		1	38	38	100.0%	数値解析Ⅱ		1	26	24	92.3%			
				情報処理Ⅰ	2	42	41	97.6%		電気磁気学		1	43	43	100.0%	開発工学概論		2	42	38	90.5%	情報論理		2	38	38	100.0%	電気通信特論		2	37	36	97.3%			
										電気回路		1	40	40	100.0%	システムプログラムⅠ		2	43	37	86.0%	システムプログラムⅡ		2	30	28	94.7%	データ構造論		2	32	30	93.8%			
																電子計算機Ⅰ		2	41	38	92.7%	システム工学		2	38	38	100.0%	計算機アーキテクチャ		2	25	25	100.0%			
																工学実験		4	41	33	80.5%	通信工学		2	38	37	97.4%	情報工学特論Ⅰ		1	57	20	54.1%			
																電気磁気学		2	41	36	87.8%	電子計算機Ⅱ		2	38	37	97.4%	システム工学特論Ⅰ		1	35	34	97.1%			
																電気回路		2	41	36	87.8%	工学実験		4	38	38	100.0%	情報工学特論Ⅱ		1	32	29	90.6%			
																						工学演習		1	27	25	92.6%	品質管理工学		1	28	28	100.0%			
																						応用実験		1	7	7	100.0%	工学実験		2	30	26	94.7%			
																						電気回路		1	38	38	100.0%	情報電子工学		2	38	32	84.2%			
																												果外国語工学		1	30	30	100.0%			
					6		167	164	98.2%			9	211	199	94.3%			19	374	288	77.0%			21	414	406	98.1%			20	447	393	88.0%			
		3-エ	ものづくりと社会的経済的な学習を通して、創造性を高い専門分野の知識を応用することができる。	創造演習		1	41	41	100.0%													応用実験		1	7	7	100.0%	システム設計学		2	38	31	81.6%	97	90	92
																						工場実習		1	11	11	100.0%									
					1	41	41	100.0%																2	18	18	100.0%			2	38	31	81.6%			
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-ア	技術者の社会的な責任を理解することができる。							倫理	2		42	40	95.2%	工学実験		4	41	33	80.5%	哲学	2		11	11	100.0%	法学	2		6	6	100.0%	231	216	93
										工学実験		3	40	39	97.5%							倫理学	2		2	2	100.0%	工学実験		2	30	26	94.7%			
																						工学実験		4	38	38	100.0%									
																						工場実習		1	11	11	100.0%									
											2	3	84	79	94.0%		4	41	33	80.5%			4	5	62	62	100.0%		2	2	44	42	95.5%			
		4-イ	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史	2		41	41	100.0%	歴史	1		42	42	100.0%	保健体育3	2		42	41	97.6%	現代史	2		25	25	100.0%	保健体育	1		38	38	100.0%	452	447	98
				保健体育	2		41	41	100.0%	保健体育	2		43	42	97.7%							保健体育	1		30	30	100.0%	体育	1		24	22	91.7%			
																						英語	2		38	38	100.0%	英語A	2		38	37	97.4%			
																						ドイツ語Ⅰ	2		38	38	100.0%	ドイツ語ⅡA	2		0					
																														1		4	4	100.0%			
																												英語B								
																												ドイツ語ⅡB	1		0					
					4		82	82	100.0%		3		85	84	98.8%		2		42	41	97.6%		7		139	139	100.0%		8		104	101	97.1%			

（出典：学生課（成績会議）統計資料）

資料６－１－②－６

本科(摩耗十課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2009(平成21)年度卒業生　土木工学科

No	大目標	Sub No.	学習・教育到達目標	1年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	対応科目(受講学生数) 3年(2007年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	4年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年(2008年度) 科目名	一般	専門	受講者数	合格者数	合格率	5年間 受講者数	5年間 合格者
1	人類の未来と自然への共存をデザインする技術者	1-イ	現代社会を生きるための高度な知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ	2		40	40	95.0%	国語Ⅱ	2		45	40	93.0%	国語	2		41	40	97.6%	国文学	2		43	42	97.7%	法学	2		0			563	549
				倫理	2		42	42	100.0%	倫理	2		45	42	93.3%	政治・経済	2		41	39	95.1%	哲学	2		4	3	75.0%	経済学	2		36	36	100.0%		
				歴史	2		42	42	100.0%	歴史	1		45	45	100.0%							倫理学	2		4	3	75.0%	政治学	2		5	5	100.0%		
				英語	2		28	28	100.0%	外国	1		45	45	100.0%							現代史	2		41	41	100.0%								
				音楽	2		14	14	100.0%																										
					10		168	166	98.8%		6		180	174	96.7%		4		82	79	96.3%		8		92	89	96.7%		6		41	41	100.0%		
		1-ウ	様々な課題に取り組み、技術と社会との関係に関心を持つことができる。													土質工学実験	1.5		43	38	88.4%	環境工学Ⅰ		2	43	42	97.7%	卒業研究		9	42	42	100.0%	457	439
																材料学実験	1.5		42	37	88.1%	構造工学実験		1	43	43	100.0%	構造工学Ⅱ		1	39	34	87.2%		
																						水理学実験		1	43	42	97.7%	空間設計		1	36	32	88.9%		
																						構造工学実験		1	43	43	100.0%	土木史		1	40	40	100.0%		
																						鉄筋コンクリート工学実験		1	43	42	97.7%								
																	3		85	75	88.2%			6	215	212	98.6%		12		157	148	94.3%		
2	グローバルに活躍する技術者	2-ア	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを伝達できる。	国語Ⅰ	2		40	40	95.0%	国語Ⅱ	2		45	42	93.0%	国語	2		41	40	97.6%	国文学	2		43	42	97.7%	卒業研究		9	42	42	100.0%	213	208
					2		42	40	95.2%		2		45	42	93.3%		2		41	40	97.6%		2		43	42	97.7%		9		42	42	100.0%		
		2-ウ	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	3		42	42	100.0%	英語Ⅱ	3		49	43	88.0%	英会話	1		42	39	95.2%	英語	2		43	43	100.0%	英語A	2		37	35	94.6%	414	388
				英語演習	2		42	42	100.0%	英文法	2		45	42	93.3%	英語	3		41	39	95.1%							英語B	1		32	29	90.6%		
										英会話	1		45	44	97.8%																				
					5		84	84	100.0%		6		135	129	95.6%		4		83	79	95.2%		2		43	43	100.0%		3		69	64	92.8%		
		2-イ	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。																			ドイツ語Ⅰ	2		43	42	97.7%	ドイツ語ⅡA	2		5	4	80.0%	69	61
																													ドイツ語ⅡB	1		21	15	71.4%		
																							2		43	42	97.7%		3		26	19	73.1%		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-ア	専門知識を修得するとともに数学と呼ばれる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを道具的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2		42	42	100.0%	線形代数Ⅰ	2		45	42	93.3%	応用物理Ⅰ		2	41	40	97.6%	応用物理Ⅱ		2	43	42	97.7%	土木数学Ⅱ		1	42	42	100.0%	954	888
				数学基礎Ⅱ	2		40	40	100.0%	微積分学Ⅰ	2		45	43	95.6%	微積分学Ⅲ	2		42	39	92.9%	応用数学		2	43	42	97.7%								
				数学基礎Ⅲ	2		42	42	100.0%	微積分学Ⅱ	2		45	39	86.7%	微積分学Ⅳ	2		42	36	85.7%	土木数学Ⅰ		1	43	30	69.8%								
				物理	2		40	40	100.0%	物理	3		45	43	95.6%	確率・統計	2		40	40	100.0%	線形代数Ⅰ	1		18	17	94.4%								
				化学	2		42	42	100.0%	化学	2		45	43	95.6%	ドラフティング活動論	1		11	5	45.5%	微分方程式	1		5	3	60.0%								
				生物	1		42	42	100.0%													統計学	1		5	4	80.0%								
				自然のしくみ	1		14	14	100.0%													数学演習	1		8	7	87.5%								
				論理のしくみ	1		26	26	100.0%													宇宙科学概論	1		23	20	87.0%								
																						物理学演習	1		27	21	77.8%								
					13		292	292	100.0%		11		225	210	93.3%		7	2	180	158	87.8%		6	5	215	186	86.5%		1		42	42	100.0%		
		3-イ	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報処理Ⅰ		1	49	49	100.0%							情報処理Ⅱ		2	43	39	90.7%	構造設計Ⅰ		2	43	43	100.0%	卒業研究	9		42	42	100.0%	955	248
																						構造設計Ⅱ		1	43	41	95.3%	橋梁設計	2		42	41	97.6%		
						1	42	42	100.0%									2	43	39	90.7%			3	86	84	97.7%		11		84	83	98.8%		
		3-ウ	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	土木工学概論		1	42	42	100.0%	測量学Ⅰ		2	45	43	95.6%	構造力学Ⅰ		4	41	40	97.6%	構造力学Ⅱ		2	43	42	97.7%	応用測量学		1	42	41	97.6%	1769	1673
				測量学Ⅰ		2	42	41	97.6%	測量学実習Ⅰ		3	45	43	95.6%	水理学Ⅰ		2	42	39	92.9%	鋼構造工学		2	43	42	97.7%	応用測量学実習		1	42	42	100.0%		
				測量学実習Ⅰ		3	42	40	95.2%	応用力学		2	45	41	91.1%	土質力学Ⅰ		2	41	39	95.1%	構造工学実験		1	43	43	100.0%	鋼構造工学		1	40	32	80.0%		
										材料学		1	45	43	95.6%	鉄筋コンクリート工学Ⅰ		2	42	39	92.9%	水理学Ⅱ		2	43	40	93.0%	河川工学		1	21	19	90.5%		
																土質工学実験	1.5		43	38	88.4%	水理学実験		1	43	42	97.7%	海岸工学		1	22	14	63.6%		
																材料学実験	1.5		42	37	88.1%	構造工学Ⅰ		2	43	42	97.7%	構造工学Ⅱ		1	39	34	87.2%		
																基礎解析	2		41	40	97.6%	構造工学実験		1	43	43	100.0%	土木計画学		1	29	24	82.8%		
																構造力学Ⅰ	1		43	40	93.0%	土質力学Ⅰ		1	43	42	97.7%	交通工学		2	41	41	100.0%		
																						地盤工学		1	43	42	97.7%	施工学Ⅰ		1	42	42	100.0%		
																						都市計画		2	43	43	100.0%	施工管理学		1	42	42	100.0%		
																						鉄筋コンクリート工学Ⅱ		2	43	42	97.7%	橋梁設計		2	42	41	97.6%		
																						鉄筋コンクリート工学実験		1	43	42	97.7%	建築学概論		1	21	20	95.2%		
																						施工学Ⅰ		1	43	40	93.0%	機械工学概論		1	42	42	100.0%		
																						構造設計Ⅰ		2	43	43	100.0%	電気工学概論		1	19	8	42.1%		
																												工学演習		1	42	42	100.0%		
						6	126	123	97.6%			8	100	170	94.4%			16	335	312	93.1%			21	602	580	97.7%		17		596	484	97.0%		
		3-オ	ものづくりを目的とした機械のなかで学習を通して、創造性を養い専門分野の加藤を応用することができる。																			構造設計Ⅰ		2	43	43	100.0%	橋梁設計	2		42	41	97.6%	121	114
																												空間設計	1		36	32	88.9%		
																								2	43	43	100.0%		3		78	73	93.6%		
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-ア	技術者の社会的な責任を理解することができる。	測量学実習Ⅰ		3	42	40	95.2%	倫理	2		42	42	100.0%	環境生物学		1	43	40	93.0%	哲学	2		4	3	75.0%	法学	2		0			519	494
										測量学実習Ⅱ		3	45	43	95.6%	十質工学実験		1.5	43	38	88.4%	倫理学	2		4	3	75.0%	土木史		1	40	40	100.0%		
																材料学実験		1.5	42	37	88.1%	構造工学実験		1	43	43	100.0%	応用測量学実習		1	42	42	100.0%		
																						水理学実験		1	43	42	97.7%								
																						環境工学実験		1	43	43	100.0%								
																						鉄筋コンクリート工学実験		1	43	42	97.7%								
						3	42	40	95.2%		2	3	87	85	97.7%			4	123	115	89.8%		4	4	180	176	97.8%		2	2	82	82	100.0%		
		4-イ	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史	2		42	42	100.0%	歴史	1		45	45	100.0%	保健体育	2		42	41	97.6%	現代史	2		41	41	100.0%	保健体育	1		42	42	100.0%	563	549
				保健体育	2		42	42	100.0%	保健体育	2		45	45	100.0%							保健体育	1		43	43	100.0%	体育	1		40	40	100.0%		
																						英語	2		43	43	100.0%	英語A	2		37	35	94.6%		
																						ドイツ語Ⅰ	2		43	42	97.7%	ドイツ語ⅡA	2		5	4	80.0%		
																												英語B	1		32	29	90.6%		
																												ドイツ語ⅡB	1		21	15	71.4%		
					4		84	84	100.0%		3		90	90	100.0%		2		42	41	97.6%		7		170	169	99.4%		8		177	165	93.2%		

（出典：学生課（成績会議）統計資料）

資料６－１－②－７

2007(平成19)～2009(平成21)年度　本科(準学士課程)における成績評価の分布

年度	学年	機械工学科				電気電子工学科				電子制御工学科				情報工学科				土木工学科				学校全体			
		在籍数	最低点	最高点	平均点	在籍数	最低点	最高点	平均点	在籍数	最低点	最高点	平均点	在籍数	最低点	最高点	平均点	在籍数	最低点	最高点	平均点	在籍数	最低点	最高点	平均点
2009	1年	42	65	90	79.4	43	67	94	79.8	41	70	90	78.1	45	59	96	81.8	43	61	89	74.8	214	59	96	78.8
	2年	43	56	95	82.1	42	57	95	77.3	40	57	95	78.9	42	42	91	73.8	42	57	92	76.9	209	42	95	77.8
	3年	43	43	91	77.1	42	42	94	74.9	38	67	95	81.2	38	38	95	76.5	41	55	94	74.6	202	38	95	76.8
	4年	39	59	92	77.7	40	52	88	76.1	52	46	94	81.2	38	65	94	81.1	42	62	91	77.7	211	46	94	78.9
	5年	42	63	88	75.6	39	66	93	80.8	44	61	95	78.3	38	67	90	77.4	42	68	92	82.0	205	61	95	78.8
	各科集計	209	43	95	78.4	206	42	95	77.7	215	46	95	79.6	201	38	96	78.1	210	55	94	77.2	1041	38	96	78.2
2008	1年	42	68	92	83.2	43	61	95	81.1	41	56	96	80.4	42	59	92	76.6	43	61	93	77.6	211	56	96	79.8
	2年	44	47	92	75.8	41	52	94	77.8	41	33	96	77.6	43	41	95	75.3	43	49	93	71.3	212	33	96	75.5
	3年	39	52	93	79.8	40	55	89	76.5	45	51	92	78.6	42	48	92	74.7	41	65	92	76.6	207	48	93	76.1
	4年	45	54	90	72.9	39	67	95	79.5	46	46	96	76.1	38	66	94	77.9	45	48	93	76.1	213	46	96	76.4
	5年	41	63	89	75.3	36	48	94	77.4	43	61	95	77.8	35	69	90	79.0	37	61	93	79.5	192	48	95	77.7
	各科集計	211	47	93	76.2	199	48	95	78.5	216	33	96	78.1	200	41	95	76.6	209	48	93	76.1	1035	33	96	77.1
2007	1年	42	67	91	80.4	42	55	94	79.1	41	65	95	81.7	41	63	95	80.8	43	62	91	74.9	209	55	95	79.4
	2年	41	35	93	74.9	40	64	88	77.5	45	50	93	80.1	41	47	94	79.1	40	54	92	77.2	207	35	94	77.8
	3年	45	42	92	74.9	43	39	96	74.8	42	48	95	77.0	43	42	95	73.2	45	37	93	73.7	218	37	96	74.7
	4年	41	53	90	76.8	38	56	95	76.0	45	53	96	78.0	35	56	92	79.5	40	59	94	77.3	199	53	96	77.5
	5年	35	48	91	75.3	35	63	93	81.6	40	67	92	78.8	36	48	88	74.4	38	64	87	77.7	184	48	93	77.6
	各科集計	204	35	93	76.5	198	39	96	77.7	213	48	96	79.1	196	42	95	77.4	206	37	94	76.1	1017	35	96	77.4
3ヶ年平均	1年	126	65	92	81.0	128	55	95	80.0	123	56	96	80.1	128	59	96	79.8	129	61	93	75.8	634	55	96	79.3
	2年	128	35	95	77.6	123	52	95	77.5	126	33	96	78.9	126	41	95	76.0	125	49	93	75.1	628	33	96	77.0
	3年	127	42	93	75.3	125	39	96	75.4	125	48	95	78.9	123	38	95	74.8	127	37	94	74.9	627	37	96	75.9
	4年	125	53	92	75.7	117	52	95	77.2	143	46	96	78.5	111	56	94	79.5	127	48	94	77.0	623	46	96	77.6
	5年	118	48	91	75.4	110	48	94	79.9	127	61	95	78.3	109	48	90	76.9	117	61	93	79.8	581	48	95	78.1
	各科集計	624	35	95	77.0	603	39	96	78.0	644	33	96	78.9	597	38	96	77.4	625	37	94	76.5	3093	33	96	77.6

資料６－１－②－８

2007(平成19)～2009(平成21)年度　本科(準学士課程)5年次におけるストレート在学率

5年次年度	内　容	機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			学校全体		
		推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計	推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計	推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計	推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計	推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計	推薦入学在籍者数	学力入学在籍者数	在籍者数合計
2009	1年次(2005年度)入学者数	13	28	41	10	31	41	13	28	41	11	30	41	3	39	42	50	156	206
	5年次ストレート在学者数	12	24	36	10	25	35	13	23	36	9	26	35	3	33	36	47	131	178
	ストレート在学率	92.3%	85.7%	87.8%	100.0%	80.6%	85.4%	100.0%	82.1%	87.8%	81.8%	86.7%	85.4%	100.0%	84.6%	85.7%	94.0%	84.0%	86.4%
2008	1年次(2004年度)入学者数	10	34	44	13	31	44	13	29	42	16	27	43	10	32	42	62	153	215
	5年次ストレート在学者数	10	26	36	11	21	32	13	25	38	11	19	30	9	23	32	54	114	168
	ストレート在学率	100.0%	76.5%	81.8%	84.6%	67.7%	72.7%	100.0%	86.2%	90.5%	68.8%	70.4%	69.8%	90.0%	71.9%	76.2%	87.1%	74.5%	78.1%
2007	1年次(2003年度)入学者数	11	31	42	12	29	41	12	31	43	12	29	41	14	28	42	61	148	209
	5年次ストレート在学者数	7	23	30	8	23	31	11	25	36	10	21	31	10	23	33	46	115	161
	ストレート在学率	63.6%	74.2%	71.4%	66.7%	79.3%	75.6%	91.7%	80.6%	83.7%	83.3%	72.4%	75.6%	71.4%	82.1%	78.6%	75.4%	77.7%	77.0%
3ヵ年平均	1年次入学者数合計	34	93	127	35	91	126	38	88	126	39	86	125	27	99	126	173	457	630
	5年次ストレート在学者数合計	29	73	102	29	69	98	37	73	110	30	66	96	22	79	101	147	360	507
	ストレート在学率平均	85.3%	78.5%	80.3%	82.9%	75.8%	77.8%	97.4%	83.0%	87.3%	76.9%	76.7%	76.8%	81.5%	79.8%	80.2%	85.0%	78.8%	80.5%

（出典：成績会議統計資料）

表6

各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準

学習・教育目標	達成度評価対象	各対象の評価方法と評価基準	備　考
1	別表 6.1.1～6.1.5 または，6.2.1～6.2.5 に掲げる科目	①各目標（1-1～1-3）に対応する科目について，それぞれ１科目以上の修得 ②環境科学，環境プロセス工学，環境人間工学，廃棄物工学，環境創造工学プロジェクトの修得	＊各科目はシラバス記載の評価基準で評価し，60 点以上の成績をもって修得とする
2		①各目標（2-1～2-3）に対応する科目について，それぞれ１科目以上の修得 ②外国語科目群から２科目以上の修得 ③卒業研究，特別研究，特別セミナーの修得	
3		①数学・自然科学の科目について５科目以上の修得 ②専門工学共通科目から１科目以上の修得（ただし，環境科学を除く） ③実験（工学），卒業研究，特別研究の修得	
4		①各目標（4-1～4-3）に対応する科目について，それぞれ２科目以上の修得 ②技術倫理の修得	

（出典：平成 21 年度学生便覧　６０頁）

資料６－１－②－１０

「環境創造工学」教育プログラム認定成績証明書

プログラム修了生				
所属	専攻科	鹿児島工業高等専門学校 電気情報システム工学専攻	氏名	
	本科	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科		

総合評価			
基準		判定	備考
ⓐ	124単位以上の取得	合格	7頁参照
ⓑ	学士学位の取得	合格	
ⓒ	学習保証時間の総計1800時間以上	合格	7頁参照
ⓓ	人文科学、社会科学等の学習250時間以上	合格	4頁参照
ⓔ	数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上	合格	5頁参照
ⓕ	専門分野の学習900時間以上	合格	6頁参照
ⓖ	すべての学習・教育目標の達成	合格	2頁参照
ⓗ	基礎工学各群から最低1科目の修得	合格	6頁参照
ⓘ	基礎工学各群から合計最低6科目の修得	合格	6頁参照
ⓙ	TOEICスコア400点相当以上の英語力	合格	スコア
ⓚ	各学協会等での発表経験	合格	
ⓛ	インターンシップ（工場実習または特別実習AまたはB）もしくはPBLの修得	合格	

日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準」より抜粋

●基準2 学習・教育の量

(1)プログラムは4年間に相当する学習・教育で構成され、**ⓐ124単位以上を取得**し、**ⓑ学士の学位を得た者**を修了生としていること。

(2)プログラムは**ⓒ学習保証時間**（教員等の指導のもとに行った学習時間）**の総計が1800時間以上**を有していること。さらに、その中には、**ⓓ人文科学、社会科学等**（語学教育を含む）**の学習250時間以上**、**ⓔ数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上**、および**ⓕ専門分野の学習900時間以上**を含んでいること。

●基準5 学習・教育目標の達成

(4)修了生全員がプログラムの**ⓖすべての学習・教育目標を達成**していること。

●補則　分野別要件－工学（融合複合・新領域）関連分野－

1．修得すべき知識・能力

本プログラムの修了生は以下の知識・能力を身に付けている必要がある。

(1)基礎工学の知識・能力

基礎工学の内容は①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群の5群からなり、**ⓗ各群から少なくとも1科目**、**ⓘ合計最低6科目**についての知識と能力

鹿児島工業高等専門学校「教育プログラム履修の手引き」より抜粋

●6.教育プログラムの修了要件（*表1内*）

ⓙ③TOEICスコア400点相当以上の英語力を有すること

ⓚ④各学協会等における発表を行うこと

ⓛ⑤インターンシップ（工場実習または特別実習AまたはB）もしくはPBLの修得

（出典：専攻科委員会資料）

資料６－１－②－１１

平成19年度　「環境創造工学」教育プログラム修了生判定一覧表

	専攻名	所属学科	氏名	専攻科修了	124単位	学士	総学習保証時間				５科目群		4つの学習教育目標	TOEIC	技術倫理	インターンシップ（特別実習、工場実習）もしくはPBL	学協会の発表	教育プログラム修了判定
							人文	科学	専門	総時間	各群	6教科						
							250	250	900	1800	1教科	以上						
1	機械・電子システム	M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
2		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
3		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
4		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
5		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
6		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
7		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
8		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
9		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
10		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
11		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
12		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
13		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
14		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
15	電気情報システム	E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
16		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
17		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
18		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
19		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
20		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
21		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
22		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
23		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
24		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
25	土木	C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	不合格
26		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
27		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
28		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
29		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
30		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
31		C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	不合格
32		C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	不合格
33		C		×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	不合格

平成20年度　「環境創造工学」教育プログラム修了生判定一覧表

	専攻名	所属学科	氏名	専攻科修了	124単位	学士	総学習保証時間				５科目群		4つの学習教育目標	TOEIC	技術倫理	インターンシップ（特別実習、工場実習）もしくはPBL	学協会の発表	教育プログラム修了判定
							人文	科学	専門	総時間	各群	6教科						
							250	250	900	1800	1科目	以上						
1	機械・電子システム	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
2		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
3		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
4		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
5		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
6		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
7		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
8		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
9		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
10		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
11	電気情報システム	E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
12		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
13		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
14		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
15		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
16		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
17		E		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不合格
18		I		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
19		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
20		E		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不合格
21	土木	C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
22		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
23		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
24		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格
1	土木	C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	不合格
2		C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	不合格

平成21年度　「環境創造工学」教育プログラム修了生判定一覧表

	専攻	学科	氏名	(1)専攻科修了	(2)4つの学習教育目標全て達成	(3)基礎工学		(4)総学習保証時間				(5)124単位修得	(6)学士取得	教育プログラム修了判定	備考
						5科目群	6教科以上	人文	科学	専門	総時間				
						各群1科目以上		250	250	900	1800				
1	機械・電子システム	M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
2		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
3		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
4		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
5		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
6		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
7		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
8		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
9		S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
10		M		×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	不合格	休学中
11		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
12		M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
13	電気情報システム	E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
14		I		×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	不合格	
15		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
16		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
17		E		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
18	土木	C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
19		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
20		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
21		C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
22	土木	C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合格	
23		C		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	不合格	

（出典：教育プログラム点検会議資料）

資料６－１－②―１２

2007(平成19)～2009(平成21)年度 専攻科(学士課程)修了生における学習・教育目標の達成度評価

サブNo.	学習・教育サブ目標	専攻名	対応科目履修学生数と達成度												3年間の平均
			2006年度入学2007年度修了				2007年度入学2008年度修了				2008年度入学2009年度修了				
			各専攻受講者数	各専攻合格者数	各専攻合格率	全専攻平均合格率	各専攻受講者数	各専攻合格者数	各専攻合格率	全専攻平均合格率	各専攻受講者数	各専攻合格者数	各専攻合格率	全専攻平均合格率	全専攻平均合格率
1-1	人類の歴史や文化を理解する	機械・電子システム工学専攻	13	13	100	100	10	10	100	100	11	11	100	100	100
		電気情報システム工学専攻	10	10	100		10	10	100		5	5	100		
		土木工学専攻	8	8	100		4	4	100		4	4	100		
1-2	人間社会と自然環境とのかかわりを理解する	機械・電子システム工学専攻	26	26	100	97	10	10	100	100	11	11	100	97	98
		電気情報システム工学専攻	10	9	90		10	10	100		10	9	90		
		土木工学専攻	8	8	100		4	4	100		8	8	100		
1-3	技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける	機械・電子システム工学専攻	57	57	100	98	41	41	100	100	55	55	100	98	99
		電気情報システム工学専攻	29	29	100		32	32	100		36	34	94		
		土木工学専攻	31	29	94		16	16	100		28	28	100		
2-1	日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。	機械・電子システム工学専攻	13	13	100	100	10	10	100	100	11	11	100	100	100
		電気情報システム工学専攻	10	10	100		10	10	100		5	5	100		
		土木工学専攻	8	8	100		4	4	100		4	4	100		
2-2	論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。	機械・電子システム工学専攻	45	45	100	97	33	33	100	100	36	36	100	97	98
		電気情報システム工学専攻	30	30	100		30	30	100		11	10	91		
		土木工学専攻	24	22	92		14	14	100		16	16	100		
2-3	外国語で意思疎通を行う能力を身につける。	機械・電子システム工学専攻	44	44	100	89	32	31	97	97	36	35	97	97	94
		電気情報システム工学専攻	28	27	96		19	18	95		16	16	100		
		土木工学専攻	23	16	70		16	16	100		14	13	93		
3-1	数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。	機械・電子システム工学専攻	50	50	100	94	40	35	88	89	48	41	85	85	90
		電気情報システム工学専攻	50	45	90		55	46	84		21	17	81		
		土木工学専攻	42	39	93		22	21	95		20	18	90		
3-2	自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。	機械・電子システム工学専攻	26	26	100	96	20	20	100	100	22	22	100	97	98
		電気情報システム工学専攻	20	20	100		20	20	100		10	9	90		
		土木工学専攻	16	14	88		8	8	100		8	8	100		
3-3	専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ，与えられた制約下で計画的に，ものづくりの手法を活かして問題を解	機械・電子システム工学専攻	188	183	97	97	159	151	95	94	198	196	99	92	95
		電気情報システム工学専攻	146	144	99		161	146	91		80	68	85		
		土木工学専攻	120	115	96		54	52	96		59	55	93		
4-1	人としての倫理観を身につけ，善良な市民として社会生活を営む能力を養う。	機械・電子システム工学専攻	13	13	100	93	7	6	86	85	6	6	100	100	93
		電気情報システム工学専攻	10	9	90		10	7	70		5	5	100		
		土木工学専攻	8	7	88		4	4	100		4	4	100		
4-2	技術者が社会に対して負う責任を理解する。	機械・電子システム工学専攻	32	32	100	98	23	23	100	98	25	25	100	94	97
		電気情報システム工学専攻	20	20	100		20	19	95		11	9	82		
		土木工学専攻	16	15	94		10	10	100		8	8	100		
4-3	異文化を理解し尊重する。	機械・電子システム工学専攻	31	31	100	83	22	21	95	97	25	24	96	95	92
		電気情報システム工学専攻	18	17	94		19	18	95		6	6	100		
		土木工学専攻	15	8	53		12	12	100		10	9	90		

（出典：学生課統計資料）

資料６－１－②－１３

学習・教育目標と対応科目の達成度状況2009(平成21)年度修了生　　機械・電子システム工学専攻

No.	大目標	サブNo.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数) 1年(2008年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2009年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年間 受講者数	合格者数	合格率
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-1	人類の歴史や文化を理解する	国際関係論(2)	2			11	11	100								11	11	100
		1-2	人間社会と自然環境とのかかわりを理解する	地球物理学概論(2)		2		11	11	100								11	11	100
		1-3	技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。	環境プロセス工学(2)		2		11	11	100	環境人間工学(2)		2		11	11	100	55	55	100
				環境科学(2)		2		11	11	100										
				廃棄物工学(2)		2		11	11	100										
				環境創造工学プロジェクト(PBL)(1)		1		11	11	100										
2	グローバルに活躍する技術者	2-1	日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。	国際関係論(2)	2			11	11	100								11	11	100
		2-2	論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。・	特別セミナー(2)			2	11	11	100	特別研究(10)			10	11	11	100	36	36	100
				特別研究(4)			4	11	11	100										
				特別実習A(4)				0	0											
				特別実習B(2)			2	3	3	100										
		2-3	外国語で意思疎通を行う能力を身につける。	科学技術英語(2)	2			11	10	91	論理的英語コミュニケーション(2)	2			3	3	100	36	35	97
				総合英語(2)	2			11	11	100										
				特別セミナー(2)			2	11	11	100										
3	想像力豊かな開発型技術者	3-1	数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。	微分方程式(2)		2		11	10	91	応用代数学(2)		2		0	0		48	41	85
				ベクトル解析(2)		2		11	9	82	解析力学(2)		2		7	7	100			
				線形代数学(2)		2		11	10	91	量子力学(2)		2		2	1	50			
											知的生産システム(2)		2		3	1	33			
											機能材料工学(2)		2		3	3	100			
		3-2	自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。	特別研究(4)			4	11	11	100	特別研究(10)			10	11	11	100	22	22	100
		3-3	専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ，与えられた制約下で計画的に，ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う	流体工学特論(2)			2	7	7	100	材料物性工学(2)			2	3	3	100	198	196	99
				流体力学特論(2)			2	7	6	86	精密加工学(2)		2		3	3	100			
				弾性力学(2)			2	11	11	100	伝熱工学特論(2)			2	6	6	100			
				知能情報処理論(2)			2	6	6	100	画像工学(2)			2	10	10	100			
				計測制御工学(2)			2	11	11	100	画像情報処理特論(2)			2	4	4	100			
				機械設計演習(1)(PBL)			2	11	11	100	超伝導工学(2)		2		3	3	100			
				ロボット工学(2)			2	11	11	100	機械・電子システム工学特別講義(2)			2	0	0				
				ディジタル信号概論(2)		2		10	10	100	特別研究(10)			10	11	11	100			
				応用電子計測(2)		2		11	10	91	環境電磁気学(2)		2		11	11	100			
				制御工学特論(2)			2	11	11	100	電気回路特論(2)			2	2	2	100			
				環境創造工学特別講義(2)		2		11	11	100										
				機械・電子システム工学特別演習Ⅰ(1)			1	7	7	100										
				機械・電子システム工学特別演習Ⅱ(1)			1	11	11	100										
				機械・電子システム工学特別演習Ⅲ(1)			1	6	6	100										
				特別研究(4)			4	11	11	100										
				特別実習A(4)				0	0											
				特別実習B(2)			2	3	3	100										
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-1	人としての倫理観を身につけ，善良な市民として社会生活を営む能力を養う。	現代企業法論(2)	2			6	6	100								6	6	100
		4-2	技術者が社会に対して負う責任を理解する。	特別実習A(4)				0	0		技術倫理(2)	2			11	11	100	25	25	100
				特別実習B(2)			2	3	3	100										
				環境プロセス工学(2)		2		11	11	100										
		4-3	異文化を理解し尊重する。	科学技術英語(2)	2			11	10	91	論理的英語コミュニケーション(2)	2			3	3	100	25	24	96
				総合英語(2)	2			11	11	100										

( )内の数字は，単位数を示す。
※2: 前・後期数物選択
※4: 外国語選択

（出典：学生課統計資料）

資料６－１－②－１４

学習・教育目標と対応科目の達成度状況2009(平成21)年度修了生　　電気情報システム工学専攻　　2008年度専攻科入学

サブNo.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数) 1年(2008年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2009年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年間 受講者数	合格者数	合格率
1-1	人類の歴史や文化を理解する	国際関係論(2)	2			5	5	100								5	5	100
1-2	人間社会と自然環境とのかかわりを理解する	地球物理学概論(2)		2		5	5	100								10	9	90
		環境創造工学特別講義(2)		2		5	4	80										
1-3	技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。	環境プロセス工学(2)		2		5	5	100	環境人間工学(2)		2		5	5	100	35	34	97
		環境科学(2)		2		5	5	100	特別研究(10)			10	5	4	80			
		廃棄物工学(2)		2		5	5	100										
		特別研究(4)		4		5	5	100										
		環境創造工学プロジェクト(PBL)(1)		1		5	5	100										
2-1	日本について深く認識し、世界的な物事に関心をも	国際関係論(2)	2			5	5	100								5	5	100
2-2	論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。・	特別セミナー(2)		2		5	5	100	特別研究(10)			10	5	4	80	11	10	91
		特別研究(4)		4		5	5	100										
		特別実習A(4)		4		0	0											
		特別実習B(2)		2		1	1	100										
2-3	外国語で意思疎通を行う能力を身につける。	科学技術英語(2)	2			5	5	100	論理的英語コミュニケーション(2)	2			1	1	100	16	16	100
		総合英語(2)	2			5	5	100										
		特別セミナー(2)	2			5	5	100										
3-1	数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。	微分方程式(2)		2		5	4	80	応用代数学(2)		2		0	0		21	17	81
		ベクトル解析(2)		2		5	4	80	解析力学(2)		2		4	3	75			
		線形代数学(2)		2		5	4	80	量子力学(2)		2		1	1	100			
		応用電子物性(2)		2		1	1	100										
3-2	自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用す	特別研究(4)			4	5	5	100	特別研究(10)			10	5	4	80	10	9	90
									音響システム工学(2)			2	0	0				
3-3	専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ，与えられた制約下で計画的に，ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。	ディジタル信号概論(2)		2		5	5	100	精密加工学(2)		2		1	1	100	80	68	85
		特別研究(4)			4	5	5	100	超伝導工学(2)		2		2	2	100			
		電磁気学特論(2)			2	5	4	80	特別研究(10)			10	5	4	80			
		電力システム解析(2)			2	5	5	100	集積回路製造技術(2)			2	5	3	60			
		静電気応用機器(2)			2	0	0		回路工学特論(2)			2	4	4	100			
		応用パワーエレクトロニクス(2)			2	5	4	80	ディジタル通信(2)			2	4	1	25			
		応用電子計測(2)			2	5	4	80	マルチメディア工学(2)			2	4	4	100			
		電気通信工学(2)			2	5	5	100	計算機言語(2)			2	0	0				
		画像処理基礎(2)			2	5	4	80	環境電磁気学(2)		2		5	5	100			
		電気電子工学特別演習Ⅰ(1)			1	4	4	100	電気電子工学特別演習Ⅱ(1)			1	0	0				
		計算機ハードウェア特別演習(1)			1	2	2	100	計算機ソフトウェア特別演習(1)			1	1	1	100			
		特別実習A(4)			4	0	0		電気情報システム工学特別講義(2)			1	0	0				
		特別実習B(2)			2	1	1	100	知的生産システム(2)		2		2	1	50			
						47	43		機能材料工学(2)				33	25				
4-1	人としての倫理観を身につけ，善良な市民として社会生活を営む能力を養う。	現代企業法論(2)	2			5	5	100								5	5	100
4-2	技術者が社会に対して負う責任を理解する。	特別実習A(4)			4	0	0		技術倫理(2)	2			5	4	80	11	9	82
		特別実習B(2)			2	1	1	100										
		環境プロセス工学(2)		2		5	4	80										
4-3	異文化を理解し尊重する。	科学技術英語(2)	2			5	5	100	論理的英語コミュニケーション(2)	2			1	1	100	6	6	100
		総合英語(2)	2			5	5	100										

( )内の数字は，単位数を示す。
※2: 前・後期数物選択
※4: 外国語選択

（出典：学生課統計資料）

資料６－１－②－１５

学習・教育目標と対応科目の達成度状況2009(平成21)年度修了生　　土木工学専攻　　2008年度専攻科入学

サブ No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数) 1年(2008年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年(2009年度) 科目名	一般	専門共通	専門	受講者数	合格者数	合格率	2年間 受講者数	合格者数	合格率
1-1	人類の歴史や文化を理解する	国際関係論(2)	2			4	4	100								4	4	100
1-2	人間社会と自然環境とのかかわりを理解する	地球物理学概論(2)		2		4	4	100								8	8	100
		環境創造工学特別講義(2)		2		4	4	100										
1-3	技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。	環境プロセス工学(2)		2		4	4	100	環境人間工学(2)		2		4	4	100	28	28	100
		環境科学(2)		2		4	4	100	特別研究(10)			10	4	4	100			
		廃棄物工学(2)		2		4	4	100										
		特別研究(4)			4	4	4	100										
		環境創造工学プロジェクト(PBL)(1)		1		4	4	100										
2-1	日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。	国際関係論(2)	2			4	4	100								4	4	100
2-2	論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。	特別セミナー(2)			2	4	4	100	特別研究(10)			10	4	4	100	16	16	100
		特別研究(4)			2	4	4	100										
		特別実習A(4)			4	4	4	100										
		特別実習B(2)			2	0	0											
2-3	外国語で意思疎通を行う能力を身につける。	科学技術英語(2)	2			4	3	75	論理的英語コミュニケーション(2)	2			2	2	100	14	13	93
		総合英語(2)	2			4	4	100										
		特別セミナー(2)			2	4	4	100										
3-1	数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。	微分方程式(2)		2		4	4	100	応用代数学(2)		2		0	0		20	18	90
		ベクトル解析(2)		2		2	2	100	解析力学(2)		2		2	1	50			
		線形代数学(2)		2		4	3	75	量子力学(2)		2		0	0				
		連続体力学(2)			2	4	4	100										
		環境生物学(2)			2	4	4	100										
3-2	自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。	特別研究(4)			4	4	4	100	特別研究(10)			10	4	4	100	8	8	100
3-3	専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ，与えられた制約下で計画的に，ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。	ディジタル信号概論(2)		2		3	2	67	精密加工学(2)		2		0	0		59	55	93
		応用電子計測(2)		2		0	0		超伝導工学(2)		2		0	0				
		特別研究(4)			4	4	4	100	特別研究(10)			10	4	4	100			
		マトリックス構造解析(2)			2	4	4	100	資源循環システム論(2)			2	0	0				
		水工学特論(2)			2	3	3	100	都市計画演習(1)(PBL)			1	4	4	100			
		水理学演習(1)			1	4	4	100	環境電磁気学(2)		2		4	4	100			
		地盤防災工学特論(2)			2	4	4	100	土木工学特別演習Ⅱ(1)			1	2	2	100			
		土木材料学(2)			2	4	4	100	土木工学特別講義(2)			2	4	4	100			
		都市計画特論(2)			2	4	4	100	知的生産システム(2)		2		2	1	50			
		土木工学特別演習Ⅰ(1)			2	3	3	100	機能材料工学(2)		2		2	2	100			
		特別実習A(4)			4	4	4	100										
		特別実習B(2)			2	0	0											
4-1	人としての倫理観を身につけ，善良な市民として社会生活を営む能力を養う。	現代企業法論(2)		2		4	4	100								4	4	100
4-2	技術者が社会に対して負う責任を理解する。	特別実習A(4)			4	4	4	100	技術倫理(2)		2		4	4	100	8	8	100
		特別実習B(2)			2	0	0											
		環境プロセス工学(2)		2		4	4	100										
4-3	異文化を理解し尊重する。	科学技術英語(2)	2			4	3	75	論理的英語コミュニケーション(2)		2		2	2	100	10	9	90
		総合英語(2)	2			4	4	100										

( )内の数字は，単位数を示す。

※2：前・後期数物選択

※4：外国語選択

（出典：学生課統計資料）

（分析結果とその根拠理由）

（ａ）準学士課程

平成19～21年度卒業生の５年間を通した学習・教育目標達成度は，各サブ目標に対応した科目の単位取得率がほとんど90％以上を達成していること，全クラスの科目評価平均点は70点を越えていること，また，卒業研究は評価基準が明確になっており水準の確保が図られていることなどから，教育の成果や効果が十分に上がっていると判断できる。一方，３年次の進級率がやや低いことから，低学年に対する学習の動機付けを，さらに図る必要がある。

（ｂ）専攻科課程

平成19年度以降の修了生は，４つの学習・教育目標を全て達成している。特別研究では，修了生全員関係学会が主催する学術講演会等で発表しており研究水準が確保されている。これらのことから，教育の成果や効果は上がっていると判断できる。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成19～21年度の準学士課程卒業生の進路状況は，50％～60％が企業へ就職し，40％程度が大学や専攻科へ進学しており，未決定者が３％程度である。専攻科課程修了生の進路状況は，60％以上が企業へ就職し，30％程度が大学院へ進学している（資料６－１－③－１）。準学士課程卒業生の進路の50％～60％を占める企業への就職については，求人数はほとんどの学科で200社を超えており，多くの学生が有力企業へ就職している（資料６－１－③－２，３，４）。専攻科修了生の就職先についても多くの学生が有力企業へ就職している（資料６－１－③－５）。本科卒業生の職業別就職者数については，機械・電気技術者や情報処理技術者，その他技術者が大部分を占めており，本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。専攻科修了生についても，機械・電気技術者や情報処理技術者，その他技術者が大部分を占めている（資料６－１－③－６）。卒業（修了）後の進学先としては資料６－１－③－７に示すように，本校で学んだ専門知識を基に，さらに高度な知識を得ることのできる大学（大学院）へ進学している。

６－１－③資料一覧

（資料６－１－③－１）卒業（修了）生進路状況　　出典：学生課資料

（資料６－１－③－２）平成２１年度　進路別卒業者数　　出典：学生課資料

（資料６－１－③－３）卒業予定者就職進学状況　　出典：学生課資料

（資料６－１－③－４）卒業後の進路　　出典：平成２２年度学生便覧

（資料６－１－③－５）修了後の進路　　出典：平成２２年度学生便覧

（資料６－１－③－６）準学士課程卒業後の就職先（産業別）

・専攻科修了後の就職先（産業別）　出典：学生課資料

（資料６－１－③－７）２００７（平成１９）～２００９（平成２１）年度　本科（準学士課程）卒業生および専攻科修了生の進学先　　出典：学生課資料

資料６－１－③－１

卒業(修了)生進路状況

		平成19年度							平成20年度							平成21年度						
		就職		進学		未定		計	就職		進学		未定		計	就職		進学		未定		計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合	人数	割合	
本科	機械工学科	18	54.5	15	45.5	0	0.0	33	26	63.4	15	36.6	0	0.0	41	30	71.4	12	28.6	0	0.0	42
	電気工学科	18	51.4	17	48.6	0	0.0	35	24	68.6	10	28.6	1	2.9	35	25	64.1	13	33.3	1	2.6	39
	電子制御工学科	24	60.0	16	40.0	0	0.0	40	27	65.9	14	34.1	0	0.0	41	27	61.4	15	34.1	2	4.5	44
	情報工学科	27	77.1	8	22.9	0	0.0	35	16	45.7	18	51.4	1	2.9	35	27	71.1	11	28.9	0	0.0	38
	土木工学科	27	71.1	11	28.9	0	0.0	38	25	67.6	11	29.7	1	2.7	37	28	66.7	13	31.0	1	2.4	42
	計	114	63.0	67	37.0	0	0.0	181	118	62.4	68	36.0	3	1.6	189	137	66.8	64	31.2	4	2.0	205
専攻科	機械電子システム専攻	8	57.1	6	42.9	0	0.0	14	8	80.0	2	20.0	0	0.0	10	6	54.5	5	45.5	0	0.0	11
	電気情報システム専攻	9	100.0	0	0.0	0	0.0	9	7	63.6	4	36.4	0	0.0	11	0	0.0	4	100.0	0	0.0	4
	土木工学専攻	4	80.0	1	20.0	0	0.0	5	4	80.0	1	20.0	0	0.0	5	5	100.0	0	0.0	0	0.0	5
	計	21	75.0	7	25.0	0	0.0	28	19	73.1	7	26.9	0	0.0	26	11	55.0	9	45.0	0	0.0	20

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－２

平成 21 年度　進路別卒業者数

学科・専攻名（大学・短期大学・高等専門学校は学科名、大学院は専攻名を記入する。）		符号	性別		7 状況別卒業者数											
					A 大研 学究 院科	B 大学 学部	C 短本 期大 学科	D 専 攻 科	E 別 科	就職者（左記A～Eを除く）	臨床研修医（予定者を含む）	専修学校・外国の学校等入学者	一時的に就職しない仕事者	左記以外の者	不詳の者（死亡した者を含む）	計 (a)
機械工	学科 専攻	G010	男	1		6		6		30						42
			女	2												
電気電子工	学科 専攻	G041	男	1		6		6		21				1		34
			女	2				1		4						5
電子制御工	学科 専攻	G060	男	1		7		7		26				2		42
			女	2				1		1						2
情報工	学科 専攻	G080	男	1		7		4		19						30
			女	2						8						8
土木工	学科 専攻	G110	男	1		4		6		27				1		38
			女	2				3		1						4
都市環境デザインエ	学科 専攻	G223	男	1												
			女	2												
計		9999	男	1	0	30	0	29	0	123	0	0	0	4	0	186
			女	2	0	0	0	5	0	14	0	0	0	0	0	19
		計			0	30	0	34	0	137	0	0	0	4	0	205

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－３

平成２２年３月　卒業予定者就職進学状況

		機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
求人数	県内	7			13			8			35			5		
	県外	527			485			428			265			175		
	計	534			498			436			300			180		
卒業予定者		42	42	0	39	34	5	44	42	2	38	30	8	42	38	4
求職者	県内	2	2	0	1	0	1	4	3	1	4	1	3	0	0	0
	県外	28	28	0	24	21	3	23	23	0	23	18	5	28	27	1
	計	30	30	0	25	21	4	27	26	1	27	19	8	28	27	1
就職決定	県内	2	2	0	0	0	0	4	3	1	4	1	3	0	0	0
	県外	28	28	0	24	21	3	23	23	0	23	18	5	28	27	1
	計	30	30	0	24	21	3	27	26	1	27	19	8	28	27	1
就職未決定	県内	0			0			0			0			0		
	県外	0			0			0			0			0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公務員	就職決定				1		1									
	就職未決定															
進　学		12	12	0	13	12	1	15	14	1	11	11	0	13	10	3
その他		0	0	0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－４

Ⅲ　卒業後の進路

１．機械工学科

進路先	H17	H18	H19	H20	H21	合計	進路先	H17	H18	H19	H20	H21	合計
三菱重工業長崎研究所				1	1	2	旭化成		2				2
三菱重工業長崎造船所				1	1	2	マツダE&T		1				1
三菱重工業神戸造船所				1		1	出光興産		1				1
三菱重工業下関造船所				1	1	2	山崎製パン				1		1
三菱重工業広島製作所				1		1	クリエート				1		1
三菱重工業高砂製作所				1	1	2	九州電力				1	1	2
三菱重工業高砂研究所					1	1	西中製作所				1		1
三菱重工業汎用機・特車				1		1	Gクラフト		1				1
京セラ国分	1	1				2	シマノ		1		1	1	3
東芝プラント				1		1	三菱名古屋		1				1
京セラ川内	3	1	1	1		6	本田技研		1		1		2
ヤマサキ					1	1	関西電力		1		1	1	3
いすゞエンジニアリング	1	1				2	西日本プラント		1				1
三菱化学エンジニアリング						0	旭化成エンジニアリング		1				1
堀口内燃機工業						0	高田工業所		1				1
森精機		1				1	石川島プラント建設		1				1
トヨタ自動車						0	アルバック精機		1				1
コマツ				1		1	富士通			1	1		2
コスモテック				1	1	2	富士重工			1			1
日立エンジニアリング						0	三井造船			1			1
ソニー九州	1	2		1		4	河村電器産業			1			1
京セラミタジャパン						0	エイム			1			1
テックス						0	大和製罐			1		1	2
大分キヤノン						0	アルバック			1			1
JAL航空機整備東京		1	2	1	1	5	三菱自動車ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ			1			1
JAL航空機整備成田	2	1	1			4	ダッド			1			1
日立ビルシステム	1				1	2	シャープ			1			1
JR西日本	1					1	オリンパス			1			1
テクモ		1		1		2	ﾄﾖﾀﾌﾟﾘｳｽﾞｸｼｮﾝｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ			1			1
川崎造船						0	キヤノン			1			1
トヨタ車体	2	1				3	シチズンセイミツ鹿児島					1	1
プランテムタナカ						0	森永製菓					1	1
ファナック						0	昭和電工川崎事業所					1	1
安川ロジステック						0	JFEスチール知多					1	1
ヤマハ熊本プロダクツ	1					1	JFEスチール西日本					1	1
日本貨物鉄道						0	久光製薬					1	1
ユニチカグラスファイバー						0	大岡精密工業					1	1
アイシン精機	1					1	屋久島電工					1	1
花王株式会社	1					1	富士電機システムズ					1	1
キラ・コーポレーション	1					1	ダイキン工業					1	1
クレオ	1					1	三晃空調					1	1
ニコン	1		1			2	吉野工業所					1	1
神戸製鋼所	1					1	公務員						0
プレス工業	1					1							
三菱ビルテクノサービス	1					1	鹿児島大学				2		2
三菱重航空宇宙システム	1					1	豊橋技術科学大学		3		2	1	6
日立ハイテクノロジーズ	1					1	熊本大学	1		2	2	3	8
サントリー	1					1	宮崎大学	1		2			3
ミヤマ工業	1					1	第一工業大学					1	1
住友大阪セメント	1					1	九州工業大学	1	2	2		1	6
JR東海				1		1	神戸大学						0
ユピテル鹿児島				1		1	九州大学			2			2
アリマコーポレーション				1		1	岡山大学						0
IHI				1		1	香川大学						0
IHIマリンユナイテッド					1	1	佐賀大学		1		2		3
IHIプラント建設					1	1	鹿児島高専専攻科	8	5	6	7	6	32
大阪ガス					2	2							
濱田重工					1	1	文化服装学院			1			1

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－４続き

２．電気電子工学科

【就職先一覧】

会　社　名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	合計
中 部 電 力		1	1	1	1	1	2	3	3	1	14
関 西 電 力							1	2	3	1	7
九 州 電 力	1	1				1			3	3	9
JR 西 日 本		1				1		1	1		4
大 阪 ガ ス						1		1	1		3
三菱電機システムサービス			1		1				1		3
東 京 電 力									1		1
ト ヨ タ									1		1
本田技研工業									1	1	2
三菱重工業長崎造船所									1		1
三菱重工業長崎研究所			1						1		2
太陽日産									1		1
ディスコ									1		1
シマノ									1		1
JAL航空機整備・成田					1				1		2
富士通エンジ	1								1		2
日立ビルシステム			1	1		2	1	1		1	7
ＮＯＫ							1	1			2
京セラ 隼人国分	2	1				2	1		1		7
福岡空港ビルディング									1		1
全 農 サ イ ロ			1	1	1	1	1			1	6
アルバック九州			1		1		1				3
京 セ ラ 川 内					1		1				2
NTTファシリティーズ							1				1
東洋インキ製造							1				1
日本貨物鉄道							1				1
旭化成テクノシステム							1				1
安川エンジニアリング							1				1
JR 九 州	1				1	1		1			4
ソニーセミコンダクタ九州		1				1		1			3
大分キヤノン						1		1			2
鹿児島空港エンジニアリング	1							1		1	3
国立印刷局								1			1
鹿児島銀行								1			1
ダイハツ工業								1			1
ユピテル鹿児島								1			1
JR 東 海								1			1
三菱電機ビルテクノサービス			1	1	1	1					4
旭 化 成		1		1	1	1					4
日信電子サービス	1	1		1							3
明 治 乳 業	1	1		1							3
日 立 メ デ ィ コ					1	1					2
ヤマハ鹿児島セミコンダクタ				1		1					2
ホシザキ南九	2										2
ダ ッ ド				1	1						2
ソニーEMCS木更津テック			1		1						2
富士古河E&C										1	1
フジテック										1	1
東芝ITサービス										1	1
富士通										1	1
野里電気工業										1	1
ダ イ ダ ン			1		1						2

会　社　名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	合計
ディー・エス・テック					1						1
JR 東 日 本		1									1
日本モレックス				1							1
ｻﾑﾛﾝﾌｨｰﾙﾄﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ九州			1								1
電 源 開 発	1										1
南 国 殖 産			1	1							2
コスモテック		1	1								2
山 九							1				1
パナソニックエレクトロニックデバイス						1				1	2
日立製作所						1					1
リコーテクノシステムズ						1					1
行政システム九州						1					1
津 田 工 業					1						1
花　王				1							1
森 永 乳 業			1								1
親 和 電 機			1								1
富士電機工事			1								1
ネ オ テ ク ノ		1									1
東芝プラントシステム	1									1	2
東芝情報システム	1		1								2
南 州 農 場	1										1
日 新 電 機	1										1
飯神エレクトリック				1							1
いわきコーポレーション				1							1
NTTドコモ九州			1								1
オリンパス光学工業			1								1
ソニーEMCS福島テック			1								1
ニッソーサービス			1								1
九　建			1								1
情 報 基 盤			1								1
東　通			1								1
NHKアイテック		1									1
セイコーインスツルメンツ		1									1
ピ　セ		1									1
メ イ キ コ ウ		1									1
九州富士通エレクトロニクス		1									1
日 立 MS		1									1
ＮＨＫ	1										1
雪 印 乳 業	1										1
東京エレクトロン九州	1										1
東芝エレベータテクノス	1										1
メタウォーター										2	2
コニカミノルタ										2	2
医療事務管理士				1							1
自営（起業含む）			1				1				2
デンソーテクノ										1	1
日立プラントテクノロジー										1	1
カルビー										1	1
日本コンピュータコンサルタント										1	1
鹿児島市役所										1	1
公 務 員 希 望			1		2						3

※合計には，最近10年間(H12～H21)のものを記載。

【進学先一覧】

学　校　名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	合計
鹿児島高専 専攻科	5	3	4		8	3	7	4	3	7	44
九 州 工 業 大 学	1	1	1	2	1		3	4	3	1	17
長岡技術科学大学	1	2	1	3	5	2	4	3			21
豊橋技術科学大学			1	2	2	1		3			9
熊 本 大 学	1		1	1	2		1	2	1	1	10
埼玉大学								1			1
鹿 児 島 大 学	5	6	3	7	4	3	3		1	3	35
宮 崎 大 学			1	4			2				7
東京工業大学										1	1
佐 賀 大 学							2				2

学　校　名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	合計
九 州 大 学	1	1	1	2							5
岡 山 大 学		1		1		1					3
東 京 農 工 大 学			1	1							2
長 崎 大 学	1			1							2
広 島 大 学				1					1		2
京 都 教 育 大 学				1							1
電 気 通 信 大 学		1							1		2
専 門 学 校				1		1	1				3
進 学 希 望				1	1		2			1	5

※合計には，最近10年間(H12～H21)のものを記載。

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－４続き

３．電子制御工学科

就職・進学先	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
アイシン精機							2	2			4
アイフォーコム	1		1		1						3
アクテス											0
姫化成					1	1					2
姫化成せんい									2		2
姫化成テクノシステム										1	1
飛島電気	1			1		1				1	4
アトックス										1	1
アベックス	1		1	1							3
アルバック精機							1		2		3
アルファシステムズ		1	1								2
アロン電気	1										1
アンドールブロテック									1		1
イー・アイ・ソル									1		1
イーオス21		1		1	2						4
エクセン	1										1
NEC広島		1									1
NTTコミュニケーションズ										1	1
大分キヤノン				1		1					2
大阪ガス				1							1
大阪サニタリー金属工業協同組合										1	1
大阪シーリング印刷								1	1		2
オムロンフィールドエンジニアリング九州										1	1
カコイグループ										1	1
鹿児島リコー					1						1
関西電力								1		2	3
キヤノン								2			2
キヤノンシステムアンドサポート							1				1
九州タブチ				1							1
九州デン					1						1
京セラ国分					3	2	3	2			10
京セラ川内					2	1					3
京セラミタ		1									1
キラコーポレーション	1		1								2
コア・テック	1										1
コマツ製作所								1			1
コンチネンタル・テーベス			1								1
サザンテック				1							1
サトー									1		1
シーアールイー								1			1
JR九州	1		1	1	1	1					5
JR東海										1	1
JR西日本				1		1					2
シャープ							1	1			2
JAL東京									1		1
JAL成田						1	2	3			6
真空機工	1										1
スタンレー							1				1
住友化学千葉工場										1	1
ソニーEMCS一宮		1	1	1			2		2		7
ソニーEMCS木更津		1	1		1		1				4
ソニーEMCS幸田							1		1		2
ソニーEMCS諏訪									1		1
ソニーEMCS長野						1					1
ソニー厚木テクノロジーセンタ	1										1
ソニーセミコンダクタ九州			1	1		1	1				4
ソニーファシリティーマネージメント				1			1				2
ソニー福島			1								1
ソフト流通センター									1		1
ダイキン				1							1
ダイダン										1	1
ダイハツ								2	1		3
太豊工業	1										1
タイヨーインターナショナル	1				1	1					3
ダッド						1	1				2
中部バルブ						1					1
TMCシステム					1						1
テクシア					2						2
テクノ空調										1	1
テクノ21グループ	1		1					1	1	1	5
東京エレクトロンFE							1				1
東京ガス									1		1
東芝プラントシステム							1			1	2
東レ						1					1
トステム	1	1									2

就職・進学先	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
トヨタ自動車	1										1
トヨタ車体		1	1	1	1	1	1	1			7
トヨタ車体研究所									1	1	2
南国殖産	1										1
南国テレフォン							1				1
南西酵素										1	1
日研工作所				1							1
日産自動車							1				1
日産テクノ			2	1	2	1					6
ニッソーサービス				1	2						3
日本貨物鉄道				1	1						2
日本デバイス							1				1
日本テレコム		1									1
日本モレックス									1		1
ネオテクノ		1									1
パイオニアサービス						1					1
白光			1								1
パナソニックITS									1		1
パナソニックエンジニアリング	1										1
日立アドバンストデジタル									1		1
日立エンジニアリング					1						1
日立化成								1			1
日立電子サービス	1										1
日立ビジネスソリューション		1	1								2
日立ビルシステム	1	1		1	1			1		1	6
日立メディコ				1				1			2
BPA				1	1	1					3
ファナック				1							1
富士重工業				1							1
富士電エンジ	1										1
富士電気システムズ						1					1
富士通									1		1
富士通アドバンストソリューションズ										2	2
富士通エフサス										1	1
ブラザー						1					1
ベンチャーセーフネット	1										1
マツダ産業		1									1
三菱電機ビルテクノサービス					1	1	1			1	4
三菱電機システムサービス	1		1			1	1				4
三菱重工業									2	1	3
三菱ビジネスシステム					1						1
ミノルタ	1										1
ミツワ電子									2		2
ミヤマ工業	1				1	1				1	4
ミヤマ機工			1	1							2
メイキコウ			1								1
メタウォーター										3	3
森精機製作所		1			1			1	1		4
森永製菓							1				1
森永乳業				1							1
安川電機								1			1
安川エンジニアリング					1						1
ヤマサキ	1			1							2
横河エンジニアリング			1								1
リコー			2								2
愛川大学									1		1
鹿児島高専専攻科	5	5	4	4	7	5	5	5	6	8	54
鹿児島大学			1		2	2	2	2			9
九州工業大学	4	2	2	1	1	1	2	4	1	5	23
九州大学								1			1
熊本大学				3	1				1		5
静岡大学									1		1
千葉大学						1					1
電気通信大学		1				1		1			3
東京農工大							1				1
長崎技術科学大学	2	1	2	1			1	3	1	1	12
長岡技術科学大学	2	2	2		1	1			1	1	10
長崎大学		1									1
名古屋大学				1					1		2
宮崎大学							1				1
立命館大学		1									1
専門学校		1				2					3
公務員		1						1	1		3
その他	2						1		1	2	6
合計	39	28	32	35	42	38	39	39	42	44	378

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－４続き

４．情報工学科

進路先	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
アイフォーコム九州				1				1
アクティス	1							1
旭化成			1					1
アルファシステムズ	1							1
イーオス21	2		1	1				4
イクス・センス	1							1
伊藤忠テクノサイエンス				4	3			7
インタープロジェクト	2							2
ウエブスターシステム				1				1
NEC システム建設エンジニアリング		1						1
NEC ネッツエスアイ・エンジニアリング					1			1
NEC ネッツエスアイ				1	1			2
NEC フィールディング		1		1				2
NEC モバイリング					1			1
NHK アイテック					1			1
NTT データフロンティア					1			1
NTTドコモ九州	1							1
NTT 西日本				1				1
エクシーズ			1					1
エス・テー・ラボ	2	1					1	4
大阪ガス				1			1	2
オムロンフィールドエンジニアリング九州	1							1
オリンパスソフトウェアテクノロジー					1			1
鹿児島ファコム		1						1
関西電力						2	2	4
京セラ国分		3	5	3	3	3		17
京セラ川内		3	1					4
京セラ隼人		2			1			3
京セラコミュニケーションシステム				1			1	2
京セラ SLC テクノロジー		1						1
クリスタルファクトリー	1							1
ケイ・シィ・ティ						1	1	2
コニカミノルタビジネスソリューションズ							2	2
サンメイク・ジャパン	1					1		2
サンリツオートメーション		1						1
JAL 航空機整備東京			1		2			3
CRC システムズ							1	1
JFE スチール			1					1
JR 東海							1	1
JR 西日本	1		1		1	2		5
シャープビジネスコンピュータソフトウェア						1		1
SONY EMCS一宮	1							1
SONY EMCS木更津	1							1
SONY セミコンダクタ九州			2					2
ソフト流通センター		1	1			1		3
ソルクシーズ				1			1	2
大信情報システム		1						1
太陽精機					1			1
ダイワボウ情報システム		1						1
ダッド	1		1					2
TSG		1						1
テクノカルチャー				1				1
デンソーテクノ			1		1		1	3
東芝ITサービス							1	1
東芝プロセスソフトウェア					1			1

進路先	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
南国テレホン	1							1
南国殖産	1							1
西テレ情報サイエンス						1		1
日本有機			1					1
日本放送協会(NHK)	2		1				1	4
日本空港テクノ							1	1
パナソニックITS					1		1	2
パナソニックシステムソリューションズジャパン							1	1
ヒップ				1				1
日立アドバンストデジタル					1			1
日立メディコ		1					1	2
富士ソフトABC	1		1	2				4
富士通					2	2	1	5
富士通アドバンストソリューションズ				1			2	3
富士通鹿児島インフォネット				2		1	1	4
富士通九州システムエンジニアリング					1			1
富士通システムソリューションズ					1			1
富士通ミッションクリティカルシステムズ							1	1
富士ゼロックス						1		1
松下電工システムソリューション				1				1
南日本放送		1						1
メルコパワーシステムズ	1						1	2
安川情報システム							1	1
ライオン			1					1
リコーテクノシステムズ	1	1						2
リンクウェア					1			1
公務員					1			1
国立印刷局							2	2
就職者合計	24	21	21	24	27	16	27	160
鹿児島高専専攻科	3	8	7	3	2	7	4	34
豊橋技術科学大学	2	6		5	1	2	1	17
九州工業大学	2	2	2	1	4	5	2	18
鹿児島大学	3		4	3	1		3	14
熊本大学						1	1	2
宮崎大学			1	2				3
佐賀大学		1						1
島根大学		1						1
電気通信大学				1				1
熊本電波高専専攻科			1					1
前橋工科大学			1					1
鹿児島国際大学						1		1
久留米大学			1					1
志学館大学		1						1
立命館大学				1				1
大村美容専門学校			1					1
京都保健衛生専門学校				1				1
日本ビジネススクール		1						1
パンタン映画映像学院	1							1
パンタン電脳ゲーム学院						2		2
進学者合計	11	20	18	17	8	18	11	103
合計	35	41	39	41	35	34	38	263

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－４続き

５．土木工学科

進路先	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計	進路先	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
(株)新井組			1				1	(株)南日本技術コンサルタンツ				1			1
インフラテック(株)		1		1			2	ミヤマ精工(株)		1					1
大阪ガス(株)		1	1	1	2	3	8	向井建設(株)		1					1
大林道路(株)			1				1	(株)森山(清)			1				1
竹中土木						1	1	日鉄パイプライン						1	1
奥村組土木興業(株)			2				2	(株)ヤマサキ	1					1	2
小野田ケミコ(株)	1						1	横河工事(株)		1					1
(株)家村測量設計事務所		1					1	(株)横河ブリッジ				1			1
富士ピーエス						1	1	横河ホールディングス						1	1
エスケイエンジニアリング(株)					1		1	ライト工業(株)			1	1	1	1	4
大崎建設(株)					2		2	(株)渡辺組			1				1
ショーボンド建設						1	1	三軌建設						1	1
オリエンタル白石(株)				1			1								
(株)ガイアテック			1	1			2	鹿児島県庁	2						2
岸本建設(株)			1				1	鹿児島市役所				1			1
九建(株)					1		1	国土交通省	2						2
九州電力(株)				1		1	2	国家Ⅲ種	1						1
九州旅客鉄道(株)					1	1	2	姶良中部農業共済組合	1						1
九鉄工業(株)		3	3		1	1	8	益城町役場(熊本県)					1		1
(株)建設技術コンサルタンツ	1						1								
コーアツ工業(株)	1						1	宇都宮大学			1				1
三菱地所藤和コミュニティ						1	1	千葉大学						1	1
NIPPOコーポレーション						1	1	愛媛大学						1	1
五洋建設(株)		1	1	1	1		4	大分大学			1				1
JFEシビル(株)			1	1			2	鹿児島高専専攻科	9	8	4	4	8	9	42
(株)塩見ホールディングス				1			1	鹿児島大学			2	1			3
シティーアイグランドプランニング					1	1	2	九州工業大学		1					1
(株)大進	1						1	九州大学	1					1	2
電源開発(株)				1			1	熊本大学	2	1	1	3	1		8
東海旅客鉄道(株)		1	2	2	2	2	9	佐賀大学	1						1
東京ガス(株)			1			1	2	豊橋技術科学大学	1	1	2				4
東京電力(株)				1	1		2	長岡技術科学大学		2	1	1	1	1	6
東洋建設(株)		1	1			1	3	名古屋大学				1			1
南生建設(株)	1						1	宮崎大学				1	1		2
西日本高速道路エンジニアリング九州(株)					1	1	2	横浜国立大学					1		1
西日本旅客鉄道(株)	2	3	3	6	4	2	20								
(株)日建技術ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	1						1	専門学校進学	2						2
日本貨物鉄道(株)				2	2	1	5								
パシコン技術管理(株)					1	1	2	大学進学希望			1				1
阪南コーポレーション(株)					1		1	公務員希望	5		2				7
東日本旅客鉄道(株)			1				1	就職希望	1	1					2
日立造船(株)	1						1	その他						1	1
ｱｼﾞｵｰﾈ･ﾃｸﾉｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ(株)	1						1								
(株)ブリッジ・エンジニアリング				1			1								
前田道路(株)			2				2								
丸福建設(株)		1					1								
三菱重工業(株)神戸造船所				1		1	2								
三菱重工業(株)長崎造船所		1		1	1	1	4								
三菱重工業(株)広島製作所		1					1	合計	39	32	40	38	37	42	228

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－５

Ⅲ　修了後の進路

【就職先一覧】

機械・電子システム工学科

会社名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
三菱重工業						1
ミヤマ精工						1
ミヤマ工業						1
東京電力						1
東洋エンジニアリング						1
ソニーセミコンダクタ九州			2	1	1	
三菱電機プラントエンジニアリング					1	
川崎重工業					1	
アルバック九州					1	
アルバック					1	
ミツワ電子					1	
アルバック精機					1	
トヨタ車体研究所					1	
トヨタ車体		1		1		
牧野フライス				1		
森精機				1		
高砂熱学工業				1		
富士通				1		
いすゞエンジニアリング				1		
シチズンセイミツ鹿児島				1		
パナソニックエレクトロニクス			1			
日本精工			1			
本田技研工業	2	2	2			1
日立ビジネスソリューション(株)		1				
旭化成		1				
ANAテクノアビエーション		1				
日本モレックス		2				
ホシザキ南九州	1					
テクシア・インテグレーション	1					
ナブテスコ	1					
富士精工	1					
三菱電機ビルテクノサービス	1					

電気情報システム工学科

会社名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
パナソニックエレクトロニックデバイス				1	1	
ソニーイーエムシーエス 湖西テック			1		1	
エス・イー・シー・ハイテック	1				1	
NOK					1	
パナソニック半導体オプトデバイス					1	
オムロンフィールドエンジニアリング九州					1	
メタウォーター(株)					1	
京セラコミュニケーションシステム		1	1	1		
澤上ミクロ				1		
ダイセル化学工業				1		
日立製作所				1		
リコーソフトウェア				1		
トヨタ自動車九州				1		
日東電工				1		
富士通				1		
竹田設計工業				1		
鹿児島ファコムセンター	1		1			
アルバック九州			1			
富士通鹿児島インフォネット			1			
デンソーテクノ			1			
三菱電機ビルテクノセンター			1			
横河フィールドエンジニアリングサービス			1			
第一生命情報システム			1			
本田技研工業			1			
ソニーセミコンダクタ九州		1				
日本電気システム建設エンジニアリング	2					
九州富士電機	1					
日本自動ドア	1					
アイフォーコム	1					
日産テクノ	1					

土木工学科

会社名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
関野環境ソリューション株式会社						1
福岡土地区画整理株式会社						1
東海旅客鉄道株式会社						1
九州旅客鉄道株式会社					1	1
(株)NIPPOコーポレーション					1	
(株)KDDIコミュニケーションズ					1	
大阪ガス 株式会社				1		
株式会社 ヤマサキ				1		
株式会社 熊谷組				1		
コーアツ工業(株)				1		
三施設備工業 株式会社				2		1
(株)晃栄住宅			1			
(株)ジャパンパイル			1			
(株)南生建設			1			
(株)九電工			1			
大豊建設(株)			1			
石川島プラント建設株式会社		1				
奥村組土木工業株式会社		1				
日本ヒューム株式会社		1				
五洋建設	1					
SJC ALPHA CO.,LTD	1					
自営業	1					
(株)ニチア	1					
(株)鹿児島航測	1					
防衛庁		1				

【進学先一覧】

機械・電子システム工学科

学校名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
九州大学大学院				4	1	2
名古屋大学大学院					1	1
豊橋技科大学大学院						1
長岡技科大学大学院	1		1	1		
北陸先端科学技術大学院大学				1		
九州工業大学大学院	1	3	1			1
東京大学大学院			2			
早稲田大学大学院			3			
宮崎大学大学院	1					
福岡教員養成所						

電気情報システム工学科

学校名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
九州工業大学大学院	1		3		3	2
北陸先端科学技術大学大学院			1			1
鹿児島大学大学院			2			1
九州大学大学院					1	
奈良先端科学技術大学院大学		1				

土木工学科

学校名	H16	H17	H18	H19	H20	H21
東北大学大学院					1	
福岡大学大学院				1		
熊本大学大学院			1			
長岡技科大学大学院		1				

（出典：平成２２年度学生便覧）

資料６－１－③－６

準学士課程卒業後の就職先（産業別）

学科		機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			計
年度		H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	
建設業			1											13	11	14	39
製造業	食料品・飲料・たばこ飼料製造業	1	1	1			1			1							5
	繊維工業，衣服・その他の繊維製品製造業				1				2								3
	印刷・同関連業							1	1								2
	化学工業・石油・石炭製品製造業			5						1							6
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業			3	1												4
	一般機械器具製造業			3			2	4	3	4			1				17
	電気・情報通信機械器具製造業	1	2		1	2	4		4		4	4	1				23
	電子部品・デバイス製造業	7	4	1	2	1	2	7	2	4			1				31
	輸送機械器具製造業	6	12	8	2	5	2	6	6	3					1	2	53
	精密機械器具製造業																0
	その他の製造業		1	1													2
電気・ガス・熱供給・水道業			2	5	6	12	8	1	1	7		2	3	3	3	5	58
情報通信業			1	1			3		6	4	19	8	17				59
運輸業		3	2	1	3	3	1	3	1	1	3	2	2	10	9	6	50
金融・保険業	金融業				1												1
	保険業																0
卸売・小売業	卸売業																0
	小売業																0
飲食店，宿泊業																	0
医療・福祉	医療業，保健衛生																0
サービス業	その他のサービス業			1		1	1	1		2						1	7
公務	国家公務				1			1	1		1		2				6
	地方公務						1							1	1		3
計		18	26	30	18	24	25	24	27	27	27	16	27	27	25	28	369
クラス人数		35	41	43	35	36	39	41	44	44	36	35	38	38	37	42	584
就職率（%）		51.4	63.4	69.8	51.4	66.7	64.1	58.5	61.4	61.4	75	45.7	71.1	71.1	67.6	66.7	63.2

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－６続き

専攻科修了後の就職先（産業別）

専攻		機械電子システム			電気情報システム			土木工学			計
年度		H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	
建設業								3	3	3	9
製造業	一般機械器具製造業	2									2
	電気・情報通信機械器具製造業	1	4		3	5					13
	電子部品・デバイス製造業	2	1		1	1					5
	輸送機械器具製造業	2	3	3	2						10
	精密機械器具製造業			1							1
	その他の製造業				1						1
電気・ガス・熱供給・水道業		1		2				1			4
情報通信業					2	1					3
運輸業									1	2	3
サービス業	その他のサービス業										0
公務	国家公務										0
	地方公務										0
計		8	8	6	9	7	0	4	4	5	51
クラス人数		14	10	12	10	10	5	9	6	6	82
就職率（%）		57.1	80	50	90	70	0	44.4	66.7	83.3	62.2

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－６続き

準学士課程卒業後の就職先（職業別）

学科			機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			計
年度			H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	
専門的・技術的職業従事者	農林水産業・食品技術者			1	1			1			1							4
	機械・電気技術者	機械	15	20	27	17			20									99
		電気					20	20		17	21							78
		その他																0
	鉱工業技術者	化学																0
		その他																0
	建築・土木・測量			1											27	25	28	81
	情報処理技術者			1	1			3		5	4	25	14	26				79
その他の技術者										2								2
その他の保健医療従事者		その他																0
事務従事者						1	1	1										3
販売従事者																		0
サービス職業							1											1
保安職業									1	1		1						3
運輸・通信			3	2	1		2		3	1	1	1	2	1				17
生産工程・労務作業者				1						1								2
計			18	26	30	18	24	25	24	27	27	27	16	27	27	25	28	369
クラス人数			35	41	43	35	36	39	41	44	44	36	35	38	38	37	42	584
就職率（％）			51.4	63.4	69.8	51.4	66.7	64.1	58.5	61.4	61.4	75	45.7	71.1	71.1	67.6	66.7	63.2

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－６続き

専攻科修了後の就職先（職業別）

専攻			機械電子システム			電気情報システム			土木工学			計
年度			H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	
専門的・技術的職業従事者	機械・電気技術者	機械	8	8	4							20
		電気			2	7	5					14
	建築・土木・測量								4	3	4	11
	情報処理技術者					2	2					4
その他の技術者												0
運輸・通信										1	1	2
計			8	8	6	9	7	0	4	4	5	51
クラス人数			14	10	12	10	10	5	9	6	6	82
就職率（％）			57.1	80	50	90	70	0	44.4	66.7	83.3	62.2

（出典：学生課資料）

資料６－１－③－7

2007（平成19）～2009（平成21）年度　本科（準学士課程）卒業生および専攻科修了生の進学先

進学先	本科（準学士課程）卒業生																								専攻科修了生															
	機械工学科				電気電子工学科				電子制御工学科				情報工学科				土木工学科				本科合計				機械・電子専攻				電気情報専攻				土木専攻				専攻科合計			
	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計	H19	H20	H21	合計
機械・システム系	4	7	5	16				0	2	2		4				0				0	6	9	5	20	1			1				0				0	1	0	0	1
機械・電子系	7	7	7	21				0	6	6	11	23				0				0	13	13	18	44				0				0				0	0	0	0	0
電気電子系				0	5	4	4	13	1	2		3				0				0	6	6	4	16				0		1	2	3				0	0	1	2	3
電気情報系				0	7	6	8	21	2	2	1	5	3	10	5	18				0	12	18	14	44				0				0				0	0	0	0	0
情報系				0			1	1	4	1	2	7	3	5	5	13				0	7	6	8	21	1		2	3		2		2				0	1	2	2	5
土木系				0				0				0				0	6	8	9	23	6	8	9	23				0				0		1		1	0	1	0	1
その他の工学系	1	1		2	3			3	1	1	1	3				0	5	3	3	11	10	5	4	19	4	2	3	9			2	2	1			1	5	2	5	12
その他の分野	1			1				0		1		1		1		1			1	1	1	2	1	4				0				0				0	0	0	0	0
進学者数合計	13	15	12	40	15	10	13	38	16	15	15	46	6	16	10	32	11	11	13	35	61	67	63	191	6	2	5	13	0	3	4	7	1	1	0	2	7	6	9	22

（出典：学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程卒業生の97％が企業・官公庁に就職または大学・本校専攻科に進学し，専攻科課程修了生も同様の状況である。進路未決定者は公務員または進学希望である。卒業生・修了生は，本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。また，進学先は，本校で学んだ専門知識をさらに発展させることができる大学・大学院等である。

このことから，本校の教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，卒業後の進路状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっていると判断される。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

（ａ）準学士課程

平成19～21年度において，「学習･教育目標」達成度評価アンケートのような 学生自らが行う学習達成度評価 は実施されていない。しかしながら，年2回実施されている「学生による授業評価アンケート」における設問項目(8)：『この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。』の回答結果や，観点６－１－②で示した本科（準学士課程）の学習・教育目標の達成度評価結果（資料６－１－②－１および資料６－１－②－２～６）等からの間接的な状況把握は可能であると思われるので，以下ではその視点から状況を把握する。前者の学生主観でのアンケート結果によれば，平成21年度後学期時における学生評価（5点満点）は，座学系科目で平均3.67点，実験系科目で平均3.92点であり，75～80％程度の大多数の学生は何がしかの達成感を得ているものと判断される。一方，後者の学習・教育目標の達成度評価結果，すなわち客観的な数値データによる評価では，各サブ目標および各科目の達成度評価が概ね90％以上の高い水準にあることが示されている。これら両者の結果から，学校の意図する教育や効果が上がっているものと判断される。

（ｂ）専攻科課程

専攻科の場合も，「学習･教育目標」達成度評価アンケートのような学生からの意見聴取は実施していないが，準学士課程の場合と同様に，年2回実施されている「学生による授業評価アンケート」における設問項目(8)：『この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。』の回答結果や，観点６－１－②で示した本科（準学士課程）の学習・教育目標の達成度評価結果（資料６－１－②－12および資料６－１－②－13～15）からの間接的な状況把握は可能であると思われるので，以下ではその視点から状況を把握する。前者の学生主観でのアンケート結果によれば，平成21年度後学期時における学生評価（5点満点）は，座学系科目で平均3.39点，実験系科目で平均3.41点であり，75～80％程度の大多数の学生は何がしかの達成感を得ているものと判断される。一方，後者の学習・教育目標の達成度評価結果，すなわち客観的な数値データによる評価では，各サブ目標および各科目の達成度評価が概ね90％以上の高い水準にあることが示されている。これら両者の結果から，学校の意図する教育や効果が上がっているものと判断される。

（分析結果とその根拠理由）

学生の自己評価による学習目標達成度評価は実施されていないが，関連する設問項目を有する「授業評価アンケート」結果からは，学生自身の達成度評価は比較的高いという結果が得られている。この結果は，学習・教育目標の達成度評価結果からも裏付けられており，間接的ながら学校の意図する教育の成果や効果が上がっているものと判断される。

以上のことから，本科（準学士課程）及び専攻科課程においては学校の意図する教育の成果や効果が上がっているものと判断してよいと思われる。しかし，平成19～21年度においては，学生による直接的な自己評価に基づく達成度評価がなされていないため，今後はこの種の達成度評価を継続して実施していく取組が必要である。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成19年度に本校では，本科（準学士課程）卒業生および専攻科課程修了生に対して，在学時に修得した学力や資質・能力に関するアンケート調査を実施している（資料６－１－⑤－１）。

本科（準学士課程）卒業生からの回答からは，以下のような意見が寄せられている。「知識・能力の達成度の自己評価」の設問に対して回答者の大多数（80％程度）は，専門分野をはじめとしたほとんどの知識・能力に対して概ね『十分』と回答している。反面英語力に関しては，その70％程度が『（あまり）十分とは言えない』とも評価している。「学習・教育目標の達成度」の設問に対しても同様であり，外国語での意思疎通能力が低いとの回答が目立つ。本科で修得した「知識・能力の必要性」の設問に対しては，回答者のほぼ90％程度が『（とても）必要』と感じており，「本科教育に対する評価」は全般的に概ね高い評価である。また，「今後，あった方がよいと思う授業科目」の記述式設問では就職先の実状に根ざした数多くの有用な意見が寄せられている。

同アンケートでは進路先（企業）などの関係者に対しても調査が行われている（資料６－１－⑤－２）。企業側が「高専生を採用したい場合，その職種はどのようなものをお考えですか」との設問に対して，研究・開発部門や設計部門等の『会社の根幹を担う職種』とする回答が大多数であった。

また，「本校専攻科修了生が貴社に在職している場合，修了生の以下に示す能力を５段階で評価」ならびに「鹿児島高専専攻科修了生の仕事に対する評価（勤務成績）」という質問項目を設けている。その回答として，就業した専攻科修了生の知識・能力，ならびに，仕事に対する評価に関して，ほとんどの企業が満足していることがわかる。さらに，「鹿児島高専の教育水準，高専専攻科制度，学生へのアドバイス，教員に望むこと」に関しての記述式設問に対しては，専門分野の基礎知識・基本能力については概ね好評価であるものの，より高度な専門性，英語力を含めたコミュニケーション能力や問題解決能力等の養成を指摘する意見があった。

そこで，平成20年度から問題解決能力を養成するためのPBL科目である「環境創造工学プロジェクト」の科目の新設を行い，平成21年度から英語コミュニケーション力強化のための英語科教員によるアドバイザリー制度を設置した（資料５－５－③－４）。さらに，平成22年度の専攻科の推薦入試の英語の基準として，実用英語検定準2級以上，工業英語検定3級以上，またはTOEICスコアがあらかじめ決めた基準点以上であることを追加する予定である。

６－１－⑤資料一覧

（資料６－１－⑤－１）平成19年度技術者教育プログラムに関するアンケート結果報告書（本科卒業生に対するアンケート調査結果）出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料

（資料６－１－⑤－２）平成19年度技術者教育プログラムに関するアンケート結果報告書（企業に対するアンケート調査結果）出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料

資料６－１－⑤－１

2.2.2 アンケート調査結果（本科卒業生・専攻科修了生）

アンケート調査結果（本科卒業生・専攻科修了生）（サンプル数64）

1．個人情報について

(1) 本科での学科を選択肢から選び、番号を○でお囲み下さい。本校以外から本校専攻科に入学された方は6. を選択し、出身学科をご記入下さい。

1. 機械工学科　2. 電気工学科（電気・電子工学科）　3. 電子制御工学科
4. 情報工学科　5. 土木工学科　6. 他高専（　　学科）

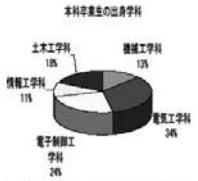
(2) 本校専攻科での専攻を選択肢から選び、番号を○でお囲み下さい。

1. 機械・電子システム工学専攻　2. 電気情報システム工学専攻　3. 土木工学専攻

(3) 現在の状況を選択肢から選び、番号を○でお囲み下さい。

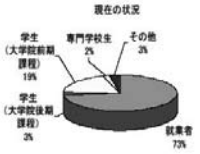
1. 就業者　2. 学生（大学院後期課程）　3. 学生（大学院前期課程）
4. 専門学校生　5. その他

(1)回答した本科卒業生の出身学科



(2) 回答した専攻科修了生の出身専攻

(3)回答した卒業生・修了生の現在の状況



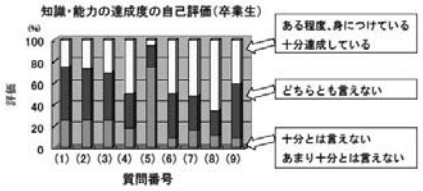
分析：本科卒業生は 62 名であり、その内 19 名が専攻科修了生である。そこで、本科生と専攻科生の意識の相違を調査するためにそれぞれについて結果を集計し、分析することにする。また、就業者の回答が約７割である。

13

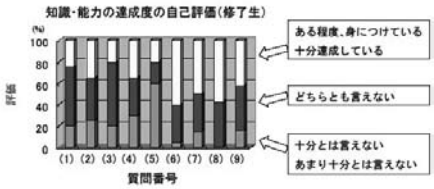
Ⅱ．以下に示す知識・能力について、現在の達成度を「1. 十分とは言えない　2. あまり十分とは言えない　3. どちらとも言えない　4. ある程度、身につけている　5. 十分達成している」の５段階で自己評価し、回答欄（左欄）の番号を○でお囲み下さい。

(1)人文社会　(2)環境に配慮したものづくり　(3)国語力　(4)プレゼンテーション能力　(5)英語力　(6)理系一般　(7)情報処理力　(8)専門知識　(9)技術者倫理

知識・能力の達成度の自己評価（本科卒業生）



知識・能力の達成度の自己評価（専攻科修了生）



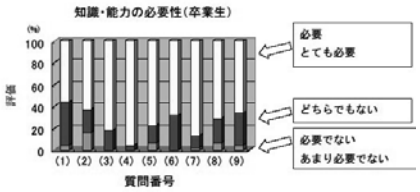
分析：本科卒業生と比較して、専攻科修了生の自己評価は、(2)環境に配慮したものづくり、および、満足度は低いものの(5)英語力の向上が目立つ。また、実社会に出てみて、現在の能力の到達度に対して厳しい自己評価をしていると思われる。

14

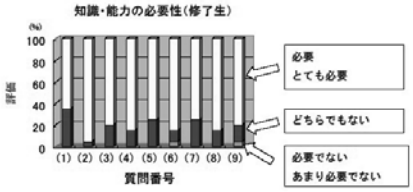
また、本校を卒業または修了して感じたそれぞれの知識・能力の必要性を「1. 必要でない　2. あまり必要でない　3. どちらでもない　4. 必要　5. とても必要」の５段階で評価し、回答欄（右欄）の番号を○でお囲み下さい。

(1)人文社会　(2)環境に配慮したものづくり　(3)国語力　(4)プレゼンテーション能力　(5)英語力　(6)理系一般　(7)情報処理力　(8)専門知識　(9)技術者倫理

知識・能力の必要性（本科卒業生）



知識・能力の必要性（専攻科修了生）



分析：本科卒業生よりも専攻科修了生は、特に、(2)環境に配慮したものづくりの能力が必要と感じている。

15

Ⅲ．学習・教育目標について

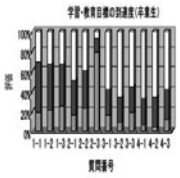
現在の教育プログラム「環境創造工学」では、「絶えず変化する社会の要請に応えられる開発型技術者の育成」を目的としています。これを達成するために学習・教育目標として、以下に示す４つの大目標、およびそれぞれの大目標において履修者が到達すべき具体的な３つのサブ目標を掲げています。

以下の学習・教育目標の各項目について、あなたの現在の到達度を「1. できなかった　2. あまりできなかった　3. どちらでもない　4. まあできたと思う　5. できたと思う」の５段階で自己評価し、解答欄の番号を○でお囲み下さい。

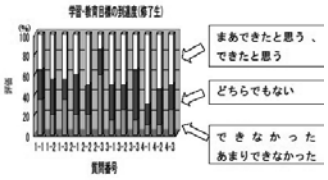
1．人類の未来と自然との共存をデザインする技術者となるために
（１－１）人類の歴史や文化を理解する。
（１－２）人間社会と自然環境とのかかわりを理解する。
（１－３）技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。
2．グローバルに活躍する技術者となるために
（２－１）日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。
（２－２）論理的な記述及びプレゼンテーション能力を身につける。
（２－３）外国語で意思疎通を行う能力を身につける。
3．創造力豊かな開発型技術者となるために
（３－１）数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。
（３－２）自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。
（３－３）専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。
4．相手の立場に立ってものを考える技術者となるために
（４－１）人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う。
（４－２）技術者が社会に対して負う責任を理解する。
（４－３）異文化を理解し尊重する。

Ⅲ．学習・教育目標の到達度

（本科卒業生）



（専攻科修了生）



16

（出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料）

資料６－１－⑤－１続き

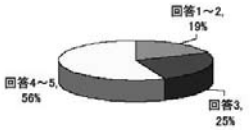
分析：本科卒業生と比較して、専攻科修了生における「目標（２－３）外国語で意思疎通を行う能力を身につける。」の回答「できなかった、あまりできなかった」の回答数が減少している。また、「目標（３－３）専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。」の回答「まあできたと思う 、できたと思う」の回答数が減少している。実社会に出てみて、現在の到達度はまだまだと厳しい自己評価をしているものと思われる.

Ⅳ. 鹿児島高専本科および専攻科の教育についてお尋ねします。専攻科に進学してJABEEプログラムを修了された方のみお答え下さい。その他の方は、質問4-2へお進み下さい。

4-1 本校は環境分野と専門分野（機械、電気（電気・電子）、電子制御、情報、土木）を融合・複合させた教育を行ってきましたが、自分の専門分野以外のことを学んだことが役に立ちましたか。選択肢から選び、番号を○でお囲み下さい。

1.役に立たなかった　2.あまり役に立たなかった　3.どちらでもない
4.ある程度、役に立った　5.役に立った

融合･複合教育について



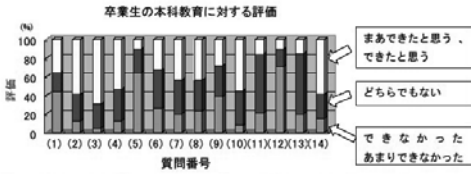
分析：約 56%の専攻科修了生が、融合・複合教育によって、自分の専門分野以外のことを学んだことが役に立ったと回答している。

17

4-2 本校における以下の項目について、あなたの感じる満足度を「1.不満である　2.やや不満である　3.どちらともいえない　4.やや満足である　5.満足である」の5段階で評価し、選択肢の番号を○でお囲み下さい。

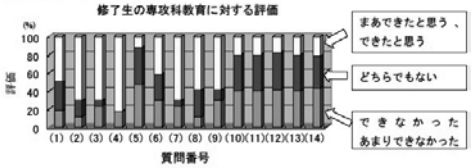
(1)教養科目教育　(2)専門科目教育　(3)実験・実習　(4)卒業研究または特別研究　(5)英語教育　(6)情報処理教育　(7)施設や設備　(8)教員の質や指導内容　(9)進路指導　(10)クラブ活動　(11)コンテスト参加　(12)資格取得　(13)学生会活動　(14)寮生活

本科卒業生の本科教育に対する評価



分析：本科卒業生は、本科教育の評価として、特に、(1)教養科目教育、(5)英語教育、(9)進路指導、(12)資格取得に不満のあることがわかる。

専攻科修了生の専攻科教育に対する評価



分析：専攻科修了生は専攻科の教育に対して、特に、(4)卒業研究または特別研究、(7)施設や設備、(8)教員の質や指導内容、(9)進路指導の評価が良くなっている。また、(5)英語教育に対する不満は減少している。

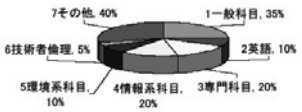
18

4-3 今後、あった方がよいと思う授業科目があれば、ご記入下さい。

以下の７項目に回答を分類した.
１ 一般科目, 2 英語, 3 専門科目, 4 情報系科目, 5 環境系科目, 6 技術者倫理, 7 その他

本科卒業生

あった方がよいと思う授業科目（卒業生）



分析：本科卒業生は、国語（文書作成力）、英語、ならびに、情報系科目の充実を望んでいることがわかる。

項目	授業科目(原文のまま記載)
一般科目	論理的な文章の書き方
	国語(手紙の書き方、敬語など) 、
	日本史、現代史を詳しく
	国語(古文や漢文ではなく、理科系の人間に必要な作文技術を養う授業)
	情報社会学
	文系科目に多少なりとも関心を持たせる教育
英語	英会話
	英会話ではない英語
専門科目	技術系の論文を読む機会がもう少しあれば良いと思います。
	現代制御
	3DCAD
	品質工学(タグチメソッド)
情報系科目	TCP/IP, ルータ設定
	PPT.EXCEL の応用
	映像(TV 方式)
	基礎パソコン講座

19

科目	環境系	環境工学、環境学習など
	技術者倫理	工学倫理
その他		インターンシップは必修にすべき
		対人スキル
		企業の現場(職場) を知る･ 体験する教育, 正直な話, 大学でも、実際に働く状況はぜんぜん見えてこない, なぜ日本の教育は「仕事をする」ということに重点をおいていないのか。
		自分の進路を考える上で役立つ授業
		特許関連の科目, 技術(工学 倫理
		簿記、会社法
		問題解決手法

科目別	比率(%)	回答数
1 一般科目	35	7
2 英語	10	2
3 専門科目	20	4
4 情報系科目	20	4
5 環境系科目	10	2
6 技術者倫理	5	1
7 その他	40	8

20

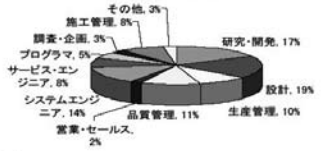
（出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料）

資料６－１－⑤－２

(5) また、採用したい場合、その職種はどのようなものをお考えですか。以下の選択肢の中から選び（複数選択可）、番号を○でお囲み下さい。

1.研究・開発　2.設計　3.生産管理　4.品質管理　5.営業・セールス　6.システム・エンジニア　7.サービス・エンジニア　8.プログラマ　9.調査・企画　10.施工管理　11.その他

採用したい職種



11.その他の記述

半導体設計エンジニア・・・1

フィールド・エンジニア・・・2

生産技術・・・1

分析：研究・開発や設計など、会社の根幹を担う職種が挙げられており、大学相当の期待が寄せられていることがわかる。

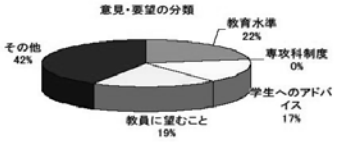
9

ご意見・ご要望記入欄

鹿児島高専の教育水準、高専専攻科制度、学生へのアドバイス、教員に望むことといった観点から、特に改善した方がよい点や要望などのご意見をお聞かせください。

以下の表に示すように、回答を①鹿児島高専の教育水準、②高専専攻科制度、③学生へのアドバイス、④教員に望むこと、⑤その他の５項目に分類した。

意見・要望の分類



分析：批判的な意見が無いので、本校は社会のニーズに対応した学生を輩出しているものと思われる。したがって、学習・教育目標は当面このままでよいものと思われる。英語力とコミュニケーション能力の涵養は今後も進めていく必要がある。

分類	意見（原文のまま記載）
鹿児島高専の教育水準	PBL 授業は具体的成果を実際得られるレベルまでやる必要があると思う
	個人で物を作り上げる職 業 種は少なく、我々の業界（ソフトウェア開発 設計）では、多人数で大規模システムを作り上げることが主となっている為、コミュニケーション能力が要求されます。この点を貴校の教育の中で取り上げていただければと存じます。
	社会人として一般的な規律を守る校風がよく 確立されており、東海地区の学生より優れている。 自分の考えをしっかり発信できる国語力がやや弱い。
	社会性の高い人材教育をお願いします。
	専攻科の学生に関しましては、高度な専門知識と幅広い視野をもった人材を集めております。 平成 20 年度採用から 専攻科の学生に関しても採用活動を実施しておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。
	当社はグループ 作業が基本であり、コミュニケーション能力が非常に重要な要素となります。そのため、コミュニケーション能力を伸ばすカリキュラムがあることが望ましいと考えます。

10

鹿児島高専の教育水準	当社はそれ程多く の卒業生の方が在籍されているわけではありませんが、過去の入社時試験（面接など）の評価に目を通すと、専門性について、まだまだ不足している旨の記載が目に止まりました。工業的な専門性は5 年ではなかなか企業が満足いくまでにはならないのかもしれませんが、より上を目指し ていただきたいと考えています。
	弊社には私本人以外現在のところ卒業生はおりませんが、グローバルの中、各国が教育に力をいれている現在、より高度技術が要求される 今日です。 技術の高度 化の中、分野も細部へと進行していき、すべてに知識を要求する事はとても無理なことですが、機転の効く 人材、応用の効く 人材であれば良いと思います。トータル的発想と、ねばり強さがポイント です。 学校では基礎をしっかり学び、又授業の中で色々な会社の方々や卒業生と一緒に話でも出来るプログラムがあれば、もっとリアルに考え、勉強をしてい く 方向が現実味を帯びてくるのではないか。
学生へのアドバイス	自分で考えるための取組が必要
	学生の皆様へのアドバイス　様々な困難や課題に直面した時、自ら積極的に行動し、独自の創意工夫をもってこれを解決することができる方法を蓄積し、ブラッシュアップしていくことは就職に限らず、今後到来する困難の克服に不可欠なコンピテンシーですので、そうした意識を持ちながら有意義な学生生活を送って下さい。
	同じ仲間と過ごす 5 年間＋専攻科2 年間、クラブ活動、アルバイト、奉仕活動など様々な経験をして、その先の長い人生の糧となる有意義な学生生活を送って、社会に羽ばたいてほしいと思います。
	年々内定の早期化が進伝されていますが学生諸氏にとって 7～10 年後に自己実現(仕事 企業を通じて「やりがい・生きがい」を見い出す)を目指す事が重要と思います。企業研究をしっかりし、自己分析に基づいた就職活動 ― 仕事探し ― が肝要かと考えます。SPI 等の適性検査もある程度必要ですが、コミュニケーションスキルが何よりエンジニアにとって要求されるものです。？？(←判読不能)お願い致します。
	勉強もそれ以外も一生懸命取組んだ上で発電プラント や船という大きなもの作りに興味を持ち（応募して）いただければと思います。よろしくお願いします。
	問題解決の研修は社内でも行なっているが、この教育はどても大事だと思います。このスキルがあって初めて工学知識を生かせることになるので、学生のうちに学んでおくと、より即戦力としての力を発揮できると思います。
教員に望むこと	知識が、実社会で具体的にどのように活かされるのか、又、物理現象と 数学との相関の理解などの教育機会を増やす方がよい
	基礎としての知識、能力は必要ですが、新卒採用ですので、意欲（知的好奇心、探究心）のある学生さんが増えるといいと思います。そのために、実社会との接点を多く 持てるとよいのではないでしょうか。代表的なものはインターンシップですが、外部講師を招く、外部セミ ナーを受講するといった学校の先生以外の人の話しを聞くのもよいと思います。
	今後も地域企業と前向きに交流を計っていただきたい。
	問題解決型の授業は、有益な取り組みをされています。指示待ちの人が、弊社の中でもおり、新入社員はその傾向にあります。QC 手法での教育も社内で取り組みますが、あるべき姿からの乖離をなくせる人がリーダーとして求められており、貴校の取り組みは大変良らしく、感謝申し上げます。 一つの要望として、言葉を大事にする必要があり、専門的知識のみならず、国語力も上位役職になれば求められますので、技術系であっても教育を継続し、細小されないようお願いしたい。
	問題解決型の授業はいろいろなケースでより沢山実施するのが、発言力や協調性、“場”の雰囲気を察する力が養えてより有益かと思います。
	老婆心ながら、先生方には、ぜひ就職対象企業を訪問していただき、その企業の理念や業界の特長を把握して、学生への指導助言に活かしていただきたいと思います。本来なら私ども企業側がアピールする事も欠かせませんが、先生方にもお願い申し上げたいところです。よろしくお願い申し上げます。

11

教員に望むこと	弊社 ○○○○○だけで 20 名弱を鹿児島高専から採用させて頂いております。貴高の卒業生の中には、きわめて優秀な方もおり、今後も継続した採用となるよう引き続きのお付き合いをよろしくお願い申し上げます。専攻科につきましては、当社での採用が大卒と同様の給与形態であることから、どうしても大卒と比較せざるを得なくなります。その際に専門性、基礎能力、性格を判断基準としますが、全般的に学卒と比較した際に高専専攻科の学生においては、人とのコミュニケーション能力が低いようにかんじております。リクルート活動での面談、面接時に不利とならない程度のコミュニケーション能力を身につけるよう学生へご指導頂けると幸いです。
その他	いつも大変お世わになっております。　貴校出身の社員は、社内での実技テスト でも度々入賞されています。　厳しい市場環境の中、なかなか新たな採用という結果に至れない状況ですが、大切に育成して次なるリーダーとなるよう社としてフォローしてまいります。　今後ともどうぞよろしくおねがい致します。
	お世話になっております。 当社工場では、高専生、高校生の採用は行っておりますが、学卒以上はほとんど本社採用となっております。 そういった事情により、本アンケート を記入する事を控えさせていただきました。ご了承下さい。今後とも、宜しくお願い致します。
	御礼として　今年電子制御工学科の学生さんを採用させて頂きました。ありがとうございました。今後共宜しくお願い申し上げます。
	回答が遅くなり申し訳ございません
	機械、電気系専攻の学生に就職先として素材メーカーも有ることを紹介していただきたい。職務内容としては、自社プラント、設備の機械、電気設計業務があり、メーカーのエンジニアとして、仕様段階から設置まで業務に携わることが魅力となる。また、依頼があれば学内説明会に参加しても良いと思っています。
	貴校からは 25 年ぶりに本科卒が1 名今年に入社しています。今後は継続をお願いしたいと考えております。　望ましい人物像としては、1．明るく 活発で、自ら進んで行動する人（自律性）　2．コミュニケーションがとれる人　3．チャレンジ精神が旺盛で、自分を伸ばしたい人　以上の3 つですが、できれば英語でコミュニケーションがとれる人が望ましいと考えます。（ 新入社員は、入社後3 年間はTOEIC 受験は必須
	技術を身に付けるという事は、とても素晴らしく、大切な事だと思います。 しかし、それ以前に、社会での協調性等、人間としての基礎教育に精神致します。
	現在、当社には鹿児島高専の卒業生が一名在籍しております(平成 19 年 4 月採用）今夏は非常に気温も高く 体調管理が出来るか心配しておりましたが、盆休暇明けの現在も元気に頑張っております。 まだ一年目ですがこれから 当社を担う社員として育ってくれることを願っております。
	高専(特に地方)の生徒さんは、素直でヤル気にあふれ、勉強もしっかりされていらっしゃると思っております。 弊社では平成 15 年および今年に採用実績がございますが(過去 5 年）今後とも引続き良い生徒さんをご推薦くださいますようお願い申し上げます。
	ご質問の趣旨に沿わない意見で申し訳ないですが、18 年、19 年と鹿児島工専殿求職が有りませんでしたので、次年度(20 年度)は、アンケート（5)に記載した通り「求人」を求めていますので、宜しくお願い致します。
	今年１名ご入社いただきましたので、今後要望点が見えてくるかと思います。
	専攻科の学生は当社ではプロフェッショナル職の大卒での採用となり、自由応募となります。
	総合的にみて、大学よりはすぐれている点が多い。特に教員の社会性には好感を持っている。
	毎年貴校から学生さんを推薦していただき感謝しております。2009 年度も引き続き推薦宜しくお願い申し上げます。
	優秀な人材を○○○○○に送って頂き、感謝しております。今後ともよろしくお願いします。

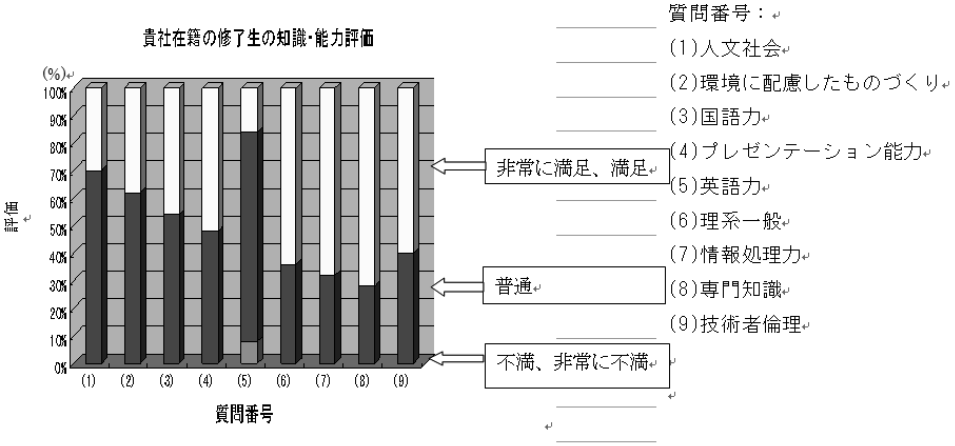
12

（出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料）

資料６－１－⑤－２の続き

また、本校専攻科修了生が貴社に在職している場合、修了生の以下に示す能力を５段階「1.非常に不満□2.不満□3.普通□4.満足□5.非常に満足」で評価し、回答欄（右欄）の番号を○でお囲み下さい。

(10)･貴社在籍の修了生の知識・能力評価

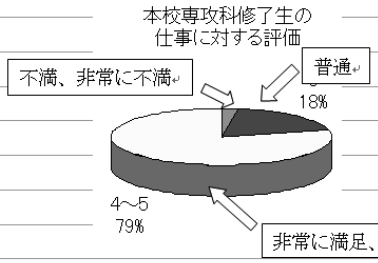


分析：就業した専攻科修了生の知識・能力に関して，ほとんどの企業が不満をもっていない。

鹿児島高専専攻科修了生の採用実績がなければ、質問Ⅳ.へお進み下さい。

Ⅲ．鹿児島高専専攻科修了生の仕事に対する評価（勤務成績）を選択肢から１つ選び、番号を○でお囲み下さい。

1.非常に不満□2.不満□3.普通□4.満足□5.非常に満足



分析：本校専攻科修了生の仕事ぶりに対して97%の企業が不満をもっていない。

（出典：旧教育プログラム改善委員会（現・専攻科委員会）資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，本校学生が在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するために，本科（準学士課程）卒業生や専攻科修了生および進路先などの関係者に対してアンケート調査を実施している。その結果からは，専門的な基礎的資質・能力については概ね高いとの評価が得られ，ほとんどの企業が本科（準学士課程）卒業生や専攻科修了生の知識・能力および勤務成績に満足しており，本校の教育理念の一つである開発型技術者の育成の点においては，教育の効果が上がっていると判断される。しかしながら，より高度な専門知識・能力，語学力，コミュニケーション能力，問題解決能力等については不足しているとの指摘もあり，今後も教育方法の改善に取り組む必要がある。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 本科（準学士課程）の学習・教育目標に対応付けられた科目の単位取得状況から，学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力についての達成状況を把握・評価できる点
- 本科（準学士課程）の卒業生自身および企業側（進路先）の双方において，専門分野での基礎知識・能力に対して高い評価を受けている点
- 専攻科課程の学習・教育目標の達成を修了要件とした教育プログラムはJABEE認定を受けており，教育の水準が保証されている点

（改善を要する点）

- ストレート在籍率において，特に本科3年次から4年次の時点での進級率が低いことに対する改善が必要である点
- サブ目標未達成でも卒業できる現状では卒業生の知識・技術レベルの保証が困難であることに対する対策が必要である点
- 学生が行う学習達成度評価等の取組が継続的になされていない点
- 本科（準学士課程）の卒業生自身および企業側（進路先）の双方から，より高度な専門知識・能力，語学力，コミュニケーション能力，問題解決能力等の必要性を指摘されていることに対応する必要がある点

（３）基準６の自己評価の概要

・　本科（準学士課程）卒業時に身につけておくべき学力や資質・能力は,それぞれの学習・教育目標とサブ目標に割り振られた科目の単位取得状況から，その達成状況を把握・評価している。準学士課程では，過去3間の卒業生の各サブ目標に対応した科目の単位取得率が90％以上を達成しており，全クラスの科目評価平均点は70点を超えている。従って，本科（準学士課程）における教育の成果や効果は上がっていると判断できる。ただし，本科3年次から4年次への進級率がやや低いこと，サブ目標未達成者でも卒業可能であることに対しては，今後改善を図る必要がある。

・　本科（準学士課程）卒業生は，本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。また，進学先は，本校で学んだ専門知識をさらに発展させることができる大学・専攻科等である。卒業後の進路状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているものと考えられる。

・　本科（準学士課程）学生の自己評価による学習・教育目標達成度評価は継続して実施されていない。しかしながら，「授業評価アンケート」等における関連する設問項目に対する回答からは学生自

身の達成度評価は概ね高いという結果が得られており，このことは学習・教育目標に対応付けられた単位取得状況の高さからも裏付けられている。従って，本科（準学士課程）課程においては，本校の意図する教育の効果は上がっているものと判断される。

本科（準学士課程）学生が在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するための取組として，卒業生や進路先などの関係者に対してアンケート調査を実施している。その結果によると，専門的な基礎知識資質・基本能力については評価が高く，教育の効果は上がっていると言える。その反面，より高度な専門知識・能力，語学力，コミュニケーション能力および問題解決能力等については，卒業生自身および企業側（進路先）の双方から不足しているとの指摘がある。このような指摘に対応するための教育方法の改善に取り組む必要がある。

専攻科課程では，平成19年度以降の修了生は，４つの学習・教育目標を全て達成している。特別研究では，修了生全員が関係学会で発表しており研究水準が確保されている。これらのことから，教育の成果や効果は上がっていると判断できる。修了生は，本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。また，進学先は，本校で学んだ専門知識をさらに発展させることができる大学・大学院等である。このことから，卒業後の進路状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

学生の自己評価による学習目標達成度評価を実施した結果，専攻科課程の学生の達成度評価は，本校が意図したレベルに近いものである。専攻科課程では，本校の意図する教育の効果は上がっていると判断される。

本校学生が在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するために，修了生や進路先などの関係者に対してアンケート調査を実施している。その結果によると，専門的な資質・能力については概ね高いとの評価が得られ，ほとんどの企業が本校専攻科修了生の知識・能力および勤務成績に満足しており，本校の教育理念の一つである開発型技術者の育成の点においては，教育の効果が上がっていると判断される。一方，語学力を含むコミュニケーション能力については，不足しているとの意見も見られた。そこで,平成21年度から英語コミュニケーション力強化のための英語科教員によるアドバイザリー制度を設置した。さらに,平成22年度の専攻科の推薦入試の英語の基準として,実用英語検定準2級以上,工業英語検定3級以上,またはTOEICスコアがあらかじめ決めた基準点以上であることを追加する予定である。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

（ａ）学習を進める上でのガイダンスの実施

全学科の１年生を対象に1年生オリエンテーションや1年生集団研修を実施し,学習を進める上でのガイダンスを行っている。また専攻科１年生にも入学当初にオリエンテーションを行っており，学習についてのガイダンスを実施している。また，各学科で教員によるチューター制度を取り入れ，１年生に対して学習指導を中心とした支援を行っている。

各授業科目については，学期始めに教員が担当科目のシラバスを配布し，事前に当該科目の学習に関するガイダンスを行なっている。さらに，全学級に担任制を導入し低学年（１～３年生）については，特別活動を利用して，各学級担任が専門学科教員と連携をとりながら，当該学年以降の進級規定や学習の進め方についてのガイダンスを行っている。

（ｂ）学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制の整備

全般的な学習については，学級担任または特別研究指導教員が，必要に応じて個別面談，助言・指導を行っている。また，個々の教員がオフィス・アワーズを設けており，学習上の相談等をはじめ種々の相談を受け付け，指導・助言が行われる体制が整備され，機能している。なお，平成13年度には，「学生何でも相談室」が開設され，平成19～21年度に資料に示す学習に関する相談事例もある（資料７－１－①－１）。

観点７－１－①資料一覧

（資料７－１－①－１）学生何でも相談室　主な相談内容　　出典：学生何でも相談室資料

資料７－１－①－１

平成19年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	2	3	1	2		2	2	2	2	3	4		23
時間	50	82	20	260		140	80	90	90	80	130		1022
学生生活	1	1								2	1		5
学業						1		1	2		1		5
対人関係		1		2				1					4
健康	1	1	1			1	2				2		8
進路										1			1
その他													

平成20年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	26	29	10	15	5	3	9	9	3	14	19	2	144
時間	900	1415	435	845	600	250	300	340	50	890	1135	60	7220
学生生活	6	8		3			4	4		2	2		29
学業	1	2	2	2				1	1	2	14		25
対人関係	2	4	2	1				1		6	3		19
健康			1										1
進路	15	11	5	5	5	2	1					2	46
その他	2	4		4		1	4	3	2	4			24

平成21年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	29	18	20	32	3	6	8	9	12	14	21	10	182
時間	940	830	720	1335	140	270	360	420	510	380	550	250	6705
学生生活	10	2	5	12			5	2	1	3	1		41
学業	2	2	4	2	1		1	5	5	5	12	4	43
対人関係			1	4		1	1		2	2	1		12
健康	1	1											2
進路	12	3	6	5	2	4	1	2			5	6	46
その他	4	10	4	9		1			4	4	2		38

（出典：学生何でも相談室資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程の双方において，入学時のガイダンス，シラバスを用いた授業のガイダンスなどを行う体制が整備され，適切に実施されている。また，学生の自主的学習を進める上では，担任，特別研究指導教員による相談・助言体制が整備され，機能している。さらに，オフィス・アワーズや学生相談室も，学生の相談を受け付け適切な助言を行う体制として機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）自学自習スペース

本校における自主的学習スペースとして学生が利用できる施設には次のものがある。

①図書館

本校の図書館利用案内は平日8:30から20:00, 土曜日は9:00から17:00である（資料７－１－②－１）。授業終了後，また土曜日でも，自主的学習スペースとして利用できるように開放している。館内における机等の配置は学生の自主学習に配慮されており，パソコンなどの設備も整えられている。図書館の利用者は，一日当たり300人程度である。

②情報教育システムセンター

情報教育システムセンターのパソコン室(パソコン50台設置)には資料７－１－②－２に示すとおりの設備が整えられている。利用時間・設備とも学生の自主的学習に対応できるよう整備されている。また，情報棟パソコン室（パソコン46台設置）も平日8:30～17:00の時間帯でそれぞれ利用可能となっている。情報教育システムセンターのパソコン室の利用者数は，一日あたり約30人程度である

③教室

本校では，学科学年ごとにホームルームとして教室が割当てられている。これらの教室は，休み時間，放課後は自由に開放されている。

④専攻科共用教室・ゼミナール室

専攻科課程の学生は，専攻科棟の共用教室及びゼミナール室が，自主的学習スペースとして開放され，必要に応じて利用されている。

（ｂ）厚生施設・コミュニケーションスペース

学生のための福利厚生施設として厚生会館があり，食堂及びホールなどのコミュニケーションスペースがある。この他，専攻科棟２階の専攻科生連絡・交流スペースなどが，休み時間や昼食時間に利用されている。

観点７－１－②資料一覧

（資料７－１－②－１）図書館利用案内　　出典：図書館パンフレット

（資料７－１－②－２）情報教育システムセンターの設備　出典：ウェブページ

資料７－１－②－１

図書館概要

～Information～

開館時間

・月―金　8：30　～　20：00
　（休業期間中は8：30 ～ 17：00）
・土　　9：00　～　17：00
　（試験期間中の日曜開館あり）

休館日

・日曜日（休業期間中は土、日）
・国民の祝日、年末年始
・臨時休館等は掲示板にて連絡

貸出冊数・期間及び返却など

【貸出】

・貸出の際は、学生証が必要です。

資料	身分	貸出冊数	貸出期間
図書	本校学生	5冊まで	2週間
	本校学生（卒研用）	5冊まで	90日間
	本校教職員	10冊まで	30日間
	一般利用者	5冊まで	2週間
雑誌	本校学生 教職員	2冊まで	1週間 ※新着雑誌の貸出は不可。

【返却】

・開館時内は図書カウンターの返却箱へ、閉館時は図書館玄関横の返却ポストへ投函して下さい。
・返却期限を過ぎた場合、１日延滞する毎に２日間貸出禁止となります。

入退館について

図書館内の資料を持ち出そうとすると、出入口で警報が鳴ります。その場合、携帯品の確認を行いますので、ご協力お願い致します。

（出典：図書館パンフレット）

資料７－１－②－２

情報システムセンターの設備について

情報システムセンターの役割は（1)各学科で行っている情報リテラシー教育、プログラミング教育などに利用されるパソコン室の維持・管理・運営を行う。（2)学内又は学外との情報交換を行うネットワークシステムの維持・管理・運営を行う。
このように情報教育システムセンターは、学生や教職員の教育・研究がスムーズに運ぶように裏で支援しており、その任務はますます重要になってきている。

■情報処理演習室

● Windows XP PC（55 台）　機種名
lenovo ThinkCentre A61 Small Desktop
内蔵メモリ
1Gbyte
ディスプレイ
17 型液晶ディスプレイ
OS
Windows XP Professional
ソフト
MS Office 2007、MS Visual Syudio 2005、Java 2 SE S.D.K.
Borland C++ compiler、FTN77 Personal Edition、Tera Term Pro
Poderosa、FileZilla、Tera Pad、QuartusII Web Edition
ModelSim Altera Web Edition、Jw_cad、Adobe Reader
Symantec AntiVirus Corporate Edition

情報システムセンター

■準備室

●カラー大判プリンタ
機種名
EPSON PX-9550S
用紙サイズ
B0 まで

●コピーシステム
機種名
EPSON ES-7000H + CS-9000H + LP-9800C
用紙サイズ
A3 まで

●カラーレーザープリンタ
機種名
EPSON LP-8000C
用紙サイズ
A3 まで

●スキャナ
機種名
EPSON ES-8000
原稿サイズ
A3 プラス
有効画素数
800dpi

（出典：ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自主的学習スペースとして，図書館・情報教育システムセンター，教室・ゼミ室等が整備されている。これらのうち，図書館については，1日約300人を超える入館者がある。また，情報教育システムセンター，教室等が効果的に利用されている。さらに，厚生会館も整備され，休み時間等に学生が自学自習スペースとして利用している。このことから，本校では，自主的学習環境及び厚生施設などが整備され，効果的に利用されていると判断される。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

FD委員会による「学生による授業評価アンケート」を年２回実施しており，アンケートの中の自由記述欄を利用して学生は様々な要望等を伝えることが出来る。これにより授業の補講実施の要望が出され，試験期間前の補講が実施されている。その他，各授業科目に関連する資格試験等について，担当教員が学生の要望を受け，受験にあたっての学習支援等も必要に応じて行っている。（資料７－１－③－１）また学寮では平成１３年度より試行され,平成１５年度より本格的に実施されている学寮チュートリアルでは専攻科生,本科５年生をチューターとして低学年の学習指導がなされている。学生のニーズに直接的に答えることができるシステムとして利用されている。（資料７－１－③－２）

観点７－１－③資料一覧

（資料７－１－③－１）資格試験　学習支援の内容　　出典：学生課資料

（資料７－１－③－２）学寮チュートリアル　　出典：平成２１年度第６回寮務委員会議事要旨

資料７－１－③－１

資格試験	学習支援の内容	
	受験案内、ガイダンス	補講に関して
電気主任技術者国家試験	主に授業時や特化時に行うほか、個別の質問にも応対しています。	主に個別指導の形で補講するほか、人数がまとまれば講義スタイルでも行います。本年度は、申込書を科でまとめて取り寄せ、科として補講・勉強会を計画しています。
土木施工技術者試験	授業中に行っています。	毎年行っています。放課後の10時間程度行っています。 平成16年度16人受験で全員合格。 平成17年度18人受験で11人合格。
ドイツ語検定3級 ドイツ語検定4級	ドイツ語の授業(4, 5年)で、春と秋の各時期に行っています。	補講は受験前の2ヶ月くらい、毎週1～2回2コマくらい、直前はさらに増やして行っています。週2回になるのは受講者の時間が合わないために分けて行うためです。 H16年度は14名受験して12名合格。 H17年度は12名受験して12名合格。
実用英語技能検定 工業英語能力検定	中央掲示板に受験案内・願書を配置します。構内アナウンスで知らせることもあります。	・前もって希望者には資料などを配布しております。 ・試験2週間程度前から開講しております。
情報処理技術者試験	毎年1月上旬の9回「情報処理技術者試験センター」から願書を200冊、私費で取り寄せています。到着後、情報工学科の全学生に授業中に配布し説明をしています。ちなみに、私が授業を担当していない学生は、協力者の先生に配布を依頼しています。他学科の希望者は、申し出があったときに配布しています。ポスターは、私ではなくて学生課あるいは学科長へ送付されてくるので、掲示はお任せしています。	補講を希望する学生が毎年1～数名程度いるので実施しています。最近3年間では2回実施しました。
ディジタル検定	検定協会から送られてきている受験案内のポスターを学内に掲示している。	これまで、受験前に3級試験のみについて2回ほど補講を行ってきたが、年々受講者数は減り、昨年は、1回目3名、2回目0名であった。今年は補講の予定はない。質問者に対して、個別に対応する予定である。
ボイラー技師免許	2級ボイラ技師の資格試験を受験するには、ボイラ実技講習を受けておくことが必要です。そこで添付ファイルに示すように実技講習会の案内(平成17年度)を学制に配布し、私のほうで受講申請を取りまとめて、実技講習のサポートを行っています。また、資格試験の申請書についても、私のほうで取りまとめ、ボ	資格試験の補講については、とくに時間を決めてやってはいませんが、学生にテキストの紹介などのアドバイスはしております。
TOEIC	受験案内を掲示板や教員室の近くに掲示したり、受験申込書を図書館2階に常備したりしています。 3/4年生：授業の中で一部TOEIC用の教材を使用しています。将来受験する旨を4月の開講時や普段の授業中に触れ、指導しています。 5/専攻科生：4月のオリエンテーションで学内のTOEIC IPのスケジュールについて説明するとともに、県で行われるTOEICの日程や受験方法などについても説明します。	3－5年生ではTOEIC対策の教材を使用し、授業の中で指導を行っています。 専攻科生についてはTOEIC400点以下の学制に対し特別補講を実施しました。　専攻科1年生では「総合英語」にTOEIC対策の教材を盛り込み、指導を行っております。　その他、質問は随時受け付けており、各指導教員が個別に学生の指導に当たっていると聞いております。
第1級陸上無線技術士 第2級陸上無線技術士	特になし	特になし
乙種第4類危険物取扱者試験	毎年、乙種第4類危険物取扱者試験は第1回目は6月上旬、第2回目は11月中旬の2回行われる。毎年度当初に、各クラス担任を通じて第1回目の試験案内を行う旨を全学生に連絡し、受験希望学制全員を対象として、資格試験の内容、取り組み方および申込書の配布を行っている。なお、第2回目の受験案内は第1回目同様、各クラス担任を通じて試験日程等を連絡するとともに、申込書の配布を行っている。	3年ぐらいまでは、放課後に授業を行っていたが、クラブなどに出席できないなどの理由で受講者が少ないことから行っていなかったが、平成17年度に電子メールによる補講を試みている。

（出典：学生課資料）

資料７－１－③－２

平成２１年度　第６回寮務委員会議事要旨

日　時：２００９年６月 23 日（火）15：10～

場　所：寮会議室

【審議事項】

３．（１）平成 13 年度鹿児島工業高等専門学校と有識者との懇談会により、「折角の全寮制である．全寮制を生かした学業面での指導はできないか」との提言があり、その提言を受けて全寮制を生かした学寮チュートリアルを実施した。

（資料７－１－③－２）学寮チュートリアル　　出典：平成２１年度第６回寮務委員会議事要旨

（分析結果とその根拠理由）

本校では，学生の学習支援に関するニーズを，年２回実施される授業評価アンケートにおいて把握している。これまでに出された学生のニーズとして補講の要望があり，これに対応して補講を行っている。また，各授業担当教員は，関連する資格試験等について学生のニーズを直接把握し，個別に対応している。また学寮チュートリアルでは専攻科生,本科５年生がチューターを務め指導に当たるため直接的に学生のニーズに応えることができるシステムとして利用されている。このことから，本校では，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。

観点７－１－④：　資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

資格試験及び検定試験の奨励，支援の一環として，準学士課程においては，特別学修の単位認定がある。各授業科目に関連する資格試験等について担当教員が授業において，学生の要望を受け，受験にあたっての学習支援等も必要に応じて行っている。また，英語特別学修単位取得の支援の一環として，学内で，TOEIC BRIDGE（１～３年次），TOEIC IPテスト（４・５年次）を，後援会から財政支援を受け，全員無料で受験させている。なお，ボイラー資格の取得には，学外での講習が必要とされているため，公欠扱いとするなどの支援もしている。また，平成17年度から第二・三種電気主任技術者試験の受験支援や，一・二級土木施工管理技士，技術士一次試験等の支援も行っている。さらに,専攻科課程においても，後援会の財政支援の下，TOEIC IPテストを年１回無料で受験することができる。

外国留学に関しては，留学先で修得した単位を本校の規則に従って認定している。また，平成２１年度末において,海外の３つの大学と国際交流協定を結んでおり，ホームステイ・インターンシップ等，学生の海外研修を支援している。さらに,高専機構が，平成２１年度にシンガポールの３ポリテクニックと結んだ包括協定により，平成２１年度よりテマセクポリテクニックと学生交換を行っている（資料７－１－④－１～４）。

観点７－１－④資料一覧

（資料７－１－④－１）釜山情報大学との交流協定（更新）　出典：釜山情報大学との国際交流協定書の更新

（資料７－１－④－２）カセサート大学との交流協定　出典：カセサート大学との国際学術交流協定書

（資料７－１－④－３）南京航空航点大学機電学院との交流協定

出典：南京航空航天大学機電学院との国際学術交流協定書

（資料７－１－④－４）高専機構とシンガポールの３ポリテクニックとの交流協定

出典：高専機構

資料７－１－④－１

鹿児島工業高等専門学校と釜山情報大学との交流に関する
協定の更新について

１９９９年１２月２３日付けで締結された、鹿児島工業高等専門学校と釜山情報大学との間における協定に関し、協定書第５条に基づき、同協定を２００４年１２月２４日から５年間継続することとして更新する。

２００４年 12 月 13 日　　２００４年 12 月 11 日

鹿児島工業高等専門学校長　　釜山情報大学長

前田　滋　　강기성

前　田　　滋　　KANG, KI SUNG

（出典：釜山情報大学との国際交流協定書の更新）

資料７－１－④－２

鹿児島工業高等専門学校とカセサート大学との国際学術交流協定

鹿児島工業高等専門学校とカセサート大学（以下「両校」という。）は，学術・教育の交流を推進するために，この協定を締結する。

第１条　両校は，下記の学術・教育交流活動を奨励し，実施することに同意する。
（１）教職員の交流
（２）学生の交流
（３）学術・教育に関する共同研究及び交流
（４）学術出版物等の交換

第２条　両校は，上記の事項の推進に当たっては，相互に相手校の規則並びに制度を尊重し，十分協議を行い，合意の上実施する。

第３条　上記の事項の推進に当たり，交流活動に伴う各自の必要経費は，それぞれの学校がその予算で負担するものとする。

第４条　両校は，この協定に基づく学術・教育の交流については，必要に応じて協議し，覚書を交わして実施する。

第５条　この協定は，両校の代表者が署名した日から効力を発する。協定の修正または廃棄は，必ず両校の協議により行われる。両校は，交流の進捗を評価し，その質を高めるために，５年おきに協定を検討するものとする。

第６条　この協定は日本語，タイ語及び英語で作成され，全ての文書は等しく正文である。

前田　滋

鹿児島工業高等専門学校長
工学博士　前　田　　滋
２００２年11月15日

カセサート大学長
Viroch Impithuksa, Ph.D.
２００２年　月　日

（出典：カセサート大学との国際学術交流協定書）

資料７－１－④－３

AGREEMENT FOR ACADEMIC AND EDUCATIONAL EXCHANGE PROGRAMS BETWEEN KAGOSHIMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY AND COLLEGE OF MECHANICAL & ELECTRICAL ENGINEERING, NANJING UNIVERSITY OF AERONAUTICS & ASTRONAUTICS

Kagoshima National College of Technology and College of Mechanical & Electrical Engineering, Nanjing University of Aeronautics & Astronautics have agreed to promote academic and educational exchange between the two institutions as follows.

1. The two institutions agree to encourage and operate the following academic and educational activities:
   (1) Exchange of faculty members and staffs;
   (2) Exchange of students;
   (3) Joint research activities and conferences for academic and educational purposes;
   (4) Exchange of academic publications.

2. Before these activities can be implemented, the two institutions shall discuss in detail the procedures and preparations, paying attention to each other's educational policy, rules and institutional system. Programs shall be implemented only after approval of both institutions.

3. In conducting the exchange program, all the necessary expenses required by each institution, shall be covered by each respective institution.

4. All the academic and educational exchange activities shall be preceded by the exchange of memoranda between the institutions. They shall also discuss the details whenever necessary.

5. This agreement shall become effective as of the dates of signature by representatives of both institutions. This agreement will not be amended or terminated without deliberation between the two institutions. Both institutions agree that this agreement shall be reviewed every five years in order to evaluate progress and improve the quality of the exchange.

In witness of the above, two sets of Agreement are issued in English and each side shall retain one copy.

Shigeru Maeda

Shigeru Maeda, Dr. Eng.
President
Kagoshima National College of Technology

Date: Nov. 12, 2003

Di Zhu, Dr. Eng., Prof.
Dean
College of Mechanical & Electrical Engineering
Nanjing University of Aeronautics & Astronautics

Date: Nov. 12, 2003

（出典：南京航空航天大学機電学院との国際学術交流協定書）

資料７－１－④－４

AGREEMENT ON ACADEMIC EXCHANGE BETWEEN INSTITUTE OF NATIONAL COLLEGES OF TECHNOLOGY, JAPAN AND THREE POLYTECHNICS IN SINGAPORE (REPUBLIC POLYTECHNIC (RP), SINGAPORE POLYTECHNIC (SP) and TEMASEK POLYTECHNIC (TP))

This agreement is made on 22 September 2009 between Institute of National Colleges of Technology (INCT), Japan and 3 Polytechnics in Singapore (Republic Polytechnic(RP), Singapore Polytechnic(SP) and Temasek Polytechnic (TP)) in order to promote academic exchange and cooperative relationship on education and research. The terms to be agreed by the two parties are the following:

1. The parties will implement the following activities on the basis of the principles of respecting each other's independence and for mutual benefit:
   1) Exchange of students
   2) Exchange of academic and administrative staff
   3) Exchange of academic materials, publications, information
   4) Cooperation for joint lectures, research and symposiums

2. For the implementation of the above-mentioned activities, the institutions will discuss the details which would be provided for by separate agreements developed individually amongst members at a later stage to articulate the specific intentions and collaborations between them.

3. This agreement will be in effect for the period of five years from the time of signing and be renewed for additional five years unless either party giving six months notice in writing requests its termination.

4. Any alteration to this Agreement must be made by the mutual consent of all parties.

5. This agreement is not intended to create any legally binding obligations nor contractual relationship between the parties (or partners).

IN WITNESS WHEREOF the parties have caused this agreement to be executed by their respective authorized representatives the date first mentioned above.

Signed by for and on behalf of
Institute of National Colleges of Technology, Japan
Dr Yujiro Hayashi
President
Institute of National Colleges of Technology
Japan

Signed by for and on behalf of
Republic Polytechnic
Mr Yeo Li Pheow
Principal / CEO
Republic Polytechnic

Signed by for and on behalf of
Singapore Polytechnic
Mr Tan Hang Cheong
Principal
Singapore Polytechnic

Signed by for and on behalf of
Temasek Polytechnic
Mr Boo Kheng Hua
Principal & CEO
Temasek Polytechnic

（出典：高専機構とシンガポール３ポリテクニックと包括協定）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，資格試験や検定試験の合格者には所定の単位を認定している。また，資格試験等によっては，受験希望者に対して，受験案内や手続き，受験勉強の支援等を行っている。特に，英語に関しては，TOEIC BRIDGE，TOEIC IPテストを後援会から財政支援を受けて，学内で実施している。外国留学に関しては，留学先で修得した単位を，本校の基準に則って単位を認定している。また，海外の大学との国際交流協定を結んでおり，学生の海外研修を支援している。

このことから，本校では，資格試験や検定試験受験などの支援体制が整備され，機能している。

観点７－１－⑤：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害のある学生等が考えられる。）への，学習支援体制が整備されているか，また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程４年次編入生に対しては，数学の学力を補うために，編入生を対象とした選択科目として「数学演習」を開講している。

留学生については，学習支援のために，学級担任を指導教員として，また留学生と同クラスの日本人学生をチューターとして割り当てている。そして日本語や日本語事情など語学・文化に関する教科や数学・物理の補講を実施し，更に専門科目についても必要に応じて補講を実施している。

（分析結果とその根拠理由）

編入生については，編入生を対象とした選択科目「数学演習」を開講している。

留学生については，日本語や日本文化に関する科目，数学，物理，専門科目の補講を行うとともに，留学生指導教員と日本人学生のチューターを割り当てて学習支援を行っている。このような点から，本校では特別な学習支援が必要な者に対して学習支援体制が整備され，機能していると判断される。

観点７－１－⑥：　学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生のクラブ活動を支援するために，（資料7-1-⑥-1）のように本校教職員をいずれかのクラブ・同好会の指導教職員として任命している。

加えて，本校が平成19年度から平成20年度にかけて文部科学省に採択された学生支援GP「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」の取組により，地域に潜在する有能な人材を外部指導者として登用する等，学生のクラブ・同好会活動を積極的に支援する体制が構築稼働し始めた結果，文化系クラブ・体育系クラブ共にさらに活性化した活動がなされている現状にある。さらに，同窓会や後援会の強力な支援の下，ロボット製作場として「夢工房ハヤト」が設置されている。

また，学生会活動を支援するために，平成19年度に後援会の支援を受けパソコンをはじめとする情報機器が更新完備した。また，学生会との月２回の定期的な「情報交換会」が学生主事・学生主事補と実施され，学生会活動を支援する体制を普段から整備している。

安全管理の面では,（株）鹿児島消防防災の協力のもと教職員による消防訓練が実施され（資料７－１－⑥－２）,通報訓練,避難誘導訓練,消火訓練が行われる。また普通救命講習が霧島市消防局の協力のもと実施されている（７－１－⑥－３）。健康管理の面では校内５カ所に自動体外式除細動器（AED）が設置されており（７－１－⑥－４）,訓練,講習と併せて計画的な健康管理が整備され,機能している。

観点７－１－⑥資料一覧

（資料７－１－⑥－１）平成21年度クラブ・同好会指導教職員担当名簿　　出典：学生課資料

（資料７－１－⑥－２）平成２１年度消防訓練実施要項　出典：総務課資料

（資料７－１－⑥－３）普通救命講習　テキスト抜粋　出典：応急手当講習テキスト　霧島消防局

（資料７－１－⑥－４）自動体外式除細動器（AED）設置場所　出典：危機管理マニュアル　総務課資料

資料７－１－⑥－１

平成２１年度クラブ・同好会指導教職員担当名簿

体育系クラブ

	クラブ	指導教職員	
1	硬式野球	池田　正利	藤崎　恒晏
		田中　智樹	
2	バスケットボール	鮫島　俊秀	前薗　雅宜
		中村　格	
3	女子バスケットボール	南金山　裕弘	渡辺　創
4	バレーボール	樫根　健史	田畑　隆英
		嶋根　紀仁	武田　和大
5	女子バレーボール	椎　保幸	塚崎　香織
		新田　敦司	
6	剣　道	松田　忠大	本部　光幸
		野澤　宏大	
7	空手道	中村　格	室屋　光宏
8	柔　道	須田　隆夫	堤　隆
		奥　高洋	
9	卓　球	入江　智和	玉利　陽三
		楠原　良人	
10	陸　上	山内　正仁	新徳　健
		逆瀬川　栄一	
11	少林寺流空手道	塚本　公秀	
12	弓　道	吉満　真一	河野　良弘
		白坂　繁	西留　清
13	サッカー	山崎　亨	あべ松　伸二
		北薗　裕一	木原　正人
14	水　泳	宮田　千加良	鎌田　清孝
		福添　孝明	
15	ワンダーフォーゲル	三角　利之	吉満　真一
16	ソフトテニス	加治屋　徹実	今村　成明
		豊平　隆之	安楽　四郎
17	テニス	岸田　一也	熊谷　博
		小田原　悟	
18	バドミントン	赤澤　正治	加治佐　清光
		中村　隆文	
19	合気道	村上　浩	帔掛　哲治
20	ハンドボール	内田　一平	内谷　保
		山田　真義	
21	極真空手	岩本　才次	大竹　孝明
22	自転車競技	保坂　直之	熊谷　博
		山田　真義	
23	少林拳	島名　賢児	山田　真義

体育系同好会

	同好会	指導教職員	
1	トレーニング	北薗　裕一	小田原　悟
2	体　操	堤　隆	
3	ゴルフ	山崎　亨	
4	フットサル	前野　祐二	
5	ダンス	坂元　真理子	

文化系クラブ

	クラブ	指導教職員	
1	写　真	引地　力男	嶋根　紀仁
2	吹奏楽	幸田　晃	松田　信彦
3	文　芸	保坂　直之	
4	英　語	嵯峨原　昭次	樫根　健史
		あべ松　伸二	松田　忠大
5	軽音楽	逆瀬川　栄一	今村　成明
6	美　術	池田　英幸	榎園　茂
7	エコラン	大竹　孝明	原田　治行
8	野生動物研究	赤澤　正治	中村　隆文
9	メカトロニクス研究	植村　眞一郎	渡辺　創
		福添　孝明	武田　和大
		上野　孝行	上沖　司
10	映画研究	あべ松　伸二	三原　めぐみ
11	ｏｒｉｇｉｎ	濱川　恭央	岡林　巧

文化系同好会

	同好会	指導教職員	
1	ピアノ	三原　めぐみ	塚本　公秀
2	情報処理研究会	村上　浩	疋田　誠
3	イラスト・ＣＧ	芝　浩二郎	榎園　茂
4	電子・情報・システム	堂込　一秀	豊平　隆之
5	航空技術研究	引地　力男	原田　治行
6	デジタルテクノロジー	（休部予定）	
7	環境創造物理研究会	篠原　学	野澤　宏大
8	演技	塚崎　香織	坂元　真理子
9	天文気象	野澤　宏大	篠原　学

☆指導教職員欄の最初に記載されている方に、主担当をお願いいたします。

※ラグビーフットボール（同好会）、韓国文化研究会（同好会）は休部中：デジタルテクノロジー（同好会）は休部予定

（出典：学生課資料）

鹿児島工業高等専門学校　校舎地区　消防訓練実施要項　　資料７－１－⑥－２

平成 **２１** 年度

１．目的

鹿児島工業高等専門学校の防火管理の徹底及び火災の拡大を防止するため，火災発生時における通報連絡，初期消火並びに避難誘導等一連の即応態勢の強化を図り，自衛消防組織における各班の任務を確認するとともに，日常生活における学生及び教職員の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

２．日時

平成 ２１ 年 １２ 月 １１ 日（ 金 ）　　１０：００ ～ １１：３０　（予定）

３．場所

消防本部　　：鹿児島工業高等専門学校 野球場一塁側ベンチ前　（別図参照）
訓練場所　　：鹿児島工業高等専門学校 構内（校舎地区）
避難場所　　：鹿児島工業高等専門学校 野球場一塁側ベンチ前　（別図参照）
消火訓練場所：鹿児島工業高等専門学校 野球場一塁側ベンチ前　（別図参照）

４．訓練内容

通報訓練・避難誘導訓練・消火訓練
（訓練時は，防災設備保守業者（ ㈱鹿児島消防防災 ）に協力を依頼する。）

５．参加者

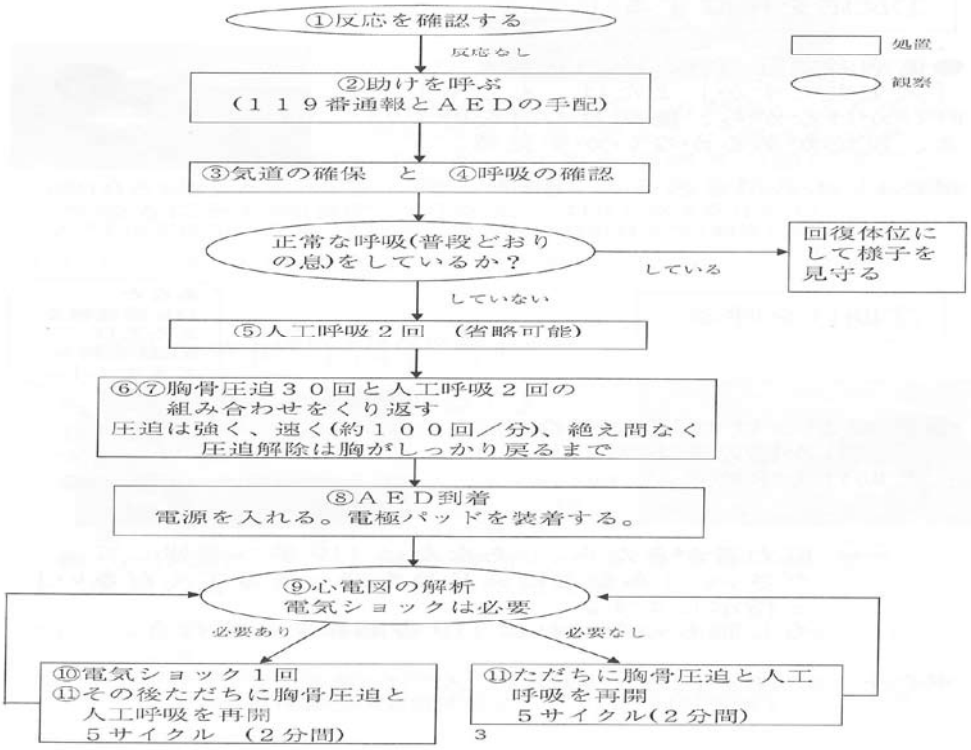
校長,教員７６名,職員６３名（計１４０名）

（出典：総務課資料）

資料７－１－⑥－３

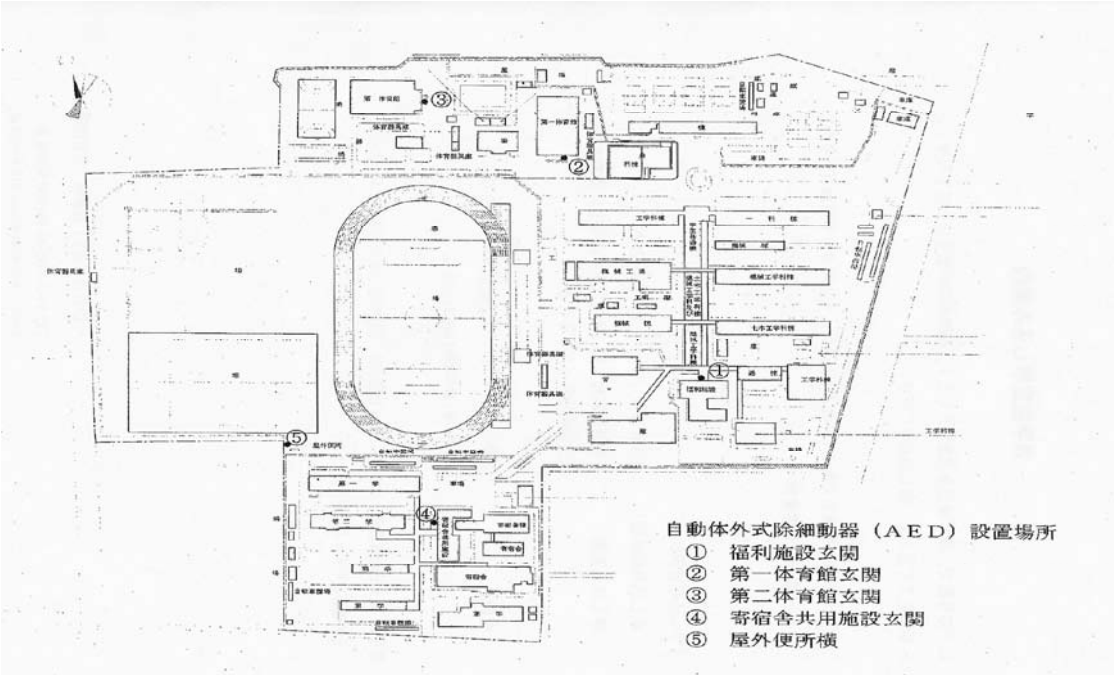
救命処置

１　救命処置の流れ(心肺蘇生法とＡＥＤの使用)



（出典：応急手当講習テキスト　抜粋　霧島市消防局）

資料７－１－⑥－４



（出典：危機管理マニュアル　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

平成19年度から平成20年度にかけて文部科学省に採択された「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」の取組により，地域に潜在する有能な人材を外部指導者として登用する等，学生のクラブ・同好会活動を積極的に支援する体制が構築稼働し始めた結果，文化系クラブ・体育系クラブ共にさらに活性化した活動がなされている現状にある。また，学生会との月２回の定期的な「情報交換会」が学生主事・学生主事補と実施され，学生会活動を支援する体制が普段から整備されている。また消防訓練，普通救命講習の定期的実施により，学生の健康管理が計画的に実施されている。これらのことから，本校では学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，有効に機能していると判断される。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校における学生の生活や指導・相談・助言を懇切に行う体制として，（資料７－２－①－１）に示す「学級担任と学年主任に関すること」の体制が整備され，学級担任の配置や学級担任の職務を明示実施されている。学生に対して学級担任を中心とした指導・相談・助言を実施，また学年主任の体制により，各学科の課題や情報を共有し，同年代の学生の共通課題に対し共通認識で指導・相談・助言を行う体制である。また，（資料７－２－①－２）に示す学校の諸規則である「学生心得」を遵守させるように学生委員会も学生の学校生活面における事項を丁寧に審議し，学級担任と密に連携しつつ指導にあたっている。特に，学生委員会は，奨学金や授業料免除等の減免に関する事項を審議事項として掲げており（資料７－２－①－３），経済面に関わる指導，支援が迅速かつ適切に実施される体制が整えら

れている。

一方,メンタル面での相談の窓口として「学生何でも相談室」を設置し,相談員や専門の外部のカウンセラーが学生が学生生活を送っていく上で生じるいろいろな疑問や悩み,不安,その他,様々な問題について相談を受け,それらについて共に考え,解決の糸口を探る手助けを行っている。さらに,保健室も,健康面を中心に相談,助言,保健指導を行っている。なお,セクシュアル・ハラスメントについては,その防止等に関する規則を定め（資料７－２－①－４）「鹿児島工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則」,適時その相談に対応する体制が整備されている。（資料７－２－①－５）。

観点７－２－①資料一覧

（資料７－２－①－１）学級担任と学年主任に関すること　出典：教務の手引き
（資料７－２－①－２－１～４）学生心得　出典：平成２１年度学生便覧７頁～１０頁
（資料７－２－①－３）学生委員会規則　審議事項　出典：規則集
（資料７－２－①－４）セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則　出典：規則集
（資料７－２－①－５）セクシュアル・ハラスメント等に対する組織及び機構図　出典：規則集

資料７－２－①－１

第８章　学級担任及び学年主任に関する事項

８－１．学級担任

１．学級担任の配置（教員規程第 13 条第 1 項）　各学科の学級に,それぞれ学級担任を置く。

２．学級担任となることができる者（教員規程第 13 条第 2 項）　教授,准教授,講師,助教

３．学級担任の職務（教員規程第 13 条第 3 項）学級担任は,それぞれ担当する学級の教務,厚生補導及び運営に関することをつかさどる。

４．学級担任の選任と任命（運用）　各専門学科,一般教育科文系及び一般教育科理系の推薦に基づき,校長が任命する。

５．学級担任の心得

（１）学生が,学業・課外活動等に専念できるようなクラス運営を行うこと。
（２）教務（学業,進路等）に関する問題については,必要に応じて,教務主事及び学科長と情報を共有し,連携して対応すること
（３）学生生活に関する諸問題については,必要に応じて,学生主事及び学科長と情報を共有し,連携して対応すること
（４）寮生活に関する諸問題については,必要に応じて,寮務主事と情報を共有し,連携して対応すること
（５）その他,対応に困難な場合には,学生何でも相談室を利用すること
（６）新年度に学級担任を交代する場合には,新学級担任との引継ぎを行うこと（特に,第２学年から第３学年）また,第５学年の学級担任は,次年度の学級担任のために,就職に関する資料を取りまとめ,新担任に引き継ぐこと。

（出典：平成 21 年度版教務の手引き　２５頁）

資料７－２－①－２－１

Ⅵ　学　生　心　得

〔平成17年２月18日一部改正〕
〔平成18年４月１日一部改正〕

学校の諸規則を守り，**自主・自立の精神**により**行動**し，有意義な学生生活を送ろう。

次に掲げる事項は，本校の学生として心得ていなければならない事項なので，熟読して実行されたい。なお，高学年（４年～５年）生は，**自主性**が重んぜられるとともに，学生生活において低学年の指導等の面において，**非常に重い責任**があることをわきまえて欲しい。

１．服装等について

（１）学生の学内（通学時を含む。）における服装は，次のとおりとする。

（ア）学生は鹿児島工業高等専門学校学生準則第15条に基づき，制服（P139，140参照）または制服以外の服のいずれでも，着用することができる。

（イ）学生は，学生としてふさわしい服装を心掛ける。

（ウ）特に学校が指示した場合は，それに従うものとする。

（２）学外の生活においても，学生としての自覚の下に品位をそこなわない服装を心掛ける。

（３）頭髪等について（第３学年以下）

（ア）学生らしい髪型にする。

（イ）パーマをしない。

（ウ）極端な長髪にしない。

（エ）髪を染めたり，脱色したりしない。

（オ）ピアス等のアクセサリーをしない。

（４）通学時は靴を着用し，かかとを踏みつぶさない。

２．飲酒・喫煙について

（１）未成年者の飲酒・喫煙は，法律で禁止されており，心身の発達段階にある学生の健康を損なう恐れがあるので，これを禁止する。

（２）20歳以上の学生は，学内での飲酒及び酒気帯びを禁止する。

（３）20歳以上の学生は，学内指定場所での喫煙を喫煙許可バッジ等と学生証携帯を条件に当分の間許可する。なお，学内指定場所以外での喫煙は自宅を出てから帰宅するまで禁止する。

（４）校内での飲食について

（ア）福利施設及び自分の教室以外では飲食をしない。

（イ）歩きながら飲食をしない。

（ウ）授業中にガム等を噛まない。

（エ）飲食後は，不燃物などを分別して片付けを行う。

３．車輌使用について

（１）免許取得と車輌使用について

免許取得及び車輌使用については，原則として法律の定めるところとする。但し，次に掲げる事項を遵守すること。

（出典：平成２１年度版学生便覧　７頁）

資料７－２－①－２－２

（ア）交通法規を遵守し，交通違反をしないよう努める。
（イ）整備不良車・違法改造車は使用しない。
（ウ）車輌の貸し借りは禁止する（自転車を除く。）。
（エ）排気量50cc以下の原動機付自転車（以下「原付」という。）及び自転車の二人乗りは禁止する。
（オ）通学における排気量50cc超の二輪車（以下「自動二輪」という。）の二人乗りは禁止する。
（カ）原付及び自動二輪の運転の際は，ヘルメットの顎ひもを必ず締める。
（キ）原付及び自動二輪の構内への乗り入れは駐輪場のみとする。
（ク）近隣の公道及び空地などへの無断駐車を行わない。
（ケ）構内では徐行運転する。
（コ）構内で運転練習をしない。
（サ）草履等を履いて車輌の運転は行わない。

（２）交通事故・違反について
（ア）交通事故発生の際は，速やかに救急・警察などの関係機関に連絡し，対応する。
（イ）交通事故及び違反をした者は，直ちに担任に連絡し，学生係備え付けの報告書に記入の上，担任の確認印を受けた後，学生係に提出する。

（３）通学における車輌使用について
（ア）自動車
○学生：５年生，専攻科生
○毎日の通学に必ず利用する者のみとする。バイク通学許可との二重申請は認めない。
○通学距離　５年生：住居から学校までの距離が直線で 15 km以上
専攻科生：住居から学校までの距離が直線で３km以上
但し，住居とは，実際に住んでいる家，アパート，下宿等を意味するものとする。
公共交通機関による通学が著しく不便な場合等，特殊事情のある者は個別に相談に応ずる。
○その他　：任意保険への加入（自賠責とは別です。又，対人賠償については無制限のもの，かつ，対物 500 万円以上のもの（保険金額は僅かしか違わない。））及び保護者の承認。

（イ）バイク
○３年生以上　排気量：250 cc未満
２年生　　排気量：50 cc未満
○ヘルメット：フルフェイス及びオープンフェイスタイプのみとする。
○通学距離：住居から学校までの距離が，直線で３km以上とする。
但し，住居とは実際に住んでいる家，アパート，下宿等を意味するものとする。
公共交通機関の利用が著しく困難な場合は，個別に相談に応ずる。
○その他：任意保険への加入（これについては自動車と同じ。）及び保護者の承認。
登録後，後日開催されるバイク実技講習会に必ず参加すること（不参加者は許可を取り消す。）。
※“かかと紐等”の付いていないサンダル履きや“かかと紐等”をきちんと締めない

（出典：平成２１年度版学生便覧　８頁）

資料７－２－①－２－３

状態での自動車の運転は条例違反です。

※　自動車，バイクの改造車輌は認めない（車検の有る車輌における“車検対応”の範囲内とする。）。

（ウ）自転車

○学年　　：全学年

○その他　：保護者の承認（防犯登録を行っておくことが望ましい。）

（４）寮生の車輌使用については「寮生活案内」に定めるとおりとする。

４．校外生活について

（１）人と人のふれあいを大切にし，豊かな交流の中で他者を理解し自己実現を図ろう。社会参加．ボランティア活動を通じて社会的連帯感や精神的な充実感を高めよう。

（２）学生は学外においても学生としての自覚をもって，軽率な行動をしないよう注意し，青少年の心身の発達に有害な影響を与えると思われる場所（例えばマージャン屋・パチンコ店等）へ立ち入らないこと。

（３）マージャンはしないこと。

（４）アルバイトについて

○低学年学生（１年生～３年生）

（ア）長期休暇中以外のアルバイトは原則として禁止する。

（イ）夏期休暇中などにアルバイトをするときは，必ず担任を通じて学生主事の許可を受ける。

（ウ）学生にふさわしい職種を選ぶ。

（エ）深夜（午後 10 時以降）に及ぶアルバイトはしない。

○高学年学生（４年生，５年生）

（ア）学生にふさわしい職種を選ぶ。

（イ）深夜（午後 10 時以降）に及ぶアルバイトはしない。

（５）寮外生は無断で寮舎内に立ち入ってはならない。

５．放課後，休日等の過ごし方について

（１）自習に励む。

（２）クラブ活動に積極的に参加する。

（３）ボランティア等の社会活動に積極的に参加する。

６．下宿，間借生の心得について

寮生活を離れ，一般社会の中でいわば社会人として生活する下宿・間借生は一人一人が高専生の代表とみられることを自覚し，自由な生活の中に，自らの計画を立てて充実した学生生活を過ごしてほしいので，次の事項を守ること。

（１）生活を正そう

（ア）朝夕のあいさつを励行しよう。

（イ）健康管理・健康増進に努めよう。

（ウ）起床・就寝時間を自分で決め，規則正しい生活をしよう。

（エ）部屋の整理整頓に心掛け，身の回りを清潔にしよう。

（２）他人に迷惑をかけないようにしよう

（ア）夜間外出は最小限にとどめよう。夜遅くまで騒ぐなど，近隣に迷惑になることは慎も

（出典：平成２１年度版学生便覧　９頁）

資料７－２－①－２－４

う。また，外出の折も**午後10時以降**になることは避けよう。

（イ）外出するときは，**行き先・時間等を必ず告げて**いこう。

（ウ）他人の下宿・間借等を訪れるときは，出入りの際は家主さんにもあいさつしよう。なお，下宿・間借等の不在の部屋への出入りは絶対にやめよう。

（エ）原動機付自転車・自動二輪車等の使用には細心の注意を払おう。特に狭い道ではスピードを落とそう。夜遅くエンジンをかけるときは**場所柄をわきまえよう。駐車する場合**は，**出入等の邪魔にならない**よう十分考慮しよう。他人の間借・下宿に**車輌等を放置しない**ようにしよう。

（３）大掃除等，**地区の行事**に積極的に**参加**し，地区住民とのコミュニケーションを活発にしよう。

（４）勉強に励もう

（ア）毎日の**学習時間を３時間以上**確保しよう。

テレビを見過ぎたり，遊び過ぎたりして，本分がおろそかにならないように心掛けよう。

（イ）人生の目標を設定しよう。

自ら生活設計を立て，そしてその目標実現のために意欲的に，より**意義のある学生生活**をしよう。

（ウ）読書の励行

専門の領域にとどまらず，幅広い読書を心掛け，**広い教養**を身につけよう。

（５）下宿・間借の**住所変更**は，できるだけ**早くクラス担任**，**教務係に提出**しよう。

（出典：平成２１年度版学生便覧　１０頁）

資料７－２－①－３

○ 鹿児島工業高等専門学校学生委員会規則

（審議事項）

第2条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 課外活動に関すること。
(2) 保健衛生及び生活指導に関すること。
(3) 奨学金及び授業料等の減免に関すること。
(4) 就職指導に関すること。
(5) 学生会及びその他の学生団体に関すること。
(6) 交通指導に関すること。
(7) その他厚生補導に関すること。

（出典：規則集）

資料７－２－①－４

○ 鹿児島工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

（趣旨）

第１条　鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（目的）

第２条　この規則は、本校の職員・学生等及び本校の関係者による、本校内外でのセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に、適切に対応するための措置（以下「セクシュアル・ハラスメント等」という。）に関し、必要な事項を定めることにより、本校における職員、学生等が、個人として尊重されるセクシュアル・ハラスメントのない健全な環境をつくることを目的とする。

（定義）

第３条　この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) セクシュアル・ハラスメント　本校内外において、本校職員、学生等及び関係者間において、他の者を不快にさせる性的言動
(2) セクシュアル・ハラスメントに起因する問題　セクシュアル・ハラスメントのため、職員の就労上又は学生等の修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して職員が就労上又は学生等が修学上の不利益を受けること。
(3) 職員　本校に勤務する常勤及び非常勤の職員
(4) 学生等　学生、科目等履修生、研究生等本校において修学する者
(5) 関係者　学生等の保護者及び業者等本校と関係のある者

（職員及び学生等の責務）

第４条　職員及び学生等は、セクシュアル・ハラスメントの防止対策について、次の各号に掲げる責務を果たさなければならない。

(1) 個人の尊厳や名誉、プライバシー等の人格、勤務環境、修学環境等を害することとなるセクシュアル・ハラスメントをしないよう、各人がその発言や行動に十分注意すること。
(2) 勤務環境、修学環境等は、職員、学生等の協力の下に形成されるものであることから、本校の構成員として、良好な環境等の維持・確立に努めること。
(3) セクシュアル・ハラスメントの被害を防止し、又は深刻なものにしないよう、相手に対する明確な意志表示等の行動をためらわないこと。

（監督者の責務）

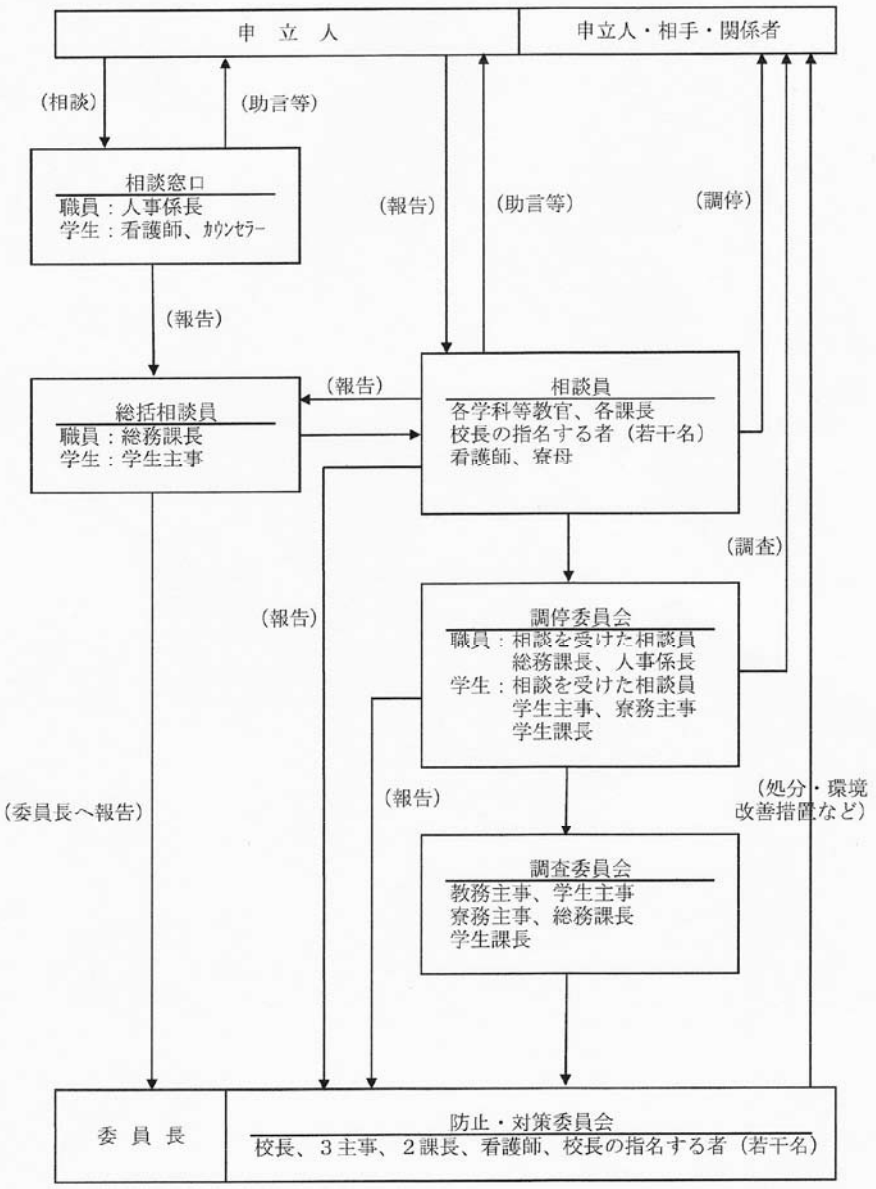
第５条　職員を監督する地位にある者（係長等を含む。）は、次の各号に掲げる事項に注意して、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、セクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に対処しなければならない。

(1) 日常の執務を通じた指導等により、セクシュアル・ハラスメントに関し、職員及び学生等の注意を喚起し、セクシュアル・ハラスメントに関する認識を深めさせること。
(2) 日常の言動に充分な注意を払うことにより、セクシュアル・ハラスメント又はセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じることがないよう配慮すること。

（出典：規則集）

資料７－２－①－５

セクシュアル・ハラスメント等に対する組織及び機構図



（出典：規則集）

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活や指導・相談・助言を懇切に行う体制として，学級担任を中心とした指導・相談・助言を実施，また学年主任の体制により，各学科の課題や情報を共有し，同年代の学生の共通課題に対し共通認識で指導・相談・助言を行う体制である。これにより「学級担任と学年主任に関すること」の体制が整備され，学級担任の配置や学級担任の職務が明示実施され，学級担任と密に連携しつつ指導にあたっていること。また，メンタル面での相談の窓口として「学生何でも相談室」を設置し，相談員や専門のカウンセラーが学生が学生生活を送っていく上で生じるいろいろな疑問や悩み，不安，その他，様々な問題について相談を受け，それらについて共に考え，解決の糸口を探る手助けを行っていること。さらに，セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則が定められ，適時その相談に対応する体制が整備されていること。これらのことから，本校では，学生の生活面や経済面に関わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，有効に機能していると判断される。

観点７－２－②：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば，留学生，障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また必要に応じて生活支援が行われているか。

（観点に係る状況）

障害のある学生については，棟の入り口の横にスロープを設けたり校舎にエレベータを設置するなどバリアフリー化を図っている。留学生の生活面での支援については，外国人留学生専門委員会が支援内容を審議し，校長特別補佐（国際交流・留学生担当）が中心となって，定期的な留学生とのミーティング，日本文化に関する勉強会，町内外の国際交流会への参加，ホームスティの手配，住環境への取り組みなどの支援を行っている（資料７－２－②－1～４）。また，日本人学生のチューターによっても生活支援が行われ，定期的に開催されるミーティングの中で，チューターがその報告をすることになっている。

観点７－２－②資料一覧

（資料７－２－②－１）外国人留学生専門委員会　設置及び審議事項　　出典：規則集

（資料７－２－②－２）鹿児島工業高等専門学校外国人留学生支援の会会則　名称，目的，組織及び会務　出典：規則集

（資料７－２－②－３）留学生委に関する取り組み　　出典：平成21年度　教務の手引き　２３ページ

（資料７－２－②－４）平成21年度国際交流・留学生活動報告　　出典：平成21年度　第11回校務連絡協議会報告資料）

資料７－２－②－１

○ 鹿児島工業高等専門学校外国人留学生専門委員会規則

（設置） 第1条　鹿児島工業高等専門学校国際交流委員会規則第6条の規定に基づき、外国人留学生に関する専門的事項を審議するため外国人留学生専門委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項） 第2条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育指導に関する事項
(2) 生活指導に関する事項
(3) 宿舎その他の施設に関する事項
(4) その他外国人留学生に関する事項

出典：規則集

○ 鹿児島工業高等専門学校外国人留学生支援の会会則　　資料７－２－②－２

（名称）

第１条　本会は、外国人留学生支援の会と称する。

（目的）

第２条　本会は、鹿児島工業高等専門学校に在学する外国人留学生（以下「留学生」という。）及び本校教職員並びに外部の留学生支援者が、留学生に関係する不測の事態に遇った場合の支援を行うことを目的とする。

（組織）

第３条　本会の目的に賛同し、寄附を行った本校教職員をもって会員とし、組織する。

（会務）

第４条　本会は、第２条の目的を達成するため、次の各号に掲げる会務を行う。

（１）　留学生が、不測の事故等に遇った場合の支援
（２）　本校教職員が、留学生に関係する職務上不測の事態に遇った場合の支援
（３）　外部の留学生支援者が、留学生による過失などから不測の事態に遇った場合の支援
（４）　その他、本会が必要と認める支援

出典：規則集

資料７－２－②－３

留学生・研究生･聴講生および科目等履修生に関する事項

７－１．外国人留学生
　２．外国人留学生に関する規則

（４）留学生指導教員

①設置（留学規則第５条第１項）

留学生の学習および日常生活に関して必要な指導助言を与えるため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

②選任（留学規則第５条第２項）

指導教員は、留学生が在籍する学科の中から、当該学科長の推薦に基づき、校長が任命する。

（５）留学生相談員（チューター）

①設置（留学規則第６条第１項）

留学生の学習上の援助および日常生活上の助言を行うため、留学生相談員（以下「チュータ」という。）を置くことができる。

②選任（留学規則第６条第２項）

チュータは、留学生と同一学科の学生の中から、当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。

（出典：平成21年度　教務の手引き　２３ページ）

（資料７－２－②－４）

平成 21 年度国際交流・留学生活動報告

留学生関係

1.　基本方針

本年度も「留学生と密に連絡を取り,いつも新しい情報を得て,留学生が抱えている悩み・問題点が留学生担当者のもとに吸い上げられるような体制を作り、大きい問題が起こってからそれに対応するのではなく、普段から留学生の心のケアにつとめ、留学生が抱える問題を初期の段階で予防するようにする。万一、問題が発生したら、教務･学生･寮務の三主事と深い連携を取りながら早急に対処する」という基本方針を踏まえながら、取組んで参りました。

2.　留学生関係の活動及び行事

＊　学内

4 月　2 日(木)　　新留学生オリエンテーション

29 日(水)　　留学生会合

5 月　7 日(木)　　チューター会合（年間計画について）

22 日(金)　　新入留学生歓迎会

25 日(月)　　新留学生クラス担任・清水先生(日本語)・留学生担当者面談

6 月　28 日(日)　　留学生会合

7 月　1 日(水)　　7 時限 1 年特活「留学生との国際交流」４Ｓギア君(1M,1E, 1S)，4I カオヤン君(1I,1C)

27 日(月)　　留学生会合

28 日(火)　　チューター会合

10 月 22 日(木)　　留学生会合　(学寮)　21:30～22:00

31 日(土)　　高専祭(文化祭)

国際交流コーナーで留学生活動報告(展示)

11 月 26 日(木)･27 日(金)　留学生チューター会合　17:00～17:30

12 月 10 日(木)　　留学生パーテイ(第一体育館)　　20:00～20:40

３M メーヌカ君,寮生会役員　「お国紹介」

18 日(金)　　図書館 2 階・第二セミナー（現土木演習室）　17:00～18:40

留学生日本語プレゼンテーション(留学生 4 名発表)

審査員：非常勤・清水日本語教師,岩元三枝子様(後援会),５E キム君,あべ松

平成 22 年 3 月 8 日(月) 外国人留学生支援意見交換会及び懇談会

学内関係者 37 名　　学外関係者 17 名　　計　54 名

＊　霧島市内

4 月 20 日(月)　　霧島市国際交流協会会合(国分シビックセンター)

5 月 2 日(土)－3 日(日)　学生会主催ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動(サテイにて)

参加者：学生会役員,樫根先生,本校留学生,あべ松

6 月 25 日(木)　　霧島警察署管内国際化対策協議会(ホテル京セラ)

9 月　6 日(日)　　国際親善レガッタ(隼人町) ５E キム君, ４S ギア君

（資料７－２－②－４の続き）

9 月 29 日(日)　　国際交流の集い～世界の味ランチ～(霧島市隼人町)
５E キム君、４S ギア君、４I カオヤン君、３C ヴッテイー君、あべ松
本校からは、ギア君手作りの「ベトナム春巻き」を出品

平成 22 年 2 月 5 日(金) 国際親善ナンコ大会(隼人町)
３C ヴッテイー君、５E キム君、引地教員
３C ヴッテイー君が準優勝

＊　霧島市外

4 月 23 日(木)　　各大学の留学生担当者意見交換会　(県民交流センター)

5 月　4 日(月)－ 5 日(火)　知覧町(内薗様)でホームスティ

6 月　7 日(日)　　鹿屋バラ園見学　留学生 5 名、引地教員、あべ松

13 日(土)－14 日(日) 多国籍合宿(鹿児島大学留学生センター主催・国立大隅少年自然の家)

20 日(土)－21 日(日)　留学生・国際交流担当教員研究集会(沖縄高専)　あべ松

7 月 8 日(水)　　鹿児島地域留学生交流推進会議および懇談会(鹿児島大学)　　9 日(木)－10 日(金) 平成 21 年度留学生交流研究協議会(東京)
坂井学生課長出席

18 日(土)－19 日(日) 知覧町(内薗様)でホームスティ

25 日(土)－26 日(日) 隼人地区子ども会との宿泊研修　(国立大隅少年自然の家)(霧島市隼人地区子ども会育成連絡協議会主催) 5E キム君、４S ギア君参加

8 月 8 日(土)　　姶良町重富花火大会　3M メーヌカ君、3C ヴッテイー君

12 日(水)　　高山町花火大会　　４S ギア君

10 月 11 日(日)･12 日(月)　南さつま市にてホームスティ３C ヴッテイー君、４S ギア君
地域活動を通して交流を深めた

17 日(土)・18 日(日)　第 4 回かごしまアジア青少年芸術祭　5E キム君　通訳ボランティアとして活躍

18 日(日)　　肝付町高山・流鏑馬見学　３M メーヌカ君、引地教員

24 日(土)・25 日(日) 平成 21 年度九州沖縄地区留学生交流研修会
担当校：熊本高等専門学校八代キャンパス　留学生 5 名、あべ松

11 月 23 日(月)　　曽於市・流鏑馬見学　留学生 5 名、引地教員、あべ松

12 月 20 日(日)　　第 6 回日本文化勉強会
そば打ち体験(都城市・がまこう庵)大浪の池、霧島自然観察
５E キム君、３M メーヌカ君、３C ヴッテイー君、 引地教員、あべ松

平成 22 年 3 月 6 日(土)　実地見学旅行(1 日研修旅行)
吹上浜海浜公園、きんぽう木花館、かつお節水産加工見学
4S ギア君、４I カオヤン君、ヴッテイー君、坂井学生課長、引地教員、あべ松

（出典＊　平成 21 年度　第 11 回校務連絡協議会報告資料）

（分析結果とその根拠理由）

障害者に対する支援として，校舎のバリアフリー化を図っている。また，留学生に対しては，外国人留学生専門委員会が必要な支援内容を審議し，留学生の学習面や生活面での支援を行っている。さらに，留学生にはチューターを配置して日常の学習や生活をサポートしている。このことから，特別な支援が必要な者に対して，適切な支援が行われていると判断される。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生寮は「本校の教育目的の達成に資する」ための「教育施設」として位置づけられており，そのため1年生は特別な事情がない限りは全員が入寮することとなっている（１年生全寮制）。男子寮５棟，女子寮１棟には，専攻科生までを含む約530名が入寮しており，全国高専の中でも最大級の規模である。各棟には寮生居室のほかに自習室，談話室，補食室等（全19室：電磁調理器及び製氷機を設置）が配置され，このほかに食堂，会議室，多目的ホール等の共用施設が整備されている。また，勉学の資料や就職活動用に寮内無線LANが設置され，洗濯室には洗濯用乾燥機が備えてある。

寮生は，生活時間表に従って生活しており,毎日３回の点呼により，所在の確認がなされている。

授業前日の晩は「完全自己研修時間」という時間が設けられており,20:00から21:20，22:00から23:00の時間帯は，特に席を離れず自学自習を原則としている。この他，学習支援として，中間・期末試験前に，上級生が下級生の学習を指導する「学寮チュートリアル」を実施しており，平成21年度は延べ294人が参加し好評であった。

学生寮の運営及び寮生の指導には，寮務主事を中心とした寮務委員会と，平日の日中は職員数名が常駐する学生支援係（係長・事務職員・寮母・舎監等）があたっている。また，夜間は男性教員２名（これに加えて月２回程度の女性教員１名）による当直体制をとっており，当直教員は，主に自習時間中に生活指導を行っている。その内容は，月毎に担任に報告され，学生の指導に生かされている。休日の日中は，男性教員１名が日直として常駐している。また寮母と舎監が保健室と連携して病気や心のケアに当たっている。

学生による自主的管理体制がよく整備されており，寮長を中心とした寮生会が，点呼等の生活管理の他，歓迎・送別寮マッチ等の各種イベントを企画・運営している。寮生組織として，６棟を49班に分けて，各班に２名ずつの班長が配置されている。班長は，毎日の点呼，自習室や補食室等の清掃の指導の他，下級生の日常の生活相談にも当たっている。寮長は寮務主事・主事補と日常的に情報交換をしている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の学生寮には，勉学や生活の場として必要な設備が整備されている。また，寮務委員会を中心に，宿日直教員や寮務係の職員が，学習・生活指導を行っている。さらに，学寮チュートリアルの制度も設け，上級生が低学年の学習を支援している。

寮生の自主的組織として寮生会が組織され，寮務委員会の指導の下で，寮生の行事や生活について企画・運営をおこなっている。このことから，本校の学生寮は，学生の生活及び勉学の場として有効に機能していると判断される。

留学生については,外国人留学生専門委員会が必要な支援内容を審議し,留学生の生活面での支援を行っている。更に,日本人学生のチューターを配置して日常生活のサポートをしている。このよう

な点から,特別な支援が必要な者に対して,適切な指導が行われていると判断される。

観点７－２－④：　就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程での就職や進学などの指導については,各学科の４・５年のクラス担任と学科長がその役割を担っている。すなわち,各学科とも４年次では,進路調査を学生個別に実施し本人の希望をしっかりクラス担任は把握し,年１回実施される「保護者懇談会」で保護者・学生・担任と三者面談の結果,学生の進路を確定している。５年次では,確定された進路先に関する応募書類,推薦書等の提出や面接・筆記試験への対応等について,クラス担任及び学科長が必要な助言及び支援を行っている。

就職企業求人情報については,特に平成19年度から優良企業を学校に招き,体育館にて「学内企業説明会」を開催するなど学生の就職支援を積極的に実施している。また,進学指導に関しても大学からの進学説明会の機会をできる限り設け,放課後各科共通の「進学説明会」をクラス担任を中心に企画している。なお,進学大学の過去の出題問題は,学生課教務係にて収集され閲覧可能である。

専攻科課程での就職や進学などの指導は,専攻科長,専攻長及び特別研究指導教員が準学士課程の学生と同様に支援を行っている。

これらの就職先や進学先の開拓は,年度末に担任,専攻長,学科長及び専攻科長が分担して今後の情報収集をかねて就職先や進学先訪問として行っている。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程での就職や進学などの指導については,各学科の４・５年のクラス担任と学科長がその役割を担っている。職企業求人情報については,特に平成19年度から優良企業を学校に招き,体育館にて「学内企業説明会」を開催するなど学生の就職支援を積極的に実施している。また,進学指導に関しても大学からの「進学説明会」の機会をできる限り設け,放課後各科共通の進学説明会をクラス担任を中心に企画している。

一方,専攻科課程での就職や進学などの指導は,専攻科長,専攻長及び特別研究指導教員が準学士課程の学生と同様に支援を行っている。これらのことから,本校では就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され,有効に機能している判断される。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 全国最大級規模の学生寮が，教職員の指導と学生による自主管理体制の下で，教育寮として有効に機能している点
- 海外の３つの大学と国際交流協定を結んで，学生の海外研修を支援している点
- 学生何でも相談室を設置し，学生の様々な相談に対して対応している点

（改善を要する点）

特になし

（３）基準７の自己評価の概要

準学士課程及び専攻科課程の双方において，入学時のガイダンス，シラバスを用いた授業のガイダンスなどを行う体制が整備され，適切に実施されている。また，学生の自主的学習を進める上では，学級担任や特別研究指導教員による相談・助言体制が整備され，機能している。さらに，オフィス・アワーズや学生何でも相談室においても，学生の相談を受け付ける体制が整備され，機能している。

自主的学習スペースとして，図書館・情報教育システムセンター，教室・ゼミナール室等が整備されている。コミュニケーションスペースも整備され，休み時間等に学生が利用している。

学生の学習支援に関するニーズは，授業評価アンケートにおいて把握している。また，各授業担当教員は，関連する資格試験等について，受験案内や手続き，受験勉強の支援等を行っている。資格試験等の合格者には所定の単位を認定しており，特に，英語に関しては，TOEIC BRIDGE，TOEIC IPテストを学内で実施している。外国留学に関しては，留学先で修得した単位を認定している。また，海外の大学との国際交流協定を結んでおり，学生の海外研修を支援している。編入生・留学生についても，数学，日本語等の学習支援を行っている。

各クラブ・同好会の活動，学生会活動を支援するために，指導教員を配置するとともに，必要な（運営・備品購入）資金・施設等を提供している。学生の生活・学習・経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制として，学級担任制度，学生何でも相談室，保健室が整備され，学生委員会も学級担任と密接に連携をとりながら，学生指導にあたっている。なお，セクシュアル・ハラスメントについては，その防止等に関する規則が定められ，相談・助言等の体制が整備されている。

学生寮には，勉学や生活の場として必要な設備が整備されている。また，寮務委員会を中心に，宿日直教員や寮務係の職員が，学習・生活指導を行っている。さらに，学寮チュートリアルの制度も設け，上級生が低学年の学習を支援している。寮生の自主的組織として寮生会が組織され，寮務委員会の指導の下で，寮生の行事や生活について企画・運営を行っている。

進路指導については，各学科のクラス担任や各専攻の専攻長が，個別面談をはじめとした適切な進路指導を行っている。また，進路情報（卒業生・修了生の進学就職先）の収集については，学生課にて収集され,閲覧ができるよう整えられており，企業訪問等も実施されている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば，校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され，有効に活用されているか。また,施設・整備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の目的に掲げられている「開発型技術者の育成」及び「必要な研究」を行うために，高等専門学校設置基準を満たした教室，研究室，演習室，実験室，実習工場，図書館，情報教育システムセンター，運動場，体育館等各種施設が整備され，それぞれの施設には，教育・研究に必要な設備が整えられている。また，校地は121,318㎡，各施設の延べ面積は33,223㎡を有しており，高等専門学校設置基準を満たしている。

教室，演習室等及び実験室等の週当たりの利用率（週当たりの利用時間／40時間）は，教室については約63％，演習室等については約39％であり，実験室等及び実習工場については，約53％である。実験室等については，本科及び専攻科を含めて，通常，1学年週当たり４時間～８時間（10～20％）の利用であると考えられるが，本校においては，ほとんどがその利用率を超えており，多目的に利用されていることがわかる。この他に放課後等にも利用されていることから，有効に利用されていると判断される。バリアフリー化についても各棟スロープを整備し対応している。

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校設置基準を満たし，教育課程の実現に相応しい施設・設備が整備されている。教室，演習室等及び実験室等の利用率は，それぞれ約63％，約39％及び約53％となっている。また，実験室等については，本科及び専攻科を含めて，通常，1学年週当たり４時間～８時間（10～20％）の利用であると考えられるが，本校においては，ほとんどがその利用率を超えており，多目的に利用されていることがわかる。この他に放課後等にも利用されていることから，有効に利用されていると判断される。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校には，情報教育システムセンター演習室，図書館パソコン室，情報棟パソコン室の三箇所のPC室にそれぞれ約50台のWindows PCが配備されており，情報技術教育に関する授業で計画的に利用されている。また，各教員の研究室や実験室などにも実験・実習・卒業研究用のPCが配備されており，それぞれの目的に合わせて使われている。これらのPCのほとんどは，学内ネットワークを介して情報教育システムセンター内のサーバやインターネットの利用が常時可能である。

情報教育システムセンターが管理する設備の整備や更新は，情報教育システム委員会で各学科のニーズを集約した後，担当のシステム管理者が可能なものから適宜実施している。また，情報教育シス

テムセンターの設備に関する学生のニーズは，学外からもアクセスできる学生用グループウェアで直接受け付けている。年に数回寄せられる学生の意見は，担当のシステム管理者が必要に応じて対策をとった後,学生にフィードバックを行っている。

情報セキュリティに関しては，情報セキュリティポリシーに基づき，情報教育システムセンター長の指揮の下，システム管理者がユーザアカウントの管理やマルチウェアの対策を行っている。特に，平成20年度からは，不特定の者が利用する部屋でネットワークを使う時にはユーザ認証を行うようにセキュリティを強化し，主要なサーバのユーザ認証機能を統合してセキュリティを向上させるとともにユーザの利便性を高めた。また，各学科とも，１年次の情報リテラシー教育において，ウェブブラウザや電子メールの利用方法から著作権に関することなどのインターネット利用時のルール・マナーについても教育している。

（分析結果とその根拠理由）

本校の情報技術教育設備は，所定の教育を実施するために必要な設備と環境が維持されている。これらは，授業・実験・実習・研究において計画的に利用されており，また，自主学習でも活用できるよう配慮されている。情報技術教育設備の整備に関する教職員及び学生のニーズは所定の経路で意見が集約され対応が行われている。また，情報教育システムセンターのシステム管理者は，学内ネットワークの維持管理を行うとともに情報セキュリティポリシーに基づく技術的に高度な対策を施している。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

平成 22 年３月末現在の蔵書冊数は 93,812 冊であり（資料８－２－①－１），学会誌･専門誌等の学術雑誌･教養雑誌や各大学･高専の研究紀要，企業の専門誌等，新聞各紙等（英字新聞を含む）を所蔵している。そのほか，DVD・ビデオ等の視聴覚資料も所蔵している。さらに，本校以外の図書館の蔵書検索，国立情報学研究所学術コンテンツ・ポータルサービス（GeNii）や KANON（外国雑誌目次データベース）・SD（電子ジャーナル）・MathSciNet（数学文献データベース）・JDreamⅡ（科学技術振興機構の文献情報検索システム）等の電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ，必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整えている。図書については，館内の図書は日本十進分類法（NDC）に従い，雑誌については外国雑誌，国内雑誌，寄贈雑誌に分け，国内雑誌はさらに学科別に分けて，分野別に系統的に配架している。また，資格・就職関係図書新刊書コーナー，洋書コーナー，TOEIC 関係図書コーナーを設置して，学生が利用しやすくなるように配慮している。

学生用図書費を学科別に予算配分し，各学科の図書館運営委員が中心となって学科学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書し，工業高等専門学校図書館に相応しく工学分野，自然科学分野を中心に購入している。また。後援会から年 150 万円の支援により,学生希望図書・教員推薦図書の教養書・専門書を拡充している。

工業技術関連分野の貸出冊数は全体の約４割を占め，全学年にわたり有効に活用されている。

観点８－２－①資料一覧

（資料８－２－①－１）図書館統計　　出典：学生課資料

資料８－２－①－１

図書館蔵書冊数の推移（平成１９年度～平成２１年度）　　平成２２年３月３１日現在

分類 / 19年度	総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	工業技術	産業	芸術	語学	文学	計
和書	8,849	3,262	4,514	7,405	16,574	23,932	644	2,759	5,999	10,787	84,725
洋書	476	448	132	263	1,316	458	18	137	1,566	1,957	6,771
計	9,325	3,710	4,646	7,668	17,890	24,390	662	2,896	7,565	12,744	91,496
分類 / 20年度	総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	工業技術	産業	芸術	語学	文学	計
和書	8,934	3,283	4,581	7,586	16,788	24,189	660	2,823	6,059	10,791	85,694
洋書	478	449	133	269	1,337	482	18	138	1,567	1,961	6,832
計	9,412	3,732	4,714	7,855	18,125	24,671	678	2,961	7,626	12,752	92,526
分類 / 21年度	総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	工業技術	産業	芸術	語学	文学	計
和書	9,000	3,309	4,595	7,692	16,919	24,487	673	2,873	6,081	11,328	86,957
洋書	480	449	133	270	1,341	483	18	138	1,581	1,962	6,855
計	9,480	3,758	4,728	7,962	18,260	24,970	691	3,011	7,662	13,290	93,812

（出典：学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

93,812 冊の蔵書と学術雑誌･教養雑誌，DVD・ビデオ等の視聴覚資料を所蔵している。そのほか，電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ，必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整え，教育研究上必要な資料が整備されている。館内の図書は，分野別に系統的に配架し，学生が利用しやすくなるように配慮している。

図書の購入にあたっては，各学科の図書館運営委員が中心となって学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書している。また，工業技術関連分野の貸出冊数は全体の約４割を占め，全学年にわたり有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　図書館ホームページから蔵書検索が可能であり，電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ，必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整えている点

（改善を要する点）

特になし

（３）基準８の自己評価の概要

本校の目的に掲げられている「開発型技術者の育成」及び「必要な研究」を行うために，高等専門学校設置基準を満たした教室，研究室，演習室，実験室，実習工場，図書館，情報教育システムセンター，運動場，体育館等各種施設が整備され，それぞれの施設には，教育・研究に必要な設備が整えられている。また，校地についても，高等専門学校設置基準を満たしている。

教室，演習室等及び実験室等の週当たりの利用率（週当たりの利用時間／40時間）は，本科及び専攻科を含めて，通常，1学年週当たり４時間～８時間（10～20％）の利用であると考えられるが，本校においては，ほとんどがその利用率を超えており，多目的に利用されていることがわかる。この他に放課後等にも利用されていることから，有効に利用されていると判断される。バリアフリー化についても各棟スロープを整備し対応している。

本校の教育課程の実現に相応しい情報技術教育設備は，所定の教育を実施するために必要な設備と環境が維持されている。これらは，授業・実験・実習・研究において計画的に利用されており，また，自主学習でも活用できるよう配慮されている。情報技術教育設備の整備に関する教職員及び学生のニーズは所定の経路で意見が集約され対応が行われている。また，情報教育システムセンターのシステム管理者は，学内ネットワークの維持管理を行うとともに情報セキュリティポリシーに基づく技術的に高度な対策を施している。

図書館には，約 93,800 冊の蔵書と学術雑誌･教養雑誌，DVD・ビデオ等の視聴覚資料を所蔵している。そのほか，電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ，教育研究上必要な資料を提供している。また，図書の購入にあたっては，各学科の図書館運営委員が中心となって学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書しており，全学年にわたり有効に活用されている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積

本校の教育活動の実態を示すデータには，基礎・基本，シラバス，定期試験等の問題と答案，学業成績一覧，学習・教育目標達成度評価とその学生による評価結果，授業評価アンケート,授業視察報告書，授業改善計画書があり，資料９－１－①－１に示すように担当委員会及び担当係により収集・蓄積されている。

（ｂ）評価体制

教育の状況についての評価を適切に実施する体制は，教育改善システムとして整備され（資料９－１－①－２），評価を実施する機関は,FD委員会，自己点検・評価委員会，外部評価委員会で構成されている。各委員会は各々の目的・業務に関する規則が整備され，評価・改善活動を行っている。

成績会議は，学生の学業成績を評価・検討し，教育指導上の問題点を採り上げ，その改善方法等について協議している。成績会議は慣例として本科については教務委員会,専攻科については専攻科委員会主催の下で実施され，協議結果は教務委員会,専攻科委員会に報告され，教務委員会,専攻科委員会はその改善策を立案する（資料９－１－①－３）。

（ｃ）教育改善

学力の底上げおよびクラスで一人だけの女子学生に対する教育的配慮について教務委員会において検討し,その改善案が示された（資料９－１－①－３～５）。この改善策を平成２２年度以降に実施し，その内容および効果については継続的に調査・点検を行っていく。

また，学生の授業に対する取り組み姿勢の改善および授業における学習時間の確保を目的として,学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則が改正された（平成２１年度４月１日より施行）。これまで授業科目の評価は，出席時数が所定の授業時数の３分の２以上の科目についてのみ行うこととなっていたが,これを出席時数が所定の授業時数の５分の４以上の科目についてのみ行うことと改正された。これにより，学生の出席率は平成２０年度よりも２１年度の方が高く，教育改善に繋がっていることが分かる。（資料９－１－①－６）

観点９－１－①資料一覧

（資料９－１－①－１）教育活動の実態を示すデータや資料　　出典：学生課資料

（資料９－１－①－２）教育改善システム（図）　　出典：総務課資料

（資料９－１－①－３～５）学力の底上げおよび女子学生支援に対する教育的改善　　出典：教務委員会資料

（資料９－１－①－６）出席時数の変更に伴う欠課時数の変化について　　出典：学生課資料

資料９－１－①－１

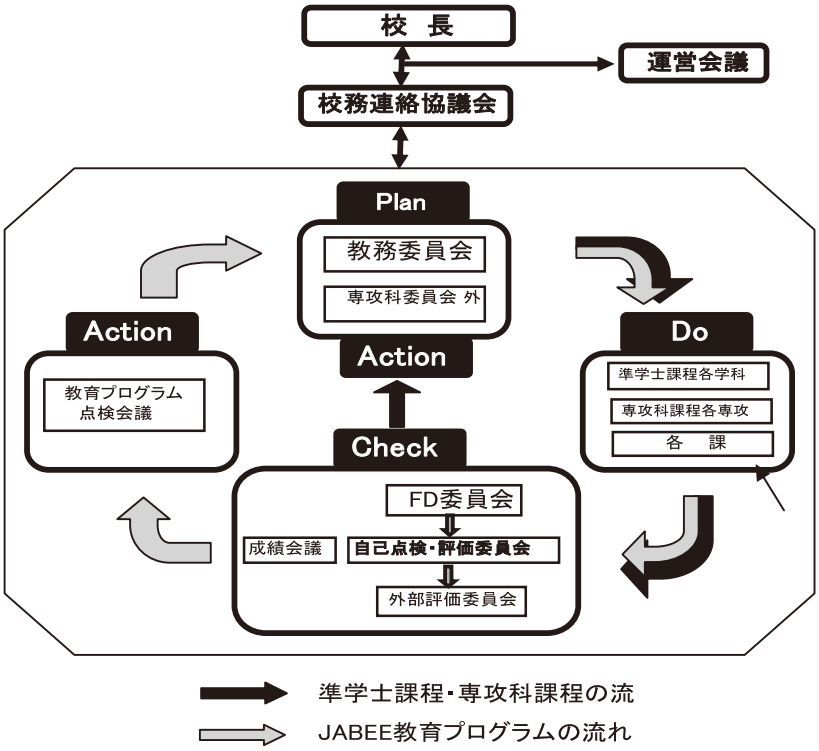
教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積

	データや資料	担当委員会 担　当　係	データの蓄積状況
1	基礎基本	教務委員会 教務係	本　科平成１４年度～ 専攻科平成１５年度～
2	シラバス	教務委員会 教務係	本　科平成１３年度～ 専攻科平成１４年度～
3	定期試験等の問題と答案等	教務委員会 教務係	問題：平成１３年度～ 答案：平成１５年度～
4	学業成績一覧	教務委員会 教務係	平成１３年度～
5	学習・教育目標達成度評価	専攻科委員会　　教務係	平成１５年度～
6	学習・教育目標達成度評価アンケート	専攻科委員会 教務係	平成１４年度～
7	学生授業評価アンケート	ＦＤ委員会 教務係	平成１３年度～
8	授業視察	ＦＤ委員会 教務係	平成１７年度～
9	授業改善計画書	ＦＤ委員会 教務係	平成１９年度～

（出典：学生課資料）

資料９－１－①－２

鹿児島高専　教育改善システム



（出典：総務課資料）

資料９－１－①－３

平成２１年度　第１回教務委員会議事要旨

日　時：平成２１年４月７日（火）１５：３０　～　１７：３０
場　所：小会議室
出席者：主事（植村），主事補（田中, 山内, 岸田, 椎），
　　教務委員：
　　文系（鞍掛），理系（嶋根），機械（引地），電気電子（本部），電子制御（岸田：併），
　　情報（豊平），土木（池田），専攻科（岸田：併），
欠席者：坂井学生課長
記　録：日高

■審議事項
１．　科目別混合クラス編成について
　　科目別混合クラスについて下記のとおり各科へ持ち帰り検討することとなった。
　1）目的
　　①　学力の底上げ
　　②　クラスに一人だけの女子学生への配慮
　2）平成 22 年度実施に向けて
　3）数学と英語が対象科目

（出典：教務委員会資料）

資料９－１－①－４

平成２１年度　第１３回教務委員会議事要旨

日　時：平成２１年１２月１日（火）１５：３０　～　１７：００
場　所：小会議室
出席者：主事（植村），主事補（山内, 椎, 田中, 岸田）
　　教務委員：
　　文系（鞍掛），理系（嶋根），機械（引地），電気電子（本部），電子制御（岸田：併），
　　情報（豊平），土木（池田），専攻科（岸田：併），坂井学生課長（学生課長）
欠席者：　無
記　録：日高

■審議事項
１．　科目別クラス編成について　［資料５］
　　科目別クラス編成について資料５に基づいて説明があり, 科目別クラス編成することについて認された。

（出典：教務委員会資料）

資料９－１－①－５

平成２１年度第１３回教務委員会資料
平成 21 年 12 月 1 日

科目別クラス編成について

1. 科目別クラス編成に対する数学科,英語科の実施案

3.1 数学科

(1) 対象学年：2 年生
(2) 科目：微積分学（Ⅰ）（前学期）,微積分学（Ⅱ）（後学期）
(3) 時期：2010 年度前学期から実施
(4) クラス編成：45 人×2 クラス＋30 人×4 クラス
今年度の数学基礎（Ⅳ）（後学期）の素点で組分けを行う。
男女比,学科比については配慮する。
(5) 評価：共通問題で定期試験を行う。平常点については詳細未定。
(6) その他：常勤教員が下位クラスを担当し,非常勤は上位クラスを受け持つことにする。

3.2 英語科

(1) 対象学年：1 年生（英文法Ⅰ）,2 年生（英文法Ⅱ）
(2) 科目：2010 年度後学期から英文法Ⅰを開始する。
以降,2011 年度前学期に英文法Ⅱ,2011 年度後学期に英文法Ⅰと英文法Ⅱを併行で実施する。英文法は英語力の差も出やすく,理解度に応じて適切な対応が必要なため,混合クラス編成は学生の学力向上への良い影響を期待できる。
(3) 時期：2010 年度後学期から実施
(4) クラス編成：50 人×2 クラス＋25 人×4 クラス
（英文法Ⅰ・Ⅱどちらも常勤 5 非常勤 1 で 6 クラス編成）
(5) 評価：英文法Ⅰ(後学期),英文法Ⅱ(翌年前学期)を対象にする場合,前の期の定期試験の素点で全体を半分に分け,上位半分を(成績で)大人数 2 クラス,下位を少人数 4 クラスに振り分ける。
(6) その他：常勤教員が下位クラスを担当し,非常勤は上位クラス（50 人クラス）を受け持つことにする。

2. 科目別クラス編成への課題

・ 科目別クラス編成は,数学,英語の担当教員にとっては,教材研究や評価にこれまで以上に多くの時間を費やすことになる。
・ 定期試験の公平性,教員間の教授方法の差による学生への影響を極力無くすために,定期試験については,各クラス（科目別クラス）を担当していない教員が作成するのが望ましい。また,クラス編成にあたっては,1 年を通して,同じ先生になるべくならないように配慮する必要がある。

（出典：教務委員会資料）

資料９－１－①－６

出席時数の変更(2／3→4／5)に伴う欠課時数の変化について

平成21年度学年末試験までの欠課時数

学年学科	1M	1E	1S	1I	1C
クラスの合計欠課時数	230	344	194	310	193
クラスの学生数	42	43	41	45	43
一人あたりの欠課時数	5.48	8.00	4.73	6.89	4.49

学年学科	2M	2E	2S	2I	2C
クラスの合計欠課時数	926	430	225	1446	1531
クラスの学生数	43	42	40	42	45
一人あたりの欠課時数	21.53	10.24	5.63	34.43	34.02

学年学科	3M	3E	3S	3I	3C
クラスの合計欠課時数	633	651	519	779	408
クラスの学生数	43	42	40	38	41
一人あたりの欠課時数	14.72	15.50	12.98	20.50	9.95

学年学科	4M	4E	4S	4I	4C
クラスの合計欠課時数	534	486	1277	817	1037
クラスの学生数	39	40	52	38	43
一人あたりの欠課時数	13.69	12.15	24.56	21.50	24.12

学年学科	5M	5E	5S	5I	5C
クラスの合計欠課時数	1734	2132	1574	1440	2030
クラスの学生数	43	39	44	38	42
一人あたりの欠課時数	40.33	54.67	35.77	37.89	48.33

平成20年度学年末試験までの欠課時数

学年学科	1M	1E	1S	1I	1C
クラスの合計欠課時数	186	351	385	798	543
クラスの学生数	42	43	41	42	43
一人あたりの欠課時数	4.43	8.16	9.39	19.00	12.63

学年学科	2M	2E	2S	2I	2C
クラスの合計欠課時数	1631	773	1345	2028	955
クラスの学生数	45	41	42	43	43
一人あたりの欠課時数	36.24	18.85	32.02	47.16	22.21

学年学科	3M	3E	3S	3I	3C
クラスの合計欠課時数	852	354	1567	1431	874
クラスの学生数	39	40	46	42	43
一人あたりの欠課時数	21.85	8.85	34.07	34.07	20.33

学年学科	4M	4E	4S	4I	4C
クラスの合計欠課時数	1639	1178	2131	1348	2052
クラスの学生数	45	41	46	38	45
一人あたりの欠課時数	36.42	28.73	46.33	35.47	45.60

学年学科	5M	5E	5S	5I	5C
クラスの合計欠課時数	2050	3609	2551	1953	2058
クラスの学生数	41	36	44	35	37
一人あたりの欠課時数	50.00	100.25	57.98	55.80	55.62

（出典：学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータとして，基礎・基本，シラバス，試験答案，学業成績一覧，授業評価アンケート調査結果等を収集・蓄積する体制が整備され，適切に保管されている。また，これらのデータを用いて評価を実施する評価機関としてFD委員会，自己点検・評価委員会，外部評価委員会，成績会議が整備されている。

このことから，本校では，教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されている。

観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では,専攻科生を含む全学生を対象にFD委員会による学生による授業評価アンケートを年2回実施している。マークシート式（資料９－１－②－１）と記述式（資料９－１－②－２）によるアンケート回答は,FD委員会によって集約され校長に報告される。また,各教員にもマークシート回答の集計結果（資料９－１－③－３）および記述式回答（資料９－１－③－４）を配布しており,各教員はこれらの結果を踏まえて授業改善計画書を作成し,校長に提出しており,教育改善につなげている。（資料９－１－③－５）

（分析結果とその根拠理由）

本校では,学生による授業評価アンケートにより学生の意見が聴取されており,その結果は各教員にフィードバックされ,さらにこれらの結果を踏まえて自己点検・評価し授業改善計画書を作成している。このようなことから本校では学生の意見聴取が行われており,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点９－１－②資料一覧

（資料９－１－②－１）授業評価アンケート設問用紙	出典：FD委員会
（資料９－１－②－２）授業評価アンケート自由記述用紙	出典：FD委員会
（資料９－１－②－３）アンケート集計個人票	出典：FD委員会
（資料９－１－②－４）記述式個人票	出典：FD委員会
（資料９－１－②－５）授業改善計画書	出典：FD委員会

資料９－１－②－１

設問用紙（授業評価アンケート）

本アンケートは、各教科の授業方法等を検討・改善する際の参考とするために行います。受講中の各教科について自分の感じたままを回答して下さい。回答結果が皆さんの成績に影響することはありません。

下の設問（１）～（８）には回答用マークシートの該当欄に５段階評価（下記参照）のいずれかをマークして下さい。なお、複数教員が担当する選択科目については、コード番号表（別紙）にあるコード番号を科目コード欄にマークして下さい。設問（９）は記述式回答用紙に所要事項を記載の上、回答して下さい。

評 価	意　　味
5	全くその通りである
4	概してその通りである
3	そうであるともないとも言えない
2	概してそうではない
1	全くそうではない

＜ 設問 ＞

(1) 教員が興味を引き出す工夫（発問、事例や教材の提示等）をした。

(2) この授業は分かりやすかった。

(3) 教員の話し方・板書（文字や図）は適切だった。
（実験、実習の実技説明は明快だった）。

(4) この授業の進み具合は適切だった。

(5) 授業中は質問しやすい雰囲気で、教員は質問に気持ち良く対応した。

(6) 自分は授業も熱心に受け、宿題やレポート等の提出期限も守った。

(7) 授業中の小テストや定期試験問題は授業内容に沿ったものが出題された。

(8) この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。

※この授業で感じたこと、良かった点、教員に希望することなど、意見があれば裏面の記述式回答用紙に書いて下さい。

（出典：FD委員会資料）

資料９－１－②－２

記述式回答用紙（授業評価アンケート）

学科 専攻	M E S I C AMS AEI ACC	学年	年	氏 名	

記述式回答は、氏名の記入を求めます。無記名のものは削除されます。ただし、用紙に記入された内容はすべてワープロ文書に変換し、記入した学生が誰であるかを特定できないように担当者に報告します。プライバシーは完全に確保されますので、皆さんの建設的な意見や感想を書いてください。校長も目を通します。

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

（出典：FD委員会資料）

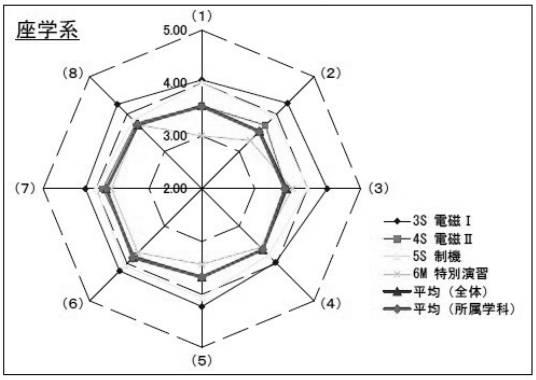
資料９－１－②－３

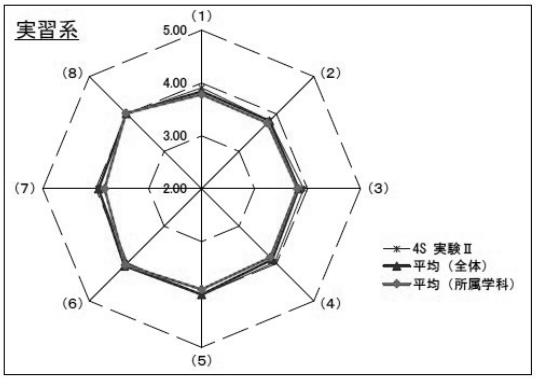
H21後学期「学生による授業評価アンケート」教員別集計

（5段階評価クラス平均点　H22.2.3～H22.2.24 実施分）

所属 ： 電子制御工学科	教官名 ： 室屋 光宏

授業評価アンケート項目	クラス	3S	4S	5S	6M	4S				個人平均	平均データ 全体		所属学科	
	教科	電磁Ⅰ	電磁Ⅱ	制機	特別演習	実験Ⅱ								
	担当教官数	1	2	1	1	4					座学系	実習系	座学系	実習系
	クラス人数	35	46	18	7	45					12,213	2,553	902	313
(1) 教員が興味を引き出す工夫（発問、事例や教材の提示等）をした。		4.06	3.57	4.00	3.00	3.91				3.81	3.57	3.84	3.55	3.78
(2) この授業は分かりやすかった。		4.29	3.70	3.94	3.29	3.82				3.88	3.54	3.81	3.53	3.76
(3) 教官の話し方・板書（文字や図）は適切だった。（実験、実習の実技説明は明快だった。）		4.37	3.59	4.00	3.71	3.93				3.93	3.60	3.83	3.56	3.81
(4) この授業の進み具合は適切だった。		3.97	3.63	3.78	3.57	3.96				3.82	3.63	3.89	3.62	3.83
(5) 授業中は質問しやすい雰囲気で、教官は質問に気持ちよく対応した。		4.23	3.67	4.06	3.43	4.02				3.94	3.67	4.00	3.68	3.90
(6) 自分は授業も熱心に受け、宿題やレポート等の提出期限も守った。		4.20	3.80	4.06	3.71	3.98				3.97	3.83	4.06	3.85	4.04
(7) 授業中の小テストや定期試験問題は授業内容に合ったものが出題された。		4.20	3.87	4.00	3.71	3.95				3.98	3.81	3.95	3.81	3.83
(8) この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。		4.26	3.76	3.83	3.71	4.00				3.95	3.71	4.01	3.72	4.02
(9) この授業で感じた点、良かった点、教官に希望する点、気がついた点などあれば自由に書いてください		別紙							全平均	3.91	3.67	3.92	3.67	3.87





（出典：FD委員会資料）

資料９－１－②－４

H21後学期授業評価アンケート自由記述

制御：室屋光宏

クラス	所属	教官	記入有無	教科	記述式回答
3S	制	室屋	有	電磁Ⅰ	・丁寧かつ親切・授業も分かりやすい。・細かく説明してくれるので理解力が乏しい自分にも優しい。・強いて挙げるとすれば小テスト前に3分悪あがきの時間がほしい。他文句なしに素晴らしい先生。

（出典：FD委員会資料）

資料９－１－②－５

授業改善計画書（平成 21 年度後学期用）

ＦＤ委員会

１．授業評価アンケート結果（マークシート集計および自由記述）および授業視察・参観のコメントなどに基づき，担当された平成 21 年度後学期または通年の開講科目から任意の１科目を選択の上、記載して下さい。
２．複数で担当されている科目の場合は、担当者の中からお１人提出願います。
３．この計画書の提出期限は、平成２２年３月３１日（水）です。

記入年月日：　平成　　年　　月　　日
学科：Ｍ　Ｅ　Ｓ　Ｉ　Ｃ　全学科　（AMS）AEI、ACC　**学年：**（1）2　3　4　5
授業科目：　機械・電子システム工学特別演習Ⅲ
授業担当者：　室屋光宏

評価項目 項目番号	アンケート 評点（数値）	現時点での自己評価と改善の方策
(1) 興味を引き出す工夫	3.00	全評価項目の中で最も低い値を示した。本科３年次および５年次の授業を基盤としたものであったが、導入となる復習は不足していたかもしれない。特に、機械工学科出身学生に対する対応を考えなければならない。
(2) 学生にとっての分かりやすさ	3.29	本科時で学んだ内容の理解度が思いの外低く感じたので、やはり復習は十分にとらねばならない。また、機械工学科出身の学生にはかなり厳しい内容となるので、最初の講義でそれなりの覚悟を求めてみても良いのではなかろうかと感じた。
(3) 話し方・板書等	3.71	白板にプロジェクタを投影させて、必要に応じてペンで書き込みを行ったが、何もかも書き込むより効率は良かったのではなかろうか。光量に不安はあったが、少人数のため白板の近くに寄れるため、見えにくさの問題はなかったと思う。
(4) 進度	3.57	演習ということで取り扱う問題数によって進度を調整し、表面的にはシラバスに提示してある内容はこなしたが、もう少し数多くの問題に取り組めたかもしれない。
(5) 雰囲気・教員の対応	3.43	あわただしく授業を行っていなかったと思うので、随時質問には対応できていたと思う。
(6) 学生の主体性・参加度	3.71	毎回のように遅刻を繰り返す学生がいたが、どの授業でもこのような調子とのことで指導を怠っていたことは反省すべき点である。ただ、全般的には学生は真摯に取り組んでいたと思う。
(7) 小テスト・試験問題	3.71	取り組んでいた演習問題から大きく逸脱したものを出題していたことはなかったが、もう少し、応用問題も含めても良かったかも知れない。
(8) 印象・満足度	3.71	特に可もなく不可もなしといった印象であろうか。繰り返しになるが、機械工学科出身者への対応は検討すべき。
		＊全ての項目に必ずしもコメントする必要はありません。

登録者数Ａ＝　７名：　受験者数Ａ　７名：　単位取得者数Ｂ＝　６名：　比率（Ｂ／Ａ）＝　86%

総括

シラバスに記載されているとおり、定期試験（中間を含む）70%、レポート・小テストを 30%で評価を行った。少人数７名の講義ということで、きめ細やかな指導はできていたと思う。ただ、基礎知識の低い学生に合わせていくことはできなかった。受講生の出身学科によって授業の水準を低くすることはできないので、対応は考えなければならない。場合によっては、学生にそれなりの覚悟を持たせることも必要かと思う。

＊１ページに収まるように記載願います。

（出典：FD委員会資料）

観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

教育の状況に関して学外の意見を求めるため，平成8年度より外部評価委員会を設置し，これまで８回の会議を開催している（資料９－１－③－１）。平成19年12月14日に開催された外部評価委員会では，前回の外部評価委員会の評価及び提言を受けた教育の状況に関する事項について，改善の報告がなされている。

このほか，必要に応じて学外関係者に教育の状況に関するアンケート調査を実施している。たとえば，平成14年10月には本校卒業生に対して，教育と学校運営に関するアンケート調査を行っている。また，平成15年５月には，本校を中核とした産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業55社に対して，アンケート調査（資料９－１－③－２）を実施し，本校の学習・教育目標の妥当性が評価された。さらに平成19年8月には，KTC）会員企業40社および就職先企業300社に対して，教育プログラムの継続的な改善を行う点検・評価の一環として,技術者教育プログラムの内容に関するアンケート（資料９－１－③－３）を実施した。その結果，半数以上の企業が適切,やや適切であると評価しており,本校の学習・教育目標の妥当性が評価された。

観点９－１－③資料一覧

（資料９－１－③－１）外部評価委員会の開催一覧　　出典：総務課資料

（資料９－１－③－２）KTC 会員企業へのアンケート調査と結果　出典：学生課資料

（資料９－１－③－３）KTC 会員企業および修了生就職先企業へのアンケート調査と結果　出典：現専攻科委員会（旧教育プログラム改善委員会）資料

資料９－１－③－１

外部評価委員会（有識者懇談会）の開催一覧

	開催日	名　　称		報告書 発行年月日	公開	製本
平成　3	高専設置基準の一部改正（大綱化と自己点検・評価）					
8	「鹿児島高専と有識者との懇談会」設置					
9	H9.2.3	第１回（平成８年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会				
10	H10.2.9	第２回（平成９年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会				
11	H11.2.8	平成１０年度 鹿児島高専と有識者との懇談会				
12	H12.2.4	平成１１年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	外部評価結果報告	平成１２年２月		自家製本
13	H13.2.28	平成１２年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成１２年度　外部評価結果報告	平成１３年７月		外注製本
15	H15.3.13	平成１４年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成１４年度　外部評価結果報告	平成１５年２月	ウェブページ	外注製本
17	H18.2.7	平成１７年度 鹿児島高専と有識者との懇談会				
19	H19.12.14	平成１９年度 外部評価委員会	平成１９年度　外部評価報告書	平成２０年５月		外注製本

（出典：総務課資料）

資料９－１－③－２

６月１２日（木）現在

KTCへの学習・教育目標アンケート結果

単位：名　　単位：名　　単位：％

	適切	おおむね適切	やや不適切	不適切	無回答	計	適切・おおむね適切	やや不適切・不適切	無回答	計	適切・おおむね適切
目標１	14	14	7	1	2	38	28	8	2	38	74
S1-1	12	16	9	0	1	38	28	9	1	38	74
S1-2	18	14	4	1	1	38	32	5	1	38	84
S1-3	21	12	3	1	1	38	33	4	1	38	87
目標２	18	14	5	0	1	38	32	5	1	38	84
S2-1	12	15	10	1	0	38	27	11	0	38	71
S2-2	23	11	4	0	0	38	34	4	0	38	89
S2-3	18	9	11	0	0	38	27	11	0	38	71
目標３	19	17	2	0	0	38	36	2	0	38	95
S3-1	22	16	0	0	0	38	38	0	0	38	100
S3-2	23	11	4	0	0	38	34	4	0	38	89
S3-3	20	15	3	0	0	38	35	3	0	38	92
目標４	17	16	3	0	2	38	33	3	2	38	87
S4-1	20	12	5	0	1	38	32	5	1	38	84
S4-2	16	15	6	0	1	38	31	6	1	38	82
S4-3	10	19	7	0	2	38	29	7	2	38	76
計	283	226	83	4	12	608	509	87	12	608	84

	37	社回答
－	2	内，２社は回答できないとのこと
＋	3	１社は，４名の回答があった。
	38	回答総数

回答率
67 ％

（出典：学生課資料）

資料９－１－③－３

Ⅳ．学習・教育目標について

現在の教育プログラム「環境創造工学」では、「絶えず変化する社会の要請に応えられる開発型技術者の育成」を目的としています。これを達成するために学習・教育目標として、以下に示す４つの大目標、およびそれぞれの大目標において履修者が到達すべき具体的な３つのサブ目標を掲げています。

以下の学習・教育目標の各項目が、貴社の求める工学技術者を育成する目標として適切に設定されているかを「1.不適切□2.やや不適切□3.どちらでもない□4.やや適切□5.適切」の５段階で評価し、回答欄の番号を○でお囲み下さい。

１．**人類の未来と自然との共存をデザインする技術者**となるために

（１－１）**人類の歴史や文化を理解する。**

（１－２）**人間社会と自然環境とのかかわりを理解する。**

（１－３）**技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。**

２．**グローバルに活躍する技術者**となるために

（２－１）**日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。**

（２－２）**論理的な記述及びプレゼンテーション能力を身につける。**

（２－３）**外国語で意思疎通を行う能力を身につける。**

３．**創造力豊かな開発型技術者**となるために

（３－１）**数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。**

（３－２）**自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。**

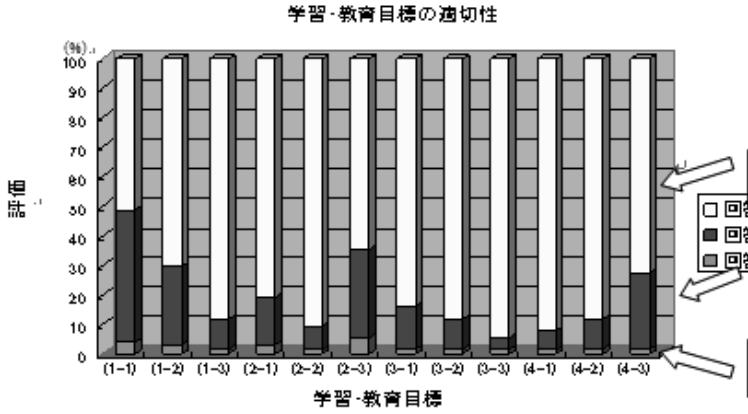
（３－３）**専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。**

４．**相手の立場に立ってものを考える技術者**となるために

（４－１）**人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う。**

（４－２）**技術者が社会に対して負う責任を理解する。**

（４－３）**異文化を理解し尊重する。**



分析：本校の学習・教育目標の設定について、半数以上の企業が適切、やや適切であると評価している。

適切、やや適切

どちらでもない

不適切、やや不適切

改ページ

（出典：現専攻科委員会（旧教育プログラム改善委員会資料））

（分析結果とその根拠理由）

教育の状況に関して学外からの意見を求めるため，外部評価委員会を設置し，これまで８回の会議を開催している。また，企業・進学先・卒業生に対してアンケートを実施し，本校の教育の状況に関する社会の意見・要望を聴取し，この結果をもとに改善に向けての取り組みを行っている。これらの結果は，本校の行う自己・点検評価に適切に反映されている。

観点９－１－④：　各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

準学士課程及び専攻科課程における教育の質の向上，改善を行うためのシステムは（資料９－１－①－２参照）の黒の矢印で示されるPDCAサイクルとして整備されている。準学士課程では中間試験及び定期試験実施後に，成績会議が開催され，教育活動の点検を行い，その結果を受けて教務委員会が改善策の立案を行う。その例として学力の底上げおよび学生の授業出席率の改善事例がある。（資料９－１－①－３～６参照）専攻科課程では専攻科委員会（旧教育プログラム改善委員会）が学習・教育目標の達成状況や学習・教育目標達成のためのカリキュラムに関する評価を行うと共に改善を行う。FD委員会は,学生による授業評価アンケート,校長による授業視察などを計画・実施し,これらの結果などに基づき校長は教員の教育方法について評価を行う。各教員は授業評価アンケート,校長による授業視察の実施結果および教員相互の授業視察で寄せられる意見などを基づき授業改善計画書を作成し改善を実施している。また，準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標の達成度評価については，専攻科委員会（旧教育プログラム改善委員会）が分析を行い，この評価結果を基に，教育プログラム点検会議が改善を提言する。

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会の実施する授業評価アンケート,校長による授業視察などの評価結果に基づき,授業改善計画書の提出による教育の質の向上,改善に結びつけるシステムが整備されている。

以上のことから，各種の評価結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられていると判断される。

観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートの結果や校長による授業視察の評価および教員相互の授業参観で提出されるコメントなどにより,各教員は年２回各学期終了後授業改善計画書（資料９－１－②－５参照）を提出し,授業改善に継続的に取り組んでいる。授業改善計画書では学生による授業評価アンケートにおけるマークシート式の質問項目に対応した「興味を引き出す工夫」,「学生にとってのわかりやすさ」など８つの観点から授業の内容や進度,教授法,シラバスとの整合性などから学生の受講状況などについて自己点検・評価を行い,次年度の授業に向けた改善に取り組む。

各教員の改善活動の状況については,次年度の授業評価アンケートや校長による授業視察および教員相互による授業参観（資料９－１－⑤－１）などを通して,これらの結果（資料９－１－⑤－２）をFD委員会が集約して校長および各教員に報告されており,授業改善のサイクルが確立している。

（分析結果とその根拠理由）

授業評価アンケートや校長による授業視察の評価に基づいて,各教員は年2回授業改善計画書を作成し,授業内容,教材,教授技術等の継続的な改善に取り組んでいる。また,各教員の授業改善活動状況については,次年度の授業評価アンケートや校長による授業参観により校長が把握している。

観点９－１－⑤資料一覧

（資料９－１－⑤－１）Ｈ２１授業視察・授業参観案内　　出典：FD委員会

（資料９－１－⑤－２）Ｈ２１授業視察・参観コメント　　出典：FD委員会

資料９－１－⑤－1

平成 21 年 11 月 9 日

教員各位

平成 21 年度授業視察・参観実施について

校長
ＦＤ委員会

ＦＤ委員会では、本校の授業方法・形態の改善のために『授業参観』並びに『授業視察』を実施しております。今年度も例年通り下記の要領で実施する運びとなりました。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

１．教員相互による授業参観
　参観者：　全常勤教員
　対象者：　全常勤教員
　　参考のために、前期授業評価アンケートで評価の高い教員の方々を挙げておきます。（敬称略）
　　［一般文系］鮫島，田中，中村隆　［一般理系］白坂，篠原
　　［機械］堤本，椎　［電気電子］逆瀬川，前薗
　　［電子制御］荊野，岸田，吉満　［情報］芝　［土木］西留，山内，山田
　期　間：　11 月 9 日（月）～27 日（金）
　概　要：　①2 科目以上を目標に、任意の教員の授業を参観してください。
　　※参観される前に視察する授業担当者へ当日の都合（時間割や教室の変更の有無）や授業形態（通常の授業、演習、テスト、etc）など確認されておいた方が良いかと思います。（配布資料も準備されるかもしれません。）
　　②参観後は、報告書にコメントを記入し、ご提出してください。（本文書と一緒に添付されている“授業参観報告 H21(学科_お名前).xls”をご利用ください。記入後はファイル名の「学科」、「お名前」を記入者の情報に書き換えて、FD 委員長（富屋）へ送信ください。）
　　③FD 委員会にてコメントを集約し、授業担当者にフィードバックします。

２．授業視察
　視察者：　校長
　　他２名程度の教員（教務主事，各学科長，FD 委員）が同行し参観します。
　対象者：　全常勤教員
　　日程に従い、校長の参観可能な時間帯に授業を行っている教員を視察します。
　　（新任教員並びに昨年、一昨年対象とならなかった教員を優先します。）
　期　間：　11 月 16 日（月）～27 日（金）
　概　要：　①日程に従って、20 分程度視察します。
　　②視察同行者は１．の概要②と同じ様式の報告書にコメントを記入し、FD 委員長（富屋）へ送信ください
　　③授業参観のコメント同様、授業担当者にフィードバックします。

※申し訳ありませんが、授業視察の日程につきましては今しばらくお待ちください。

以上

（出典：FD委員会資料）

資料９－１－⑤－２

平成21年度授業視察メモ	11月　16日　2限（ 前半 ・ 後半 ）　記入者　校長	
科目／担当教員	科目：　電磁Ⅰ　担当教員：　室屋教授	
興味を引き出す工夫 （発問、事例や教材の提示等）	良好 （普通） 改善点⇒	メモ 教科書、プリント、板書を併用。 学生への発問を工夫すると良いと思われる。 （学生の顔を見て、眠そうな学生に目を覚ますせる工夫）。
話し方（声の大きさ、口調）	（良好） 普通 改善点⇒	メモ 声は十分大きく、良く聞こえる。
板書（文字や図）の仕方	（良好） 普通 改善点⇒	メモ きれいに板書されている。
質問しやすい雰囲気 （質問には気持ち良く対応した。）	良好 （普通） 改善点⇒	メモ 学生は静かに受講している。 板書のミスを学生が指摘している。 受講態度は概ね良好。
その他 （参考にしたい点など）	メモ プリントを配布し、重要事項を学生が記入するよう空欄が設けている。 （プリントに記入している学生と、ノートに書いている学生と、両方に書いている学生がいる。） 学生数38名	

平成２１年度授業参観報告書

参観日時	11月　17日（　月曜日）　9時40分　～　10時05分（　2時限目）		
クラス・科目	３Ｓ　・　電磁気学	担当教員名	室屋

担当教員へのコメントをご記入ください

・声は大きくて、よいと思います。
・プリントを渡したり、黒板に断面図を書いたりして、わかりやすく説明していると思います。
・板書の文字（特に添え字）が少し小さいと思います。
・寝ている学生がいるので、起こしたほうがよいと思います。
・ノートをとっていない学生がいました。

（出典：FD委員会資料）

観点９－１－⑥：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

本校教員の研究活動を教育内容や教育方法の改善に結びつけている。これらの教育方法の改善についての研究成果は，担当教員の授業科目の内容に反映されている。その一例として，「創造学習を取り入れた電子制御技術への導入教育の充実」を課題とした研究の成果を電子制御工学科１年の工作実習に取り入れたものを資料９－１－⑥－１に示す。また，教員が研究している専門分野を活かして，教科書として執筆し，授業で活用している例もある。

また，準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究においては，指導教員の専門分野の研究を活かした指導が行われ，その成果を学生が学会で発表できるレベルまで内容や質が高められている。

観点９－１－⑥資料一覧

（資料９－１－⑥－１）シラバス「工作実習Ⅰ」　　出典：平成21年度シラバス P302

平成21年度　シラバス	学年・期間・区分	1年次・通年・A群
	対象学科・専攻	電子制御工学科
工作実習Ⅰ (Hands-onTechnical TrainingⅠ)	担当教員	宮田 千加良(Miyata,Chikara) 吉満 真一 (Yoshimitsu,Shinichi)
	教員室	機械科棟１階 (tel 42-9081,9089)
	E-mail	miyata@kagoshima-ct.ac.jp, yosimitu@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 ／ 単位の種別 ／ 単位数	実習 ／ 履修単位 ／ 3単位	
週当たりの学習時間と回数	授業(150分)×30回	

〔本科目の目標〕

各種工作法の基礎実技習得を通して，理論と実際の対比，原理・原則に基づく仕組みの体得，応用力・判断力・総合力の養成を図り，あわせて安全作業の重要性を体得させることを目標とする．また，実習項目に相当する科目の基礎基本のＡを到達目標とする．

〔本科目の位置付け〕

各実習テーマ毎に行われる解説を基に，理論と実際とを総合的に学習していく．２年生以上の工作実習・工学実験および創造設計の基礎となるものである．

〔学習上の留意点〕

実習心得を守り安全に作業すること．実習テーマの終了時に，担当者から実習レポートの提出の指示があるので，指示された日時までに必ず提出すること．また，報告書作成のために実習内容や実習手順等を実習ノートにメモしておくこと．

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限数	授　業　項　目　に　対　す　る　達　成　目　標
１．導入教育	６	工作実習の意義について理解できる． 実習に際しての注意事項と安全対策について理解し，実践できる． 実習報告書の書き方について理解できる．
２．機械加工（旋盤）	１５	機械操作と工具の取扱いについて理解できる． 測定器具の使用法と心出しについて理解できる． 外丸削り，端面削り，段削りについて理解できる． 仕上げ記号について理解できる． ネジ加工について理解できる．
３．鍛造	６	鍛造法の種類及び鍛造用機械,工具類について理解できる． 大ハンマ振りならびに横座と先手の基本作業について修得できる． 加熱材の鍛錬作業について修得できる．
４．鋳造	９	単一型木型による造型基本作業について理解できる． 電気炉によるアルミ・亜鉛鋳物の鋳込み作業について理解できる． 各種鋳物の縮み代測定について理解できる．
５．溶接	１２	溶接の種類及び器具，用具等について理解できる． ガス器具の取扱いについて理解できる． ガス切断・ガス溶接の基本技術を修得できる． アーク溶接・スポット溶接の取り扱いについて理解できる．
６．制御Ⅰ（１）	２１	アルミ材の加工法・組み立てについて理解できる． 操作ボックスの製作と配線について理解できる． 電気回路の基礎的な実験法について修得できる．
７．制御Ⅰ（２）	２１	アームロボットの操作と制御を理解できる． 機械要素の基礎について理解できる． ロボラボ制御プログラムについて理解できる． ロボラボによるモデル製作について理解する．

〔教科書〕　なし

〔参考書・補助教材〕機械工作法Ⅰで使用する教科書，電卓，筆記用具，メモ帳

〔成績評価の基準〕　　レポート評価（５０％）＋実習態度（５０％）

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕　3-c，4-a

〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕

〔JABEEとの関連〕

（出典：平成 21 年度シラバス　P302）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，本校の研究報告や高専教育に掲載された研究成果が，教育内容・方法の改善に活かされている。また，教員の研究分野の知見を活かして教科書が執筆され，授業に活用されている。さらに，卒業研究や特別研究においては，教員の専門分野の研究を活かした指導が行われ，その内容を学会発表ができるレベルまで内容や質を向上させている。このことから，本校では，教員の研究活動が教育の質の改善に寄与していると判断される。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況）

教育の内容および方法の改善については,教育改善システムの中で取り扱っている（資料９－１－①－２参照）。学生および教職員のニーズは,FD委員会の行う学生による授業評価アンケート（資料９－１－②－1～４）や授業改善計画書等（資料９－１－②－５参照）により汲み上げられる。その結果を基に,FD委員会では,教員交流や留学経験者によるFD講演会（資料９－２－①－１）の開催,評価の高い教員を掲げた教員相互の授業参観（資料９－１－⑤－１参照）などを実施している。また,FD委員会と教務委員会をはじめとする他の委員会との連携で,FDに関連する出張報告会や,発達障害のある学生への理解を深めるための教員集会（資料９－２－①－２）なども開催した。

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会では学生や教職員のニーズを学生による授業評価アンケートや授業改善計画書などで汲み上げており,これに基づき講演会や授業参観などを行っている。さらに,教務委員会など他の委員会とも連携して,最新の情報を共有するような教員集会も適宜行っており,組織として適切な方法で実施している。

これらのことから，本校では，ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されていると判断される。

観点９－２－①資料一覧

（資料９－２－①－１）平成２１年度第１回ＦＤ講演会案内　　出典：FD委員会

（資料９－２－①－２）平成２１年度第２回ＦＤ講演会案内　　出典：FD委員会

資料９－２－①－１

題名　　平成21年度第1回FD講演会
差出人　　MUROYA Mitsuhiro

教職員各位

FD委員長の室屋です。
以下のように、FD講演会を開催いたしますので、お知らせいたします。

教職員各位

FD委員会

下記の通り、平成21年度第1回FD講演会を開催いたしますので、ご参集の程
よろしくお願いいたします。

記

日時：　６月２３日（火）　１３：３０～１４：３０
（前期中間試験成績会議・クラスマッチ実施日）

場所：　大講義室（旧階段教室）

講演者：機械工学科　池田 英幸　先生

演題：「久留米高専教員交流報告（仮）」

（出典：FD委員会資料）

資料９－２－①－２

平成21年度第2回FD講演会について（鹿児島高専全職員の方へ）　トップに出す

差出人：教務係(学生課) 2010/1/12(火) 10:23

教職員各位

FD委員会

下記の通り、平成21年度第2回FD講演会を開催いたしますので、
ご参集の程よろしくお願いいたします。

記

日時：　１月１９日（火）　１３：３０～１５：００
（後学期中間試験成績会議・クラスマッチ実施日）

場所：　合併教室

講演内容：教務委員会、学生何でも相談室、FD委員会に
おける出張報告など

その他の操作

トップに出す

検索結果一覧へ

個人設定

サイボウズ(R) Office Version 7.0(0.6 20100104214643)
Copyright (C) 2007 Cybozu, Inc.

（出典：FD委員会資料）

観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートや校長による授業視察やこれらの結果などに基づき作成される授業改善計画書により具体的な授業改善計画が示されており，学生による授業評価アンケートにおいては，「この授業は分かりやすかった」の評価値が高い水準で推移している。

（分析結果とその根拠理由）

授業改善計画書より，各教員が学生による授業評価アンケートや授業視察の結果に対応し，授業改善に取り組んでいることが確認できる。これら授業改善の効果は，次年度の学生による授業評価アンケート結果に表れている。

これらのことから，ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると考えられる。

観点９－２－①資料一覧

（資料９－２－②－１）授業評価アンケート結果の推移　　出典：FD委員会

資料９－２－②－１

表1.「Q2. この授業はわかりやすかった」の平均評価値

	H19前期	H19後期	H20前期	H20後期	H21前期	H21後期
常勤	3.46	3.42	3.54	3.52	3.45	3.61
非常勤	3.26	3.22	3.35	3.35	3.37	3.50
全教員	3.42	3.38	3.50	3.49	3.44	3.60

（出典：FD委員会資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 教育活動の実態を示すデータや資料等として，シラバスをはじめとして教材や成績の根拠となる証拠資料の収集・蓄積が，組織的に行われている点
- 成績会議の定期的な開催，及び「学生による授業評価アンケート」，「校長による授業視察」と授業改善計画書の提出によるその定期的・継続的なフィードバックの実施など，教育の状況について評価を適切に実施する体制が十分整備されている点
- 各種評価結果を教育の質の向上と改善に結び付ける複数のPDCAサイクルが「教育改善システム」として整備されている点
- 全教員の授業視察や視察報告の教員集会，教員アンケートによる各教員の教育改善への取り組み状況の把握や，英語教育検討小委員会による指導内容の検討など，教員の資質向上を図る取り

組みを組織として行っており，これが教育の質の向上や授業の改善に結び付いている点

・　FD講演会をはじめとする教員集会の適宜実施による教育上の課題に対する情報の共有や問題解決に向けての協力体制が整備されている点

（改善を要する点）

特になし

（３）基準９の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータとして，基礎・基本，シラバス，試験答案，学業成績一覧，授業評価アンケート調査結果等を収集・蓄積する体制が整備され，適切に保管されている。また，これらのデータを用いて評価を実施する評価機関としてFD委員会，自己点検・評価委員会，外部評価委員会，成績会議が整備されている。

本校では,学生による授業評価アンケートにより学生の意見が収集されており,その評価・分析がなされ,自己点検・評価に適切な形で反映されている。また,学外からの意見を求めるため,外部評価委員会を設置している他,企業・進学先・卒業生に対してアンケートを実施し,本校の教育の状況に関する社会の意見・要望を収集し,その結果は自己点検・評価に適切に反映されている。

準学士課程及び専攻科課程では，成績会議，　FD委員会を評価機関，教務委員会，専攻科委員会，教育プログラム点検会議を改善機関とした教育の質の向上・改善のためのシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられている。

学生による授業評価アンケートや校長による授業視察の評価が実施され,その結果はFD委員会により集約され,各教員にフィードバックされる。各教員はこれらの結果や教員相互の授業参観で寄せられた意見などに基づき,各教員は授業改善計画書を作成し,FD委員会を通じて校長に提出している。これらは,定期的・継続的に実施されており,授業改善の状況は学校に把握されている。

教員の教育研究の成果が，教育内容・方法の改善に活かされている例や，教員の研究分野の知見を活かして教科書が執筆され，授業に活用されている例もある。さらに，卒業研究や特別研究においては，教員の専門分野の研究を活かした指導が行われている。

ファカルティ・ディベロプメントについては,FD委員会が中心となって教務委員会他と連携するなどして,学生による授業評価アンケート,校長による授業視察,教員相互の授業参観,FD講演会などを実施している。各教員は授業評価アンケートの結果や校長による授業視察の評価などに基づき授業改善計画書を提出し,次年度の教育改善に向けた取り組みを行っている。また,教員集会の実施により,教育上の課題に対する情報の共有や問題解決に向けての協力体制が整備されているなど,教育の質の向上や授業改善に寄与していると考えられる。

基準１０　財務

（１）観点ごとの分析

観点１０－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

平成21年度期末の資産合計は4,927,937千円（流動資産118,335千円，固定資産4,809,602千円）である。負債合計は766,542千円（流動負債294,079千円，固定負債472,463千円），純資産（資本）合計は4,303,320千円であり，負債資本合計は5,069,862千円である。

負債のうち，未払金・未払費用・長期未払金が計251,492千円で負債合計の32.8％であり，独立行政法人会計基準に基づく固有の会計処理による負債科目（返済を要しない負債）である資産見返負債が454,504千円で負債合計の59.3％である。これらを合わせると負債合計の92.1％を占めている。

また，本校の運営費は，国からの運営費交付金，自己収入（授業料収入等），外部資金等により賄われており，短期借入及び長期借入は行っていない。（資料１０－１－①－１）

なお，固定資産のうち独立行政法人化に伴い国から承継した資産は3,781,746千円であり，固定資産合計の78.7％を占めている。（資料１０－１－①－２）

観点１０－1－①資料一覧

（資料１０－１－①－１）貸借対照表（平成21年度）　出典：総務課資料

（資料１０－１－①－２）取得財源別固定資産一覧表（平成21年度）　出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

本校の資産は，独立行政法人化の際，本校の教育研究活動を遂行するために必要な土地・建物等全ての資産を国から承継しており，本校の資産の基盤となっている。法人化後も運営費交付金等を財源として資産を取得し，資産が増加している。

また，本校の負債は，運営費交付金等で支払う未払金・未払費用・長期未払金，及び独立行政法人会計基準に基づく固有の会計処理による負債科目（返済を要しない負債）である資産見返負債が大半を占めており，借入も行っていないため，負債の状況は健全である。

以上のことから，本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しており，債務も過大ではないと判断する。

資料１０－１－①－１

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日　～　平成22年 3月31日

（単位：円）

［資産の部］			
流動資産			
現金及び預金			
現金		0	
当座預金		0	
普通預金		21,961,332	
定期預金		200,201	
その他預金		0	22,161,533
有価証券			
有価証券		0	0
受取手形			
受取手形		0	0
未収学生納付金収入			
未収学生納付金収入（授業料）		0	
未収学生納付金収入（入学金）		507,600	507,600
棚卸資産			
未成研究支出金		348,569	
未成事業支出金		0	
貯蔵品		0	348,569
未収入金			
未収入金		95,288,606	95,288,606
前渡金			
前渡金		0	0
前払費用			
前払費用			
法定福利費	0		
未経過賃借料	0		
未経過保険料	28,317		
未経過支払利息	0	28,317	
その他の前払費用		0	28,317
未収収益			
未収収益		0	0
短期貸付金			
短期貸付金		0	0
その他の流動資産			
仮払金			

1 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

仮払消費税	0		
旅費仮払	0	0	
立替金		0	
その他流動資産		0	0
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産			
建物			
建物	1,942,154,440		
建物附属設備	757,957,622	2,700,112,062	
建物減価償却累計額		-1,004,707,064	
建物減損損失累計額		0	
構築物		428,029,080	
構築物減価償却累計額		-179,428,801	
構築物減損損失累計額		0	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
機械装置減損損失累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
船舶減損損失累計額		0	
車両運搬具		8,518,984	
車両運搬具減価償却累計額		-7,505,770	
車両運搬具減損損失累計額		0	
工具器具備品		516,078,526	
工具器具備品減価償却累計額		-264,986,130	
工具器具備品減損損失累計額		0	
土地		2,600,200,000	
土地減損損失累計額		0	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		12,000,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	
その他の有形固定資産減損損失累計額		0	4,808,310,887

2 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

無形固定資産			
特許権		0	
借地権		0	
商標権		0	
実用新案権		0	
意匠権		0	
ソフトウェア		1	
電話加入権		75,000	
その他の無形固定資産		0	
著作権		0	
特許権仮勘定		1,181,282	1,256,283
投資その他の資産			
投資有価証券		0	
長期貸付金		0	
長期前払費用		5,479	
未収財源措置予定額		0	
長期性預金		0	
敷金・保証金		0	
長期未収入金		0	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに		0	
その他の投資その他の資産		29,730	35,209
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
［資産の部］合計			4,927,937,004
［本支店勘定］			
［本支店］函館工業高専	0		
［本支店］苫小牧工業高専	0		
［本支店］釧路工業高専	0		
［本支店］旭川工業高専	0		
［本支店］八戸工業高専	0		
［本支店］一関工業高専	0		
［本支店］宮城工業高専	0		
［本支店］仙台電波工業高専	0		
［本支店］秋田工業高専	0		
［本支店］鶴岡工業高専	0		
［本支店］福島工業高専	0		

3 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日　～　平成22年 3月31日

（単位：円）

[本支店]茨城工業高専	0
[本支店]小山工業高専	0
[本支店]群馬工業高専	0
[本支店]木更津工業高専	0
[本支店]東京工業高専	0
[本支店]長岡工業高専	0
[本支店]富山工業高専	0
[本支店]富山商船高専	0
[本支店]石川工業高専	0
[本支店]福井工業高専	0
[本支店]長野工業高専	0
[本支店]岐阜工業高専	0
[本支店]沼津工業高専	0
[本支店]豊田工業高専	0
[本支店]鳥羽商船高専	0
[本支店]鈴鹿工業高専	0
[本支店]舞鶴工業高専	0
[本支店]明石工業高専	0
[本支店]奈良工業高専	0
[本支店]和歌山工業高専	0
[本支店]米子工業高専	0
[本支店]松江工業高専	0
[本支店]津山工業高専	0
[本支店]広島商船高専	0
[本支店]呉工業高専	0
[本支店]徳山工業高専	0
[本支店]宇部工業高専	0
[本支店]大島商船高専	0
[本支店]阿南工業高専	0
[本支店]高松工業高専	0
[本支店]詫間電波工業高専	0
[本支店]新居浜工業高専	0
[本支店]弓削商船高専	0
[本支店]高知工業高専	0
[本支店]久留米工業高専	0
[本支店]有明工業高専	0

4 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

[本支店]北九州工業高専	0		
[本支店]佐世保工業高専	0		
[本支店]熊本電波工業高専	0		
[本支店]八代工業高専	0		
[本支店]大分工業高専	0		
[本支店]都城工業高専	0		
[本支店]鹿児島工業高専	0		
[本支店]沖縄工業高専	0		
[本支店]機構本部（支店）	0		
[本支店]機構本部（統括）	-6,272,711		
[本支店]機構本部　管理課	148,197,435		
[本支店勘定]合計			141,924,724
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
授業料債務			0
承継剰余金債務			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			37,981,496
前受受託研究費等			
前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	1,500,000	1,500,000	1,500,000
前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
１年以内返済予定長期借入金			0
未払金			
退職金		61,576,248	
リース債務		7,958,925	
その他未払金		152,138,862	221,674,035

5 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日　～　平成22年 3月31日

（単位：円）

未払消費税等			0
未払費用			
給与		4,994,416	
社会保険料		233,727	
労働保険料		0	
賃借料		209,727	
水道光熱費		2,046,830	
未払利息		64,630	
その他未払費用		4,309,215	11,858,545
前受金			0
預り金			
科学研究費		1,456,310	
社会保険料		0	
労働保険料		0	
源泉所得税		42,505	
住民税		0	
職員宿舎貸付料		0	
補助金等返還		0	
その他預り金		19,565,892	21,064,707
前受収益			
前受利息		0	
その他前受収益		0	0
引当金			
賞与引当金		0	
修繕引当金		0	
損害補償損失引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の流動負債			
仮受金		0	
その他の流動負債		0	0
固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	276,027,907		
資産見返授業料	77,475,158	353,503,065	
資産見返補助金等		91,611,954	

6 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

資産見返寄附金		5,526,549	
資産見返物品受贈額		2,681,246	
建設仮勘定見返運営費交付金等			
建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等			
特許権仮勘定見返運営費交付金	1,181,282		
特許権仮勘定見返授業料	0	1,181,282	
特許権仮勘定見返補助金等		0	
特許権仮勘定見返寄附金		0	454,504,096
長期預り補助金等			0
長期預り寄附金			0
長期前受受託研究費等			
長期前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			17,959,404
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
［負債の部］合計			766,542,283
［純資産の部］			
資本金			
政府出資金			5,036,702,136

7 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－１続き

事業年度：	21年度
支部：	50_鹿児島工業高等専門
会計区分：	国立高専機構
部　　署：	総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：	総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：	総括

貸借対照表

平成21年 4月 1日　～　平成22年 3月31日

（単位：円）

その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			
資本剰余金施設費		572, 664, 215	
資本剰余金運営費交付金		0	
資本剰余金授業料		0	
資本剰余金補助金等		0	
資本剰余金寄附金		10, 000, 000	
資本剰余金目的積立金		8, 044, 470	
資本剰余金譲与		2, 225, 000	
その他の資本剰余金		0	592, 933, 685
損益外減価償却累計額			-1, 180, 692, 227
損益外減損損失累計額			-150, 000
損益外固定資産除売却差額			-145, 100, 463
利益剰余金			
前中期目標期間繰越積立金			0
目的積立金			
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金		0	
目的積立金		0	
目的積立金		0	0
積立金			0
当期未処分利益			-373, 686
繰越欠損金			
当期未処理損失			0
その他の有価証券評価差額金	0		
［純資産の部］合計			4, 303, 319, 445
資本・負債の部合計			5, 069, 861, 728

8 / 8

（出典：総務課資料）

資料１０－１－①－２

取得財源別固定資産一覧表（平成21年度）

（単位：円）

勘定科目		国から承継	運営費交付金	授業料	受託研究等	寄附金	補助金	施設費	目的積立金	合計
有形固定資産	建物	1,047,945,556	142,129,647	16,973,626	0	0	0	488,356,169	0	1,695,404,998
	構築物	128,844,249	61,207,256	12,415,173	0	0	0	46,133,601	0	248,600,279
	車両運搬具	3	0	0	0	1,013,211	0	0	0	1,013,214
	工具器具備品	2,681,247	92,003,304	54,194,113	9	4,513,338	91,611,954	4,244,905	1,843,526	251,092,396
	土地	2,600,200,000	0	0	0	0	0	0	0	2,600,200,000
	その他の有形固定資産	2,000,000	0	0	0	10,000,000	0	0	0	12,000,000
	小計	3,781,671,055	295,340,207	83,582,912	9	15,526,549	91,611,954	538,734,675	1,843,526	4,808,310,887
無形固定資産	ソフトウェア	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	電話加入権	75,000	0	0	0	0	0	0	0	75,000
	特許権仮勘定	0	1,181,282	0	0	0	0	0	0	1,181,282
	小計	75,001	1,181,282	0	0	0	0	0	0	1,256,283
その他	長期前払費用	0	0	5,479	0	0	0	0	0	5,479
	その他の投資その他の資産	0	0	0	0	29,730	0	0	0	29,730
	小計	0	0	5,479	0	29,730	0	0	0	35,209
固定資産　合計		3,781,746,056 (78.7%)	296,521,489 (6.2%)	83,588,391 (1.7%)	9 (0.0%)	15,556,279 (0.3%)	91,611,954 (1.9%)	538,734,675 (11.2%)	1,843,526 (0.0%)	4,809,602,379 (100.0%)

（出典：総務課資料）

観点１０－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継　　続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の収入は，国からの運営費交付金，施設整備費補助金及びその他の補助金のほか，自己収入（授業料収入・入学金収入等）及び外部資金収入（産学連携等研究収入・寄附金収入等）から構成されている。

これらの収入のうち，経常的収入である運営費交付金，自己収入及び外部資金収入の過去3ヵ年度平均は，それぞれ運営費交付金が1,206,923千円,自己収入が273,059千円,外部資金収入が64,539千円である。自己収入については，中学校訪問・１日体験入学・出前授業等を実施して入学者の確保に努めており，学生数及び志願倍率の大幅な変化などがないことから，安定した収入を得ている。また，外部資金収入の獲得にも努めており，産学連携等研究収入や寄附金収入についても，安定した収入を得ている（資料１０－１－②－１～３）。

なお，運営費交付金は，高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額や退職金等の特殊要因経費を除き，効率化減が図られているため，自己収入及び外部資金収入の増収に努めている。

観点１０－１－②資料一覧

（資料１０－１－②－１）	平成19－21年度決算報告書（収入の部）	出典：総務課資料
（資料１０－１－②－２）	平成19－21年度入学志願者及び入学者	出典：学校要覧（平成21年度）
（資料１０－１－②－３）	平成19－21年度学生定員及び現員	出典：学校要覧（平成19－21年度）

（分析結果とその根拠理由）

本校の収入は，国からの運営費交付金等のみに依存せず，自己収入及び外部資金収入の獲得に努めており，安定した収入を得ている。

以上のことから，本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されていると判断する。

資料１０－１－②－１

決　算　報　告　書　（　収　入　の　部　）

（単位：　円）

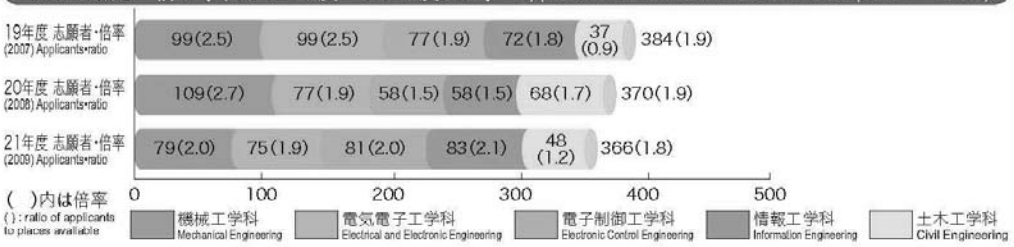
区　　分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	3ヵ年度平均
運営費交付金	1,185,210,259	1,288,705,045	1,146,854,214	1,206,923,172
施設整備費補助金	0	391,703,060	187,853,940	193,185,666
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費	22,944,750	0	0	7,648,250
自己収入	269,006,620	273,879,924	276,289,630	273,058,724
授業料収入	235,186,500	236,887,350	241,325,200	237,799,683
入学金収入	20,557,800	20,811,600	21,234,600	20,868,000
検定料収入	7,111,500	7,078,500	6,435,000	6,875,000
雑収入	6,150,820	9,102,474	7,294,830	7,516,041
職員宿舎貸付料収入	1,390,089	1,132,820	1,081,786	1,201,565
寄宿料収入	3,647,500	3,466,300	3,692,100	3,601,966
その他収入	1,113,231	4,503,354	2,520,944	2,712,509
学校財産貸付料収入	1,097,031	1,103,329	1,183,504	1,127,954
刊行物売払代	0	0	0	0
講習料	16,200	40,500	40,500	32,400
不用物品売払代	0	1,119,525	1,155,940	758,488
弁償及違約金	0	0	0	0
受取保険料	0	0	0	0
助成金等収入	0	0	0	0
雑　入	0	2,240,000	141,000	793,666
外部資金収入	71,593,485	63,038,750	58,985,461	64,539,232
産学連携等研究収入	49,375,685	46,948,750	39,597,900	45,307,445
受託研究収入	15,951,985	14,097,650	7,500,000	12,516,545
共同研究収入	12,950,000	12,925,000	7,380,000	11,085,000
受託事業収入	0	0	0	0
受託試験収入	17,893,700	14,440,100	15,184,400	15,839,400
版権及び特許権等収入	0	0	0	0
間接経費収入（科学研究費分）	2,580,000	5,486,000	9,533,500	5,866,500
寄附金収入	22,217,800	16,090,000	19,387,561	19,231,787
その他補助金	23,800,000	44,480,000	113,649,606	60,643,202
目的積立金取崩	0	0	0	0
計	1,572,555,114	2,061,806,779	1,783,632,851	1,805,998,246

（出典：総務課資料）

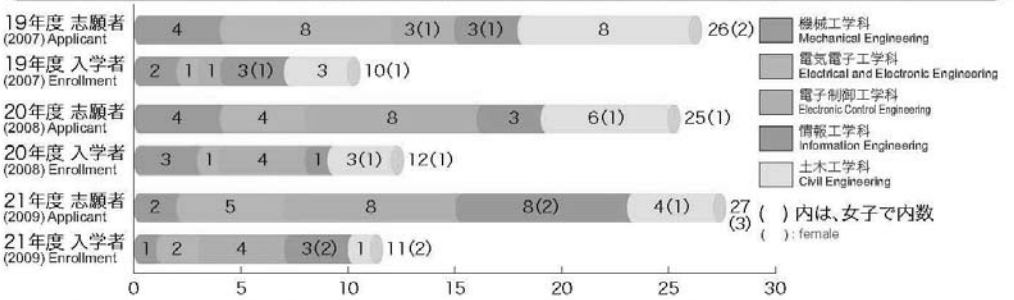
資料１０－１－②－２

学　生 Students

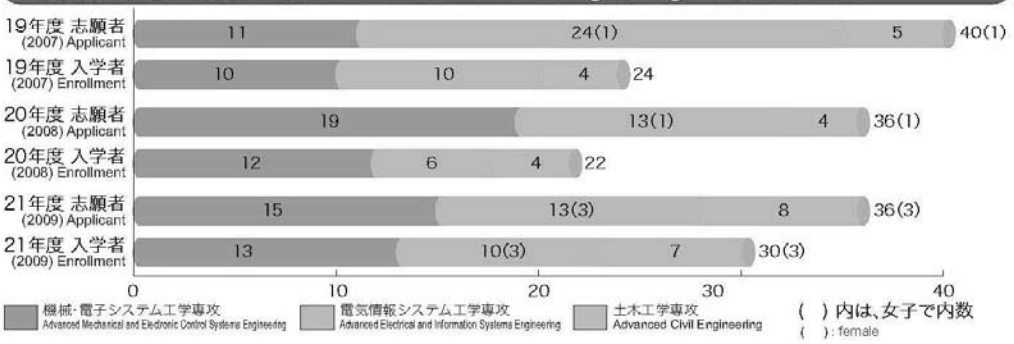
入学志願者・倍率（平成19年度～21年度入学） Applicants for Entrance Examination (2007 ～ 2009)



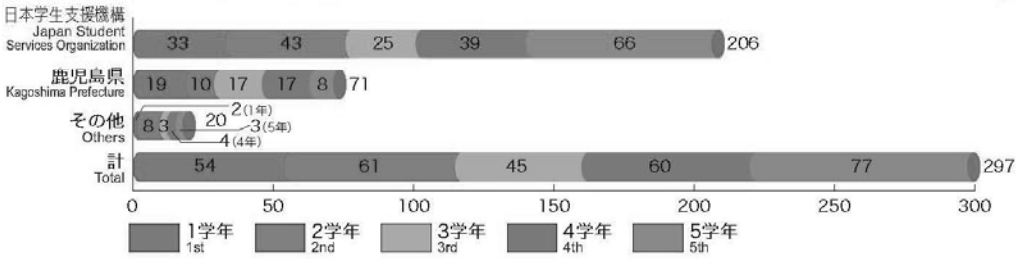
編入学志願者及び編入学者数（第４学年） Number of Transfer Students (the 4th year)



専攻科入学志願者及び入学者 Number of Advanced Engineering Course Students



奨学生（平成21年３月現在） Scholarship students (As of March 2009)



研究生・聴講生 Research Students・Auditors

本校には、高専を卒業した者と同等以上の能力のある者を受け入れる研究生及び高等学校を卒業した者と同等以上の能力がある者を受け入れる聴講生の制度がある。

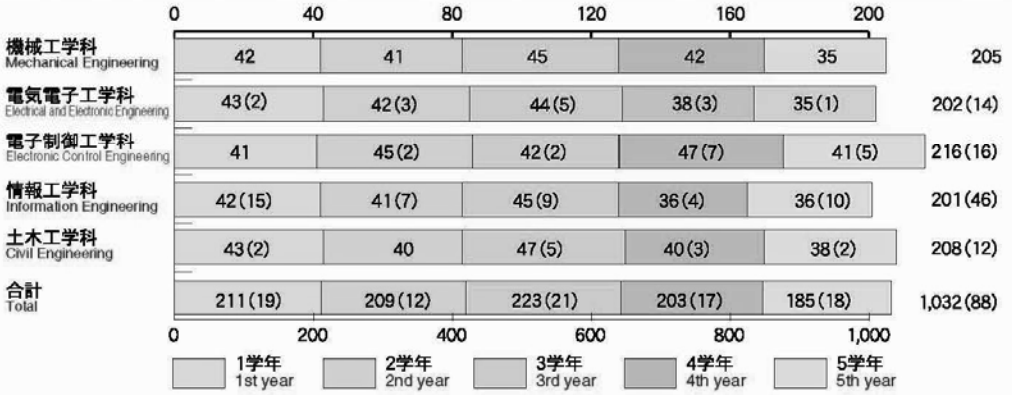
Kagoshima Kosen accepts outside students if their academic ability is the same as Kosen graduates. Those who are academically equivalent to high school graduates can enter Kagoshima Kosen as auditors.

（出典：学校要覧（平成19－21年度））

資料１０－１－②－３

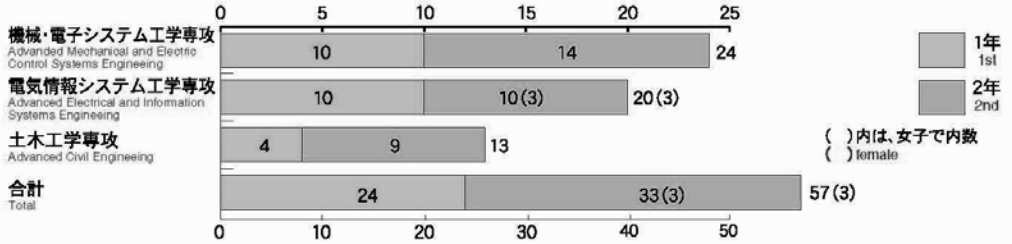
学生
Students

学科別定員及び現員（平成19年５月現在）　Admissions and Current Enrollment (As of May 2007)



入学定員　各学科40名　（　）内は、女子で内数　Annual admission: 40 students in each dept. ( ) female

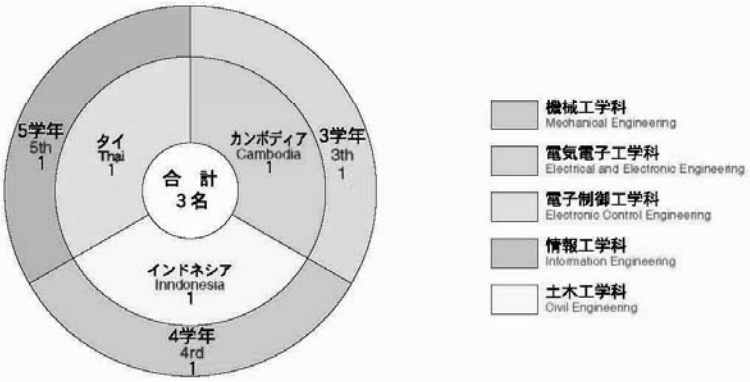
専攻科定員及び現員（平成19年５月現在）　Admissions and Current Enrollment (As of May 2007)



入学定員　機械・電子システム工学専攻　８名
電気情報システム工学専攻　８名
土木工学専攻　４名

Annual admission : Advanced Mechanical and Electric Control Systems Engineering
Advanced Electrical and Information Systems Engineering
Advanced Civil Engineering

外国人留学生（平成19年５月現在）　Foreign Students (As of May 2007)



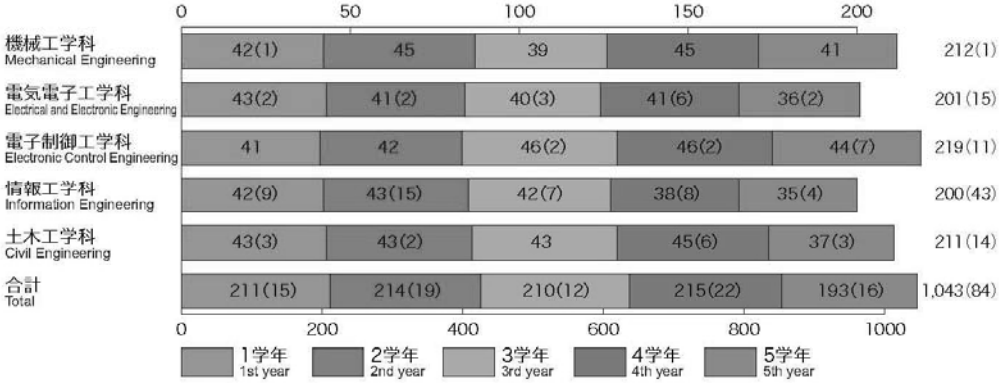
46

（出典：学校要覧（平成 19 年度））

資料１０－１－②－３続き

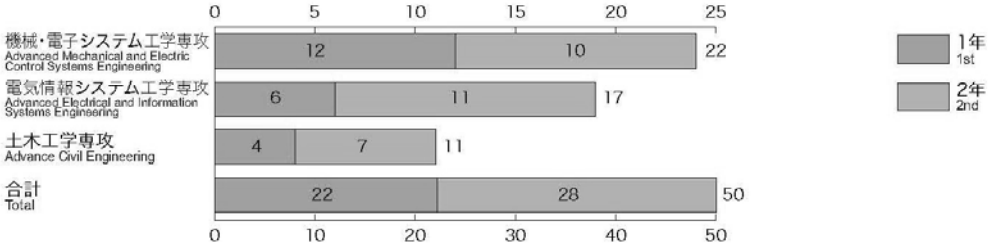
学　生 Students

学科別定員及び現員（平成 20 年 4 月現在） Admissions and Current Enrollment (As of April 2008)



入学定員　各学科40名　（　）内は、女子で内数　Annual admission: 40 students in each dept. ( ) female

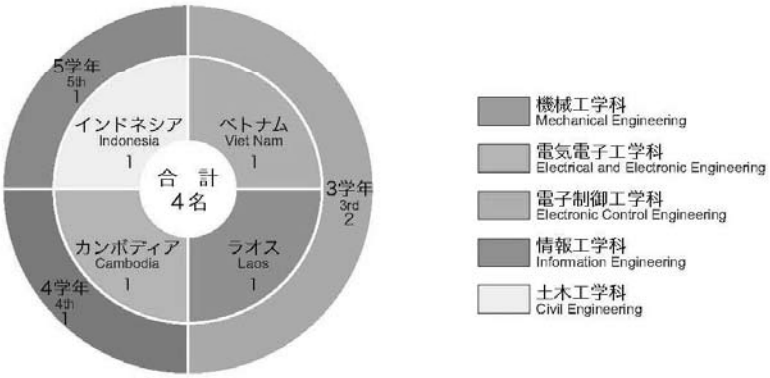
専攻科定員及び現員（平成 20 年 4 月現在） Admissions and Current Enrollment (As of April 2008)



入学定員　機械・電子システム工学専攻　8名
電気情報システム工学専攻　8名
土木工学専攻　4名

Annual admission : Advanced Mechanical and Electric Control Systems Engineering 8 students
Advanced Electrical and Information Systems Engineering 8 students
Advanced Civil Engineering 4 students

外国人留学生（平成 20 年 4 月現在） Foreign Students (As of April 2008)



（出典：学校要覧（平成 20 年度））

資料１０－１－②－３続き

学　生 Students

学科別定員及び現員（平成 21 年４月現在） Admissions and Current Enrollment (As of April 2009)

学　科 Departments	入学定員 Annual admission	1学年 1st year	2学年 2st year	3学年 3st year	4学年 4st year	5学年 5st year	合　計 Total
機械工学科 Mechanical Engineering	40	42(1)	43(1)	43	39	43	210(2)
電気電子工学科 Electrical and Electronic Engineering	40	43(1)	42(2)	42(2)	40(3)	39(5)	206(13)
電子制御工学科 Electronic Control Engineering	40	41(2)	40	40	52(2)	44(2)	217(6)
情報工学科 Information Engineering	40	45(15)	42(9)	38(15)	39(9)	38(8)	202(56)
土木工学科 Civil Engineering	40	43(4)	45(3)	41(2)	43(1)	42(4)	214(14)
合　計 Total		214(23)	212(15)	204(19)	213(15)	206(19)	1,049(91)

（　）内は、女子で内数　(　) female

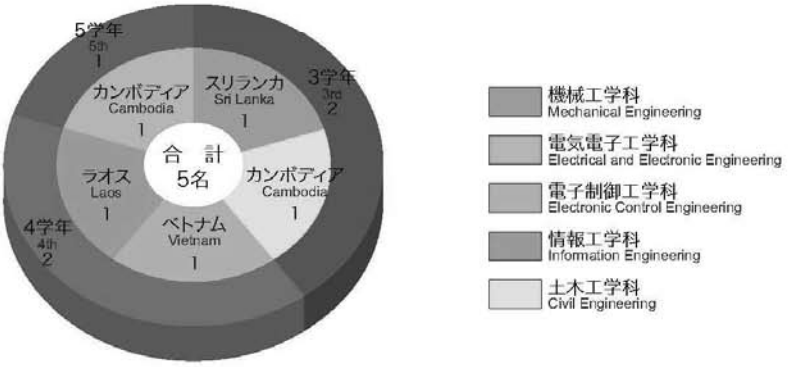
専攻科定員及び現員（平成 21 年４月現在） Admissions and Current Enrollment (As of April 2009)

専攻科 Advanced Engineering Courses	入学定員 Annual admission	1学年 1st year	2学年 2st year	合　計 Total
機械・電子システム工学専攻 Advanced Mechanical and Electric Control Systems Engineering	8	13	12	25
電気情報システム工学専攻 Advanced Electrical and Information Systems Engineering	8	11	5	16
土木工学専攻 Advance Civil Engineering	4	7	6	13
合　計 Total		31	23	54

入学定員　機械・電子システム工学専攻　８名
電気情報システム工学専攻　８名
土木工学専攻　４名

Annual admission : Advanced Mechanical and Electric Control Systems Engineering 8 students
Advanced Electrical and Information Systems Engineering 8 students
Advanced Civil Engineering 4 students

外国人留学生（平成 21 年４月現在） Foreign Students (As of April 2009)



（出典：学校要覧（平成 21 年度））

観点１０－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る　計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の予算は，高専機構の中期計画及び年度計画において定められた予算計画，収支計画及び資金計画に基づき，機構本部から配分される。配分された予算について，当該事業年度の校内予算編成・配分方針（案）及び校内予算（案）を作成し，予算協議会及び運営会議の審議を経て，決定している（資料１０－２－①－１～３）。

予算協議会は，各学科の代表者，総務課長及び総務課長補佐（財務担当）で構成されており，また，運営会議は，校長，副校長，校長補佐，校長特別補佐,事務部長，総務課長及び学生課長で構成されている。この両会議での審議を経て，各学科等の意見を踏まえた予算編成を行っている。

なお，決定した校内予算は，校務連絡協議会に報告され，学科長等から教職員に周知されている（資料１０－２－①－４）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の予算は，高専機構の中期計画及び年度計画に基づき配分された予算について，校内予算編成・配分方針（案）及び校内予算（案）を作成し，予算協議会及び運営会議の審議を経て，決定している。また，決定した校内予算は，校務連絡協議会を通じて教職員に周知されている。

以上のことから，学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されていると判断する。

観点１０－２－①資料一覧

（資料１０－２－①－１）中期計画及び年度計画　出典：高専機構Ｗｅｂサイト

（資料１０－２－①－２）平成21年度校内予算編成・配分方針　出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料

（資料１０－２－①－３）平成21年度校内予算　出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料

（資料１０－２－①－４）平成21年度校内予算の報告（校務連絡協議会）

出典：平成21年度第4回校務連絡協議会議事要旨（抜粋）

資料１０－２－①－１

国立高専機構 >> 機構の事業 >> 情報公開

独立行政法人 国立高等専門学校機構
Institute of National Colleges of Technology, Japan

KOSEN 国立高等専門学校機構
サイトマップ | ENGLISH

- HOME
- 小中学生・保護者の方へ
- 在校生・保護者の方へ
- 卒業生の方へ
- 企業・一般の方へ

機構の事業　情報公開ご案内　リストへ戻る

◆各種資料 ◆個人情報の取扱 ◆セキュリティポリシー ◆研究不正対応
◆法人文書公開システム

各種資料

情報公開の案内

- 請求書式
- 関係法令等

組織に関する情報

- 組織運営体制・機能（図）
- 役員名簿（22.9.1） NEW
- 役員名簿（22.4.1）
- 役職員の報酬・給与等について
  - 平成２２年度公表 NEW
  - 平成２１年度公表
  - 平成２０年度公表
  - 平成１９年度公表

はじめての方へ
- 高専って？
- 機構の事業

進化する高専
- 新モデルの高専
- 新しい奨学金の創出

技術・教育支援情報
- 技術支援センター
- 産学地域連携・共同研究
- 技術者育成
- インターンシップ
- 公開講座、理科教室・科学教室
- ベンチャー支援

教育・広報関連情報
- 書籍・記事
- 広報誌
- GP
- プロジェクト

http://www.kosen-k.go.jp/information.html (1/5) [2010/10/19 18:31:49]

国立高専機構 >> 機構の事業 >> 情報公開

- 平成１８年度公表
- 平成１７年度公表
- 評価結果の役員人事への反映状況について
  - 平成２０年度公表
- 独立行政法人国立高等専門学校機構役員給与規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構役員退職手当規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員退職手当規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員給与規則

業務に関する情報

【第２期】
- 中期目標
- 中期計画
- 年度計画
  - 平成２２年度 NEW
  - 平成２１年度
- 事業報告書
  - 平成２１年度／資料編 NEW

【第１期】
- 中期目標
- 中期計画
- 年度計画
  - 平成２０年度
  - 平成１９年度
  - 平成１８年度
  - 平成１７年度
  - 平成１６年度
- 業務方法書
- 事業報告書
  - 第１期中期目標期間
  - 平成２０年度／資料編
  - 平成１９年度／資料編
  - 平成１８年度／資料編

- フォーラム
- 留学生・国際交流

職員関連ほか情報
- 工事・調達情報
- 役員公募
- 教職員採用
- 高専職員のページ
- KOALA
- 業務一元化
- 同窓会

http://www.kosen-k.go.jp/information.html (2/5) [2010/10/19 18:31:49]

（出典：高専機構Ｗｅｂサイト「中期計画」「年度計画」（http://www.kosen-k.go.jp/information.html））

資料１０－２－①－２

平成２１年度校内予算配分について（案）

【平成２１年度当初予算配分概要】

高専機構の運営費については、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教職員の給与費相当額及び特別教育研究経費並びに特殊要因経費を除き、△１％（一般管理費については△３％）の効率化をはかることとされている。

この影響額は高専機構全体（平成２１年度予算）では５１５百万円の減額となっている。

この額は、当初配分において反映されており、事項により削減率（効率化率）が異なっている。

【校内予算編成・配分方針】

１　校内予算は透明性を確保し、運営費交付金・自己収入による収入に基づき編成する。

２　収入予算に変更があった場合、余剰金が発生した場合、その他緊急に対応しなければならない事案が発生した場合のほか、校長が必要と認めた時は運営会議又は予算協議会を招集し補正予算を編成する（追加配分があった場合も同様とする）。

３　予備費係数は３％とする。ただし、人件費・事項指定経費（ひも付き経費）にかかる配分事項（オレンジ書き部分）については、効率化係数を掛けない。

４　予算配分において収入額（学生納付金以外）に不足を生じた場合は、当該年度の配分予算の節約（予備費）で対応する。

なお、不足を生じなかった場合は、別途予算編成を行い、追加配分を行う。

５　附属施設等経費は、本年度については、前年度配分額を参考に配分するものとする（図書館運営費、学生図書購入費を除く）。

次年度以降については、各施設等の当該年度事業計画に基づく所要見込額を調査し、これに前年度決算額と全校予算配分総額を勘案して、配分額（案）を作成するものとする。

６　校長裁量経費の特別裁量枠を設け、配分調整（予算要求に基づく配分決定等）を行い、重点配分する。

（出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料）

資料１０－２－①－３

本 校 当 初 配 分 事 項

（単位：千円）

事　項		平成20年度配分額	平成21年度配分額	対前年度増減額	備　考
Ⅰ	人件費				
1	常勤教職員人件費	883,282	847,207	△ 36,075	平成20年度分には休職者給与1,176千円を含む
2	退職手当	139,022	61,964	△ 77,058	
3	超過勤務手当	15,295	17,203	1,908	平成21年度分には休日給相当分2,220千円を含む（平成20年度は追加配分事項）
Ⅱ	学科等教育研究経費				
4	教育研究基盤経費	57,563	63,746	6,183	担任経費、卒研経費、学生実習実験経費、専攻科生特別研究費を含む
5	専攻科担当教員研究費	1,229	1,500	271	
6	非常勤講師人件費	23,408	24,759	1,351	
7	学校医人件費	1,281	1,543	262	
8	非常勤講師等旅費	2,635	2,748	113	
Ⅲ	附属施設等経費				
9	図書館運営費		2,750	2,750	必要所要事項（共通管理経費）から移管【H20配分額　3,800千円】
10	学生用図書購入費	1,252	1,109	△ 143	
11	専攻科学生図書購入費		300	300	校長裁量経費から移管【H20配分額　300千円】
12	情報教育システムセンター運営費		3,300	3,300	必要所要事項（共通管理経費）から移管【H20配分額　3,300千円】
13	地域共同テクノセンター運営費		3,000	3,000	必要所要事項（共通管理経費）及び校長裁量経費から移管【H20配分額　3,000千円】
14	技術室運営費		1,200	1,200	校長裁量経費から移管【H20配分額　1,200千円】
15	実習工場運営費		500	500	校長裁量経費から移管【H20配分額　500千円】
16	何でも相談室運営費		900	900	校長裁量経費から移管【H20配分額　900千円】
17	広報委員会経費		1,000	1,000	校長裁量経費から移管【H20配分額　1,000千円】
18	安全衛生委員会経費		500	500	校長裁量経費から移管【H20配分額　500千円】
※	教育研究設備維持運営費	4,243		△ 4,243	必要所要事項（共通管理経費）へ移管
Ⅳ	校長裁量経費				
19	校内研究助成金	8,000	8,000	0	
20	校長特別裁量枠	0	4,500	4,500	
21	在外研究員（H20採択者分）校内助成	0	1,000	1,000	
※	校長特別裁量枠、附属施設等経費、全校共通経費への移管事項分	13,317		△ 13,317	
Ⅴ	全校共通経費				
22	必要所要事項（共通管理経費）	158,011	161,315	3,304	
23	在外研究員（H20採択者分）機構本部助成		1,867	1,867	校長裁量経費から移管【H20配分額　114千円】
24	赴任旅費	662	0	△ 662	平成21年度は追加配分事項
25	予備費	3,176	7,305	4,129	
計		1,312,376	1,219,216	△ 93,160	

（出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料）

資料１０－２－①－４

平成２１年度第４回校務連絡協議会議事要旨

日　時：平成２１年7月２４日（金）１３：３０～１５：３０
場　所：管理棟大会議室
出席者：赤坂校長
植村教務主事、岡林学生主事、南金山寮務主事、原田専攻科長、芝地域共同テクノセンター長、西留校長特別補佐（総務・企画担当）、あべ松校長特別補佐（国際交流・留学生担当）、白坂一般教育科理系科長、池田機械工学科長、加治屋電気電子工学科長、宮田電子制御工学科長、榎園情報工学科長、内谷土木工学科長、保坂図書館長、松田（信）学生何でも相談室長、大竹広報委員会委員長、室屋ＦＤ委員会委員長、上原事務部長、栗田総務課長、坂井学生課長、山下技術長
欠席者：鮫島一般教育科文系科長（代理：あべ松校長特別補佐（国際交流・留学生担当））、堂込情報教育システムセンター長（代理：福添助教）
陪席者：小田原総務課長補佐（総務担当）、有川総務課長補佐（財務担当）、安楽学生課長補佐

記録者：満冨総務係長

＜前回議事要旨の確認＞
異議なく了承された。

・　校長より、行事予定（平成２１年７月～９月）及び外部資金関係（６月実績分）について報告があった。

報告事項
１．校長報告
次の内容について、資料１に基づき説明があった。
１）九州沖縄地区校長・事務部長会議について（資料１－２）
２）昭和３８年度校校長会議について（資料１－３）
３）土木工学科の名称変更について
４）平成２１年度校長裁量による校内助成（研究助成・教育助成）について
５）ソフトウエアの適正な管理について
６）科学研究費補助金に関するアンケート調査結果について
７）学生の進路指導に関する調査について
８）ＪＡＢＥＥ技術者教育プログラム認定継続審査結果について

1

（出典：平成21年度第4回校務連絡協議会議事要旨（抜粋））

資料１０－２－①－４続き

（P.2～4　略）

（１０）ＦＤ委員会委員長報告

次の内容について、資料１１に基づき説明があった。

１）第１回ＦＤ講演会

２）第１回ＦＤ・ＳＤ活動推進委員会（戦略的大学連携事業）

３）第１回（前学期）授業評価アンケート

３．事務部報告

（１）学生課長報告

・　平成２２年度編入学者選抜検査志願者状況について、資料１２に基づき説明があった。

（２）総務課長報告

・　平成２１年度校内予算配分について、資料１３に基づき説明があった。

池田機械工学科長より、予算執行の関係上、もう少し早く予算配分して頂きたいとの要望があり、今回は、教育研究基盤経費の積算単価等の検討に時間がかかったので遅れたが、来年度は、５月の校務連絡協議会で報告したいとの回答があった。

・　休日給の支給について、資料１４に基づき説明があった。また、今回、休日給が支給されることとなった１１月１日（日）の「高専祭（体育祭）」当日、ロボコン等の業務により出勤できない方々に対しても、漏れなく同様の休日給が行き渡るよう配慮する旨、併せて説明があった。

連絡事項等

１．次回校務連絡協議会の日程

次回校務連絡協議会は、９月１８日（金）１３時３０分から開催する。

２．その他

・　総務課長より、次のとおり報告があった。

機械工場等の改修工事について、無事契約等終了し、これから工事が始まるため、ご協力願いたい。また、この改修工事に伴って、５月１５日に、機構本部の財務課の方へ、実習工場等の設備更新費等の要求を行ったところ、この度、87,300 千円の予算を頂くこととなった。このことについては、次回の校務連絡協議会等で報告したい。

5

（出典：平成21年度第4回校務連絡協議会議事要旨（抜粋））

観点１０－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校の平成21年度における収支は，収入が1,783,633千円，支出が1,779,987千円であり，収支差は3,646千円であるが，決算報告書における収支差には，翌年度以降の支出に充てるべき収入（寄附金収入等の翌年度以降に繰り越す予算）等が含まれているため，関連する収入を補正した収支差は，0千円となっている（資料１０－２－②－１，２）。

観点１０－２－②資料一覧

（資料１０－２－②－１）平成21年度決算報告書　　出典：総務課資料

（資料１０－２－②－２）平成21年度決算報告書収支補正表　　出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

平成21年度の決算報告書上では，3,646千円の収支差があり，補正した収支状況においても，収支差は0千円である。

また，借入も行っておらず，収支の状況は健全である。

以上のことから，収支の状況において，過大な支出超過となっていないと判断する。

資料１０－２－②－１

平成２１年度　決算報告書

学校名　鹿児島工業高等専門学校

（単位：円）

区　　分	決算額	備　　考
収　入		
運営費交付金	1,146,854,214	
施設整備費補助金	187,853,940	
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費	0	
自己収入	276,289,630	
授業料収入	241,325,200	
入学金収入	21,234,600	
検定料収入	6,435,000	
雑収入	7,294,830	
産学連携等研究収入	39,597,900	
寄附金収入	19,387,561	
その他補助金	113,649,606	
目的積立金取崩	0	
計	1,783,632,851	
支　出		
業務費	1,423,143,844	
教育研究経費（教育研究支援経費を含む）	1,204,721,042	
一般管理費	218,422,802	
施設整備費	187,853,940	
長期借入金償還金	0	
産学連携等研究経費	38,465,895	
寄附金事業費	16,873,813	
その他補助金	113,649,606	
計	1,779,987,098	

（出典：総務課資料）

資料１０－２－②－２

平成２１年度　決算報告書収支補正表

（単位：円）

区　　分	決算額	備　　考
収　入	1,783,632,851	
支　出	1,779,987,098	
収支差	3,645,753	
収入補正	35,451,472	前年度繰越額（寄附金）
	19,426	前年度繰越額（共同研究費）
	△ 37,965,220	次年度繰越額（寄附金）
	△ 1,151,431	次年度繰越額（共同研究費）
補正した収支差	0	

（出典：総務課資料）

観点１０－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

平成21年度校内予算においては，教員の教育研究及び学生の教育にかかる基盤的経費として，教育研究基盤経費63,746千円，専攻科担当教員研究費1,500千円，計65,246千円を確保し，平成20年度校内予算に比べ，6,454千円増額している。これは，機構本部の予算配分方針が，各学校の基盤的予算を充実させる観点から，従前に比べ，追加予算配分より当初予算配分に重点が置かれるようになり，当初予算配分額が多くなったことから，本校における教育研究活動にかかる基盤的経費の増額を行い，その充実を図ったものである。

また，本校の教育研究活動をより活性化させるため，校長裁量経費の予算枠を確保し，校内研究助成金8,000千円，校長特別裁量枠4,500千円，在外研究員校内助成1,000千円，計13,500千円を予算配分した。なお，校内研究助成金は校内公募を行い，校長特別裁量枠は教職員からの予算要求に基づき，校長の判断による重点配分を行っている（資料１０－２－③－１）。

（分析結果とその根拠理由）

平成21年度の教育研究活動にかかる基盤的経費として65,246千円を確保し，平成20年度と比べ，6,454千円増額してその充実を図っている。また，校長裁量経費については，校内公募や予算要求に基づき，校長の判断による重点配分を行っている。

以上のことから，本校の目的を達成するため，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされていると判断する。

観点１０－２－③資料一覧

（資料１０－２－③－１）H21校内予算　　出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料

資料１０－２－③－１

本 校 当 初 配 分 事 項

（単位：千円）

事　項		平成20年度配分額	平成21年度配分額	対前年度増減額	備　考
Ⅰ	人件費				
1	常勤教職員人件費	883,282	847,207	△ 36,075	平成20年度分には休職者給与1,176千円を含む
2	退職手当	139,022	61,964	△ 77,058	
3	超過勤務手当	15,295	17,203	1,908	平成21年度分には休日給相当分2,220千円を含む（平成20年度は追加配分事項）
Ⅱ	学科等教育研究経費				
4	教育研究基盤経費	57,563	63,746	6,183	担任経費、卒研経費、学生実習実験経費、専攻科生特別研究費を含む
5	専攻科担当教員研究費	1,229	1,500	271	
6	非常勤講師人件費	23,408	24,759	1,351	
7	学校医人件費	1,281	1,543	262	
8	非常勤講師等旅費	2,635	2,748	113	
Ⅲ	附属施設等経費				
9	図書館運営費		2,750	2,750	必要所要事項（共通管理経費）から移管【H20配分額　3,800千円】
10	学生用図書購入費	1,252	1,109	△ 143	
11	専攻科学生図書購入費		300	300	校長裁量経費から移管【H20配分額　300千円】
12	情報教育システムセンター運営費		3,300	3,300	必要所要事項（共通管理経費）から移管【H20配分額　3,300千円】
13	地域共同テクノセンター運営費		3,000	3,000	必要所要事項（共通管理経費）及び校長裁量経費から移管【H20配分額　3,000千円】
14	技術室運営費		1,200	1,200	校長裁量経費から移管【H20配分額　1,200千円】
15	実習工場運営費		500	500	校長裁量経費から移管【H20配分額　500千円】
16	何でも相談室運営費		900	900	校長裁量経費から移管【H20配分額　900千円】
17	広報委員会経費		1,000	1,000	校長裁量経費から移管【H20配分額　1,000千円】
18	安全衛生委員会経費		500	500	校長裁量経費から移管【H20配分額　500千円】
※	教育研究設備維持運営費	4,243		△ 4,243	必要所要事項（共通管理経費）へ移管
Ⅳ	校長裁量経費				
19	校内研究助成金	8,000	8,000	0	
20	校長特別裁量枠	0	4,500	4,500	
21	在外研究員（H20採択者分）校内助成	0	1,000	1,000	
※	校長特別裁量枠、附属施設等経費、全校共通経費への移管事項分	13,317		△ 13,317	
Ⅴ	全校共通経費				
22	必要所要事項（共通管理経費）	158,011	161,315	3,304	
23	在外研究員（H20採択者分）機構本部助成		1,867	1,867	校長裁量経費から移管【H20配分額　114千円】
24	赴任旅費	662	0	△ 662	平成21年度は追加配分事項
25	予備費	3,176	7,305	4,129	
計		1,312,376	1,219,216	△ 93,160	

（出典：平成21年度予算協議会・運営会議資料）

観点１０－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

国立高等専門学校機構の決算は，各学校からの報告に基づき，機構本部が作成し，法人全体の財務諸表等を官報に掲載するとともに，高専機構のＷｅｂサイト上に掲載している（資料１０－３－①－１）。

また，本校の収入・支出決算額については，学校要覧及び本校Ｗｅｂサイト上に掲載している（資料１０－３－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

法人全体の財務諸表等は，官報及び高専機構Ｗｅｂサイト上に掲載して広く社会に公表している。

また，本校の収入・支出決算額については，学校要覧及び本校Ｗｅｂサイト上に掲載して社会に公表している。

以上のことから，学校を設置する法人及び本校の財務諸表等が適切な形で公表されていると判断する。

観点１０－３－①資料一覧

（資料１０－３－①－１）財務諸表及び決算報告書（平成16－20年度）　出典：高専機構Ｗｅｂサイト

（資料１０－３－①－２）平成21年度収入・支出決算額　出典：学校要覧（平成21年度）本校Ｗｅｂサイト

資料１０－３－①－１

国立高等機構 >> 機構の事業 >> 情報公開

独立行政法人 国立高等専門学校機構
Institute of National Colleges of Technology, Japan

KOSEN
サイトマップ　ENGLISH

- HOME
- 小中学生・保護者の方へ
- 在校生・保護者の方へ
- 卒業生の方へ
- 企業・一般の方へ

機構の事業　情報公開ご案内　リストへ戻る

◆各種資料 ◆個人情報の取扱 ◆セキュリティポリシー ◆研究不正対応
◆法人文書公開システム

各種資料

情報公開の案内

- 請求書式
- 関係法令等

組織に関する情報

- 組織運営体制・機能（図）
- 役員名等（22.9.1） NEW
- 役員名等（22.4.1）
- 役職員の報酬・給与等について
  - 平成２２年度公表　NEW
  - 平成２１年度公表
  - 平成２０年度公表
  - 平成１９年度公表

はじめての方へ
- 高専って？
- 機構の事業

進化する高専
- 新モデルの高専
- 新しい奨学金の創出

技術・教育支援情報
- 技術支援センター
- 産学地域連携・共同研究
- 技術者育成
- インターンシップ
- 公開講座、理科教室・科学教室
- ベンチャー支援

教育・広報関連情報
- 書籍・記事
- 広報誌
- GP
- プロジェクト

http://www.kosen-k.go.jp/information.html (1/5) [2010/10/19 18:31:49]

国立高等機構 >> 機構の事業 >> 情報公開

平成１７年度
平成１６年度

財務に関する情報

- 財務諸表
  - 平成２０年度
  - 平成１９年度
  - 平成１８年度
  - 平成１７年度
  - 平成１６年度
- 決算報告書
  - 平成２０年度
  - 平成１９年度
  - 平成１８年度
  - 平成１７年度
  - 平成１６年度

評価及び監査に関する情報

【第２期】
- 業務の実施に関する評価の結果
  - 平成２１年度 NEW

【第１期】
- 業務の実績に関する評価の結果
  - 第１期中期目標期間
  - 平成２０年度
  - 平成１９年度
  - 平成１８年度
  - 平成１７年度
  - 平成１６年度
- 監事意見書
  - 平成２０年度
  - 平成１９年度
  - 平成１８年度
  - 平成１７年度
  - 平成１６年度

独立行政法人から関連法人への補助・取引等及び再就職の状況

独立行政法人整理合理化計画（平成１９年１２月２４日閣議決定）により公開することとされた「独立行政法人と関連法人との間の補助・取引等の状況、独立行政法人から関連法人への再就職状況」に関して、当法人においては関連法人は存在しません。

吹き付けアスベスト等使用実態調査の結果等の公表

http://www.kosen-k.go.jp/information.html (3/5) [2010/10/19 18:31:49]

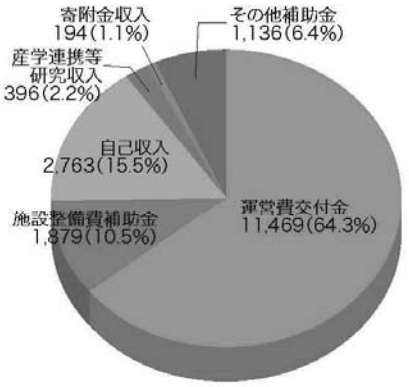
（出典：高専機構Ｗｅｂサイト「財務に関する情報」（http://www.kosen-k.go.jp/information.html））

資料１０－３－①－２

収入・支出決算額 Revenue and Expenditures

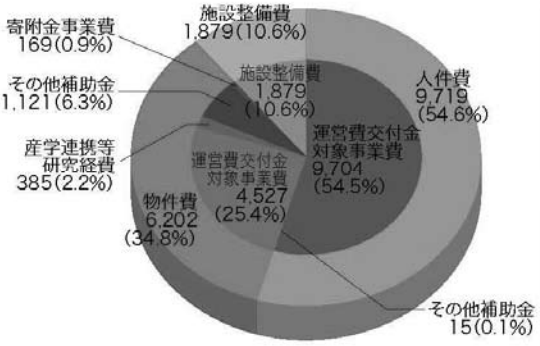
収入決算額（平成 21 年度） Revenue(2009)

収入：17,837（単位：十万円）



支出決算額（平成21年度） Expenditures(2009)

支出：17,800（単位：十万円）



①運営費交付金には、人件費を含む。
②自己収入には、授業料収入・入学料収入・検定料収入・雑収入を含む。

施　設 Facilities

土地（平成 22 年 4 月 1 日現在） Land(As of April1,2010)

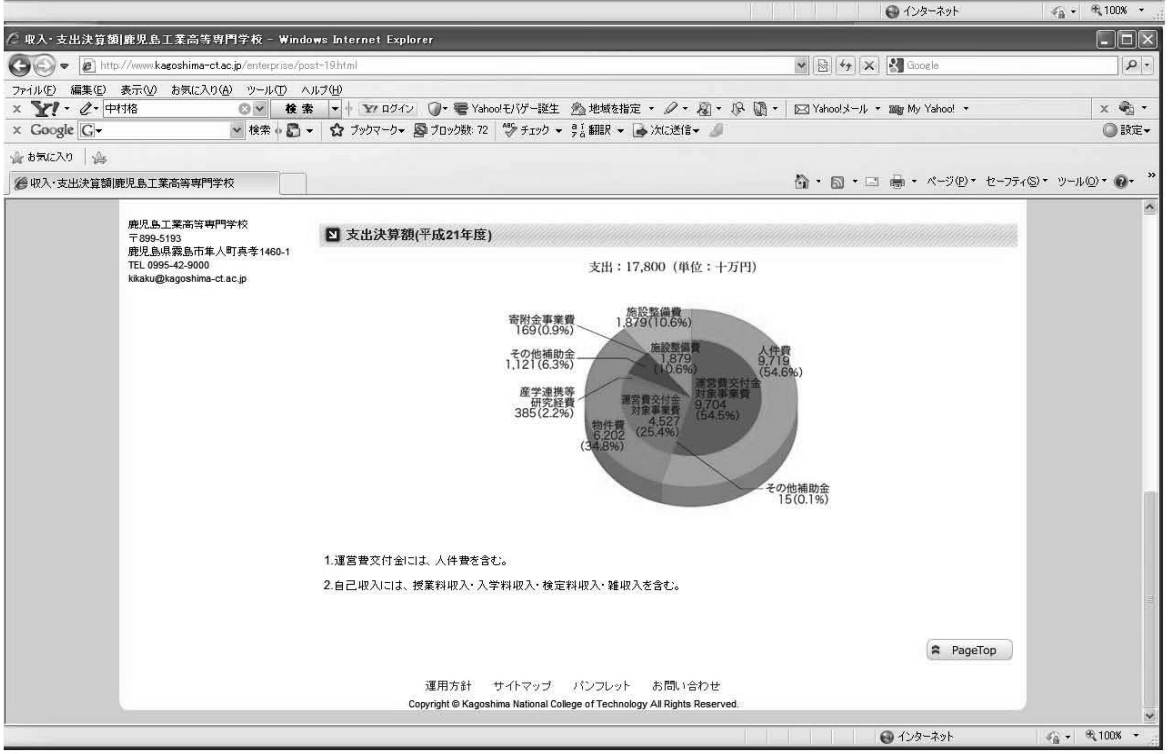
区　分 Classification	校舎敷地 College Buildings	屋外運動場 Sports Field	寄宿舎敷地 Dormitory	小　計 Sub-Total	職員宿舎敷地 Staff Housing	合　計 Total
面　積 Area	56,231㎡	48,193㎡	16,894㎡	121,318㎡	8,466㎡	129,784㎡

建物（平成 22 年 4 月 1 日現在） Buildings(As of April1,2010)

区　分 Classification	名　称 Name	構　造 Structure	延面積（㎡） Building Area	完成年度 Completion	備　考 Notes
校舎地区	管理棟	R2	1,035	S39	
	地域共同テクノセンター	R2	420	H12	
	専攻科棟	R4	1,213	H13	
	一般科目棟	R3	1,765	S39	H21改修
	学生共通棟	R2、R3	924	S39	H21改修
	電気電子工学科棟	R3	1,579	S39	H15改修
	機械工学科棟	R3	1,735	S41	H15改修
	機械工学科及び土木工学科棟	R2	623	S43	H22改修
	機械工場	R1	720	S40	H22改修
	都市環境デザイン工学科棟	R3	1,734	S43	
	機械工学科棟	R2	460	S47	H22改修
	機械実習棟	R1	504	S42	
	情報工学科棟	R5	2,227	S62	
	普通教室棟	R3	663	S56	
	福利施設	R2	800	S55	
	情報教育システムセンター	R1	304	S49	
	電子制御工学科棟	R3	785	H5	
	図書館	R2	1,660	S47	
	第一体育館	S1	1,106	S41	H10改修
	武道場	S1	301	S43	
	第二体育館	S1	880	S55	
	その他		1,477		
	計		22,915		
寄宿舎地区	第一志学寮	R4	2,622	S43	H3改修
	第二志学寮	R3	1,423	S38	H2改修
	第四志学寮	R3	540	S40	H2改修
	第五志学寮	R3	650	S40	H4改修
	第六志学寮	R5	2,563	H1	
	女子寄宿舎棟	R2	756	S39、S43	S61改修
	女子寮宿舎	R1	187	S39、S43	H4改修
	寄宿舎共用施設	R2	677	H1	
	寄宿舎食堂	R1	727	S39、S46	H4増築
	その他		163		
	計		10,308		
職員宿舎		W1	1,636	S39	26戸
合　計			34,859		

（出典：学校要覧（平成 21 年度））

資料１０－３－①－２続き



（出典：本校Ｗｅｂサイト「収入・支出決算額」（http://www.kagoshima-ct.ac.jp/enterprise/post-19.html））

観点１０－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

財務に対する監査については，高専相互会計内部監査，機構本部による内部監査，会計監査人による監査及び会計検査院による会計実地検査がある。

高専相互会計内部監査は，他校の職員を監査員として実効性のある監査を実施することで機構全体の会計内部監査を強化し，会計業務の適性且つ効率的な推進に資すると共に，相互監査を通じて会計業務の改善に寄与することを目的として，平成20年度から毎年度実施されている。各学校がそれぞれ独自に内部監査を実施していた頃に比べ，実効性の高い内部監査が実施されており，相互監査を通じて監査校と被監査校の情報交換が行われ，会計業務の改善が図られている。

また，他の監査は，数年に１回程度の割合で受検している。

なお，平成21年度は，高専相互会計内部監査及び機構本部による内部監査を受検した（資料１０－３－②－１，２）。

（分析結果とその根拠理由）

高専相互会計内部監査では，他校の職員を監査員として実効性のある監査が実施されており，会計業務の適性且つ効率的な推進及び会計業務の改善が図られている。

また，機構本部，会計監査人及び会計検査院による監査を数年に１回程度の割合で受検しており，より広範な視点から会計監査が行われることにより，会計業務の適正を期し，かつ是正が図られている。

以上のことから，財務に対して，会計監査等が適正に行われていると判断する。

観点１０－３－②資料一覧

（資料１０－３－②－１）高専相互会計内部監査実施通知　　出典：機構本部理事長通知

（資料１０－３－②－２）内部監査実施通知　　出典：機構本部理事長通知

資料１０－３－②－１

高 機 財 第 ２ ８ 号
平成 21 年 8 月２４日

各国立高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇　二　郎

【公印省略】

平成 21 年度　高専相互会計内部監査の実施について（通知）

このことについて、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条及び独立行政法人国立高等専門学校機構における研究費等の管理・監査の実施方針第 11 の 2 に基づき、別紙のとおり実施しますのでご協力願います。

なお、監査の実施に関し必要な事項については、機構本部財務課より別途通知します。

（出典：機構本部理事長通知）

資料１０－３－②－１続き

平成２１年度　高専相互会計内部監査の実施について

１　目　的

これまで各校がそれぞれに実施していた会計内部監査について、法人として各学校間の相互監査制度を構築し、他校の職員を監査員として実効性のある監査を実施することで機構全体の会計内部監査体制を強化し、会計業務の適正且つ効率的な推進に資すると共に、相互監査を通じて会計業務の改善に寄与することを目的とする。

２　根拠規則等

(1) 会計規則（第 34 号）

第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

(2) 研究費等の管理・監査の実施方針

第11の２　各学校間の相互監査制度を構築し，内部監査体制の強化を図る。

(3) 研究費等不正防止計画

Ⅵ－②　本部は，各学校間の相互監査制度を構築し，各学校が独自に行っている内部監査から他校の監査員による相互監査への移行を図り，内部監査体制を強化する。

Ⅵ－③　各学校間の相互監査制度の構築にあたっては，当該制度を機構全体の監査体制強化の取り組みとして位置付け，各学校の監査員に対して必要な権限を付与する。

３　監査校・被監査校

- 近隣の学校間でグループ分けし監査校・被監査校を決定する。
- 監査校・被監査校一覧表（別表のとおり）

４　監査日程

- ９月から翌年１月までの間に、監査校・被監査校が協議して監査日程（原則２日間）を決定する。

５　監査員

(1) 監査員の任命

①　監査員は、会計規則第４５条第１項に基づき、理事長が任命する。

②　監査員は３名とし、内１名は、原則として財務担当課長又は財務担当課長補佐を充て、主任監査員とする。

（出典：機構本部理事長通知）

資料１０－３－②－１続き

③　特に必要とする場合には、上記に追加して監査員を派遣することができるものとする。

(2)　監査員の責任

監査員は、次の事項を遵守しなければならない。

①　常に機構の利益を図ることを主眼として、監査の観点から事実を客観的に調査し、及び検討し、その評定に当たっては、公正不偏の態度で臨まなければならないこと。

②　不正、誤びゅうの摘発にあたるだけではなく、問題解決策を提案し、会計全般の改善向上に資するよう心がけなければならないこと。

③　監査により知り得た事項を他に漏らしてはならないこと。

④　監査の実施並びに調書及び報告書の作成については、監査員として正当な注意をもって行わなければならないこと。

(3)　監査員の権限

監査員の権限は、次のとおりとする。

①　監査員は、被監査校の関係者に対し帳票及び諸資料の提出又は事実の説明その他監査実施上必要な要求を行うことができること。

②　監査員は、必要により被監査校以外の関係者に対し、実査、立会、確認及び報告を求めることができること。

③　上記の要求を受けた者は、正当な理由なくしてこれを拒否し、又は虚偽の回答をしてはならないこと。

６　監査事項

- 内部監査する事項は、次のとおりとする。
  (1) 会計経理に関する規則等の適用に関する事項
  (2) 予算実施計画に関する事項
  (3) 金銭等の出納保管（金庫管守を含む。）その他資金管理に関する事項
  (4) 資産の取得、管理及び処分に関する事項
  (5) 決算報告書及び財務諸表に関する事項
  (6) 帳簿及び証拠書類に関する事項
  (7) 契約に関する事項
  (8) 旅費に関する事項
  (9) 科学研究費補助金その他外部資金に関する事項
  (10) 預り金に関する事項
  (11) その他理事長が必要と認める事項
- 「(11)その他理事長が必要と認める事項」は、平成２１年度監事監査・内部監査の監査事項より、全校監査その他特に必要な事項を勘案して決定するものとする。
- 本部事務局財務課は、監査事項に係るチェックリストを作成するものとする。
- 監査員が特に必要とする場合には、上記事項に追加して監査を実施することができるもの

（出典：機構本部理事長通知）

資料１０－３－②－１続き

とする。

7　指摘事項等

- 監査の過程において発見した誤り、改善又は検討を必要とする事項については、その都度応対者へ改善又は検討を要求し、チェックリストの所定欄へ【指示】又は【考究】と明記し、内容を記入する。
  【指示】・・・会計処理について改めるよう要求したもの
  【考究】・・・確認、検討を要求したもの
- 監査の過程において疑義が生じた場合には、文書にて記録し、監査終了後に本部事務局財務課へ照会し指示を仰ぐものとする。

8　監査結果の報告等

- 監査報告書（別紙）は、チェックリストを添付して、監査終了後２週間以内に、本部事務局財務課財務企画係へ提出するものとする。
- 本務事務局財務課は、監査報告書を取りまとめ、年度内に理事長へ報告するものとする。
- 本部事務局財務課は、監査終了後、各校より意見等を聴取し、次年度以降の監査の改善に資する。

9　所要経費（旅費）

高専相互会計内部監査に要する経費（旅費）は、各校における所要額を別途措置する。

１０　監査事務

高専相互会計内部監査に関する事務は、本部財務課において処理する。

１１　実施スケジュール

８月下旬　　監査員の選定依頼
９月上旬　　監査員の任命
９月中旬～　監査の実施
３月末迄　　監査報告書取りまとめ

（出典：機構本部理事長通知）
）

資料１０－３－②－１続き

平成21年度　高専相互会計内部監査グループ分け一覧

GP	高専番号	被監査校	監査校（監査員派遣）	人数	備　考
1	1	函館工業高等専門学校	一関	3	
1	5	八戸工業高等専門学校	函館	3	
1	6	一関工業高等専門学校	八戸	3	
2	2	苫小牧工業高等専門学校	旭川	3	
2	3	釧路工業高等専門学校	苫小牧	3	
2	4	旭川工業高等専門学校	釧路	3	
3	7	宮城地区事務部	秋田(3)、鶴岡(3)	6	
3	8				
3	9	秋田工業高等専門学校	宮城地区	3	
3	10	鶴岡工業高等専門学校	宮城地区	3	
4	11	福島工業高等専門学校	小山	3	
4	14	群馬工業高等専門学校	福島	3	
4	13	小山工業高等専門学校	群馬	3	
5	12	茨城工業高等専門学校	木更津	3	
5	15	木更津工業高等専門学校	東京	3	
5	16	東京工業高等専門学校	茨城	3	
6	17	長岡工業高等専門学校	富山地区	3	
6	21	長野工業高等専門学校	富山地区	3	
6	18	富山地区事務部	長岡(3)、長野(3)	6	
6	19				
7	20	石川工業高等専門学校	岐阜	3	
7	21	福井工業高等専門学校	石川	3	
7	23	岐阜工業高等専門学校	福井	3	
8	24	沼津工業高等専門学校	豊田	3	
8	25	豊田工業高等専門学校	沼津	3	
8	26	鳥羽商船高等専門学校	鈴鹿	3	
8	27	鈴鹿工業高等専門学校	鳥羽	3	
9	28	舞鶴工業高等専門学校	奈良	3	
9	29	明石工業高等専門学校	和歌山	3	
9	30	奈良工業高等専門学校	明石	3	
9	31	和歌山工業高等専門学校	舞鶴	3	
10	32	米子工業高等専門学校	松江	3	
10	33	松江工業高等専門学校	津山	3	
10	34	津山工業高等専門学校	米子	3	
11	35	広島商船高等専門学校	弓削	3	
11	39	大島商船高等専門学校	広島	3	
11	44	弓削商船高等専門学校	大島	3	
12	36	呉工業高等専門学校	徳山	3	
12	37	徳山工業高等専門学校	北九州	3	
12	38	宇部工業高等専門学校	呉	3	
14	48	北九州工業高等専門学校	宇部	3	
13	40	阿南工業高等専門学校	香川地区	3	
13	45	高知工業高等専門学校	新居浜	3	
13	41	香川地区事務部	阿南(3)、高知(3)	6	
13	42				
13	43	新居浜工業高等専門学校	香川地区	3	
14	46	久留米工業高等専門学校	佐世保	3	
14	47	有明工業高等専門学校	大分	3	
14	49	佐世保工業高等専門学校	久留米	3	
14	52	大分工業高等専門学校	有明	3	
15	50	熊本地区事務部	都城(3)、鹿児島(3)	6	
15	51				
15	53	都城工業高等専門学校	熊本地区	3	
15	54	鹿児島工業高等専門学校	沖縄	3	
15	55	沖縄工業高等専門学校	熊本地区	3	

（出典：機構本部理事長通知）

資料１０－３－②－２

平成２１年７月７日

鹿児島工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇　二　郎
（公 印 省 略）

平成２１年度内部監査の実施について（通知）

平成２１年度内部監査を、下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金の執行状況等）
（２）随意契約の状況について
（３）保有資産（宿舎等）の見直し状況について
（４）産学連携・地域連携等の状況について
（５）入試業務の実施状況について
（６）保有個人情報の管理の状況について
（７）情報セキュリティ対策等について
（８）人事労務管理の状況について
（９）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがある。

２　監査の実施時期
平成２２年２月８日（月）～２月１０日（水）

３　監査の従事者
総務課情報企画係長　　三　好　貴　廣
財務課予算係長　　佐　野　浩　実
企画課第二係主任　　三　田　洋　介

（出典：機構本部理事長通知）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　教育研究活動に対する適切な資源配分のため，基盤的経費の充実を図るとともに，重点配分経費として校長裁量経費の予算枠を確保している。

・　会計内部監査を強化し，会計業務の適性且つ効率的な推進に資すると共に，相互監査を通じて会計業務の改善に寄与することを目的として，高専相互会計内部監査を実施している。

（改善を要する点）

特になし

（３）基準１０の自己評価の概要

本校は，独立行政法人化の際，本校の教育研究活動を遂行するために必要な土地・建物等全ての資産を国から承継し，法人化後も資産が増加していることから，教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しており，負債の状況も健全である。

経常的収入の確保については，国からの運営費交付金等のみに依存せず，自己収入及び外部資金収入の獲得に努めており，安定した収入を得ている。

校内予算については，高専機構の中期計画及び年度計画において定められた予算計画，収支計画及び資金計画に基づき，機構本部から配分された予算について，予算協議会及び運営会議の審議を経て決定し，校務連絡協議会を通じて教職員へ周知されている。

収支の状況については，収支差はプラスとなっており，借入も行っておらず，収支の状況は健全であり，過大な支出超過となっていない。

教育研究活動に対する資源配分については，基盤的経費の充実を図るとともに，重点配分経費として校長裁量経費の予算枠を確保しており，適切な資源配分を行っている。

法人全体の財務諸表等及び本校の収入・支出決算額については，Ｗｅｂサイト上に掲載するなど適切な形で公表している。

財務に対する監査については，高専機構内の他校の監査員による高専相互会計内部監査，機構本部による内部監査，会計監査人による監査及び会計検査院による会計実地検査が実施されており，いずれの監査も適正に行われている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で,効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割は，学校教育法で明確に定められている。教務主事，学生主事，寮務主事は校長により任命され，その役割は，本校学則及び教員内部組織規程で定められている。（資料１１－１－①－１，２）

本校では教務主事を副校長に，学生主事，寮務主事，専攻科長及び地域共同テクノセンター長を校長補佐として，また，総務・企画担当及び国際交流・留学生担当を校長特別補佐として位置づけ，これに事務部長，総務課長，学生課長が加わり運営会議を構成している。運営会議は，校長を補佐するとともに，教育，研究，管理・運営等についての校長の諮問に応えている。（資料１１－１－①－３）

また，上記運営会議委員のほかに，各科長，図書館長，情報教育システムセンター長，学生何でも相談室長，広報委員会委員長，ＦＤ委員会委員長及び技術長で構成する校務連絡協議会が設置されている。同協議会は，各部門の連絡を緊密にし，校務の円滑なる運営を図ることを目的としており，本校の管理・運営に関する全ての事項は関係委員会で審議された後，同協議会の協議を経て校長により決定される（資料１１－１－①－４，５，６）。

これらのほか，本校では現在43の各種委員会等が設置されており，それらの趣旨，目的，組織等が規則に明記されている。また，主要委員会は，関係主事（副校長及び校長補佐），校長特別補佐及び各科等の代表委員で構成されているため，各科の意見を十分汲み取り，各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている（資料１１－１－①－７）。

観点 11－１－①資料一覧

（資料１１－１－①－１）学則	出典：規則集
（資料１１－１－①－２）教員内部組織規程	出典：規則集
（資料１１－１－①－３）運営会議規則	出典：規則集
（資料１１－１－①－４）校務連絡協議会規則	出典：規則集
（資料１１－１－①－５）委員会等組織図	出典：総務課資料
（資料１１－１－①－６）組織図	出典：総務課資料
（資料１１－１－①－７）会議・委員会の主な審議事項	出典：総務課資料

資料１１－１－①－１

○　鹿児島工業高等専門学校学則

（教務主事,学生主事及び寮務主事）

第１０条　本校に教務主事,学生主事及び寮務主事を置く。

２　教務主事は,校長の命を受け,教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

３　学生主事は,校長の命を受け,学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

４　寮務主事は,校長の命を受け,学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典：規則集）

資料１１－１－①－２

○　鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

（教務主事,学生主事及び寮務主事）

第２条　学則第１０条に定める教務主事,学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）のうち,教務主事は,教授を,学生主事及び寮務主事は,教授又は准教授をもって充てる。

２　主事の任期は２年とし,再任を妨げない。ただし,欠員が生じた場合の後任の任期は,前任者の残任期間とする。

３　教務主事は,副校長として,校長の職務を補佐し,校長に事故あるときはその職務を代行する。

４　学生主事及び寮務主事は,校長補佐として,校長の職務を補佐する。

（専攻科長）

第６条　専攻科に専攻科長を置く。

２　専攻科長は,教授をもって充てる。

３　専攻科長は,専攻科に関することをつかさどる。

４　専攻科長は,校長補佐として,校長の職務を補佐する。

（地域共同テクノセンター長）

第１１条　地域共同テクノセンターに地域共同テクノセンター長を置く。

２　地域共同テクノセンター長は,教授をもって充てる。

３　地域共同テクノセンター長は,地域共同テクノセンターの運営に関することをつかさどる。

４　地域共同テクノセンター長は,校長補佐として,校長の職務を補佐する。

（出典：規則集）

資料１１－１－①－３

鹿児島工業高等専門学校運営会議規則

（目的）

第２条　運営会議は,校長を補佐するとともに,次の各号に掲げる事項に関して校長の諮問に応えることを目的とする。

(1) 本校の将来構想に関すること。
(2) 予算の基本方針に関すること。
(3) 教育及び研究上の組織運営に関すること。
(4) 地域社会等との交流に関すること。
(5) 資金の管理及び運用に関すること。
(6) その他校長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　運営会議は,次に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長
(2) 教務主事,学生主事,寮務主事及び専攻科長
(3) 地域共同テクノセンター長
(4) 校長特別補佐（総務・企画担当及び国際交流・留学生担当）
(5) 事務部長
(6) 総務課長及び学生課長
(7) その他校長が必要と認めた者

（議長）

第４条　校長は,運営会議を召集し,議長として議事を総括する。

（出典：規則集）

資料１１－１－①－４

鹿児島工業高等専門学校校務連絡協議会規則

（設置）

第１条　鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）各部門の連絡を緊密にし,校務の円滑なる運営をはかる目的をもって校務連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組織）

第２条　協議会は,次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長
(2) 教務主事,学生主事及び寮務主事
(3) 一般教育科文系・理系各科長
(4) 学科長
(5) 専攻科長
(6) 図書館長,情報教育システムセンター長及び地域共同テクノセンター長
(7) 学生何でも相談室長
(8) 校長特別補佐（総務・企画担当及び国際交流・留学生担当）
(9) 広報委員会委員長及びＦＤ委員会委員長
(10) 事務部長
(11) 総務課長及び学生課長
(12) 技術長
(13) その他校長が必要と認めた者

（議長）

第３条　協議会は,校長が必要と認めたときにこれを召集し,その議長となる。

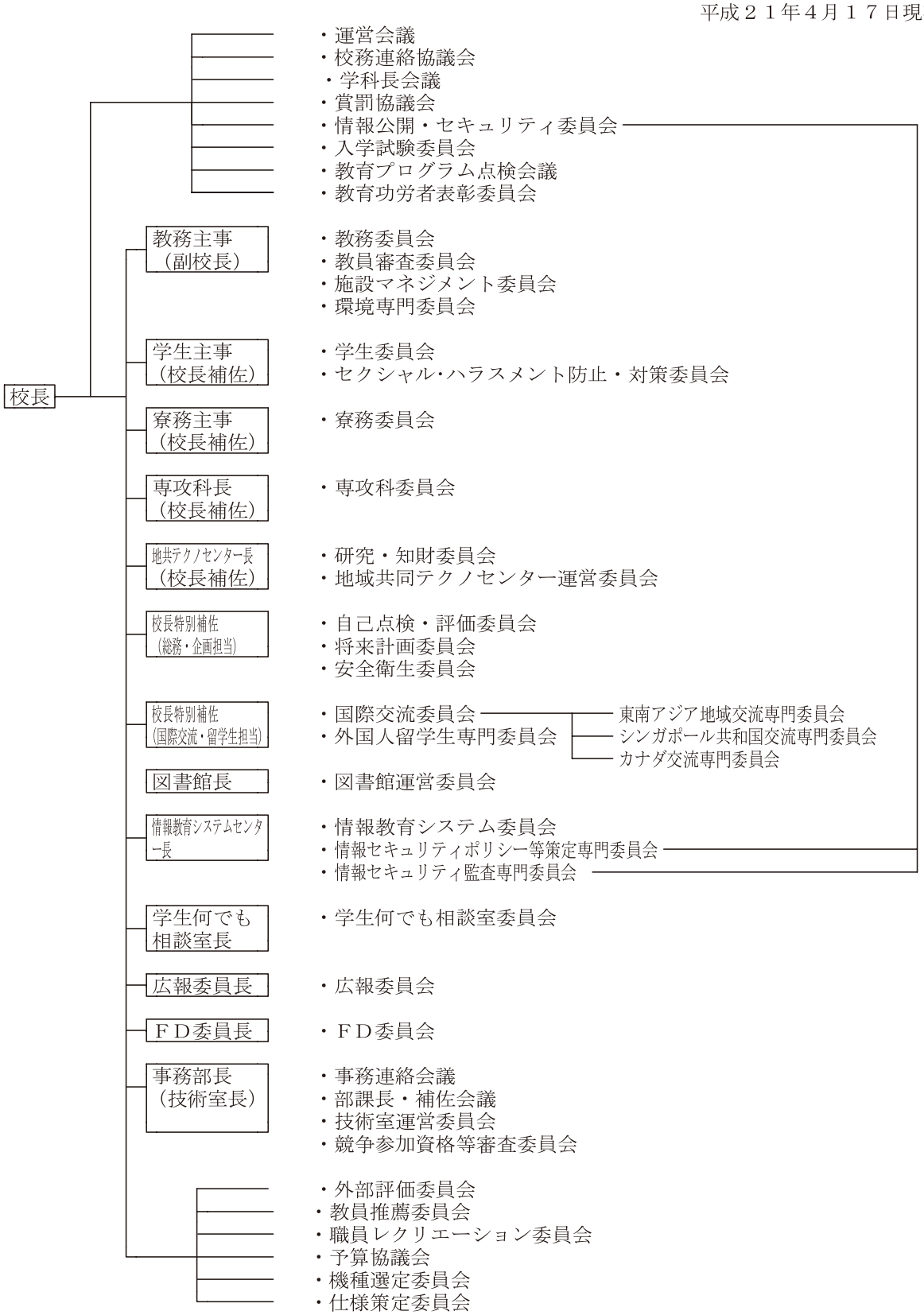
（協議事項）

第４条　協議会は,各部門相互連絡の緊密化に努めると共に,校長が本校の運営上必要と認め諮問した事項について協議する。

資料１１－１－①－５

委　員　会　等　組　織　図

平成２１年４月１７日現在

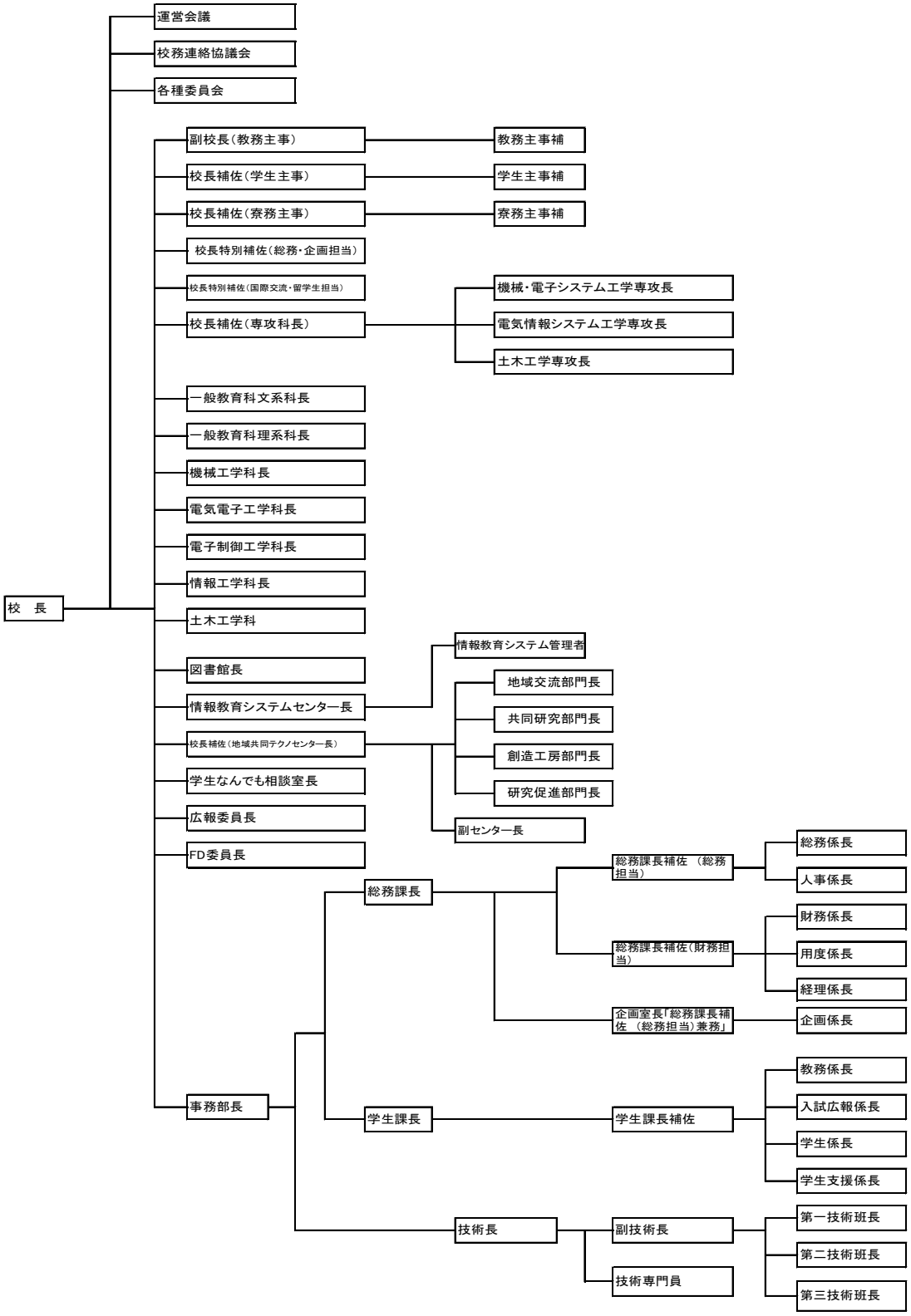


（出典：総務課資料）

資料１１－１－①－６

鹿児島工業高等専門学校組織図

平成21年4月1日現在



（出典：総務課資料）

資料１１－１－①－７

会議・委員会等の主な審議事項等

平成２１年４月１７日現在

	委員会・会議名	主な審議事項	主な委員構成
1	運営会議	本校の将来構想，予算の基本方針，教育及び研究上の組織運営，地域社会等との交流，資金の管理及び運用，その他	◎校長，副校長，校長補佐，校長特別補佐，部課長，その他
2	校務連絡協議会	各部門相互連絡の緊密化に努めると共に、校長が本校の運営上必要と認め諮問した事項について協議する。	◎校長，副校長，校長補佐，各学科等の長，図書館長，情報教育システムセンター長，学生何でも相談室長，校長特別補佐，広報委員長，FD委員長，部課長，技術長，その他
3	学科長会議	校長からの諮問事項について，科内及び各科間の連絡調整を行い，本校の円滑な運営を図ることを目的とする。	◎校長，副校長，各学科等の長，専攻科長，部課長，その他
4	賞罰協議会	学生の表彰，学生の懲戒	◎校長，副校長，校長補佐，各学科等の長，三委員会から推薦された教員，当該学生の学級担任，当該学生の事情調査に携わった主事補，その他
5	情報公開・セキュリティ委員会	情報公開の実施体制，開示・不開示の判断基準，行政文書の開示・不開示，開示実施手数料の減額又は免除，不服申立て，訴訟，行政文書の管理，その他情報公開の円滑な実施，情報セキュリティポリシーに関する重要な事項，情報セキュリティ対策に関する重要な事項，その他情報セキュリティに関する重要な事項	◎校長，副校長，校長補佐，各学科等の長，図書館長，情報教育システムセンター長，部課長，技術長，その他
6	入学試験委員会	入学試験，編入学，入学者募集，入学案内その他	◎校長，教務主事，各学科等の長，専攻科長，事務部長，学生課長，その他
7	教育プログラム点検会議	学習・教育目標の設定及び改善，学習・教育目標に基づく教育の内容と質の保証，教育プログラムについて本科と専攻科の調整，教育プログラム履修生の修了，教育プログラム点検報告書並びに改善提案書，その他	◎校長，教務主事，専攻科長，FD委員長，学生課長，その他
8	教育功労者表彰委員会	本校の教育、学校運営及び社会貢献に関して，特に顕著な功績を挙げた者を「教育功労者」として表彰するため定めるものである。 講義，演習，実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し，その実践を行い，特に教育効果を高めた者，学生の課外活動への監督・指導を通して学生への教育に特に功績のあった者，本校の学習・教育目標を達成するために，特に顕著な貢献があった者，社会貢献に関し，特に本校の名誉を高めた者，その他本校の学校運営等に特に功績があった者	◎校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，事務部長，その他
9	教務委員会	教育課程の編成，年間教育計画及び授業時間の編成，入学、退学、転学、休学及び卒業，試験及び学業成績等，出席簿及び指導要録，授業の指導方法・教育方法改善等，視聴覚教育等，教育プログラムの運用・改善，大学及び専攻科の進学，その他	◎教務主事，教務主事補，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，学生課長，その他
10	教員審査委員会	推薦書に記載された候補適任者について、資格審査を行う。	校長，◎教務主事，選考を行おうとする学科等の教授，当該学科等以外の本校の教授，選考される教員の専門分野を熟知する本校の教授又は学外の有識者
11	施設マネジメント委員会	施設利用の基本計画，施設マネジメントに関する企画及び立案，施設マネジメントに関する点検及び改善，施設整備及び環境に関する目的及び目標の設定，施設の調査，施設の維持管理，施設の有効活用計画，施設の共用スペース確保及び使用，概算要求事項，中期、長期施設整備計画，施設整備・利用状況及び維持管理状況等に関する点検及び改善，環境目的及び目標の達成状況等に関する点検及び改善，学校敷地利用計画，建物及び工作物の配置等，その他	◎教務主事，校長補佐，各学科等の長，図書館長，情報教育システムセンター長，部課長，総務課課長補佐（財務担当），その他
12	環境専門委員会	環境方針，環境目的・目標，環境プログラムシステム，環境目的・目標・プログラムの達成状況の確認とその是正，監視，測定の実施，新しい関係法令等のチェック，その他環境に配慮した取組	◎副校長，学生主事，寮務主事，部課長，その他
13	学生委員会	課外活動，保健衛生及び生活指導，奨学金及び授業料等の減免，就職指導，学生会及びその他の学生団体，交通指導，その他厚生補導	◎学生主事，学生主事補，第1学年及び第2学年学級担任から推薦された教員，専門学科から推薦された教員，学生課長，その他
14	セクシュアルハラスメント防止・対策委員会	セクシュアル・ハラスメントの防止に関する研修・啓発活動の企画・立案並びにセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のために実施する措置に関する調整・指導及び助言，セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談に適切に対応するための措置，その他	校長，教務主事，◎学生主事，寮務主事，学生何でも相談室長，部課長，看護師，相談員　若干名

（出典：総務課資料）

資料１１－１－①－７続き

15	寮務委員会	入寮及び退寮，寮生の生活指導及び補導，寮生の福祉厚生及び保健衛生，寮生の負担となる経費，その他	◎寮務主事，寮務主事補，第1学年及び第2学年学級担任から推薦された教員，専門学科から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，学生課長，その他
16	専攻科委員会	教育課程の編成及び実施，教育計画及び授業時間の編成，入学者選抜，入学、退学、転学、休学、復学及び修了，試験及び学業成績，学生の進学及び就職，学生の厚生補導，専攻科における特別研究指導教員及び授業担当教員の資格の認定（ただし、教員審査委員会に係るものを除く），教育プログラムの運用・改善，教育プログラムの改善事項の教育プログラム点検会議への報告，学生、卒業生、企業からの教育プログラムへの要望等，教育プログラム履修生の学習・教育目標達成度評価，日本技術者教育認定機構の審査基準，その他専攻科の運営	◎専攻科長，各専攻長，各学科並びに一般教育科文系及び一般教育科理系で，専攻科を担当する教員　若干名，教務委員会から推薦された教員，学生課長，その他
17	研究・知財委員会	発明等の職務発明の審査、特許性及び市場性の評価並びに権利の帰属の予備的判断， 発明等の権利化手続及び特許権等の再評価並びに権利維持等，共同研究、受託研究及び受託試験等，科学研究費補助金及び校内研究助成，研究成果の公表，その他研究促進，研究報告の原稿の検討，研究報告の編集及び出版，その他	◎地域共同テクノセンター長，地域共同テクノセンター研究促進部門長，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，総務課長，総務課課長補佐（総務担当及び財務担当），その他
18	地域共同テクノセンター運営委員会	民間機関等との共同研究，受託研究及び技術相談等の連絡調整，民間機関等の技術者に対する高度技術教育及び研修，民間機関等に対する科学技術情報の提供，創造教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画策定等，研究の促進，各部門の連絡調整，その他	◎地域共同テクノセンター長，副センター長，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，センター各部門長，総務課長，総務課課長補佐（総務担当），技術長，その他
19	自己点検・評価委員会	自己点検・評価の基本方針，実施，結果の公表，結果の外部評価，その他	教務主事，校長補佐，校長特別補佐（◎総務・企画担当,国際交流・留学生担当）,各学科等から推薦された教員，部課長，課長補佐（総務担当，財務担当），その他
20	将来計画委員会	本校の組織，運営及び施設に関する将来構想・計画，その他	◎校長特別補佐（総務・企画担当），各学科等の長，専攻科長，事務部長，その他
21	安全衛生委員会	教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策，教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策，労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るもの，その他教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項	◎校長特別補佐（総務・企画担当），学生主事，事務部長，産業医，衛生管理者，安全管理者，技術長，安全及び衛生に関して経験を有する者のうちから校長が指名した者
22	国際交流委員会	外国の大学等との学術交流の協定，外国の大学等からの教職員及び学生の受入れ等，外国の大学等への教職員及び学生の派遣，学術の情報及び研究資料の交換，留学生，その他	教務主事、学生主事，寮務主事，◎校長特別補佐（国際交流・留学生担当），各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，部課長，その他
23	東南アジア地域交流専門委員会	東南アジア地域の教育・研究機関との教職員の交流、学生の交流、共同研究・調査及び学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施，国際学術交流協定の締結等の検討，その他	◎委員長は互選 校長特別補佐（国際交流・留学生担当），国際交流委員会委員　若干名，総務課長，学生課長，その他
24	シンガポール共和国交流専門委員会	シンガポール共和国の教育・研究機関との教職員の交流、学生の交流、共同研究・調査及び学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施，国際学術交流協定の締結等の検討，その他	◎委員長は互選 校長特別補佐（国際交流・留学生担当），国際交流委員会委員　若干名，総務課長，学生課長，その他
25	カナダ交流専門委員会	カナダの教育・研究機関との教職員の交流、学生の交流、学術・教育に関する共同研究、学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施，国際学術交流協定の締結等の検討，その他	◎委員長は互選 校長特別補佐（国際交流・留学生担当），国際交流委員会委員　若干名，総務課長，学生課長，その他
26	外国人留学生専門委員会	教育指導，生活指導，宿舎その他の施設，その他	◎校長特別補佐（国際交流・留学生担当），一般教育科文系・理系から推薦された教員，「学生何でも相談室」から推薦された教員，外国人留学生指導教員，学生課課長補佐，その他
27	図書館運営委員会	図書館の管理運営，図書の選択，その他	◎図書館長，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，学生課長，その他
28	情報教育システム委員会	情報処理及び情報通信の教育・研究の基本，情報教育システムセンターの管理運営，情報教育システムセンターの維持経費，その他	◎情報教育システムセンター長，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，その他

（出典：総務課資料）

資料１１－１－①－７続き

29	情報セキュリティポリシー等策定専門委員会	情報セキュリティポリシーの策定，ポリシーの見直し，その他	◎情報教育システムセンター長，各学科等から推薦された教員，情報教育システムセンター担当技術職員，総務課情報処理担当職員，システム管理者，その他
30	情報セキュリティ監査専門委員会	情報セキュリティ対策の監査，情報セキュリティポリシーの評価及び監査，ポリシーの実施状況に関する調査，評価及び監査，その他	◎委員長は互選 情報教育システムセンターから推薦された教職員，各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，各課及び技術室から推薦された職員
31	学生何でも相談室委員会	学生が持つ諸問題についての相談活動を行い，学生自身がより良い学生生活を送れるよう支援する相談室の円滑な運営を図る	◎学生何でも相談室長，相談員　若干名（本校を退職した教職員を除く。），相談補助員
32	広報委員会	校内外広報の企画，広報誌等の編集及び発行，WWWサーバによる情報公開，その他	◎委員長は校長が指名 各学科等から推薦された教員，事務部長，総務課長，学生課長及び技術長，その他
33	FD委員会	校長の諮問に応じ，FDについて本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与する。	◎委員長は校長が指名 各学科等から推薦された教員，その他
34	事務連絡会議	事務部各課及び技術室の日常業務の相互連絡を行い，その円滑な運営を諮ることを目的とする。	◎事務部長，各課長，技術長及び副技術長，各課長補佐，技術専門員，総務係長、財務係長及び教務係長
35	部課長・補佐会議	事務部各課の連絡調整並びに綱紀の点検調査等を行い、もって校務の適正、円滑な運営を諮ることを目的とする。	◎事務部長、総務課長、学生課長、課長補佐、技術長
36	技術室運営委員会	技術室の業務の総括及び実施，技術室の業務の実施状況の把握と円滑な業務の遂行，その他	◎技術室長，技術長，副技術長，技術専門員，技術班長，学科から推薦された教員，情報教育システムセンター及び地域共同テクノセンターから推薦された教員，その他
37	競争参加資格等審査委員会	一般競争入札における競争参加資格の決定等基本的な事項，一般競争入札における競争参加希望者の競争参加資格の有無に関する事項，公募型指名競争入札における競争参加資格の決定等基本的な事項，公募型指名競争入札における競争参加希望者の競争参加資格の有無に関する事項，指名競争入札における競争参加者の選定に関する事項，随意契約によろうとする場合における見積依頼の相手方の選定に関する事項，その他の事項	◎事務部長，総務課長，総務課長補佐（財務担当），財務係長，用度係長
38	外部評価委員会	本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。	◎委員長は互選 大学，高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等，本校の所在する地域の教育関係者，地方自治体等研究機関の研究者等，産業界の有識者，報道機関の有識者，その他
39	教員推薦委員会	学内及び関係機関等に公募を行うこと，応募者の書類選考を行い、その中から複数の者に順位を付けて、候補適任者とすること，推薦に係る経緯及び候補適任者名を記した「推薦書」を校長に提出すること	◎選考を行おうとする学科長等，選考を行おうとする学科等の教授又は選考しようとする専門分野の教授若干名，校長補佐の中から互選により1名，専攻科における特別研究及び授業を担当することとなる教員の選考にあっては，関係する専攻長，講師，助教又は助手を選考する場合は、教授を教授又は准教授と読み替える。
40	職員レクリエーション委員会	予算，計画及び運営，その他	◎委員長は互選 各学科等から互選された者、各課長，各課から互選された者，技術職員
41	予算協議会	校費の配分，教員研究旅費の配分，その他予算配分	◎議長は校長が指名 各学科等から推薦された教員，専攻科から推薦された教員，総務課長，総務課課長補佐（財務担当），その他
42	機種選定委員会	購入しようとする物品に関し、機種の選定を行う必要がある場合で、その予定価格が300万円以上のときに設置する。 仕様・企画及び性能，使用目的・使用者・使用態様等に関する適合性，類似他機種との比較，現有機器との関連，その他	関係する学科等又は各種委員会（「教務委員会、学生委員会、寮務委員会、図書館運営委員会及び情報教育システム委員会」をいう。）の教員及び関係する事務部門の課長又は係長並びに総務課長をもつて構成することを原則とする。
43	仕様策定委員会	大型設備の調達を行う場合に、その都度、調達しようとする設備の仕様の策定を行うため設置する。 設備の機能及び性能，設備に関する関係資料等の収集，その他仕様の策定に関し必要と認める事項	◎委員長は互選 仕様策定委員会の委員は、校長が委嘱する。

副校長：教務主事
校長補佐：学生主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクノセンター長
各学科等の長：一般教育科（文系）科長，一般教育科（理系）科長，機械工学科長，電気電子工学科長，電子制御工学科長，情報工学科長，土木工学科長
三委員会：教務委員会，学生委員会，寮務委員会
校長特別補佐：総務・企画担当，国際交流・留学生担当
部課長：事務部長，総務課長，学生課長
課長補佐：総務課長補佐（総務担当），総務課長補佐（財務担当），学生課長補佐
その他：校長又は委員長（委員会）が必要と認めた者又は指名した者

（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

校長の役割は学校教育法で明確に定められている。また，三主事は，校長により指名され，その役割については，学則等で明確に定められている。学校の目的を達成するため，本校の重要な管理運営に関しては，校長が副校長及び校長補佐等に諮問し，その結果を基に意思決定をしており，リーダーシップを発揮できる体制となっている。

運営会議や校務連絡協議会をはじめ，各種委員会はいずれもその趣旨，目的，組織，役割等が規則に明確に定められている。また，主要委員会は，関係主事（副校長及び校長補佐）,校長特別補佐及び各科等の代表委員で構成されており，各科の意見を十分汲み取り，各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている。

観点11－１－②：　管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。

（観点に係る状況）

管理運営に関する委員会として，運営会議並びに校務連絡協議会をはじめとした主要委員会が，それぞれの役割を分担し活動している（資料１１－１－①－７参照）。

事務組織の役割については，事務組織及び事務分掌規程が定められており，管理運営上の役割分担が明確であり，規則に基づいて効果的な活動がなされている。重要事項については，事務連絡会議等を通じて事務系全体に情報の提供と周知がされる体制になっている（資料１１－１－②－１）。

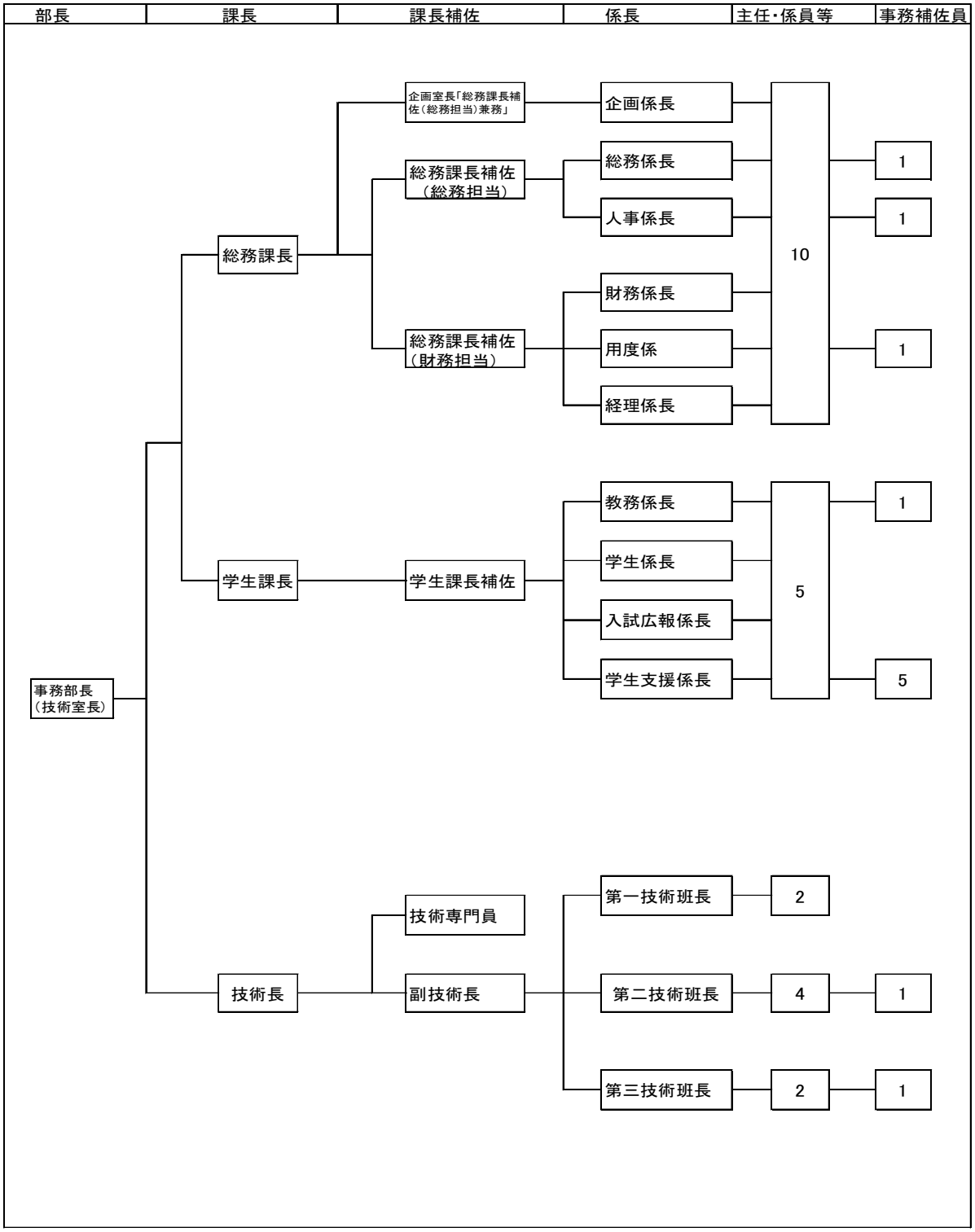
観点 11－１－②資料一覧

（資料１１－１－②－１）事務系職員配置状況　　出典：総務課資料

資料１１－１－②－１

鹿児島工業高等専門学校事務系職員配置状況

平成21年4月1日現在



（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する委員会として，校長を議長とする運営会議及び校務連絡協議会，その他各種委員会が設置されている。いずれもその委員会の趣旨，目的，組織等が規則等に明記され，各委員会の役割分担が明確に定められている。

事務組織の役割については，ほとんどの委員会に事務職員が構成員として加わっており，委員会の事務担当が明記されている。また，技術職員を含め，事務組織及び事務分掌規程が定められ，管理運営に関する役割分担が明確となっており，効果的に活動している。

観点11－１－③：　管理運営の諸規定が整備されているか。

（観点に係る状況）

学則，組織・運営，委員会，総務，財務，教務・学生，学寮，その他，関係する事項に対応できるように各種規則等が整備されており，これらの規則は本校ウェブページで確認することができる。

観点 11－１－③資料一覧

（資料１１－１－③－１）規則集　　出典：ウェブページ

資料１１－１－③－１

（出典：ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

学則，組織・運営，その他の全般にわたる管理運営の諸規則が整備され，これらの規則は本校ウェブページで確認することができる。

観点11－２－①：　外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では，外部評価委員会を設置しており，自己点検・評価結果等についての検証を行い，提言を受けることにより，本校の管理運営面についての外部有識者の意見を反映させている（資料１１－２－①－１）。平成19年12月に開催された外部評価委員会では，本校での主な取り組み及び自己点検・評価結果についての報告を行い，それについての意見・提言をいただいた。（資料１１－２－①－２～３）

外部評価委員からの意見・提言は報告書としてとりまとめ，関係委員会等で検討・対応している。例えば，「技術倫理については徹底して教育していただきたい。」との提言に対しては，本校の教育プログラムはJABEEの認定を受けており,JABEEは技術倫理を教育することを求めている。本校と鹿児島県の技術士会との連携ができていることから,技術倫理は技術士会の協力を得ながら,今後も教育していく。（資料１１－２－①－４）

観点 11－２－③資料一覧

（資料１１－２－①－１）外部評価委員会規則	出典：規則集
（資料１１－２－①－２）外部評価委員会（開催一覧）開催一覧	出典：総務課資料
（資料１１－２－①－３）外部評価委員会日程表	出典：平成19年度外部評価委員会資料
（資料１１－２－①－４）外部評価資料結果報告	出典：平成19年度外部評価委員会資料

資料１１－２－①－１

○　鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則

（設置）
第１条　鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）に外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）
第２条　委員会は、本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。

（組織）
第３条　委員会は、人格識見が高く、かつ、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。
（1）　大学、高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等
（2）　本校の所在する地域の教育関係者
（3）　地方自治体等研究機関の研究者等
（4）　産業界の有識者
（5）　報道機関の有識者
（6）　その他校長が必要と認める者

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。
２　委員長は委員会を召集し、その議長となる。

（報告書と公開）
第５条　外部評価を行ったときは、報告書を作成し、公開するものとする。

（運営）
第６条　委員会の運営については自己点検・評価委員会が行う。

附　則
１　この規則は、平成１６年５月２１日から施行する。
２　この規則施行後、最初に第３条に規定する委員となる者の任期は、第５条の規定にかかわらず、平成１８年３月３１日までとする。
３　鹿児島工業高等専門学校と有識者との懇談会要項は、廃止する。

（出典：規則集）

資料１１－２－①－２

外部評価委員会（有識者懇談会）の開催一覧

	開催日	名　　称		報告書 発行年月日	公開	製本
平成　3	高専設置基準の一部改正（大綱化と自己点検・評価）					
8	「鹿児島高専と有識者との懇談会」設置					
9	H9.2.3	第１回（平成８年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会				
10	H10.2.9	第２回（平成９年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会				
11	H11.2.8	平成１０年度 鹿児島高専と有識者との懇談会				
12	H12.2.4	平成１１年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	外部評価結果報告	平成１２年２月		自家製本
13	H13.2.28	平成１２年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成１２年度　外部評価結果報告	平成１３年７月		外注製本
15	H15.3.13	平成１４年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成１４年度　外部評価結果報告	平成１５年２月	ウェブページ	外注製本
17	H18.2.7	平成１７年度 鹿児島高専と有識者との懇談会				
19	H19.12.14	平成１９年度 外部評価委員会	平成１９年度　外部評価報告書	平成２０年５月		外注製本

（出典：総務課資料）

資料１１－２－①－３

平成19年度外部評価委員会日程表

１．日　時　　平成１９年１２月１４日（金）
　　１３：３０～１６：３０

２．場　所　　鹿児島工業高等専門学校　管理棟２階　大会議室

３．会次第
（１）開　会
（２）校長あいさつ
（３）委員及び本校出席者の紹介
（４）委員長選出
（５）学校概要説明
①教務主事
②学生主事
③寮務主事
④専攻科長
⑤地域共同テクノセンター長
（６）施設見学
（７）意見交換
（８）閉　会

（出典：平成 19 年度外部評価委員会資料）

資料１１－２－①－４

平成19年度の外部評価委員からの提言に対する本校の対応

		委員からの評価及び提言	提言に対する回答及び今後の対応等 （平成２０年５月時点）
1	将来計画	即時取り組まなければならない分野もあるが、将来に向けた取り組みやビジョンを持つことが大切ではないか。	本校の将来計画については、学内に検討のシステムを作って取り組んでいる。
2	教育	将来構想のポリシーをしっかり立てて、地域にも貢献するような高専の教育を続けていただきたい。	地域の中小企業でも、技術開発に対して積極的な企業等と連携していく。人材育成、共同研究、あるいは将来の受け入れ先として、考慮していく必要がある。
7	技術倫理	技術倫理については徹底して教育していただきたい。	本校の教育プログラムはJABEEの認定を受けており、JABEEは技術倫理を教育することを求めている。 本校と鹿児島県の技術士会との連携ができていることから、技術倫理は技術士会の協力を得ながら、今後も教育していく。

（出典：平成 19 年度外部評価委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，外部評価委員会を設置し，自己点検・評価結果等についての検証を行い，提言を受けることにより，本校の管理運営面について外部有識者の意見を反映させている。外部評価委員からの意見・提言は報告書としてとりまとめ，関係委員会等で検討・対応している。このことから，本校では，外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されていると判断される。

観点11－３－①：　自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校には，自己点検・評価委員会が設置されており，本委員会が，教育，研究，組織，運営，施設，設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を，３年ごと（第５号平成16～18年度）に作成している。直近は，平成20年3月の発行である。自己点検・評価の結果は，関係機関に配布するとともに,本校ウェブページでも公開している。また，外部評価委員会（旧有識者懇談会）の報告書も「外部評価結果報告」として冊子にまとめるとともに，ウェブページへ公開している。平成18年度には,大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受審し,平成１９年３月２８日付けで，大学評価・学位授与機構から，各基準においては「評価基準を満たしている。」，選択

的評価事項においては「目的の達成状況が良好である。」と認定された。自己評価書や評価結果は,本校ウェブページでも公開している。

観点 11－３－①資料一覧

（資料１１－３－①－１）自己点検・評価報告書, 外部評価結果報告　　出典：ウェブページ

（資料１１－３－①－２）機関別認証評価結果報告　　出典：ウェブページ

資料１１－３－①－１

自己点検・評価報告書, 外部評価結果報告,

（出典：ウェブページ）

資料１１－３－①－２

機関別認証評価結果報告

機関別認証評価|鹿児島工業高等専門学校 - Microsoft Internet Explorer

http://www.kagoshima-ct.ac.jp/evaluation/

Japanese　English

独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校

検索　WWWを検索　サイト内検索

ホーム｜サイトマップ｜パンフレット｜お問い合わせ

Home　受験生の方　保護者の方　地域の方　在校生の方　卒業生の方　企業の方

Contents

- 学校案内
- 入学案内
- 本科紹介
- 専攻科紹介
- 教育・研究施設
- 学生生活
- 入試情報
- 就職・進学状況
- アクセス

モバイル鹿児島高専

www.kagoshima-ct.ac.jp/mobile/

鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1
TEL 0995-42-9000
kikaku@kagoshima-ct.ac.jp

ホーム » 機関別認証評価

機関別認証評価

機関別認証評価とは

学校教育法が改正され，「高等専門学校は，その教育研究水準の向上に資するため，教育研究，組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し，７年以内ごとに，文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けること」が義務付けられました。（学校教育法第109条第２項，第123条及び学校教育法施行令第40条）

評価の目的

大学評価・学位授与機構が，国・公・私立高等専門学校からの求めに応じて実施する高等専門学校機関別認証評価は，我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに，その個性的で多様な発展に資するよう，以下のことを目的として実施されます。

1. 高等専門学校機関別認証評価に関して，機構が定める高等専門学校評価基準（以下「高等専門学校評価基準」という。）に基づいて，高等専門学校を定期的に評価することにより，高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
2. 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより，各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
3. 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし，それを社会に示すことにより，公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて，広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

評価の内容

ページが表示されました　イントラネット

スタート　ファイル管理 - サ...　機関別認証評...　検索結果　H22自己点検評...　スポーツナビ | バレ...　マイ コンピュータ　H22自己点検・...　文書1 - Micros...　18:01

（出典：ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

本校には，自己点検・評価委員会が設置されており，本委員会が，教育，研究，組織，運営，施設，設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を定期的に作成している。また，自己点検・評価の結果は，本校ウェブページでも公開している。外部評価委員会（旧有識者懇談会）の結果も外部評価結果報告書としてまとめ，ウェブページへ公開している。

このことから，自己点検・評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されていると判断される。

観点11－３－②：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

評価結果は,鹿児島高専管理運営に関するPDCAサイクル(資料１１－３－②－１)に則り改善に結びつけている。自己点検・評価委員会が中心となり教育,研究,組織,運営,施設,設備等の総合的な状況等を自己点検評価しており,その結果を外部評価している。

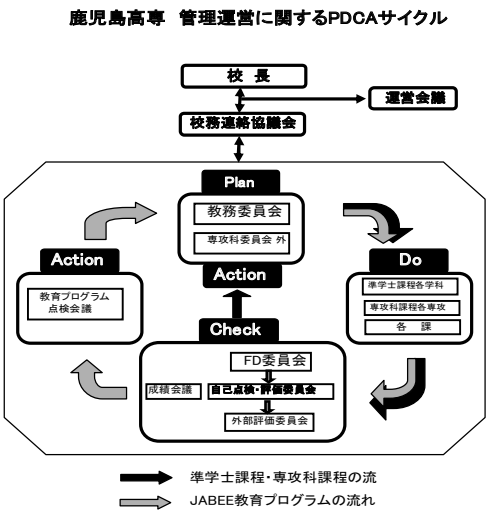
外部評価委員会開催後，自己点検・評価委員会が中心となって，外部評価委員からの意見・提言をとりまとめ，提言に対する現状分析を行った上で，関係する各種委員会等へフィードバックする。各種委員会等は，現状分析の確認及び提言に対する今後の対応を検討の上，改善案を作成する。これらをとりまとめたものが，外部評価結果報告書である。

その後，各種委員会等は，今後の対応について，目的達成のための具体的プランを立て，校長のリーダーシップの下，各科・専攻科及び各課等において改善策を実行する。改善結果は，自己点検・評価委員会で取りまとめられ，次回の外部評価委員会で報告を行うシステムが確立されている（資料１１－３－②－１）。

観点 11－３－②資料一覧

（資料１１－３－②－１）管理運営に関するPDCAサイクル　　出典：総務課資料

資料１１－３－②－１



（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価委員会が中心となって，外部評価委員からの意見・提言をとりまとめ，分析を行った上で，関係する委員会等へフィードバックする。各種委員会等は，今後の対応を検討の上，改善案を作成する。その後，各科・専攻科及び各課等において改善策が実行される。改善結果は，自己点検・評価委員会で取りまとめられ，次回の外部評価委員会で報告を行うシステムが確立されている。

このことから，評価結果がフィードバックされ，本校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されていると判断される。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・外部評価委員からの意見・提言を，関係する委員会等へフィードバックし，その改善結果を再び外部評価委員会で報告するシステムが確立されている点

（改善を要する点）

特になし

（３）基準11の自己評価の概要

校長の役割は学校教育法で，校長が指名する教務主事，学生主事，寮務主事の役割については，学則等で明確に定められている。また，教務主事を副校長に，学生主事，寮務主事，専攻科長及び地域共同テクノセンター長を校長補佐として,総務・企画担当及び国際交流・留学生担当を校長特別補佐として位置づけている。学校の目的を達成するため，本校の重要な管理運営に関しては，校長が副校長及び校長補佐及び校長特別補佐等に諮問し，その結果を基に意思決定をしており，リーダーシップを発揮できる体制となっている。

運営会議や校務連絡協議会をはじめとした管理運営に関する各種委員会は，いずれもその趣旨，目的，組織，役割等が規則に明確に定められている。また，主要委員会は，関係主事（副校長及び校長補佐），校長特別補佐及び各科等の代表委員で構成されており，各科の意見を十分汲み取り，各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている。

事務組織の役割については，ほとんどの委員会に事務職員が構成員として加わっており，委員会の事務担当が明記されている。また，技術職員を含め，事務組織及び事務分掌規程が定められ，管理運営に関する役割分担が明確となっており，効果的に活動している。

学則，組織・運営，その他の全般にわたる管理運営の諸規則が整備され，これらの規則は本校ウェブページで確認することができる。

本校には，自己点検・評価委員会が設置されており，本委員会が，教育，研究，組織，運営，施設，設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を定期的に作成している。また，自己点検・評価の結果は，関係機関に配布し，本校ウェブページでも公開している。自己点検・評価結果等についての検証のために，外部評価委員会を設置しており，本校の管理運営面についての外部有識者の意見を反映させている。外部評価委員からの意見・提言については，自己点検・評価委員会が中心となってとりまとめ，分析を行った上で，関係する委員会等へフィードバックしている。各種委員会等は，今後の対応を検討の上，改善案を作成する。その後，各科・専攻科及び各課等において改善策を実行する。改善結果は，自己点検・評価委員会で取りまとめられ，次回の外部評価委員会で報告

を行うシステムが確立されている。また,大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価では，各基準において「評価基準を満たしている。」，選択的評価事項において「目的の達成状況が良好である。」と認定された。

Ⅳ　追加評価事項Ａ（研究活動の状況）

１．「研究活動の状況」に係る目的

本校では，教育理念において「2. 教育内容を学術の進展に対応させるため，また，実践的技術の発展のため，必要な研究を行う。」が掲げられており，これを達成するために，次のような目標が定められている。

１．教育・研究活動の高度化・活性化を図る。

２．地域の交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元するとともに，国際交流を推進する。

これらの目標が，研究の目的すなわち「研究活動の状況」に係わる目的である。

目標１の「教育・研究活動の高度化・活性化を図る」については，各教員がその専門分野における研究を行い，その成果を，査読付論文，国際会議プロシーディングス，及び口頭発表等で公開し，外部評価を受けること，さらに，これを著書や教材，本科の卒業研究及び専攻科の特別研究に取り入れることにより達成される。

一方，目標２の「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」については，地域の産業界からの技術相談への対応，共同研究の推進により達成される。この目的のために，学内に地域共同テクノセンターが設置され，積極的な産学連携の推進を図っている。すなわち，各教員の研究シーズを当センターで集約し，地域企業等へ紹介することにより，技術相談，受託研究，共同研究の受け入れを推進し，本校の研究成果を地域に還元している。

２．研究活動の状況

（１）観点ごとの分析

観点Ａ－１－①：　高等専門学校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

（ａ）研究体制

各教員は，各科に所属し研究活動を行なっており，研究設備については，各科において管理・運営している。科内で関連する専門分野の教員が，共同研究や情報交換を行っているほか，個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに，各科を横断して共同研究が行われる場合もある。

（ｂ）支援体制

目標１の「教育・研究活動の高度化・活性化を図る」ために，本校教職員が行う教育・研究活動に必要な経費の一部を助成する校内研究助成制度が設けられている。これは，校長裁量経費の一部をもって充てられ，申請された研究課題に対して，校長が採択課題と助成額を決定する。

研究成果の公表に関しては，研究・知財委員会が，研究報告を編集・出版し，これを支援している。目標２の「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」に関しては，研究・知財委員会が，研究者総覧システムにより研究業績等を公開し，地域の産業界との共同研究の推進を支援している。このシステムは，本校教員が有する研究シーズの学外への公開を目的として，2004 年に作成され，各教員の研究業績に関するデータベースの機能も有している。

また，地域共同テクノセンターが，共同研究・受託研究あるいは寄付金等の助成の受け入れを推進するために，本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。その活

動の一つとして，2005 年度以降，毎年，本校の研究シーズ集の冊子を作成し，本校を中核とした産官学連携組織である「錦江湾テクノパーククラブ」の一般会員及び特別会員と「鹿児島県工業倶楽部」の会員へ配布し，教員の研究活動（内容）について広く公表している。また,地域共同テクノセンターでは，IT 関連企業に対する本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動として，平成 19 年度より，毎年，鹿児島高専の鹿児島市におけるサテライト施設であるソフトプラザかごしまで「鹿児島高専ＩＴ関連技術シーズ発表会」を鹿児島市と共催で開催し，地域のＩＴ関連企業に対して鹿児島高専のＩＴ関連技術シーズの紹介を行なっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校での研究体制は，各科を基本としており，科内で関連する専門分野の教員が，共同研究や情報交換を行っているほか，個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに，各科を横断して共同研究が行われる場合もある。

研究支援体制としては，校長裁量経費による校内研究助成制度が設けられている。共同研究・受託研究あるいは寄付金等の助成の受け入れを推進するために，地域共同テクノセンターが，本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。この他に，研究・知財委員会による研究報告の編集・出版，研究者総覧システムによる研究業績等の公開が行われている。

観点Ａ－１－②：　研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

（観点に係る状況）

教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」は，各教員の査読付論文，国際会議プロシーディングス，口頭発表，紀要・雑誌等への掲載論文で評価できる。各教員の発表した論文などを毎年発行している鹿児島工業高等専門学校研究報告の巻末に研究業績として掲載している（資料Ａ－１－②－１－１～１１）。平成19年度，20年度，21年度に関して，査読付論文数は，24件，26件，27件であり，口頭発表（国内）は，97件，97件，88件である。ちなみに平成16年度，17年度，18年度に関して，査読付論文数は，22件，29件，36件であり，口頭発表（国内）は，123件，102件，131件であり，引き続き，研究の高度化・活性化が図られているといえる。これらの研究活動の取り組みによって，科学研究費補助金の獲得に繋がっている。平成19年度，20年度，21年度に関して，科学研究費補助金の獲得件数は，9件，7件，９件である（資料Ａ－１－②－２）。ちなみに平成16年度，17年度，18年度に関して，科学研究費補助金の獲得件数は，7件，9件，8件である。さらに，これらの教育研究成果は，教員の著書や教材並びに本科の卒業研究及び専攻科の特別研究にも反映されている。また，研究成果は講義にも活用され，最新の技術情報が学生教育に役立てられている。

「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては，地域共同テクノセンターを中心として，地域企業への技術相談や技術支援，共同研究，受託研究等の推進が図られている。その成果として，技術相談及び共同研究等への積極的な取り組みが行われ，外部資金を受け入れている。企業との共同研究の件数は，平成17年度～平成21年度の5年間を見ると，5件，3件，11件，13件，12件と，近年は2桁の件数を示していることからも研究成果を地域に還元していることが伺われる（資料Ａ－１―②－３）。

また，教育成果を地域に還元する目的で，平成 19 年度，平成 20 年度，平成 21 年度の各年度に，経済産業省委託事業等の人材育成事業に（株）鹿児島ＴＬＯを管理法人として応募し採択され，地域中小企業の若手技術者に対して「高度融合メカトロニクス技術者」としての技術の講義・実習を実施し，地域中小企業の若手技術者の技術力向上に貢献できた（資料Ａ－１―②－４－１～３）。

観点Ａ－１－②資料一覧

（資料Ａ－１－②－１－１～１１）研究業績（公表論文等発表者）	出典：研究報告第44号(2009)の研究業績
（資料Ａ－１－②－２）科学研究費補助金	出典：学校要覧(平成22年度)
（資料Ａ－１－②－３）共同研究	出典：学校要覧(平成22年度)
（資料Ａ－１－②－４－１～３）人材育成事業	出典：人材育成事業成果報告書 (平成21年3月), (平成22年2月),(平成22年3月)

資料Ａ－１－②－１－１

鹿児島工業高等専門学校
研究報告　44（2009）
45～55

研　究　業　績

2008年4月1日～2009年3月31日
ゴシック　本校の発表者　*印　講演発表者

校長

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
Taito Kinoshita Hiroshi Aakasaka Hideyo Nimiya Kazuhiro Soga Koichiro Saito	A Simplified Calculation Method for Seasonal Accumutated solar Heat Gain through Windows	冊子　Architectural Science Review　51巻　4号　pp.329～337　(9)　2008-12
斎藤孝一郎 赤坂裕 二宮秀與 田代逢一郎 木下泰斗	窓フレームを考慮したビル用窓の熱性能簡易計算法	冊子　日本建築学会環境系論文集　636巻　pp.151～160　(10)　2009-02

機械工学科

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
末吉和幸* 東将史 織田健太郎 江崎秀司	一列管群を通過する気流の流動特性	冊子　第18回九州沖縄地区高専フォーラム　久留米　pp.38～(1)　2008-12
引地　力男	リスクアセスメントと学校の安全衛生対策	冊子　第67回（平成20年度）全国産業安全衛生大会研究発表集　pp.22～24　(3)　2008-10
引地　力男	出前授業を利用した離島中学校へのものづくり教育支援の検討	冊子　工学教育　57巻　1号　pp.93～98　(6)　2009-01
引地力男 あべ松伸二 鍵田清孝 池田正利	出前授業を利用した中学生のへのものづくり力向上の検討	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43号　pp.17～22　(6)　2009-02
高崎俊介* 引地力男	管内清掃マイクロロボットのメカニズムに関する研究	冊子　2008年度精密工学会九州支部福岡地方講演会講演論文集　福岡市　pp.117～118　(2)　2008-12
引地力男* 新井実	実験中の事故を防ぐための安全衛生対策	CD-ROM　2009年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集　東京　pp.441～442　(2)　2009-03
趙放 山口富子 池田英幸 加藤光昭 西尾一政	極低炭素鋼に対する繰返しレーザ照射による結晶粒微細化のモンテカルロ・シミュレーション	冊子　溶接学会　27巻　1号　pp.89～95　(7)　2009-01
趙放* 池田英幸 山口富子 加藤光昭 西尾一政	モンテカルロ法による結晶粒微細化シミュレーション	冊子　金属学会九州支部 平成20年度合同学術講演大会講演概要集　春日市（九州大学筑紫キャンパス）　pp.51～51　(1)　2008-06
趙放* 山口富子 池田英幸 加藤光昭 西尾一政	結晶粒微細化に対する最適化条件の検討	冊子　溶接学会全国大会講演概要 83集（平成20年度秋季大会）　北九州市　pp.137～138　(2)　2008-10
高橋和也* 園田浩太郎 池田英幸 塚本公秀	床面の摩擦が積層粒子の崩壊に与える影響	日本機械学会九州学生会第40回卒業研究発表講演会論文集　飯塚市（九州工業大学）　pp.231～232　2009-03
岩本　才次	船速変化に適応する操縦性指数を利用したゲイン設定について	冊子　日本船舶海洋工学会講演会論文集　6号　pp.275～278　(4)　2008-05
岩本　才次*	船速変化に適応する操縦性指数を利用したゲイン設定について	冊子　日本船舶海洋工学会平成20年度春季講演会　長崎　(0)　2008-05

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

2008年４月１日～2009年３月31日

北村健三 松本寿太郎 光石　暁彦 三角利之	下向き傾斜加熱平板に沿う強制･自然対向流共存対流の流動と伝熱	冊子　日本機械学会論文集Ｂ編　74巻　740号　pp.893～900 (8)　2008･04
北村健三 光石暁彦 三角利之	垂直な加熱平板列まわりに生じる自然対流の流動と伝熱	冊子　日本機械学会論文集Ｂ編　74巻　740号　pp.884～892 (9)　2008･04
光石　暁彦 酒井　晃 北村健三 三角利之	水平気流中に置かれた垂直加熱平板まわりの強制･自然直交流共存対流の流動と伝熱	冊子　日本機械学会論文集Ｂ編　74巻　746号　pp.2182～2189　(0)　2008･10
三角　利之 橋口　兼朗* 北村　健三 光石　暁彦	上向き傾斜加熱平板に沿う強制一自然並行流共存対流の流動と伝熱	冊子　日本機械学会中国四国支部・九州支部合同企画岡山講演会講演論文集　岡山大学　pp.245～246　(2)　2008･10
三角　利之 郡山　淳* 北村　健三 光石　暁彦	垂直加熱平板まわりの直交流共存対流の流動と伝熱	冊子　日本機械学会中国四国支部・九州支部合同企画岡山講演会講演論文集　岡山大学　pp.247～248　(2)　2008･10
Satoru Odahara Takahiro Yamauchi	Effects of Notch Shape and Cyclic Loading Test Frequency of the Fatigue Strength Properties of Poly･Lactic Acid	冊子　佐世保高専研究報告　45号　pp.11～14　(4) 2009･01
小田原　悟*	アルミニウム合金のねじり疲労強度に及ぼす微小欠陥の影響およびショットピーニングの効果	冊子　軽金属学会第 114 回春期大会講演概要　愛媛大学 pp.347～348　(2)　2008･05
小田原 悟* 高橋 宏治	鈍い切欠き材の疲労強度に及ぼす結晶粒径の影響	冊子　日本材料学会第 57 期学術講演会講演論文集　鹿児島大学 pp.364～365　(2)　2008･05
小田原 悟* 井上 雅弘	風レンズ風車ブレードの実働ひずみ計測と疲労強度・寿命推定	冊子　日本機械学会 2008 年度年次大会講演論文集　横浜国立大学　pp.63～64　(2)　2008･08
田畑隆英 中島正弘 李鹿　輝	平行におかれた２円管から流出する脈動噴流	冊子　可視化情報学会論文集　Vol.28巻　No.9号　pp.54～61 (8)　2008･09
田畑　隆英* 中島正弘 李鹿　輝	平行におかれた２円管から流出する脈動噴流（円管設置間隔の影響）	冊子　第36回可視化情報シンポジウム　工学院大学新宿校舎（東京都）　(2)　2008･07
田畑　隆英* 李鹿　輝	平行におかれた２円管から流出する脈動噴流	冊子　第 51 回自動制御連合講演会講演論文集　山形大学工学部（米沢市）　pp.72～73　(2)　2008･11
田畑　隆英* 松田　信吾 李鹿　輝	往復振動流による噴流の拡散制御	冊子　第 51 回自動制御連合講演会講演論文集　山形大学工学部（米沢市）　pp.74～75　(2)　2008･11
田畑　隆英*	平行におかれた２円管から流出する脈動噴流	冊子　日本機械学会九州支部第 62 期総会・講演会　九州大学伊都キャンパス（福岡市）　pp.97～98　(2)　2009･03
山田孝行* 池田英幸 塚本公秀 岡林巧	高密度積層粒子の崩壊過程に関する研究	2008年度春期研究発表会講演論文集　京都市　pp.7～8　2008･05
塚本　公秀* 大渕慶史 坂本　英俊	楽器製作を通した創造性教育の試み第２報	冊子　日本工学教育協会平成２０年度講演会講演論文集　神戸 pp.530～531　(2)　2008･08
山本　桂一郎* 塚本　公秀 上野　孝行 今里　竜成	教員･技術員･学生と共同開発したものづくり教育のための実習	冊子　日本工学教育協会平成２０年度講演会講演論文集　神戸 pp.526～527　(0)　2008･08
徳田　陽介* 塚本　公秀 重原　貴士	ヴァイオリン演奏時における力学的解析	冊子　日本機械学会第 40 回卒業研究発表講演会論文集　福岡県飯塚市　pp.173～174　(0)　2009･03
福原　稔 池口　昌宏 厳ノ下昌平 高本健太 片野田　洋 飯野直子 椎　保幸	吹出し管を粉体層内へ挿入した場合の吸込みノズルの空気輸送特性に及ぼす挿入長さの影響	冊子　粉体工学会誌　46巻　2号　pp.90･97　2009･02

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

研　究　業　績

電気電子工学科

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
佐藤逸人* 伊豆雄太郎 田島大輔 本部光幸 大坪昌久	Modeling of the Electric Double Layer Capacitor and Fuel Cell Hybrid System using MATLAB/Simulink	CD-ROM　The International Conference on Electrical Ebgineering 2008　沖縄　(4)　2008-07
中田　高* 佐藤逸人 伊豆雄太郎 南出雅裕 田島大輔 高庄幸孝 本部光幸 大坪昌久	EDLC シミュレーションモデルの内部パラメータ算出法に関する検討	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.7～　(1)　2008-09
南出雅裕* 佐藤逸人 伊豆雄太郎 中田　高 田島大輔 高庄幸孝 本部光幸 大坪昌久	燃料電池モジュールのインダクタンス成分の算出に関する検討	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.7～　(1)　2008-09
伊豆雄太郎* 佐藤逸人 南出雅裕 中田　高 田島大輔 高庄幸孝 本部光幸 大坪昌久	ガスエンジンコージェネレーションシステムの最適運転条件に関する検討	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.7～　(1)　2008-09
町野真吾* 本部光幸 逆瀬川栄一	昇圧チョッパ付高電圧化インバータの昇圧チョッパ入力電流制御法の検討	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.10～　(1)　2008-09
榊　紘平* 本部光幸 逆瀬川栄一	複数台モータ駆動用多重式昇圧チョッパ付高電圧化インバータ	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.10～　(1)　2008-09
佐々木卓郎* 逆瀬川栄一 本部光幸	開放電圧を利用した太陽電池の最大出力制御シミュレーション	CD-ROM　平成 20 年度電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　pp.10～　(1)　2008-09
伊豆雄太郎* 佐藤逸人 南出雅裕 中田　高 田島大輔 高庄幸孝 本部光幸 大坪昌久	EDLC シミュレーションモデルの内部パラメータ補正に関する検討	CD-ROM　平成 21 年電気学会全国大会　北海道大学　pp.7～　(1)　2009-03
中村格 小迫雅裕	固体絶縁粒子を充填した菜種油の絶縁破壊特性の一検討	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43 号　pp.63～64　(2)　2009-02

電子制御工学科

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
福添孝明 伊藤雅人 水戸大輔 渡邊睦	体型特徴と習慣性特徴の確率的統合認識に基づく非拘束状態下での人物同定法	冊子　電子情報通信学会　J91-D 巻　5 号　pp.1369～1379　(11)　2008-05
Keita YAMAZAKI Shigetaka HIROSATO Kiyotaka KAMATA Kazuhiro MURAMATSU Koichiro KOBAYASHI Akira HAGA	Open Type Magnetically Shielded Room combined with square cylinders made of magnetic and conductive materials for MRIs	冊子　IEEE Transaction on Magnetics　44 巻　11 号　pp.4183～4186　(4)　2008-11

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

2008年４月１日～2009年３月31日

引地力男 あべ松伸二 鎌田清孝 池田正利	出前授業を利用した中学生のものづくり向上の検討	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43 号　pp.17～22 (0)　2009-03
鎌田清孝 山崎慶太 広里成隆	磁性体角筒を併用したMRIオープンタイプ磁気シールドルームの検討	冊子　鹿児島高専研究報告　43 号　pp.65～68　(3) 2009-03
K. Kamata K. Muramatsu K. Yamazaki* T. Yamaguchi M. Sakakibara T. Shinnoh M. Simokawa N. Ishikawa K. Hino T. Meguro	Evaluation method on shielding performance of magnetically-shielded rooms	冊子　16th Intenational Conference on Biomagnetism　北海道 pp.228～228　(1)　2008-08
村松和弘 鎌田清孝 山崎慶太 山口孝夫 榊原 満 新納敏文 下川眞男 石川 登 日野耕一 目黒 卓	励磁コイルを用いた磁気シールドルームの遮蔽性能評価法の規格化の検討	冊子　第 23 回日本生体磁気学会大会　東京　pp.36～37　(2) 2008-06
村松和弘 鎌田清孝 山崎慶太 山口孝夫 榊原　満 新納敏文 下川眞男 石川　登 日野耕一 目黒 卓	励磁コイルによる磁気シールドルームの一様磁場遮蔽性能の推定法に関する検討	冊子　2008 年度日本建築学会大会（中国）学術講演会　広島大学（東広島市）　pp.609～610　(2)　2008-09
広里 成隆 山崎 慶太 村松 和弘 鎌田 清孝 小林 宏一郎	磁性体及び導電体により構成される角筒を用いた開放的なMRI室用シールドルームの検討	冊子　2008 年度日本建築学会大会（中国）学術講演会　広島大学（東広島市）　pp.605～606　(2)　2008-09
原口優* 村松和弘 広里成隆 山崎慶太 鎌田清孝	磁性体角筒を用いたＭＲＩ用開口型磁気シールドの寸法最適化	CD-ROM　第６１回電気関係学会九州支部連合会論文　大分 (1)　2008-09
石堂健二* 鎌田清孝	磁性体角筒を用いたMRI用開放型磁気シールドルームの検討	冊子　第１６回　電子情報通信学会九州支部　学生会講演会 http://www.ieice.org/kyushu/koen-hp/program/sectio　大分大学旦野原キャンパス　(1)　2008-09
広里 成隆* 山崎 慶太 村松 和弘 原口 優 芳賀 昭 鎌田 清孝 小林 宏一郎 松浦　淳郎	磁性体角筒を併用したＭＲＩ用オープンタイプ磁気シールドルームの検討（その２）	冊子　マグネティックス研究会　宮崎大学　(6)　2008-12
小田原峻也* 村松和弘 鎌田清孝 山崎慶太 山口孝夫 榊原 満 新納敏文 下川眞男 石川 登 日野耕一 目黒 卓	非線形磁気特性を考慮した励磁コイルによる磁気シールドルームの一様磁場遮蔽性能の推定法	CD-ROM　平成２０年度電気学会全国大会講演論文集 http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/03-conference/09-　北海道大学高等教育機能開発総合センター　pp.143～143　(1)　2009-03

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

研　究　業　績

島名　賢児* 近藤　英二 河野　良弘	エンドミルのたわみに起因する加工誤差の間接的方法による監視-ボールエンドミル加工における加工誤差の推定-	CD-ROM　2008 年度精密工学会秋季大会　宮城県仙台市　(2)　2008-09
島名　賢児* 近藤　英二 河野　良弘 山下　俊一 松尾　征一郎	エンドミルのたわみに起因する加工誤差の間接的方法による監視-ボールエンドミルによる半球面加工における加工誤差の推定-	CD-ROM　2009 年度精密工学会春季大会　東京　(2)　2009-03
吉満真一* 河野良弘 山下俊一 里中忍	画像撮影システムを用いた工具挙動の監視（第３報）	2008 年度精密工学会秋季大会　学術講演会講演論文集　東北大学川内北キャンパス（仙台市）　pp.305～306　2008-09
河野良弘 吉満真一 山下俊一* 櫻庭肇	工作機械構造の熱変形に関する研究（第３報）－送り駆動系の熱変位補正－	CD-ROM　2008 年度精密工学会秋季大会学術講演会　東北大学川内北キャンパス　pp.309～310 ,(2)　2008-09
島田晃聖 宮田千加良	倒立振子の運動に関する研究	CD-ROM　2008 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会大分大学　旦野原キャンパス　2008/09

情報工学科

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
立川雄一朗* 濱川恭央	微分相関型モデルによる連想記憶のパラメータに関する研究	冊子　第１６回電子情報通信学会九州支部　学生会講演会 http://www.ieice.org/kyushu/koen-hp/index.html　大分大学 (0)　2008-09
加治佐　清光	可逆色変換による ROI と準可逆による背景の符号化方式	冊子　電子情報通信学会論文誌Ｄ　Vol.J91-D 巻　No.8 号 pp.1963～1966　(4)　2008-08
加治佐　清光	圧縮率改善のための算術ブロック符号化用誤差拡散法	冊子　電子情報通信学会論文誌Ａ　Vol.J92-A 巻　No.1 号 pp.21～36　(16)　2009-01
篠崎佑介* 加治佐清光	可逆画像符号化方式 CALIC と AGSP の比較	CD-ROM　電気関係学会九州支部・電気関係学会九州支部連合大会講演論文集　大分大学　(1)　2008-09
中村博文* 加治佐清光 渕田孝康	データ圧縮の効率を高める前処理の可能性について	CD-ROM　情報理論とその応用学会・第３１回情報理論とその応用シンポジウム講演論文集　栃木県日光市　pp.698～703　(6)　2008-10
武田和大* 小野智司 中山茂	異機種混合並列計算ミドルウェア JSGrid	冊子　電子情報通信学会技術研究報告 ICM　鹿児島県県民交流センター(鹿児島市)　pp.1～6　(6)　2008-05
二宮秀典* 村上周三 赤坂裕 井川憲男 永村一雄 永村悦子 曽我和弘 武田和大 松本真一	建築エネルギー・環境シミュレーションツール BEST の開発　第２報 1 分値気象データの開発	冊子　2008 年度日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集　広島大学(東広島市)　pp.1029～1030　(2)　2008-09
福留伸高* 筒井陽介 今里淳平 武田和大 長澤康弘 曽我和弘 赤坂裕 村橋喜満 川上寛明	通気層を有する外壁・屋根の遮熱・断熱技術の定量的評価　その 16 冬季における室内表面温度分布と放射熱環境の比較	冊子　2008 年度日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集　広島大学(東広島市)　pp.245～246　(2)　2008-09
村橋喜満* 武田和大 福留伸高 赤坂裕 曽我和弘 川上寛明	通気層を有する外壁・屋根の遮熱・断熱技術の定量的評価 その 18 測定に基づく夜間放射量の評価	冊子　2008 年度日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集　広島大学(東広島市)　pp.249～250　(2)　2008-09

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

2008年４月１日～2009年３月31日

川上寛明* 赤坂裕 村橋喜満 曽我和弘 武田和大 福留伸高	通気層を有する外壁・屋根の遮熱・断熱技術の定量的評価 その17 日射を受ける屋根の表面温度に関するＡ棟とＢ棟の比較	冊子　2008年度日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集　広島大学(東広島市)　pp.247～248　(2)　2008-09
田畑克宜* 玉利陽三 湯ノ口万友	刺激電流分布の制御可能な磁気刺激における神経興奮特性のシミュレーションによる検討	CD-ROM　電気関係学会九州支部連合大会　大分大学　(1)　2008-09
田畑克宜 小川洋平 玉利陽三* 湯ノ口万友	刺激電流分布の制御可能な磁気刺激装置の開発に関する研究	冊子　計測自動制御学会生体生理工学シンポジウム論文集　名古屋大学　pp.269～270　(2)　2008-09

土木工学科

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
M. Hikida M. Moriyama Y. Nagai	DEBRIS-FLOW HAZARDS MITIGATION: Mechanics, Prediction, and Assessment	書籍　Millpress Science Publishers　pp.1～749　2008-09
Moriyama T. Nakayama H. Kon K. Hirano M. Hikida M.	Monitoring, Simulation, Prevention and Remediation of Dense and Debris Flows II	書籍　WITPRESS　pp.1～240　2008-09
小松利光 島谷幸宏 押川英夫 橋本彰博 中川一 川池健司 野口正人 大本照憲 田中健次 森山聡之 杉尾哲 村上啓介 北村良介 疋田誠	平成18年７月豪雨による災害の調査とその後の先駆的な取り組みに関する研究	書籍　土木学会平成18年７月豪雨災害緊急調査団　pp.1～113　2009-03
森山聡之 中山比佐雄 今匡太郎 平野宗夫 疋田誠	giSight を用いた土砂災害危険度マップの表示システム	冊子　NDIC NEWS　39巻　pp.9～14　(0)　2008-09
森山聡之* 中山比佐雄 今匡太郎 平野宗夫 疋田誠	giSight を用いた防災システムの開発	冊子　第 10 回日本災害情報学会大会予稿　東京都　pp.275～280　(0)　2008-10
今村安伸* 橋口和希 疋田誠 橋本晴行 高岡広樹	平成１８年鹿児島県北部豪雨における川内川の水位上昇とその考察(第２報)	CD-ROM　平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡市　pp.243～244　(0)　2009-03
橋口和希* 今村安伸 疋田誠 萩木場一水 今村哲志	川内川流域における洪水ハザードマップの課題とその考察(第２報)	CD-ROM　平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡市　pp.245～246　(0)　2009-03
北薗恭兵* 松元樹 疋田誠 森山聡之	土石流検知警報システムの開発（第２報）	CD-ROM　平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡市　pp.247～248　(0)　2009-03
西留　清	立体格子状回転円板による排水処理	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43 号　pp.23～32　(10)　2009-02
堤　隆 上堀内亮太 岩下　寛	理論解を用いた異方性供試体に対する圧裂試験によって生じる引張応力の解析	CD-ROM　第 38 回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集　(6)　2009-01

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－１－７

研究業績

Masayoshi Yamada* Hideki Harada Masahito Yamauchi Akiyoshi Ohashi	Process performance of high rate thermophilic multi-staged UASB reactor for treatment of alcohol distillery wastewater	Proceedings of the 1st International Symposium the "Green Technology for Global Carbon Cycle in Asi Nagaoka, Japan pp.194～ 2009-03
宮原清* 増田純雄 木原正人 山田真義 山内正仁	焼酎粕廃培地の作物栽培への利用に関する研究	土木学会全国大会　東北大学　川内キャンパス　2008-09
山下拓也* 山田真義 山内正仁 射手園章吾 原田秀樹	高温嫌気性バッフルドリアクターによる焼酎蒸留廃液の処理性能評価	土木学会全国大会　東北大学　川内キャンパス　2008-09
山田真義* 津曲譲太 山内正仁 長野晃弘 山口隆司	中温 UASB と無加温 DHS を組み合わせた高濃度フェノール廃水処理システムの性能評価	土木学会全国大会　東北大学　川内キャンパス　2008-09
佐藤浩太* 永井寛之 渡邊高子 珠坪一晃 山田真義 Pairaya Kucivilize Choeisai 山口隆司	嫌気性バイオリアクターを用いた天然ゴム製造工程廃液の処理特性評価	土木学会関東支部新潟会第 26 回研究調査発表会　新潟県　(2) 2008-11
松永健吾* 上村繁樹 山田真義 山内正仁 久保田健吾 原田秀樹 山口隆司	下水処理に適用した DHS における保持汚泥特性の評価	土木学会関東支部新潟会第 26 回研究調査発表会　新潟県 2008-11
田畑龍之介* 津曲譲太 山田真義 山内正仁 高橋優信 長野晃弘	高濃度フェノール廃水を対象とした UASB/DHS 処理プロセス処理特性	第 18 回九州沖縄地区高専フォーラム　久留米高専　pp.44～ 2008-12
城森雄太* 黒田恭平 射手園章吾 山田真義 山内正仁	高濃度 SS 含有廃水を対象とした高温嫌気性バッフルドリアクターによるメタン発酵処理	第 18 回九州沖縄地区高専フォーラム　久留米高専　pp.45～ 2008-12
野元雄介* 大田智也 松里大樹 松元皓隆 山田真義 山内正仁	高付加価値きのこの量産化技術の開発	第 18 回九州沖縄地区高専フォーラム　久留米高専　pp.51～ 2008-12
射手園章吾* 山田真義 山内正仁 小松俊哉 原田秀樹	アルコール蒸留廃水（甘藷焼酎粕）を対象とした可逆流嫌気性バッフルドリアクター（RABR）によるアルカリ剤削減効果に関する研究	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡県福岡市　pp.899～900　2009-03
津曲譲太* 山田真義 山内正仁 長野晃弘 高橋優信 山口隆司	中温 UASB と無加温 DHS を組み合わせた高濃度フェノール廃水処理システムの性能評価	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡県福岡市　pp.903～904　2009-03
山内正仁* 大田智也 野元雄介 山田真義 増田純雄	甘藷焼酎粕・でん粉粕利用による高機能性きのこ栽培条件の確立	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡県福岡市　pp.1013～1014　2009-03

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－１－８

2008年４月１日～2009年３月31日

山田真義* 松元皓陸 松里大樹 山内正仁 八木史郎	きのこ菌糸による焼酎粕・でん粉粕栽培中の臭気成分除去機構の解明	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　福岡県福岡市　pp.1015～1016　2009-03
津曲譲太* 山田真義 山内正仁 長野晃弘 高橋優信 山口隆司	高濃度フェノール排水を対象としたUASB/DHS システムの連続処理特性	第 43 回日本水環境学会年会講演集　山口県山口市　pp.615～ 2009-03
大田智也* 野元雄介 山田真義 山内正仁 山口隆司	甘藷焼酎粕・でん粉粕利用によるきのこ栽培技術の開発	第 43 回日本水環境学会年会講演集　山口県山口市　pp.625～ 2009-03
射手園章吾* 山田真義 山内正仁 小松俊哉 山口隆司 原田秀樹	高濃度 SS 含有有機性廃水（焼酎蒸留粕）を対象とした可逆流嫌気性バッフルドリアクター（RABR）による高速処理実験	第 43 回日本水環境学会年会講演集　山口県山口市　pp.549～ 2009-03
山内正仁 樗木直也 山田真義 増田純雄 米田真美 稲永醉二	焼酎蒸留粕の紙状成型ポットに含まれる窒素の肥料的効果	冊子　日本土壌肥料学雑誌　79 巻　3 号　pp.299～302　(4) 2008-06
山内　正仁	かんしょでん粉かすの有効利用について-きのこ栽培への利用-	冊子　でん粉情報　No.14 巻　pp.10～17　(8)　2008-11
Megumi Mihara* Masayoshi Yamada Sumio Masuda Mariko Sakamoto Tadahiro Matsuda Masahito Yamauchi	Practicality of a High Value-Added Edible Mushroom Using Sweet Potato Shochu Lees	CD-ROM　Proceedings of the Twenty-Fourth International Conference on Solid Waste Technology and Management Philadelphia, PA U.S.A　(7)　2009-03
Masahito Yamauchi* usuke Nomoto Tomoya Ota Masayoshi Yamada Hideki Harada	Property of edible mushrooms using dry solid matter of sweet potato shochu lees	Proceedings of the 1st International Symposium the "Green Technology for Global Carbon Cycle in Asi　Nagaoka, Japan pp.195～　2009-03
増田純雄* 山内正仁 山田真義 米田真美 安井賢太郎	嫌気性消化液のオゾン処理に関する一考察	土木学会全国大会第 63 回年次学術講演会　東北大学　川内キャンパス（仙台市）　2008-09
大久保秀樹* 山内正仁 今屋竜一	焼酎粕乾燥固形物を用いたきのこ栽培技術の開発について-焼酎粕培地に適した菌株の選定-	冊子　日本きのこ学会第 12 回大会講演要旨集　九州大学医学部百年講堂（福岡県福岡市）　pp.50～　(1)　2008-09
三林聖* uariyah　Binti Mohamad 宮原清 増田純雄 山内正仁 山田真義 安井賢太郎	消化液の生物処理に関する一考察	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　九州大学(福岡県福岡市)　pp.909～910　2009-03
渡邊完彦* 山口大悟 斎藤泰男 増田純雄 山内正仁 山田真義 安井賢太郎	養豚排水処理水のオゾンによる連続実験に関する研究	平成 20 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集　九州大学(福岡県福岡市)　pp.911～912　2009-03

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－１－９

研 究 業 績

一 般 理 系

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
Kazuo Yoshioka Kentaro Hikosaka Go Murakami Ichiro Yoshikawa Atsushi Yamazaki Hiromasa Nozawa	Development of the EUV detector for the BepiColombo mission	冊子　Advances in Space Research　41巻　9号　pp.1392～1396　(5)　2008-05
Kazuo Yoshioka Kentaro Hikosaka Shingo Kameda Hiromasa Nozawa Atsushi Yamazaki Ichiro Yoshikawa	Mercury's sodium exosphere explored by the BepiColombo mission	冊子　Advances in Space Research, Volume 41　41巻　9号　pp.1386～1391　(6)　2008-05
Tomoki Kimura Fuminori Tsuchiya Hiroaki Misawa Akira Morioka Hiromasa Nozawa	Occurrence and source characteristics of the high-latitude components of Jovian broadband kilometric radiation	冊子　Planetary and Space Sience　56巻　8号　pp.1155～1168　(14)　2008-06
Tomoki Kimura Fuminori Tsuchiya Hiroaki Misawa Akira Morioka Hiromasa Nozawa	Radiation characteristics of quasi-periodic radio bursts in the Jovian high-latitude region	冊子　Planetary and Space Sience　http://www.sciencedirect.com/science/journal/00320　56巻　pp.1967～1976　(10)　2008-12
Shingo Kameda* Ichiro Yoshikawa Fukuhiro Ezawa Go Murakami Gentaro Ogawa Hiromasa Nozawa Shoichi Okano Oleg Korablev David Rees	Observation of Mercury's exosphere by MSASI for BepiColombo/MMO	冊子　AOGS 2008　http://www.asiaoceania.org/aogs2008/index.asp　Busan, Korea　(0)　2008-06
木村智樹* 土屋史紀 三澤浩昭 森岡昭 野澤宏大	Periodicities of Jovian Quasi-Periodic bursts observed by Galileo and Ulysses spacecraft	第 124 回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会　宮城県仙台市　(0)　2008-10
野澤宏大* 亀田真吾 吉川一朗 江沢福紘 山崎敦 笠羽康正 岡野章一	Current status of Mercury Sodium Atmosphere Spectral imager (MSASI) onboard BepColombo/MMO	第 124 回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会　宮城県仙台市　(0)　2008-10
大竹孝明 岡林巧 下園広喜 蔵薗有佑 馬場秀二 岡林悦子 佐藤祐一 吉田昌弘 幡手泰雄	微生物を固定化した竹炭及び軽石等の自然物粒子を利用した水質浄化	冊子　化学工学会シンポジウムシリーズ　８０　機能性微粒子の高機能化・新展開・用途開発　pp.186～192　(7)　2008-07
大竹孝明 芝浩二郎 河野良弘 植村眞一郎 椎保幸 室屋光宏 松元悦郎 山下俊一 中原義毅 桐野弘城 村上幸司 伊藤茂	中小企業ものづくり人材育成事業におけるプログラムの開発	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43号　pp.1～6　(6)　2009-02

— 53 —

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－１－１０

2008年４月１日～2009年３月31日

大竹孝明 河野良弘 芝浩二郎 鎌田清孝 中村格 本部光幸 植村眞一郎 玉利陽三 中原義穀 松元悦郎 山下俊一 桐野弘城 村上幸司 伊藤茂	鹿児島県における環境にやさしい農水工連携支援自動化機器システムの開発技術者育成事業	冊子　独立行政法人国立高等専門学校機構論文集「高専教育」32号　pp.975～980　(6)　2009-03
大竹孝明 河野良弘 鎌田清孝 中村格 本部光幸 中原義穀 磯田信一 安楽四郎 桐野弘城 村上幸司 町田修一	鹿児島高専における地域企業の若手技術者への現場技術者教育に関する調査事業	冊子　独立行政法人国立高等専門学校機構論文集「高専教育」32号　pp.981～986　(6)　2009-03
大竹孝明* 窪崎拓也 丸田大地 平田登基男 前田滋	都市ゴミ焼却灰の飛灰の粒度分布と含有重金属の抽出	冊子　化学工学会九州支部他、第 45 回化学関連支部合同九州大会講演予稿集　http://molsc.mol.kyushu-u.ac.jp/~godo45/　福岡県北九州市　pp.371～371　(397)　2008-07
大竹孝明* 窪崎拓也 丸田大地 平田登基男 前田滋	都市ゴミ焼却灰(飛灰)の粒度分布と含有重金属の酸による抽出	冊子　高専シンポジウム in 高知 実行委員会、第 14 回高専シンポジウム in 高知講演要旨集　高知市　(1)　2009-01
大竹孝明* 芝浩二郎 河野良弘 植村眞一郎 椎保幸 室屋光宏 松元悦郎 山下俊一 中原義穀 桐野弘城 村上幸司 伊藤茂	鹿児島高専の中小企業ものづくり人材育成事業におけるプログラムの開発について	冊子　高専シンポジウム in 高知 実行委員会、第 14 回高専シンポジウム in 高知講演要旨集　高知市　(1)　2009-01
白坂　繁	三角関数の不等式の図形的意味	冊子　日本数学教育学会　http://www.sme.or.jp　91 巻　1 号　pp.18～23　(6)　2009-01
白坂　繁*	三角関数の不等式の図形的意味	冊子　第 90 回全国算数・数学教育研究（福島）大会　http://www.sme.or.jp　福島県郡山市　pp.486 ～ 486　(0)　2008-08
Takemi Mizokami Norihito Shimane	The M_3 versus M_1 Problem in Generalized Metric Spaces	書籍　Yokohama Publishers　pp.1～266　2008-04

一般文系

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
保坂　直之	連作構造としての『夢の中のセバスティアン』(４)―二つの Elis の詩の役割	冊子　高専ドイツ語教育　11 号　pp.31 ～ 44　(14)　2009-03
保坂　直之*	歴史的資料としてのビデオ教材『Guten Tag』	九州地区ｊ高専ドイツ語教育研究会　北九州高専(北九州市)　(0)　2009-03
松田　信彦	『先代旧事本紀』を読み解く　巻第七「天皇本紀」	冊子　歴史読本　53 巻　12 号　pp.130 ～ 137　(8)　2008-12

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－１－１１

研　究　業　績

松田　信彦	『日本書紀』巻四（いわゆる欠史八代巻）の虚構	冊子　菅野雅雄博士喜寿記念　記紀・風土記論究　pp.348～360　(13)　2009·03
松田　信彦*	日本書紀「区分論」再考－多変量解析の考え方を参考にして－	冊子　上代文学会　平成２０年度大会　福岡女学院大学　pp.18～22　(0)　2008·05
中村　隆文	「ヒューム正義論再考――賢明な悪人問題をなぜ「われわれ」は理解できるのか？」	冊子　『哲学』（日本哲学会）　59 号　pp.227～246　(20)　2008·04
中村　隆文	「ヒューム主義的スーパーヴィーニエンスの問題は解消されるべきか？」	冊子　『科学基礎論研究』（科学基礎論学会）　109 号　pp.1～9　(9)　2008·04
中村　隆文	「ヒューム主義であるとはどのようなことか？」	冊子　『人文社会科学研究』（千葉大学人文社会科学研究科）　17 号　pp.1～17　(17)　2008·10
塚崎　香織	リーディング・モチベーションのアンケート調査·高専１年生の場合	冊子　論文集「高専教育」　32 号　pp.225～230　(6)　2009·03

技術室

氏　名	課　題	雑誌，講演会，または発行所等
原田　正和	最新ものづくり共削り加工の最適条件を導き出す工作実習の検討	冊子　生理学技術研究会報告　30 号　pp.58～60　(3)　2008·05
松元　悦郎 植村　眞一郎 山下　俊一 桐野　弘城 油田　功二 原田　正和 松尾　征一郎 永田　亮一 中原　和範 尾曲　伸一 池田　健一 木場　義弘	ワシントン椰子の技払いロボットの開発(2)	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43 号　pp.49～52　(0)　2009·03
原田　正和 引地　力男	共削り加工における加工面品位に関する研究	冊子　鹿児島工業高等専門学校研究報告　43 号　pp.57～62　(0)　2009·03
原田　正和* 引地　力男	共削り加工における加工面品位に関する研究（第２報，多積層材について）	２００８年度精密工学会九州支部福岡地方講演会講演論文集　九州大学（福岡市）　pp.91～92　2008·12
河野良弘 吉満真一 山下俊一* 櫻庭　肇	工作機械構造の熱変形に関する研究（第３報）	CD·ROM　2008 年度　精密工学会秋季大会学術講演会　東北大学　川内北ｷｬﾝﾊﾟｽ　pp.309～310　(2)　2008·09

（出典：研究報告第44号(2009)の研究業績）

資料Ａ－１－②－２

外部資金受入状況及び教員の研究活動　Research Promotion and Faculty Member's Current Research(both domestic and overseas)

科学研究費補助金（最近３年間）　Subsidies for Scientific Research (Last 3 Years)

■研究代表者として採択分　　金額単位：千円

年度	基盤研究B 件数	基盤研究B 金額	基盤研究C 件数	基盤研究C 金額	萌芽研究 件数	萌芽研究 金額	若手研究(A) 件数	若手研究(A) 金額	若手研究(B) 件数	若手研究(B) 金額	若手研究スタートアップ 件数	若手研究スタートアップ 金額	奨励研究 件数	奨励研究 金額	計 件数	計 金額
19	1	3,510 810	5	7,670 1,770					2	2,100 0			1	370 0	9	13,650 2,580
20	1	8,060 1,860	3	4,030 930					1	1,300 300	1	1,716 396	1	570 0	7	15,676 3,486
21	1	5,330 1,230	3	3,250 750	1	500 0			2	2,080 480	1	1,521 351	1	570 0	9	13,251 2,811

上段：総額（含間接経費）／下段：間接経費（20年度より奨励研究を除く全研究種目に措置）

■研究分担者として採択分　　金額単位：千円

年度	基盤研究B 件数	基盤研究B 金額	基盤研究C 件数	基盤研究C 金額	萌芽研究 件数	萌芽研究 金額	若手研究(A) 件数	若手研究(A) 金額	若手研究(B) 件数	若手研究(B) 金額	若手研究スタートアップ 件数	若手研究スタートアップ 金額	奨励研究 件数	奨励研究 金額	計 件数	計 金額
19					1	370 0									1	370 0
20	2	2,015 465			1	100 0									3	2,115 465
21	3	2,061 476													3	2,061 476

上段：総額（含間接経費）／下段：間接経費

その他科学研究費補助金（最近３年間）　Other Subsidies Research (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	環境省 件数	環境省 金額	環境省 件数	環境省 金額	厚生労働省 件数	厚生労働省 金額	計 件数	計 金額
名称	廃棄物処理等科学研究費補助金		循環型社会形成推進科学研究費補助金		厚生労働科学研究費補助金			
20	2	17,910 2,822					2	17,910 2,822
21			2	33,210 0			2	33,210 0

上段：総額（含間接経費）／下段：間接経費

共同研究（最近３年間）　Joint Research (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	機械工学科 件数	機械工学科 金額	電気電子工学科 件数	電気電子工学科 金額	電子制御工学科 件数	電子制御工学科 金額	情報工学科 件数	情報工学科 金額	土木工学科 件数	土木工学科 金額	一般教育科 件数	一般教育科 金額	その他 件数	その他 金額	計 件数	計 金額
19	1	1,500	2	3,800	1	850			5	6,300	2	500			11	12,950
20	2	2,500	2	3,500	2	850			6	5,775	1	300			13	12,925
21	3	2,770	2	570	1	600	1	350	4	2,790	1	300			12	7,380

受託研究（最近３年間）　Requested Research (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	機械工学科 件数	機械工学科 金額	電気電子工学科 件数	電気電子工学科 金額	電子制御工学科 件数	電子制御工学科 金額	情報工学科 件数	情報工学科 金額	土木工学科 件数	土木工学科 金額	一般教育科 件数	一般教育科 金額	その他 件数	その他 金額	計 件数	計 金額
19			3	5,539					3	10,413					6	15,952
20			1	2,202					3	11,896					4	14,098
21			1	2,000					2	5,500					3	7,500

寄附金（最近３年間）　Donations (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	機械工学科 件数	機械工学科 金額	電気電子工学科 件数	電気電子工学科 金額	電子制御工学科 件数	電子制御工学科 金額	情報工学科 件数	情報工学科 金額	土木工学科 件数	土木工学科 金額	一般教育科 件数	一般教育科 金額	その他 件数	その他 金額	計 件数	計 金額
19	3	586	1	300	5	1,500	1	125	8	7,910			11	11,796	29	22,217
20	2	200			3	1,000	1	125	8	5,400			8	9,365	22	16,090
21	7	2,094	1	100	3	1,550	3	785	7	5,397			6	8,460	27	18,386

（出典：平成22年度学校要覧）

資料Ａ－１－②－３

外部資金受入状況及び教員の研究活動 Research Promotion and Faculty Member's Current Research(both domestic and overseas)

受託試験（最近３年間） Consigned Technical and Engineering Tests-mostly from companies (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	コンクリート圧縮試験		金属材料引張試験		金属材料曲げ試験		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
19	1,245	17,721	4	113	2	60	1,251	17,894
20	1,134	14,210	7	230	0	0	1,141	14,440
21	1,106	15,185					1,106	15,185

その他補助金（最近３年間） Other Subsidies (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	配分機関・団体	制度・事業名	研究題目・プロジェクト名	採択額
19	経済産業省 九州経済産業局	平成19年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業	農水工連携支援自動化機器システム構築のための「ものづくり講座」を軸とした問題発見解決型技術者の育成プログラム	8,999 0(※1)
	文部科学省	大学改革推進事業(学生支援GP)	新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム：新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム	20,806 20,806
	鹿児島県	鹿児島県電子産業産学官共同研究開発事業	高機能・小型ワシントン椰子枝払い機の研究開発	6,000 0(※1)
	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座型学習活動	離島中学校向けものづくり教育支援・英語でものづくり	1,988 1,988
	鹿児島県	鹿児島県産業廃棄物排出抑制・リサイクル等推進事業	鹿児島県産業廃棄物排出抑制・リサイクル等推進事業費補助金	2,994 2,994
	国立大学法人名古屋大学太陽地球環境研究所	大学施設共同利用研究制度	イオプラズマトーラスの可視分光観測	33 33
	財団法人　国土技術研究センター	(財)国土技術研究センター研究開発助成	廃棄物焼却残渣を主原料とした資材開発と国土保全への活用	1,720 1,720
	経済産業省 九州経済産業局	地域新生コンソーシアム研究開発事業	きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の多用途再生技術の確立	29,000 5,720(※2)
20	経済産業省 九州経済産業局	平成20年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業	実践的な農水工連携支援自動化機器システム設計のための専門技術者育成プログラム	13,999 0(※1)
	経済産業省 九州経済産業局	地域資源活用型研究開発事業	きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の多用途再生技術の確立	15,000 4,545(※2)
	鹿児島県	鹿児島県電子産業産学官共同研究開発事業	高機能・小型ワシントン椰子枝払い機の研究開発	4,000 0(※1)
	文部科学省	平成20年度戦略的大学連携支援事業(代表校：鹿児島大学)	鹿児島はひとつのキャンパス－地域のリーダー養成のための大学連携と総合教育の構築－	77,000 3,208
	文部科学省	大学改革推進事業(学生支援GP)	新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム：新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム	20,000 20,000
	文部科学省	平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」(教育GP)	技術士会と連携した新たな実践的技術者育成	19,996 19,996
21	文部科学省	平成21年度戦略的大学連携支援事業(代表校：鹿児島大学)	鹿児島はひとつのキャンパス-地域のリーダー養成のための大学連携と総合教育の構築-	85,000 2,861
	文部科学省	平成21年度「質の高い大学教育推進プログラム」(教育GP)	技術士会と連携した新たな実践的技術者教育	19,000 19,000
	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	平成21年度地域の科学舎推進事業地域活動支援	小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」	995 0(※1)
	全国中小企業団体中央会	平成21年度ものづくり分野の人材育成・確保事業「人材対策基金補助金」	新エネルギー(燃料電池・太陽電池)を応用するための基盤技術を学び、ものづくりを通して、低炭素社会に貢献できる問題発見解決型技術者の人材育成プログラム	14,999 0(※1)
	経済産業省 九州経済産業局	平成21年度人材養成等支援事業「地域企業立地促進等事業費補助金」	鹿児島県本土地域自動車・電子関連産業活性化人材養成等事業	23,851 0(※1)

金額の上段：総額／下段：本校受入額
(※1) 本校受入額が0計上の事業は管理を外部に委託したもの。
(※2) 管理法人と本校との受託研究契約により受託研究項目に計上。

国立高等専門学校機構在学研究員（最近３年間） INCT-sponsored Overseas Research (Last 3 Years)

金額単位：千円

年度	氏名	学科	渡航先国	研究先機関	渡航機関
19	－	－	－	－	－
20	江崎　秀司	機　械	アメリカ合衆国	The City University of New York	H21.3.30～H22.3.29
21	－	－	－	－	－

INCT: Institute of National College of Technology（国立高等専門学校機構）
※本制度は平成17年度より開始。

（出典：平成22年度学校要覧）

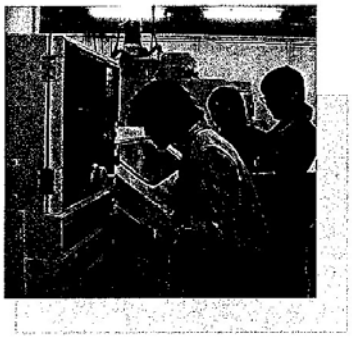
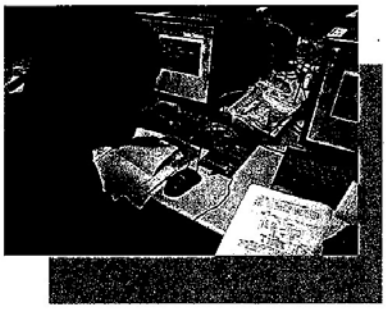
資料Ａ－１－②－４－１

経済産業省　委託事業

平成20年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業

実践的な農水工連携支援自動化機器システム設計のための専門技術者育成プログラム

成果報告書

平成21年3月

株式会社　鹿児島TLO

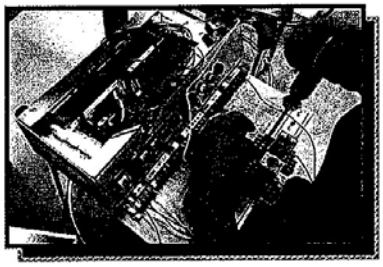
KAGOSHIMA Technology Licensing Organization

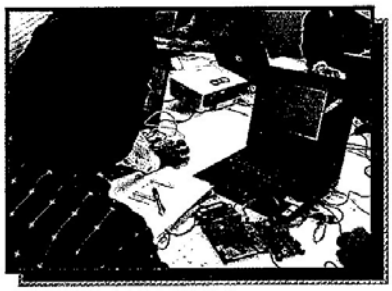
（出典：人材育成事業成果報告書）

資料Ａ－１－②－４－２

経済産業省　補助事業

平成二十一年度　鹿児島県本土地域自動車・電子関連産業活性化人材養成等事業





株式会社　鹿児島ＴＬＯ

平成２２年２月

Kagoshima Technology Licensing Organization

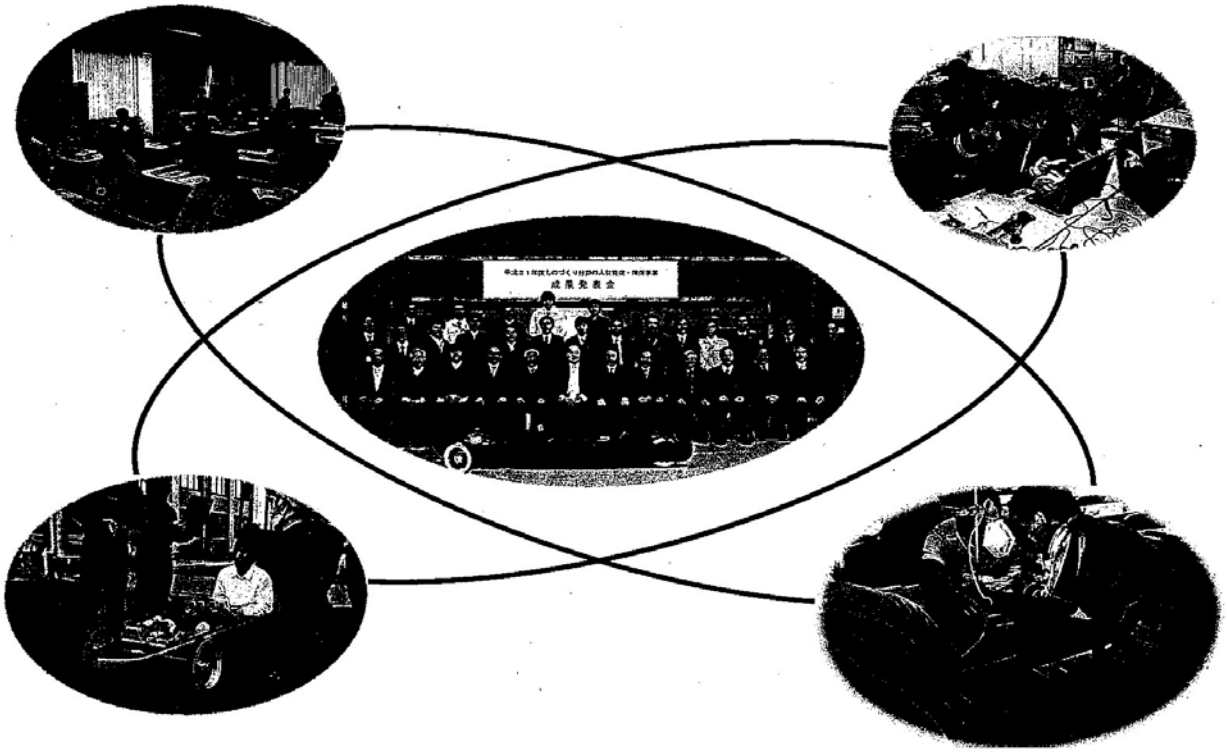
（出典：人材育成事業成果報告書）

資料Ａ－１－②－４－３

平成 21 年度ものづくり分野の人材育成・確保事業

新エネルギー(燃料電池・太陽電池)を応用するための基盤技術を学び、ものづくりを通して
低炭素社会に貢献できる問題発見解決型技術者の人材育成プログラム

成果報告書



平成 22 年 3 月

株式会社　鹿児島 TLO

KAGOSHIMA Technology Licensing Organization

（出典：人材育成事業成果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」については，各教員の査読付論文，国際会議プロシーディングス，口頭発表，紀要・雑誌等への掲載論文の研究業績より，引き続き成果が上がっていることがわかる。これらの教育研究成果は，学生教育にも役立てられている。また，これらの研究業績をベースとした共同研究数の増加からも，教育・研究活動の高度化・活性かが図られているのが分かる。

「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては，地域共同テクノセンターを中心として，地域企業への技術相談や技術支援，共同研究，受託研究の推進，人材育成事業による地域企業の若手技術者の育成が図られ，その成果として，技術相談及び共同研究への積極的な取り組みが行われ，外部資金を受け入れていることから，その成果が上がっていると判断される。

Ａ－１－③：　研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

研究・知財委員会が管理している研究者総覧システムで，研究業績のデータベース化を行なっている（資料Ａ－１－③－１）。年一回以上の研究業績データベースの更新を義務付けている。研究業績データベースから，当該年度の研究業績を，当該年度の研究報告に研究業績として掲載している。研究者総覧システムで研究業績を査読付論文は 10 点，口頭発表は 1 点などと数値データとして算出できるようにしてあり，教職員の業績評価に利用している。校内研究助成の採択者，科学研究費補助金の採択者には，研究成果の公表を義務づけている。このように，研究活動の実態に関しては，研究・知財委員会が研究報告の編集及び研究者総覧システムの運用を通して，把握している。それらの研究実績をまとめ，自己点検・評価委員会で自己点検し，その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けている。また，地域共同テクノセンターの共同研究部門及び研究促進部門が「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」という目的に沿った研究活動・技術相談などの実施状況等を把握している。また，錦江湾テクノパーククラブを中心とした地域との連携活動に関しても，その実施状況などを把握している。これらの実施状況等は，地域共同テクノセンターが毎年発行している「地域共同テクノセンター広報誌・研究シーズ集」に実施状況等を掲載して紹介することによって，本校教員にフィードバックし改善に努めている（資料Ａ－１－③－２－１～３）。

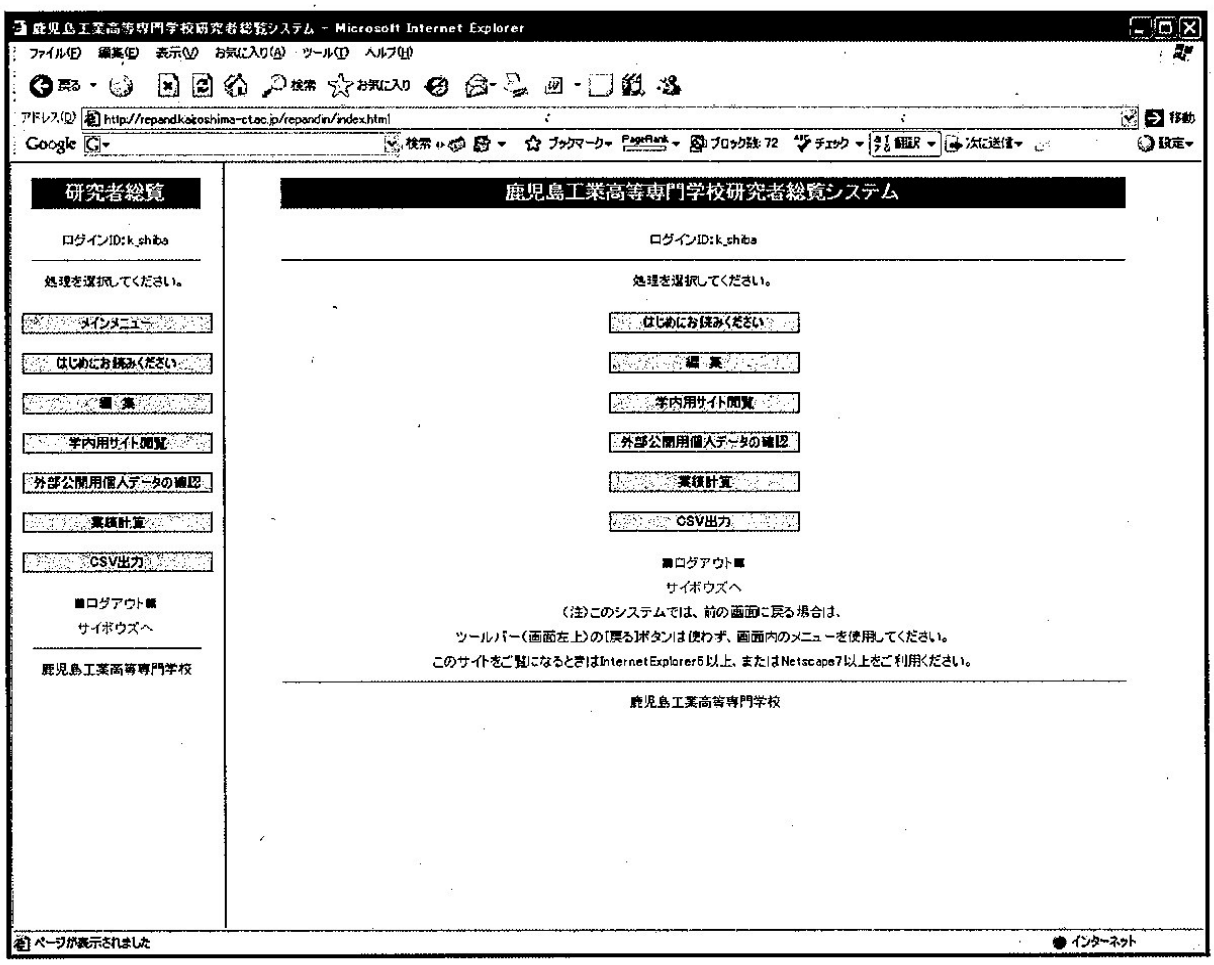
これらのことから，研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターが研究活動の実体を把握し，改善を行う体制が整備され，機能している

観点Ａ－１－③資料一覧

（資料Ａ－１－③－１）研究業績データベース　　出展：研究者総覧システム

（資料Ａ－１－③－２－１～３）実施状況の把握　　出典：地域共同テクノセンター広報誌・研究シーズ集（2009年版）

資料Ａ－１－③－１

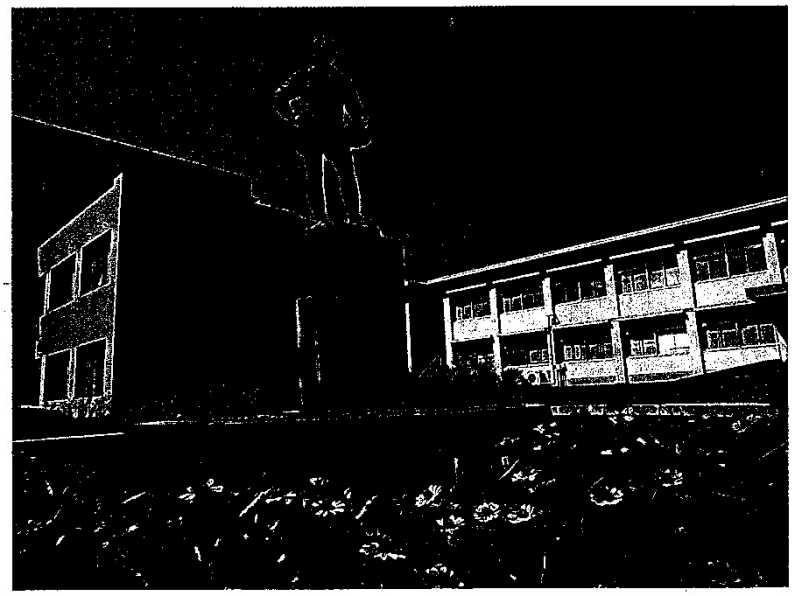


（出展：研究者総覧システム）

資料Ａ－１－③－２－１

鹿児島高専　地域共同テクノセンター広報誌 研究シーズ集

2009 年版



（出典：地域共同テクノセンター広報誌）

資料Ａ－１－③－２－２

地域共同テクノセンター広報誌

目　次

	頁
１．ご挨拶	1
（１）鹿児島工業高等専門学校長　赤坂　裕	1
（２）地域共同テクノセンター長　芝　浩二郎	1
２．センターの概要	2
（１）スタッフ	2
（２）組織図	3
（３）センター内設備配置	4
（４）設備一覧	4
３．研究活動	7
（１）共同研究	7
（２）受託研究	7
（３）受託試験	8
（４）寄附金	8
（５）科学研究費補助金	9
（６）技術相談	9
４．産学官連携	10
（１）平成21年度人材養成等支援事業（地域企業立地促進等事業費補助金）「鹿児島県本土地域自動車・電子関連産業活性化人材養成等事業」	10
（２）全国中小企業団体中央会「平成21年度ものづくり分野の人材育成・確保事業」	11
（３）第８回産学官連携推進会議	13
（４）第７回全国高専テクノフォーラム	14
（５）ソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官連携推進室」	14
（６）事業報告（平成20年度～21年度）	15

（出典：地域共同テクノセンター広報誌）

５．錦江湾テクノパーククラブ（ＫＴＣ）　20

（１）錦江湾テクノパーククラブ　会長挨拶　21

（２）内容紹介　21

（３）事業内容　21

（４）平成20年度活動内容　22

（５）平成21年度活動内容　23

（６）錦江湾テクノパーククラブ規約　23

（７）研究会　25

（８）会員名簿　26

（９）会員の分布　27

（10）例会・講演会一覧　28

（11）ＫＴＣ事務局　29

６．センターの利用について　29

研究シーズ

（出典：地域共同テクノセンター広報誌）

（分析結果とその根拠理由）

研究活動の実態に関しては，研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターが把握し，自己点検・評価委員会で自己点検し，その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けることにしている。また，研究・知財委員会が研究実績の評価を行い，この評価をもとに改善を行う取り組みがなされている。このことから，研究・知財委員会が研究活動の実態を把握し，評価すると共に，その結果を踏まえて改善を行う体制が整備され，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターを中心に全学的に研究活動の促進を図っている点
・　Ｗｅｂ上から更新・参照できる研究者総覧システムにより研究業績のデータベース化を行い，研究業績の把握・数値化を行なっている点
・　産官学交流組織「錦江湾テクノパーククラブ」を設立し，地域共同テクノセンターが，共同研究の推進や産官学連携の促進等のため，地元企業からの技術相談や本校の研究シーズと企業のニーズのマッチングを図っている点

（改善を要する点）

特になし

（３）追加評価事項Ａの自己評価の概要

本校での研究体制は，各科を基本としており，科内で関連する専門分野の教員が，共同研究や情報交換を行っているほか，個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに，学科を横断して共同研究が行われる場合もある。支援体制としては，校長裁量経費による校内研究助成制度が設けられている。共同研究・受託研究あるいは寄附金等の助成の受け入れを推進するために，地域共同テクノセンターが，本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。この他に，研究・知財委員会による研究報告の編集・出版，研究者総覧システムによる研究業績等の公開が行われている。

教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」については，各教員の査読付論文，国際会議プロシーディングス，口頭発表，紀要・雑誌等への掲載論文の業績数より，引き続き，成果が上がっていることがわかる。これらの教育研究成果は，学生教育にも役立てられている。また，これらの業績をベースとした共同研究の件数の増加も図られている。

「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては，地域共同テクノセンターを中心として，地域企業への技術相談や技術支援，共同研究，受託研究の推進が図られ，その成果として，技術相談及び共同研究への積極的な取り組みが行われ，外部資金を受け入れていることから，その成果が上がっていることがわかる。

研究活動の実態に関しては，研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターが把握し，自己点検・評価委員会で自己点検し，その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けることにしている。また，研究・知財委員会が研究実績の評価を行い，この評価をもとに改善を行う取り組みがなされている。これらのことから，研究・知財委員会が研究活動の実態を把握し，評価すると共に，その結果を踏まえて改善を行う体制が整備され，機能している。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

Ｖ追加評価事項Ｂ（正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況）

１．「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校では，正規課程の学生以外に対する教育サービスとして，主に公開講座等を実施している。これは「本校の教育・研究を広く社会に解放し，社会人の生涯教育の一助とすると共に地域社会の文化の向上に貢献すること。」が目的であり，本校の教育理念を達成するための３つの目標の一つである「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元するとともに国際交流を推進する。」の中の「地域との交流を推進し，教育・研究成果を地域に還元する。」ことに対応している。

２．正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

（１）観点ごとの分析

観点Ｂ－１－①：　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育理念を達成するための３つの目標の一つに「地域との交流を推進し，教育研究成果を地域に還元する。」ことを掲げて，これを教育サービスの目的としている。この目的を達成するために学則に「本校に公開講座を開設することができる。」と定め（学則第57条），公開講座を実施するための基本方針として，公開講座規則を定めている。近年では，一般社会人，中学生，小学生を対象として，平成19年度には7講座17回，平成20年度は10講座21回，平成21年度は9講座27回の公開講座が実施されている（資料Ｂ－１－①－１）。

公開講座については，学生課教務係で前年度に公開講座の計画・募集を行い，年度当初に担当教員が公開講座実施計画書を提出している。ウェブページでの案内の他，募集ポスターを鹿児島県内の中学校等に配布している。公開講座の中には出前講座と呼ばれるものもあり，先方の機関からの要請により，小・中学生，教員，保護者を対象に本校の教職員が出向いて実施するものもあり，平成19年度は11回，平成20年度は12回，平成21年度は20回実施した。また，平成20年度から吹奏楽部とメカトロニクス研究部による「高専ロボットと音楽会」を6月第3週日曜日に開催している。

昭和59年度より中学生，中学校の教員及び保護者を対象に一日体験入学が実施されている。これは，本校及び各学科の説明，施設見学，体験学習等を実施し，本校をPRすることが主たる目的であるが，本校の教育・研究成果を一般に公開し，地域との交流を推進し，教育研究成果を地域に還元することも目的に含まれている。一日体験入学は，教務主事及び担当教務主事補が中心となって計画し，教職員及び本校学生（特に５年生および専攻科生）の協力のもとに全学的に実施している。案内はウェブページに掲載するほか，各中学校にポスターや各学科の体験実習内容パンフレットを郵送している。

本校図書館は，中学生以上の学外者に開放されている。このことは，図書館ウェブページで案内しており，現在17名が利用登録し，貸出冊数は年々増加している。近隣の企業に勤務し，学術研究，技術調査研究のための専門図書の利用が主である。

さらに，本校では，「地域との交流を推進し，教育研究成果を地域に還元する。」ために，県内の各機関との共催や連携による事業にも積極的に取り組んでいる。その事業として次のようなものがある。いずれの事業も，関係機関と協定を結び，両者の連携の下で計画的に実施されている。

（ａ）鹿児島市立科学館共催事業

鹿児島市立科学館との共催で「玉入れ競技ロボットの製作」および「鹿児島高専のロボッ

トがやってきた」を毎年実施している。平成19～21年度は，「玉入れ競技ロボットの製作」については平成19年8月8日と平成20年8月6日に実施した。「鹿児島高専のロボットがやってきた」については各年1月末に実施した。対象は小・中学生で，教職員が講座の説明にあたっている。「鹿児島高専のロボットがやってきた」の事業では，高専ロボットコンテストに出場しているメカトロニクス研究部の部員（本校学生）も参加し，ロボットの説明にあたっている。また，平成21年9月6日には，初めて「鹿児島高専の日」として各学科の公開講座やパネル展示，音楽ロボットによる演奏会，高専ロボコン大会参加のロボットの展示・紹介及び学校紹介等を実施し，今後毎年実施していく予定である。

（ｂ）パワーアップ研修

これは，鹿児島県の小中高校教員を対象とした研修で，鹿児島県総合教育センターの依頼に応じて，平成19年度は4講座，平成20年度は4講座，平成21年度は5講座を提供した。

（ｃ）ニューライフカレッジ隼人

旧隼人町教育委員会（現霧島市），志學館大学生涯学習センター，本校の３者が連携して，地域社会人の生涯学習の機会を提供することを目的として，大学教育入門程度のコースを設置している。この活動に，本校は平成16年度から参画し，19年度は0講座だったが，20年度に1講座，21年度に1講座を提供している。

（ｄ）隼人錦江スポーツクラブ

隼人錦江スポーツクラブは，文部科学省が打ち出した生涯スポーツ社会の実現に向けた「スポーツ振興基本計画」の理念と施策を踏まえ，本校と旧隼人町教育委員会（現霧島市）が平成15年４月に共同で設立した総合型地域スポーツクラブである。

この隼人錦江スポーツクラブの設立，運営，活動に当たっては本校が主体となり，本校が有する物的財産（広大な体育運動施設）及び人的財産（クラブ顧問やクラブ学生等指導者）を広く地域住民に還元するため様々な事業を実施している。現在，グラウンドゴルフ，ソフトテニス，サッカーを始め14種目を開講しており，地域の体育協会や体育指導員会，各種競技団体等と連携協力し，運営並びに技術指導を行っているが，うち14種目のうち４種目については本校の教職員が指導者として，また，本校学生が指導補助者としてボランティアで携わっている。

種目の開講に当たっては，種目毎に開講回数，開講時間帯，技術や年齢に応じたグループ分け等，会員の多様なニーズに応えられるように，週単位のプログラムを作成し，年間を通じて計画的に実施されている。さらに，通常のプログラム以外にも会員相互の交流と親睦を図る行事や，隼人錦江スポーツクラブが主催する各種クラブ杯大会等を実施している。

なお，本クラブは，行政に依存することなく，地域住民が主体となったクラブ運営を行い，地域に密着したクラブとして活動することが良策と考え，平成18年１月に特定非営利活動（NPO）法人格の認可を受けた。

基準Ｂ－１－①資料一覧

（資料Ｂ－１－①－１）公開講座・出前講座一覧（学生課資料）

資料Ｂ－１－①－１

公開講座・出前講座一覧

年度	区分	講座名	日程	担当学科等	募集人数	受講者数	対象者
21	公開	アイデア勝負！手作りロボット講座	7月26日	機械工学科 電子制御工学科	20名	5名	中学生以上
	公開	小学生のためのものづくり教室	7月20日	機械工学科	40名	5名	小学生
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう（LEGOブロックロボット）	7月26日	電子制御工学科	10名	12名	小学5年生～中学生
	公開	環境に優しいソーラーカーをつくろう！	8月1日	電気電子工学科	10名	11名	小学5年生～中学生
	公開	ロボットを組み立てて制御の仕組みを知ろう！	8月29日	電子制御工学科 情報工学科	10名	14名	小学4～6年生
	公開	ワンチップマイコンPIC搭載ロボットカーの製作（電気電子工学ものづくり講座）	8月30日	電気電子工学科	10名	13名	中学生
	出前	手作りロボット講座	5月24日	機械工学科	40名	32名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	6月23日	機械工学科	40名	5名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	6月23日	機械工学科	40名	4名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	7月17日	機械工学科	40名	4名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	7月18日	機械工学科	40名	16名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	7月19日	機械工学科	40名	14名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	8月26日	機械工学科	40名	13名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月7～10日	機械工学科	40名	21名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月7～12日	機械工学科	40名	20名	高専生・大学生
	出前	手作りロボット講座	9月25日	機械工学科	40名	57名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月26日	機械工学科	40名	24名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月26日	機械工学科	40名	24名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	10月21日	機械工学科	40名	20名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	10月21日	機械工学科	40名	12名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	11月4日	機械工学科	40名	23名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	12月2日	機械工学科	40名	21名	小学生・中学生
	出前	ロボットコンサート	9月3日	情報工学科	制限なし	93名	小学生・中学生
	出前	ロボットコンサート	10月15日	情報工学科	制限なし	282名	幼稚園児
	出前	ロボットコンサート	11月12日	情報工学科	制限なし	280名	幼稚園児
	出前	ロボットコンサート	1月26日	情報工学科	制限なし	45名	小学生
20	公開	アイデア勝負！手作りロボット講座	7月27日	機械工学科 電子制御工学科	20名	4名	中学生以上
	公開	小学生のためのものづくり教室	7月21日	機械工学科	40名	17名	小学生
	公開	パスタ（スパゲッティ）で橋を作ろう！	7月27日	土木工学科	30名	2名	小学高学年・中学生
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう（LEGOブロックロボット）	8月2日	電子制御工学科	10名	16名	小学5年生～中学生
	公開	太陽と水で走るミニエコカー	8月2日	電気電子工学科	15名	4名	小学6年生～中学生
	公開	ワンチップマイコンPIC搭載ロボットカーの製作（電気電子工学ものづくり講座）	8月30日	電気電子工学科	10名	6名	小学高学年・中学生
	公開	ICを用いた簡単なロボット（ライントレーサー）を作ろう	8月30日	電子制御工学科	6名	6名	中学生
	公開	パスタ（スパゲッティ）で橋を作ろう！	12月7日	土木工学科	20名	5名	小学高学年・中学生
	公開	CADで橋を描こう！	12月7日	土木工学科	20名	5名	小学高学年・中学生
	出前	手作りロボット講座	7月8日	機械工学科	40名	25名	小学生・中学生

	出前	手作りロボット講座	7月30日	機械工学科	40名	8名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	7月31日	機械工学科	40名	5名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	8月25日	機械工学科	40名	15名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	8月26日	機械工学科	40名	11名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月1～4日	機械工学科	40名	25名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月1～4日	機械工学科	40名	15名	大学生
	出前	手作りロボット講座	9月26日	機械工学科	40名	28名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月27日	機械工学科	40名	54名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	1月20日	機械工学科	40名	27名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	1月20日	機械工学科	40名	21名	小学生・中学生
	出前	環境に優しいエコころ講座（電気編）	9月29日	電気電子工学科	30名	107名	小学生・中学生
19	公開	アイデア勝負！手作りロボット講座	9月2日	機械工学科 電子制御工学科	20名	5名	中学生以上
	公開	小学生のためのものづくり教室	9月2日	機械工学科	20名	6名	小学生
	公開	水で走るミニエコカー	8月25日	電気電子工学科	15名	10名	小高学年・中学生
	公開	ワンチップマイコンPIC搭載ロボットカーの製作（電気電子工学ものづくり講座）	9月1日	電気電子工学科	10名	10名	小高学年・中学生
	公開	昆虫型ロボットを作ってみよう	8月25日	電子制御工学科 情報工学科	10名	5名	小学5年生～中学1年生
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう（LEGOブロックロボット）	8月20日	電子制御工学科	10名	6名	小学5年生～中学生
	出前	手作りロボット講座	6月25日	機械工学科	40名	5名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	8月23日	機械工学科	40名	20名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	8月24日	機械工学科	40名	11名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月8日	機械工学科	40名	6名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月14～19日	機械工学科	40名	21名	小学生・大学生
	出前	手作りロボット講座	9月29日	機械工学科	40名	28名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	9月30日	機械工学科	40名	21名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	10月20日	機械工学科	40名	9名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	11月17～18日	機械工学科	40名	15名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	11月22～23日	機械工学科	40名	60名	小学生・中学生
	出前	手作りロボット講座	12月15日	機械工学科	40名	36名	小学生・中学生

（出典；学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，「地域との交流を推進し，教育研究成果を地域に還元する。」という正規課程の学生以外に対する教育サービスに係わる目的を掲げており，この目的を達成するため公開講座，中学生を対象とした一日体験入学等を実施している。その他にも，他の機関との共催や連携事業として，鹿児島市立科学館との共催事業，鹿児島県の主催するパワーアップ研修，ニューライフカレッジ隼人などを計画的に実施している。さらにNPO法人隼人錦江スポーツクラブへ物的・人的支援を行っている。

以上のことから，本校では，本校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断される。

観点Ｂ－１－②：　サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。また，改善のためのシステムがあり，機能しているか。

（観点に係る状況）

（ａ）公開講座および出前講座

公開講座および出前講座については，担当者が受講生に講座終了後にアンケートを実施して分析し，実施報告書とともにアンケート結果を総務係（平成19年～21年度度担当係）へ提出している。受講者によるアンケート結果によると，ほぼ100％の受講生が，満足，概ね満足と回答している。平成19年度実施された7講座の受講生数は274名，平成20年度実施された10講座の受講生数は406名，平成21年度実施された8講座の受講生数は1070名である。公開講座および出前講座は毎年実施され，それぞれの担当者が，アンケート結果を翌年度の講座に活かしている。

（ｂ）一日体験入学

一日体験入学については，一日体験入学実行委員会において，参加した生徒の満足度などのアンケート結果を分析し報告している。平成21年度は409名の中学生が参加し，その内98％（400名）が体験入学について満足または，ほぼ満足と回答している。平成20年度では421名の中学生が参加し，その96％（404名）が満足または，ほぼ満足と回答している。また，平成19年度は462名の中学生が参加し，その94％（432名）が満足または，ほぼ満足と回答している。一日体験入学の開催にあたっては，一日体験入学実行委員会を３回開催し，教務主事，担当主事補のもと計画・実施・総括を行い，次回への改善を行うシステムがあり，機能している。

（ｃ）その他の共催・連携事業

他の機関との共催・連携の下で行われている事業のため，改善のためのシステムは主催機関側に依存する。従って，ここでは，主催機関側が実施した満足度調査を基に，主に，活動の成果が上がっているかどうかについて分析する。

①鹿児島市立科学館との共済事業

鹿児島市立科学館との共催事業については,下記のように,「鹿児島高専のロボットがやってきた」（平成 21 年度は「高専ロボット展」）という行事等を毎年実施しており,各イベント共,多数の参加者があり,参加した受講生に大変好評を得ている。このため,鹿児島市立科学館より,毎年,共催の依頼を受けている。

毎年,鹿児島市立科学館で行われる,財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館及び鹿児島市教育委員会と共催の「青少年のための科学の祭典」に,鹿児島高専も「電子工作」や「立体的な多面体作りの工作」等を出展している。平成７年度からは,鹿児島高専と共催で公開講座「パソコンでロボットを動かそう」も実施している。また,共催事業である「鹿児島高専のロボットがやってきた」（ロボット展）では,「アイデア対決・高専ロボットコンテスト（通称ロボコン）」に出場したロボットを展示し,操作体験できる行事を行っている。

平成 21 年度は,鹿児島市立科学館との連携（共催）により,工作実験教室や科学実験教室及びロボットの動作説明等の各種行事を通じて科学に対する興味や関心を高め,夢や創造性を育む機会を設ける事業を計画し,独立行政法人科学技術振興機構(JST)の地域活動支援の「地域の科学舎推進事業」に“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」”のテーマで採択さ

れた。

本企画を,鹿児島高専を地域へ広く PR し,科学技術者育成を行う本校への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づけ,科学実験教室や展示等を企画し,平成 21 年 9 月 6 日（日）に鹿児島市立科学館にて実施した。

本事業では,科学実験体験教室とロボットによる演奏・紹介や各科の科学実験,学校紹介等を企画した。科学実験体験教室では,事前応募した小・中学生に対して,電子工作,ロボット制御プログラム操作等の三つのテーマを設定した。ロボットによる演奏・紹介等については,鹿児島市立科学館の一般来館者に対して,高専で製作した音楽ロボットによる演奏会,学生が製作したロボコン参加のロボットの展示・紹介及び学内の６学科による科学実験や展示と学校紹介のパネル展示や資料配付の三つの企画を実施した。

イベント終了時（16 時）に 565 名の入館者,三つの科学実験体験教室の受講者が 49 名であり,学内及び市立科学館等,各方面の協力で無事に終了することが出来た。報道機関についても,鹿児島市のケーブルテレビと 3 社の新聞社の取材があり注目を集めた。

受講者及び一般来館者へのアンケートでも,良い企画であり,来年度の継続を希望するという意見が多かった。このように,見学者及び工作教室体験者も多く大変好評であり,来年度以降も継続して,JST へ申請しながら,鹿児島市立科学館との共催で開催していく予定である。

②高専ロボットと音楽会

理科離れ対策の一環として,メカトロニクス研究部部員のＮＨＫの高専ロボコンチームによる昨年度出場したロボットの説明と実演,及び吹奏楽部部員による吹奏楽と演奏ロボットによる演奏を,平成 20 年度より鹿児島市において小中学校・一般を対象に,鹿児島県教育委員会,鹿児島市教育委員会及び NHK 鹿児島放送局の後援を頂き開催している。高専をよりよく知ってもらうことも目的である。

理科,特に機械やコンピュータに興味がない生徒でも,目の前でのロボット競技を見たり,知っている曲をロボットが演奏することで印象深いものとなり,理科全般に興味を抱かせるきっかけとなることを目的としている。

平成 20 年度は,6 月 22 日に県民交流センターで,平成 21 年度は,6 月 21 日に鹿児島市民文化ホールで実施し,両年度共,ほぼ満席の 400 名及び 700 名近くの参加者があり盛況であった。参加者の多くがアンケートで,とても楽しかった,来年も是非このイベントをして欲しと答えていた。

参加者も多く,大変好評であり,理科離れ対策及び鹿児島高専の主要な PR 事業として,来年度以降も継続して開催する予定である。

③パワーアップ研修

平成 21 年度におけるパワーアップ研修については，本校実施分の研修に関して，鹿児島県総合教育センターのアンケート調査が実施されており，活動の反省・改善のために活用されている。このアンケート結果から，受講者のほとんどが，本校で行われた研修について，大いに満足あるいは満足との回答をしている。また，受講者の主な感想として，このパワーアップ研修は大変勉強になった,今後十分活用できる感触を得たなどの評価が得られている。

④ニューライフカレッジ隼人

この活動に本校は平成16年度から参画している。平成20年度と21年度に本校教員が行った２件

の講座について，霧島市教育委員会のアンケート調査が実施されている。このアンケートは記述式であり，興味深く，意義のある内容であったなど好評な旨の意見が多数得られている。

⑤NPO法人　隼人錦江スポーツクラブ

隼人錦江スポーツクラブ（以下,錦江スポーツクラブと略す）は,平成 12 年に文部科学省が打ち出した「スポーツ振興基本計画」の理念と施策を踏まえ,本校と旧隼人町（現霧島市）とが平成 15 年 4 月に共同で設立した総合型地域スポーツクラブである。

平成 18 年 1 月には,特定非営利活動（NPO）法人格を取得し,平成 19 年からは霧島市より隼人町体育施設の指定管理業務を委託され,地域のスポーツ振興へ尽力しているところである。

錦江スポーツクラブの活動状況は,設立当初から本校の体育施設を積極的に地域住民へ開放し,霧島市教育委員会からの指導・助言のもと,地域の体育協会,各種競技団体等と連携をとりながら円滑に運営できるよう努力している。

開講されているプログラム数も,設立当初は 7 種目であったが,平成 21 年度現在では 14 種目にまで拡大されている。会員数にいたっても 1,300 名超の登録となっており,年々増加傾向である。その他,自主事業としても複数の教室が開催され,各種錦江スポーツクラブ杯等のイベントもそれぞれの種目で催されている。

これらの活動へは,本校の教職員が携わっており,クラブのマネージメントから,各種イベント等の企画・運営等,地域貢献活動の一環として積極的に活動している。また,種目によってはプログラムやイベント等において,本校学生が指導補助者として地域住民と共に活動し,交流を深める場ともなっている。

さらには,本スポーツクラブの活動を円滑に行うために,理事長・クラブマネージャー・事務局長・施設長等の参加による月一回の総務委員会が開催されている。その中で,様々な問題点の把握や改善方法,プログラム内容の見直し,イベント内容の検討等,会員や参加者の意見に率直に耳を傾け,よりよい地域へのスポーツ振興を図っている。意見の徴集方法としては,各施設への意見箱の設置,各種イベントごとのアンケート実施等取り組んでいる。これらの方法により徴集した意見を大切にし,会員サービス向上へと繋げている。

また,平成 19～20 年度には,文部科学省の大学教育改革支援事業における学生支援 GP の公募に対して,「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」という取組を申請し採択された。

本プログラムを実施するにあたり,隼人錦江スポーツクラブの存在は不可欠であり,隼人錦江スポーツクラブのこれまでの実績があったからこそ取り組めたプログラムである。地域住民からも,本プログラムに対しては非常に良い評価を得ており，２回開催したフォーラム参加者からも高い評価を得ることができた。

その他にも,本スポーツクラブが主催するイベント等に参加するために,地域の児童・生徒・指導者・保護者等が多数来校している。このことは学校のＰＲ活動としては非常に重要で,実際に学校に来ることにより,学校を見る・学校に触れる・学校を感じることが体験できることは,学校の受験アピールへとも繋がっている。このような機会を創出している本スポーツクラブの存在意義は非常に大きい。

これらのことにより,地域におけるスポーツ振興に関して,隼人錦江スポーツクラブの果たしている役割は非常に大きく,錦江スポーツクラブの運営に対し,大きな物的資源と人的資源を供給している本校の重要性は地域のスポーツ文化の発展にとって非常に高いと言える。

したがって,隼人錦江スポーツの活動は,本校の地域貢献事業や学校のＰＲ活動という観点　か

ら,大きな取組であると言える。

（分析結果とその根拠理由）

本校主催の公開講座，出前講座，一日体験入学などに関しては，毎回多数の受講者が参加しており，その都度実施しているアンケート調査では受講者のほとんどが満足している結果が得られている。公開講座では受講者に必ずアンケートを行い，その結果を担当者が講座内容の見直しを含めた次年度の計画等に反映させる改善システムが存在し，機能している。一日体験入学においても，一日体験入学実行委員会がアンケート結果を分析して次年度の計画等に反映させる改善システムが存在し，機能している。その他の活動の中では，各主催機関との共催・連携・協力の下，必要に応じて各主催機関と意見を交換しながら事業の改善に努めている。

特に，NPO法人隼人錦江スポーツクラブについては，開講されているプログラム数も,設立当初は7種目であったが,平成21年度現在では14種目にまで拡大されている。会員数も1,300名超となっており，年々増加傾向にある。会員数と活動状況から，地域の生徒，児童の健全な育成に大きく貢献している。

以上により本校で実施している教育サービスは，サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっていると判断される。また，改善のためのシステムが存在し，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 本校の目的に沿って公開講座や出前講座を実施し，多数の受講者があり満足度も高い点
- 本校の目的を達成するために，公開講座以外にも，他の機関との共催・連携の下で，各種の事業に積極的に協力している点
- 特に，健康・スポーツの活動に関しては，本校が主体となり，NPO法人隼人錦江スポーツクラブを設立し，活動の成果を上げている点

（改善を要する点）

特になし

（３）追加評価事項Ｂの自己評価の概要

本校では，「地域との交流を推進し，教育研究成果を地域に還元する。」という正規課程の学生以外に対する教育サービスに係わる目的を掲げており，この目的を達成するため公開講座や出前講座等を計画的に実施している。また，中学生を対象に一日体験入学を実施し，本校のPRに加えて本校の教育・研究成果を中学生に公開することにより地域交流や教育研究成果を地域に還元している。その他にも，他の機関との共催や連携事業として，鹿児島市立科学館との共催事業，鹿児島県の主催するパワーアップ研修，ニューライフカレッジ隼人などを実施し，NPO法人隼人錦江スポーツクラブは，物的・人的支援を積極的に行っている。以上のことから，本校では，本校の教育サービスの目的に照らして，公開講座や出前講座など正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断される。

また，本校主催の公開講座や出前講座などに関しては，毎回多数の受講者が参加し，各種アンケート調査から受講者のほとんどが満足している結果が得られている。公開講座の改善システムとしては，受講者に必ずアンケートを行い，担当者が次回の講座にその結果を反映している。一日体験入学においても，一日体験入学実行委員会がアンケート結果を分析して，次年度の計画等に反映させる改善シ

ステムが存在し，機能している。その他の活動では，各主催機関との連携・協力の下に，必要に応じて事業の改善に努めている。特に，NPO法人隼人錦江スポーツクラブについては，会員数も1,300名超となっており,年々増加傾向にある。会員数と活動状況から，地域の生徒，児童の健全な育成に大きく貢献していることがわかる。

これらのことから，本校で実施している教育サービスは，サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっていると判断される。また，改善のためのシステムが存在し，機能していると判断される。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

自己点検・評価委員会委員

平成22年度

	自己点検・評価委員会規定　指定職務	氏　　名
1	教務主事	植村　眞一郎
2	学生主事	岡林　巧
3	寮務主事	南金山　裕弘
4	専攻科長	原田　治行
5	地域共同テクノセンター長	芝　浩二郎
6	校長特別補佐（総務・企画担当）	西留　清
7	校長特別補佐（国際交流・留学生担当）	楕松　伸二
8	一般教育科(文系)　推薦	嵯峨原　昭次
9	一般教育科(理系)　推薦	嶋根　紀仁
10	機械工学科　推薦	江﨑　秀司
11	電気電子工学科　推薦	加治屋　徹実
12	電子制御工学科　推薦	島名　賢児
13	情報工学科　推薦	入江　智和
14	都市環境デザイン工学科　推薦	前野　祐二
15	事務部長	大園　利則
16	総務課長	栗田　耕
17	学生課長	浦川　宗久
18	総務課長補佐(総務担当)	小田原　正享
19	総務課長補佐(財務担当)	有川　博幸

自己点検・評価報告書　第6号

平成23年3月

編集　鹿児島工業高等専門学校自己点検・評価委員会
発行　鹿児島工業高等専門学校

〒　899－5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460－1

TEL　0995(42)9000
FAX　0995(42)5450

ホームページURL
http://www.kagoshima-ct.ac.jp/